第５章　遺物

今回の発掘調査で出土した遺物は貝類遺体等の自然遺物も含めるとコンテナ数にしておよそ400箱ある。時期的にもバラエティーに富んでおり、貝塚時代早期～近現代に及ぶ。遺物の種類は沖縄産陶器、陶質土器、中国産陶磁器、木杭、グスク土器、貝塚時代後期土器・中期土器・前期土器・早期土器、石斧等の石器や石製品、貝製品、骨製品、土製品、貝類遺体・動物遺体等がある。

出土遺物の中心となる時期は、貝塚時代後期及び早期である。貝塚時代後期は阿波連下層式土器の頃から、浜屋原式土器の時期をピークとして、大当原式土器、それに後続すると思われる土器群が出土した。貝塚時代早期では野国貝塚Ｂ地点（沖縄県教育委員会1984）に次ぐ多量の爪形文土器（現在整理中と思われる北谷町の伊礼原Ｃ遺跡は現段階では詳細不明）が出土し、それに伴って多種多量の貝類遺体やイノシシ骨を中心とした動物遺体が保存良好な状態で出土した。特に鳥骨では鶴が最も多く含まれていることは、当該時期の沖縄に鶴が飛来していたこととして注目される。

希少な遺物としては、鹿児島県草野貝塚に類例（鹿児島市教育委員会1988）が見出せるように特異な形態をし、装飾的・呪術的な観がある石製品（第62図35、図版99）や貝塚時代中期に確認される黒曜石の石鏃（第57図12）、貝塚時代後期の川跡から出土したイモガイを縦位に切り取って加工した貝輪（第65図12、図版102）、開元通宝（第40図、図版77）、貝塚時代早期の爪形文土器包含層から出土した柄を有する貝製鏃（第65図９、図版102）等がり、注目される。また、県内で類例が増えつつあるグスク時代初期と思われる滑石製のバレン状製品（第63図、図版100）が完形で出土した。

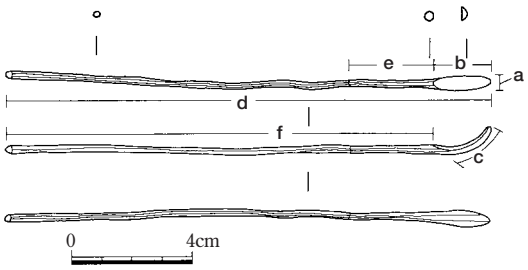
以下、種類別の遺物について各節ごとに述べる。

第１節　簪（第34図）

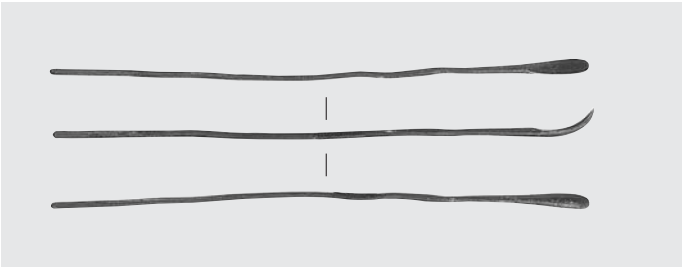
簪は１点のみ確認された。頭部（カブ）が耳掻状あるいは匙状で、首の部分は円形で竿部分が６角形になる。本資料の竿部分は磨耗が著しくかなり丸みを帯びている。

全長(ｄ)16cm、竿長(ｆ)14.1cm、竿長(ｅ)2.3cm、竿幅0.3cm、カブ径(ａ)0.5cm、カブ径(ｂ)1.9cm、カブ長(ｃ)2.0cm、重量5.6ｇ。

T.P④出土。



第34図　簪



図版71　簪

第２節　陶質土器（第35図）

陶質土器は総数212点出土した。Ⅰ地区及びⅡ地区の第Ⅰ層でのみ確認された。器種として土鍋（１・２）、土鍋の蓋（３～６）、鉢（７～９）、土瓶（10～13）、土瓶の蓋（14・15）、火炉（16～18）、不明底部（19）が確認された。陶質土器は釉薬を施さない淡橙色系の土器で、通称「アカムン」と呼ばれ、日用雑器として生産された。鍋・土瓶等の煮沸用と火炉・炉等の非煮沸用に大別されている。胎土は砂質で粒子が細かく、まれに泥質なものがある。混入物に光沢のある白色粒（貝殻もしくは石英か）や石灰質粒、粒子が不揃いな黒色粒や赤色粒を含む。色調は淡橙色や明橙色、淡灰色がほとんどを占める。

今回は特徴的なもののみ図化し、詳細は観察表にまとめる。

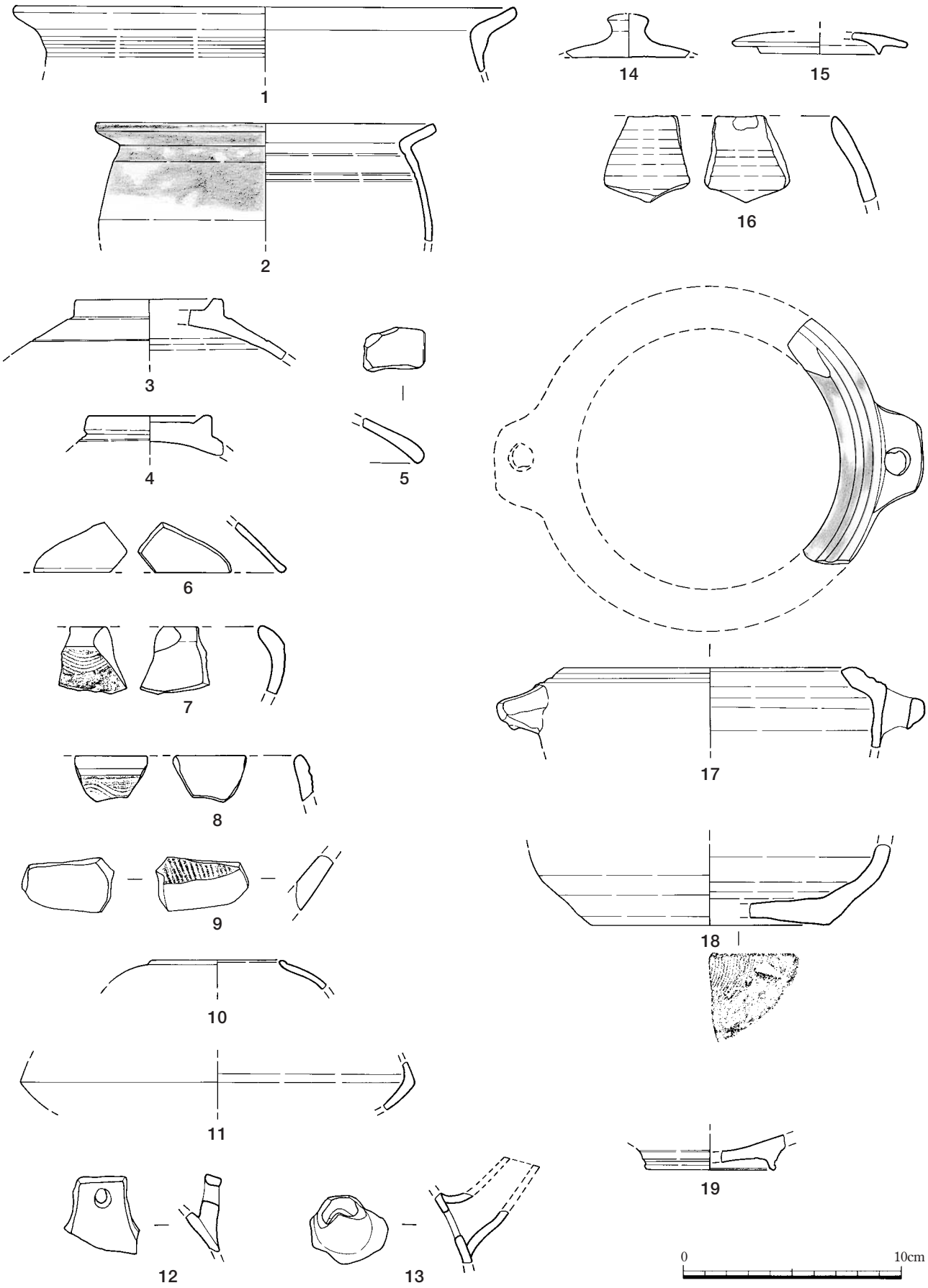
第６表　陶質土器出土状況

出土地＼器種				鍋	鉢			鉢(小型)	擂鉢	急須					火炉		蓋	器種不明				合計
				口縁部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	口縁部	注口	耳	胴部	底部	口縁部	耳		口縁部	胴部	底部	不明	
Ⅰ層	Ⅰ地区	ロ	4																1			1
			5															3	3			6
		ハ	3	1					1						1		1	4	7			15
			3・4									1								1		2
			4	1								1							6	1	1	10
			5	1															2			3
			6																	1		1
		ニ	2																	1		1
			3			1									1		2		5	4		13
			4												1		1		8			10
			5		1														1			2
		ホ	2																1			1
			3	1								1						1	11	2		16
			4	1															2			3
			5																4			4
		ヘ	2・3																	1		1
			3						1						1	1			5			8
		ト	1	1																		1
		ホ－3 ヘ－2		1																		1
		ホ－3 ヘ－2・3																	2			2
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明																	2	1		3
	Ⅱ地区	チ	10	1															1			2
			16																1			1
		ヌ	3					1														1
			8								2								8			10
			10					1			2								14			17
			12																3			3
			14																1			1
			16	2			2						1				1		2	1		9
			18																2			2
		ヲ	12				1				1		2						11			15
			16							1									3			4
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明																	1			1
	Ⅲ地区	ラ	28																1			1
Ⅰ層ミゾ	Ⅰ地区	ハ	3														2					2
		ニ	3																	1		1
	Ⅱ地区	ヌ	14										1						1			2
層序不明	Ⅰ地区	ハ	6・7																	1		1
		ハ・ニ	3																1			1
		ニ	3	2	1										2		1		6	2		14
		ニ・ホ	3																1			1
		ホ	3																1			1
		チ	3																1			1
		ハ－3 ト－2																	1			1
		ニ－2 ハ－3																	2			2
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明								1									4			5
	Ⅱ地区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明											1					2	2			5
	Ⅲ地区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明																1				1
	T.P①				1														1			2
	T.P④				1																	1
合　計				12	4	1	3	2	2	2	5	3	5	0	6	1	8	11	129	17	1	212

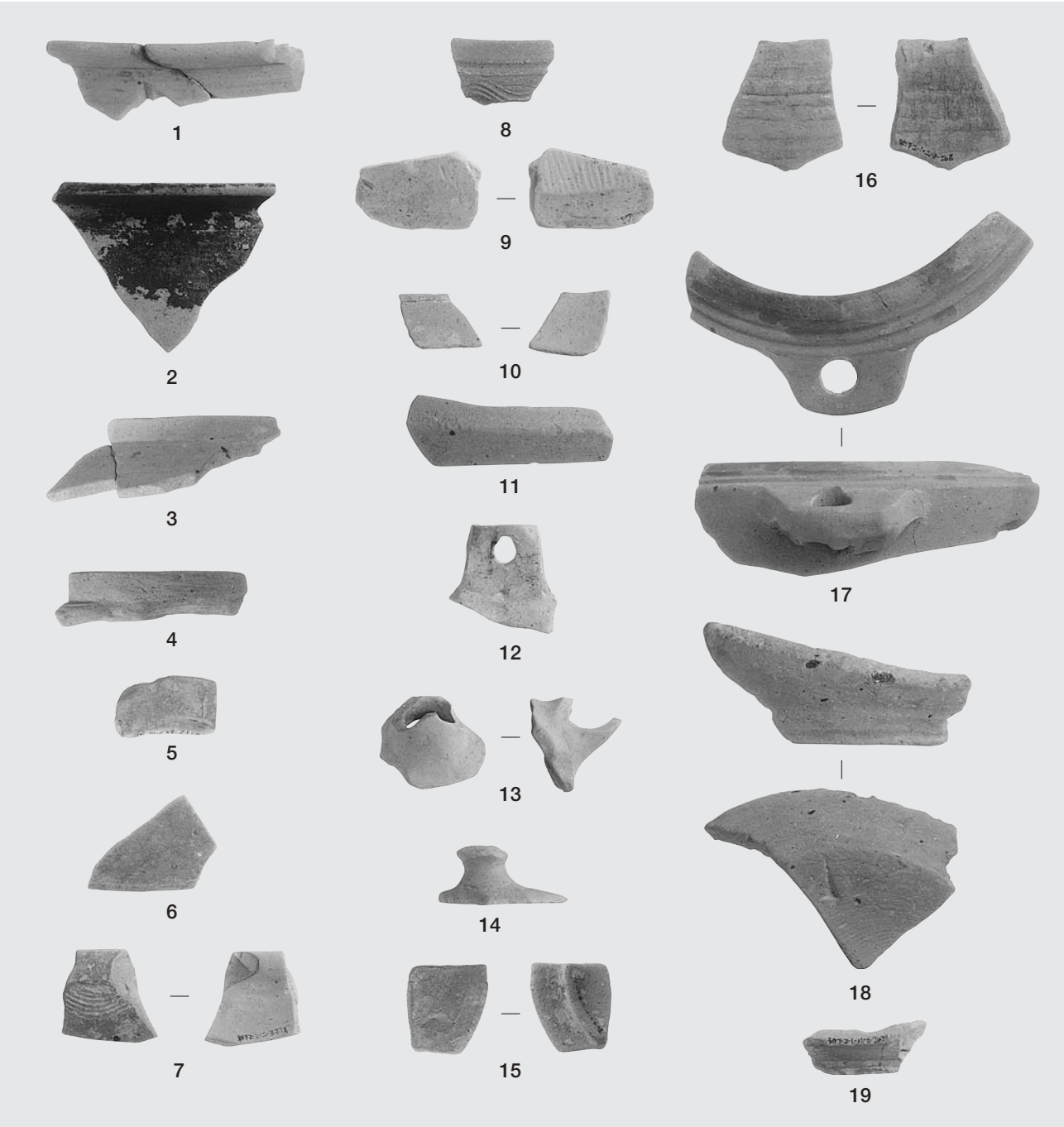
第７表　陶質土器観察一覧

単位：cm

挿図番号 図版番号	番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察所見	色調	混入物	地区 層 グリッド
第35図・図版72	1	土鍋	口	23.0 — —	口縁部を「く」の字に折り曲げ、胴部に向かって膨らみを持たせる。口縁部内面は受状皿を呈し、口唇部は舌状に丸みを持たせる。内外面に轆轤痕が残る。	淡橙色	白色粒 黒色粒	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－16
	2	土鍋	口～胴	15.6 — —	口縁部を「く」の字に折り曲げ、胴部に向かって膨らみを持たせる。口縁部内面は受状皿を呈し、口唇部は舌状に丸みを持たせる。内外面に轆轤痕が残る。外面が煤ける。	淡灰色	白色粒 黒色粒 石灰質粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ハ－3
	3	土鍋の蓋	取手～胴	6.6 — —	取手部の頂部を平坦に成形。内面に轆轤痕が残り、外面はナデによって丁寧に仕上げる。	淡橙色	白色粒 黒色粒 石灰質粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ハ－3
	4	土鍋の蓋	取手	5.6 — —	取手部の頂部を平坦に成形。取手部の内削りが甘く、厚さが不均等である。	淡橙色	光沢白色粒 黒色粒 石灰質粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ニ－3
	5	土鍋の蓋	口	— — —	先端部を舌状に成形。	淡橙色	光沢白色粒 赤色粒	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－10
	6	土鍋の蓋	口	— — —	口縁部をやや肥厚させ、口唇部に丸みを持たせる。内面に轆轤痕が残る。外面は丁寧にナデる。	淡橙色	光沢白色粒 石灰質粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ニ－3
	7	鉢	口	— — —	口縁部は強く内傾し、やや太く、舌状に成形する。外面に波状文を施す。	淡灰色	光沢白色粒 黒色粒 石灰質粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ニ－3
	8	鉢	口	— — —	口縁部を内傾させ、口唇部は舌状に成形する。外面に波状文を施す。	外面淡橙色 内面明橙色	光沢白色粒 石灰質粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ニ－5
	9	鉢	胴	— — —	内面にすり鉢状のギザギザがある。他のものに比べてやや泥質である。	明橙色	赤色粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ヘ－3
	10	土瓶	口	6.0 — —	急須の口縁部と思われる。口縁部を僅かに摘み上げ、口唇部は丸みを帯びる。	外面淡灰色 内面明橙色	光沢白色粒 黒色粒	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－16
	11	土瓶	胴	— — —	鋭く「く」の字に屈曲する胴部である。内外面に丁寧なナデの跡が残る。	外面淡橙色 内面淡灰色	光沢白色粒 赤色粒	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－16
	12	土瓶	取手	— — —	摘部部を方形に成形するが、作りは荒い。僅かに煤けている。	淡橙色～ 淡灰色	光沢白色粒 黒色粒 赤色粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ハ－4
	13	土瓶	注口	— — —	注口はやや横に広い楕円形を呈する。やや作りが荒く、凹凸が目立つ。	外面明橙色 内面淡灰色	白色粒	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－8
	14	土瓶の蓋	取手	— — —	摘み部に強い稜を持たせ、頂部は丸みを帯びる。内外面をナデ、丁寧な作りである。	淡橙色	光沢白色粒 石灰質粒	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－16
	15	土瓶の蓋	口	8.0 — 5.4	内外面をナデ、丁寧な作りである。全体的に鋭さがなく、丸みを帯びた成形である。	内外器面は 淡灰色 内部は明橙色	光沢白色粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ニ－3
	16	火炉	口	— — —	口縁部を内傾させ、口唇部は舌状に仕上げる。内外面に明瞭な轆轤痕を意識的に残している。	明橙色	光沢白色粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ニ－3
	17	火炉	口	13.4 — —	口縁部が強く屈曲し、内傾する。内傾させた外面は3段の段を持たせ装飾する。外面に円形に有孔させた方形の取手を持つ。内外面の口縁部がやや煤けている。	明橙色	光沢白色粒 黒色粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ヘ－3
	18	火炉	底	— — 10.8	底部はやや上底状を呈する。立ち上がりから胴部に向かってやや膨らみを持つ。内外面に荒い轆轤痕が残る。	淡橙色	光沢白色粒 粗い黒色粒	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－16
	19	不明	底	— — 5.8	器種不明の底部である。土鍋や土瓶の蓋とも考えられるが、作りが複雑で丁寧であるため、底部資料とした。畳付に段を持ち、内外面には丁寧で細かい成形痕が残る。	外底短灰色 内面淡橙色	光沢白色粒 黒色粒	Ⅰ地区 Ⅰ層 ハ－6



第35図　陶質土器　土鍋(1～6)、鉢(7～9)、土瓶(10～13)、土瓶の蓋(14･15)、火炉(16～18)、器種不明(19)



図版72　陶質土器

第３節　青花（第36図）

青花は徳化窯もしくは漳州窯系と考えられる清朝磁器が僅かに５点出土した。内訳はⅠ地区第Ⅰ層より１点、Ⅱ地区第Ⅰ層より４点である。Ⅲ地区では出土しなかった。器種は碗とⅢが確認された。

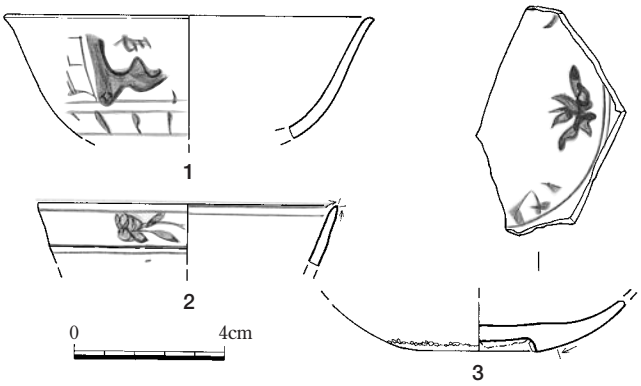
１・２は碗の口縁部で１は外反口縁を、２は直行口縁を呈し口唇部は口剥とする。３はⅢの底部でゴケ底状を呈する。

以下詳細を観察表にまとめる。

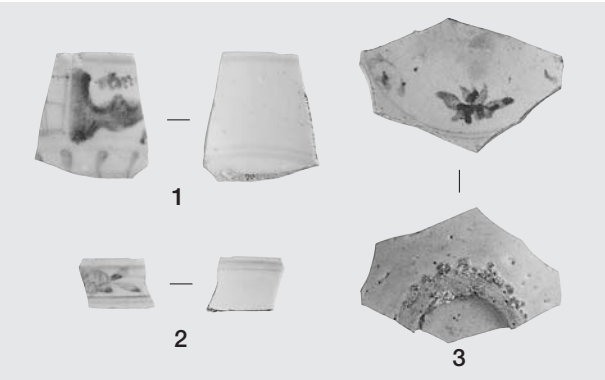
第８表　青花観察一覧

単位：cm

挿図番号 図版番号	番号	器種	部位	口径 器高 底径	文様等観察所見	釉薬	胎土	地区 層 グリッド
第36図・図版73	1	碗	口	12.3 ― ―	口縁が僅かに外反する。外面は口縁直下に1条の圏線、体部に菊花ちらし文と寿字文、腰部に連弁文を施す。体部と腰部の間は2条の圏線で区画する。内面は口縁直下に1条の圏線、見込みに2条の圏線を施す。呉須の発色は良いが、文様がやや滲む。	淡青白色	白色微粒子 やや軟質の印象	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－12
	2	碗	口	10.0 ― ―	口縁部はスマートに直行する。口唇部は口剥とする。外面は口縁直下に1条の圏線と2条の圏線で帯状に区画し、その中には草花文を施す。内面は口縁直下に2条の圏線。呉須の発色は良く、文様も、濃淡がはっきりとして丁寧である。	淡青白色	白色微粒子	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－12
	3	碗	底	－ － 9.8	ゴケ底皿の底部である。見込みに2条の圏線と草花文を施す。畳付は釉剥し、砂が多量に付着する。焼成が悪く、また器面には気泡が目立つ。	淡青灰色	くすんだ白色 やや軟質の印象	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－20



第36図　青花　碗

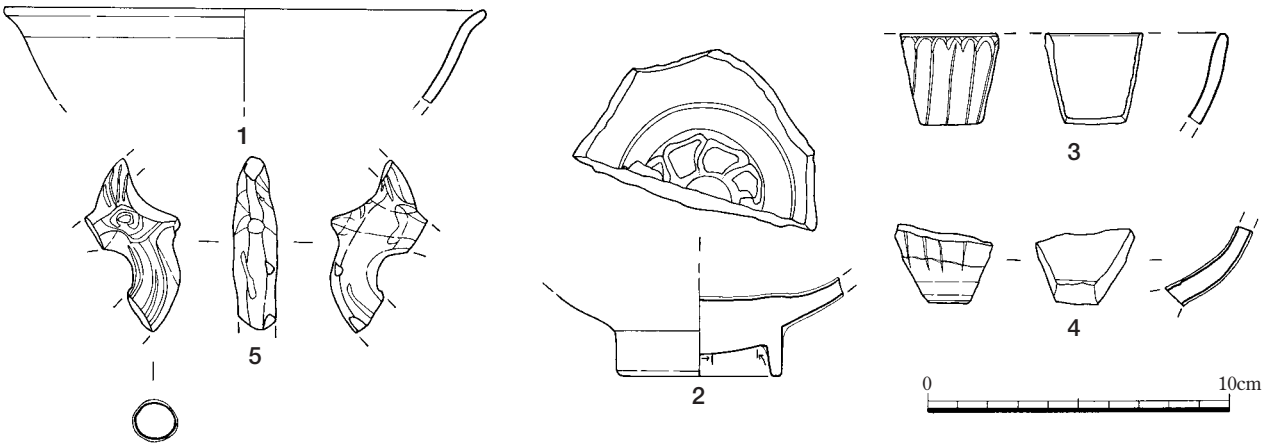


図版73　青花

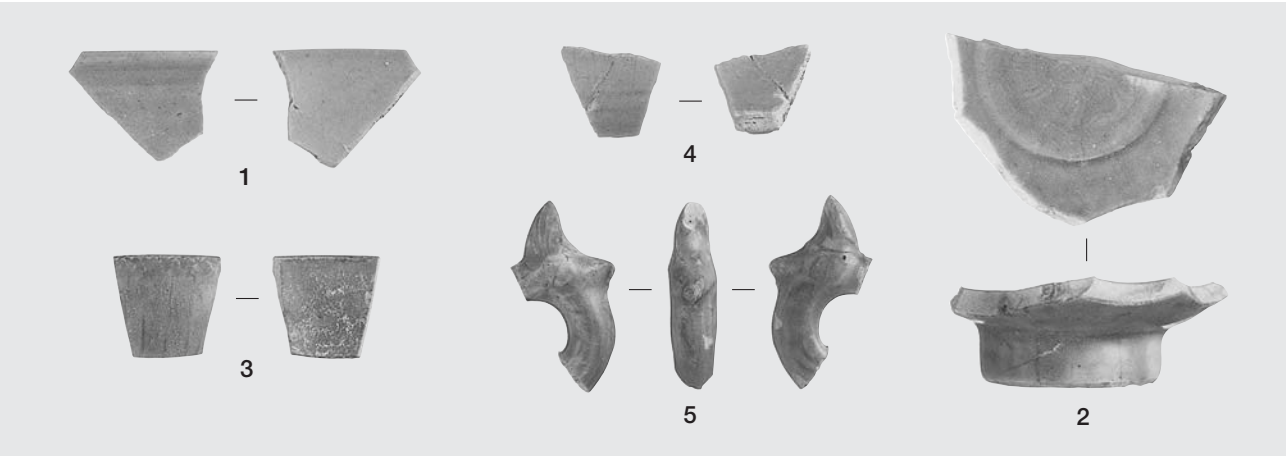
第４節　青磁（第37図）

青磁は僅かに９点出土した。内訳はⅠ地区第Ⅰ層で３点、Ⅱ地区第Ⅰ層で２点・第Ⅱ層で１点、Ⅲ地区第Ⅱ層で２点、T.P④より１点である。器種は瓶の耳と考えられる５を除きすべて碗で、細連弁文碗や無文外反碗が確認された。

以下、詳細を観察表にまとめる。



第37図　青磁　碗(1～4)、瓶(5)



図版74　青磁

第９表　青磁観察一覧

単位：cm

挿図番号 図版番号	番号	器種	部位	口径 器高 底径	観察所見	釉薬	胎土	地区 層 グリッド
第37図・図版74	1	碗	口	16.0 － －	無文外反碗の口縁部である。内傾する胴部から外側へ強く折り曲げる。傾きから考えると比較的浅めの碗である。	緑灰色 透明感がある。	灰色 粗い粒子 やや土質	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－10
	2	碗	底	－ － 5.5	竜泉窯系の碗底部である。高台を厚く成形し、畳付から垂直に立ち上げる。成形が丁寧で鋭さがある。見込みには花文のスタンプを押す。釉薬は薄く施し、外底面は蛇目状に釉剥する。畳付までしっかりと釉が施される。	暗緑色 粗い貫入 外底蛇目釉剥	白灰色 微粒子	Ⅱ地区 Ⅱ層 チ－14
	3	碗	口	－ － －	細連弁文碗。口縁部は直行する。連弁文は口唇部直下までしっかりと描かれるが、曲線と直線が合わない場所がある。	淡緑黄色 細かい貫入	白灰色 微粒子 黒色粒が混入	Ⅲ地区 Ⅱ層 ラ－32
	4	碗	腰	－ － －	細連弁文碗の腰部である。見込みに1条の圏線が施される。外面には僅かに轆轤痕が残る。	淡緑灰色 粗い貫入 細かい気泡	白灰色 微粒子	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌ－12
	5	瓶	耳	－ － －	竜泉窯系の瓶耳である。鶏若しくは竜を模ったものと思われるが、作りが荒く片面の文様が判然としない。	濃緑色 粗い貫入	白色 微粒子	Ⅰ地区 Ⅰ層 ホ－3

第５節　木杭（第38図）

平成15・16年度の発掘調査によってグスク時代初期と近世の水田跡と関連して木杭が出土した。平成15年度のⅢ地区の調査（グスク時代初期）で大小様々な木杭が、49点得られた。

また、平成16年度のⅠ地区の調査（近世）では、畦畔に沿って木杭や鉄の棒を転用し杭に使用されている。今回は、グスク時代初期の水田跡の疑似畦畔に沿うように検出された木杭について形態的な特徴（長さ及び杭幅の直径）を基に分類を行った。

木杭の全形が伺える資料が少ないため、木杭の幅に着目した。幅の大きさを基に数量比較（第11表）を行ったところ杭幅が直径４cmを境として数量に変化が見られたため、４cm以上と４cm未満の２つに大別した。

・ 木杭の幅が４cm以上10cm未満のものを大型。（１～６）
・ 木杭の幅が２cm以上４cm未満のものを小型とした。（７～８）

木杭は、先端部のみ加工されており、杭側面には皮が残存している。大形の木杭は杭の中心を尖らすように何度も加工を加えているもの(１～６)。それに対し、小形の木杭は一回の加工で先端を尖らせているもの（８）と２～３回加工して先端を尖らせるもの（７）がある。一回だけ加工するものは斜めに切られ、先端が皮よりの位置にくる。遺構との係わり合いから大形と小形で使い分けがなされていたと思われる。類例として、那覇市の銘苅直禄原遺跡や名護市久志水田遺跡の木杭などが知られる。今回得られた木杭の材は、クワ科イチジク属などを使用していることが判明した。Ｃ14の分析結果では、940±40Y.B.Pの年代結果が得られた。

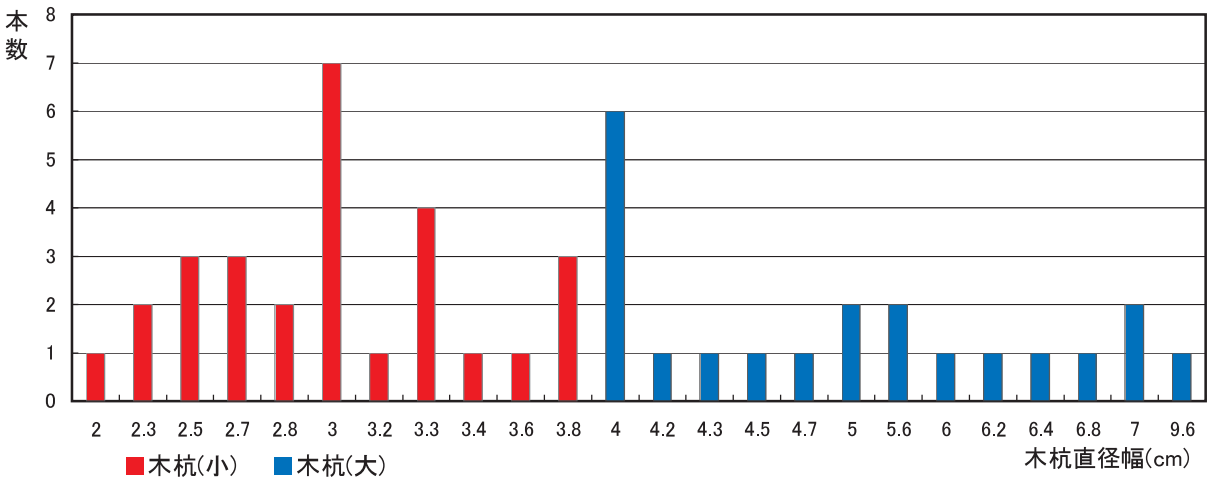
個々の木杭の詳細は、観察表に記載した。出土層と記載したのは木杭が検出された層序のことである。発掘時に破損した木杭に関しては破損品として残存高を記載し、堆積層中より廃棄した形で出土したものは、完形として取り扱った。木杭上端が破損した時期も疎らで、耕作時に破損したものも完形として取り扱った。

Ⅲ地区出土の木杭の樹種同定を当センターの青山奈緒氏にお願いした。未文ながら記して謝意を表したい。

第10表　木杭（Ⅲ地区）出土一覧

出土地（検出面の層序及びｸﾞﾘｯﾄ）			木杭(大) 幅4cm以上	木杭(小) 幅4cm未満	合計
Ⅱ層	ソ	28	1		1
	ラ	26		1	1
	ウ	26		1	1
	ネ	28		1	1
		30		1	1
小計			1	4	5
Ⅲ層	ソ	28	1	1	2
	ラ	24	2	1	3
		26		2	2
	ウ	32		2	2
	マ	26	1		1
小計			4	6	10
Ⅴ層	ネ	32		1	1
	ラ	24		1	1
		26	1		1
		32	4	3	7
	ウ	24	1		1
		26	4	7	11
		32	1	3	4
	ノ	26	2	4	6
小計			13	19	32
Ⅵ層	ネ	32	1		1
川跡3-1層	ウ	34	1		1
合計			20	29	49

第11表　木杭（直径幅）比較表



第12表　木杭（Ⅲ地区）観察一覧a

単位：cm

No.	グリッド	検出層	残存状況	最大幅	残存幅	最大長	残存長	幅	備考
1	ラ-24	Ⅲ層	完形	5.6	－	70.2	－	大	完形。曲がった木を材として使用されている。側面は自然面をもち、先端部に四～五回の加工痕が見られる。断面が多角形をなす。C14分析に使用。940±40YBPの測定結果が得られている。
2	ラ-24	Ⅲ層	破損	－	3	－	26.5	小	上端部が破損している。側面には木の皮が残存しており、先端部に一回斜めに切られた加工痕が見られる。先端部が側面よりに位置する。
3	ラ-26	Ⅴ層	破損	－	4.7	－	36	大	上端部が破損している。先端部が中心よりにくるように四回ほどの加工が見られる。曲がった木杭で、側面には木の皮が残存している。
4	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	3	－	10	小	上端部が破損している。先端部を斜めに二～三回ほどの加工で作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存する。真直ぐな木杭である。
5	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	4	－	14	大	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。真直ぐな木杭である。
6	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	4	－	18.5	大	上端部が破損している。先端部を斜めに二～三回ほどの加工で作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存する。若干曲がった木杭である。
7	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	3	－	19.3	小	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。真直ぐな木杭である。
8	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	4.5	－	15	大	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。若干曲がった木杭で側面に木の皮が残存している。
9	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	4	－	13	大	上端部が破損している。先端部を斜めに三回ほどの加工で作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。真直ぐな木杭である。
10	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	2.5	－	21	小	上端部が破損している。先端部を斜めに三回の加工で作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存する。若干曲がった木杭である。
11	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	2.7	－	25	小	上端部が破損している。先端部を斜めに三回の加工で作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存する。真直ぐな木杭で先端部近くから折れ曲がった状態で出土した。
12	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	3	－	25.5	小	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。真直ぐな木杭である。
13	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	2.8	－	23.6	小	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。真直ぐな木杭である。
14	ウ-26	Ⅴ層	破損	－	3.3	－	23.6	小	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存する。真直ぐな木杭である。
15	ウ-24	Ⅴ層	破損	－	6.2	－	36.8	大	上端部が破損している。先端部を斜めに二～三回ほどの加工で作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存する。若干曲がった木杭である。
16	ノ-26	Ⅴ層	破損	－	3.8	－	15.5	小	上端部が破損している。先端部が側面よりにくるように二～三回ほど斜めに加工が見られる。真直ぐな木杭で、側面には木の皮が残存している。
17	ノ-26	Ⅴ層	破損	－	2.7	－	19.2	小	上端部が破損している。先端部が側面よりにくるように二～三回ほど斜めに加工が見られる。真直ぐな木杭で、側面には木の皮が残存している。

第12表　木杭（Ⅲ地区）観察一覧b

単位：cm

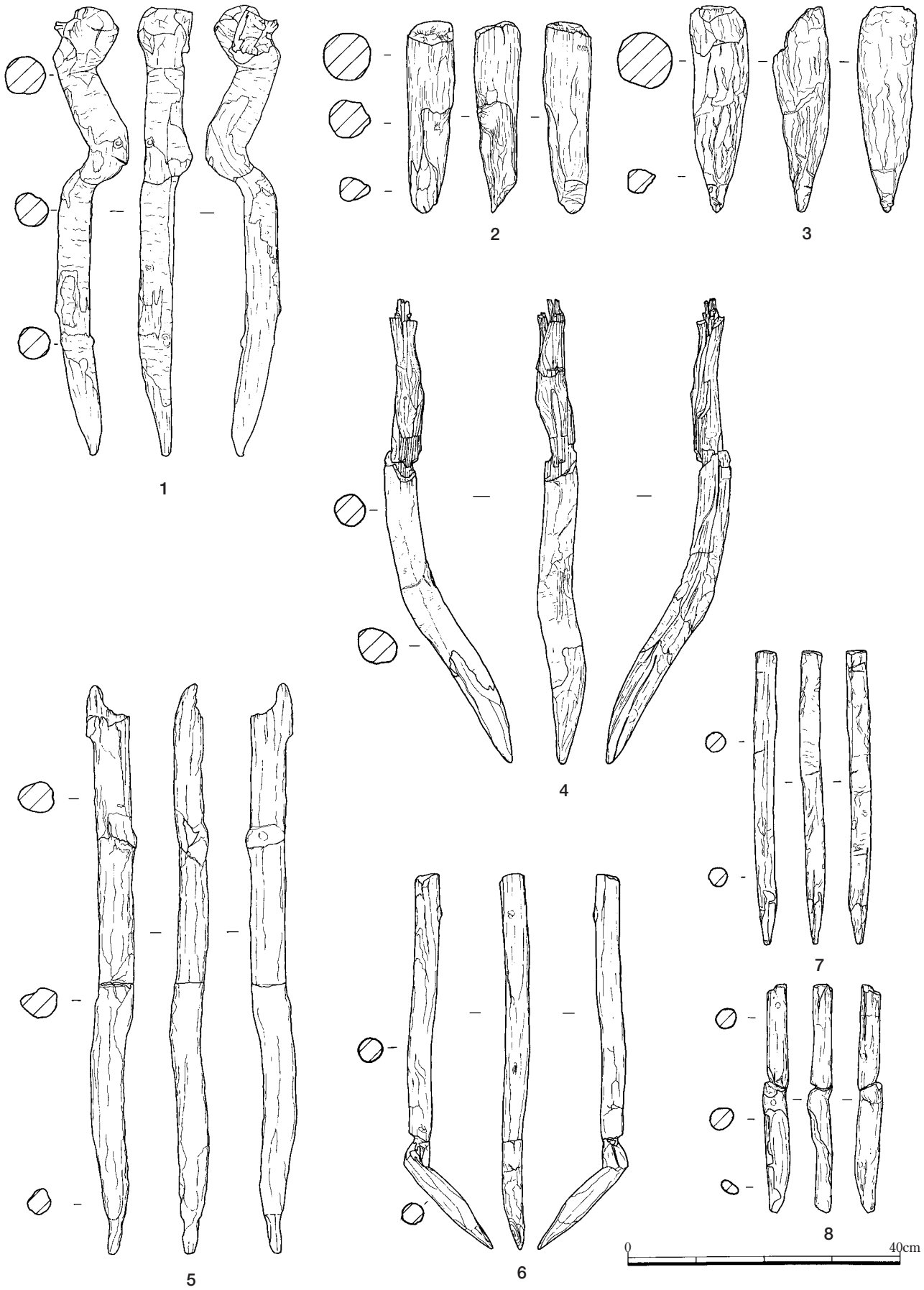
№.	グリッド	検出層	残存状況	最大幅	残存幅	最大長	残存長	幅	備考
18	ノ−26	Ⅴ層	破損	−	2.3	−	17	大	上端部が破損している。先端部が破損して残存していない。もともと先端部を加工しないで用いた可能性もある。若干曲がった木杭で、側面には木の皮が残存している。
19	ノ−26	Ⅴ層	破損	−	4.2	−	18	小	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。真直ぐな木杭で、側面には木の皮が残存している。
20	ノ−26	Ⅴ層	破損	−	4.3	−	14	大	上端部が破損している。先端部が中心よりにくるように四回ほどの加工が見られる。真直ぐな木杭で、側面には木の皮が残存している。
21	マ−26	Ⅲ層	破損	−	6	−	32.5	大	上端部が破損している。先端部が中心にくるように五回の加工を行っている。真直ぐな木杭である。側面に木の皮が残存している。クワ科イチジク属
22	ラ−32	Ⅴ層	破損	−	5.6	−	43.2	大	側面に木の皮が残存している。上端部が破損している。先端部が側面にくるように四〜五回の加工を行っている。若干曲がっている木杭である。
23	ラ−32	Ⅴ層	破損	−	6.4	−	47	大	上端部が破損している。杭の先端部に6回ほど切れ込みを入れ、先端中心部を尖らしている。木の皮が残存している。若干曲がっている木杭である。
24	ラ−32	Ⅴ層	破損	−	7	−	68.5	大	第38図1に記載の木杭。完形。曲がった木を材として使用されている。側面に木の皮が残存し、先端部に二〜三回の加工痕が見られる。断面が多角形をなし、先端部が側面よりに位置する。
25	ラ−32	Ⅴ層	破損	−	3.3	−	45.4	小	第38図7に記載の木杭。上端部が破損しており、真直ぐな木を材として使用されている。側面に木の皮が残存しており、先端部に3回の加工痕が見られる。断面が多角形をなし、中心に先端部がくる。
26	ラ−32	Ⅴ層	破損	−	5	−	30	小	側面に木の皮が残存している。上端部が破損している。先端部が中心にくるように四〜五回の加工を行っている。若干曲がっている木杭である。
27	ラ−32	Ⅴ層	破損	−	3.4	−	31	小	上端部が破損している。先端部が側面よりにきている。二〜三回の加工で尖らせている。側面には木の皮が残存する。真直ぐな木を用いているが、杭を打ったときかその後か不明だが、曲がってしまっている。
28	ラ−32	Ⅴ層	破損	−	4	−	11.5	大	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。残存状況が悪く、全体像が不明な木杭である。
29	ソ−28	Ⅲ層	完形	3.8	−	74.1	−	小	完形。先端部が側面よりにきている。二〜三回の加工で尖らせている。側面には木の皮が残存する。真直ぐな木杭である。
30	ソ−28	Ⅲ層	完形	6.8	−	70	−	大	第38図4に記載の木杭。完形。曲がった木を材として使用されている。側面は木の皮が残存し、先端部に五〜六回の加工痕が見られる。先端部が中心にくる。断面が多角形をなす。
31	ウ−34	川3-1層	破損	−	4	−	41.3	大	上端部が破損している。先端部の中心を尖らすために五〜八回の加工が見られる。真直ぐな木杭である。側面には木の皮が残存している。
32	ソ−28	Ⅱ層	完形	5	−	83	−	大	第38図5に記載の木杭。完形。側面には木の皮が残存しており、先端部に五回ほどの加工痕が見られる。中心に先端部が位置するように作られている。断面が多角形をなす。
33	ノ−26	Ⅴ層	破損	−	2.5	−	14	小	上端部が破損している。先端部が側面よりにくるように二〜三回ほど斜めに加工が見られる。真直ぐな木杭で、側面には木の皮が残存している。

第12表　木杭（Ⅲ地区）観察一覧c

単位：cm

No.	グリッド	検出層	残存状況	最大幅	残存幅	最大長	残存長	幅	備考
34	ラ−24	Ⅲ層	破損	−	4	−	58	大	第38図6に記載の木杭。破損しており、真直ぐな木を材として使用されている。側面には木の皮が残存しており、先端部に六回ほどの加工痕が見られる。中心に先端部が位置するように作られている。断面が多角形をなす。
35	ウ−32	Ⅴ層	破損	−	3.2	−	11.5	小	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。真直ぐな木杭である。
36	ウ−32	Ⅴ層	破損	−	3	−	11	小	上端部が破損している。斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。真直ぐな木杭である。
37	ウ−32	Ⅴ層	破損	−	3	−	8.5	小	上端部が破損している。先端部が破損して残存していない。もともと先端部を加工しないで用いた可能性もある。若干曲がった木杭で、側面には木の皮が残存している。
38	ウ−32	Ⅲ層	破損	−	3.3	−	24	小	上端部が破損している。先端部が側面よりにくるように二〜三回ほど斜めに加工が見られる。真直ぐな木杭で、側面には木の皮が残存している。
39	ウ−32	Ⅲ層	破損	−	2.8	−	11	小	上端部が破損している。先端部が側面よりにくるように二〜三回ほど斜めに加工が見られる。真直ぐな木杭で、側面には木の皮が残存している。
40	ラ−24	Ⅴ層	破損	2.5	−	2.9	−	小	上端部が破損している。先端部が側面よりにくるように二〜三回ほど斜めに加工が見られる。真直ぐな木杭で、側面には木の皮が残存している。
41	ウ−26	Ⅱ層	破損	2	−	33	−	小	斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。真直ぐな木杭である。
42	ラ−26	Ⅱ層	破損	2.7	−	23	−	小	斜めに一回の加工で先端部を作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。側面に木の皮が残存している。若干曲がった木杭である。
43	ウ−32	Ⅴ層	破損	9.6	−	32.5	−	大	第38図3に記載の木杭。水田耕作時に上部が破損され、土中に取り残されていた。側面に木の皮が残存しており、先端部に四〜五回ほどの加工痕が見られる。断面が多角形をなし、先端部が中心に位置する。真直ぐな木杭である。
44	ネ−32	Ⅵ層	破損	7	−	27	−	大	第38図2に記載の木杭。水田耕作時に上部が破損され、土中に取り残されていた。側面に木の皮が残存しており、先端部に二回ほどの加工痕が見られる。断面が多角形をなし、先端部が側面よりに位置する。真直ぐな木杭である。
45	ネ−32	Ⅴ層	破損	−	3.6	−	21.5	小	上端部が破損している。若干曲がった木杭で、先端部を二回ほどの加工で作られている。側面には木の皮が残存しており、先端部が側面よりに位置する。
46	ネ−28	Ⅱ層	破損	3	−	34.5	−	小	第38図8に記載の木杭。完形。真直ぐな木を材として使用されている。側面に木の皮が残存しており、先端部に斜めに1回の加工痕が見られる。先端部が側面よりになる。断面が半月状をなす。
47	ネ−30	Ⅱ層	破損	−	2.3	−	23	小	上端部が破損している。先端部を斜めに二〜三回ほどの加工で作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。真直ぐな木杭である。側面に木の皮が残存する。
48	ラ−26	Ⅲ層	破損	−	3.8	−	21	小	上端部が破損している。先端部を斜めに二〜三回ほどの加工で作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。真直ぐな木杭で、側面に木の皮が残存している。
49	ラ−26	Ⅲ層	破損	−	3.3	−	8	小	上端部が破損している。先端部を斜めに二〜三回ほどの加工で作っている。先端部が木杭の側面近くに位置する。真直ぐな木杭で、側面に木の皮が残存している。

網掛けが報告書記載の遺物である。

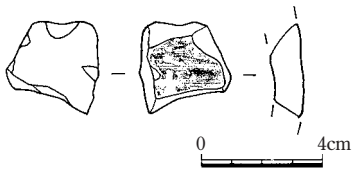


第38図　木杭

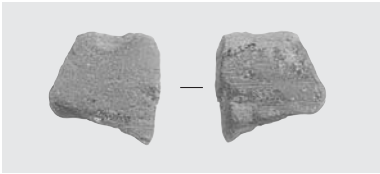
図版75　木杭

第６節　カムィヤキ（第39図）

徳之島にあるカムィヤキ古窯跡の資料を標式としている。当遺跡では、Ⅰ地区ホー３グリット第Ⅰａ層より１点出土している。



第39図　カムィヤキ



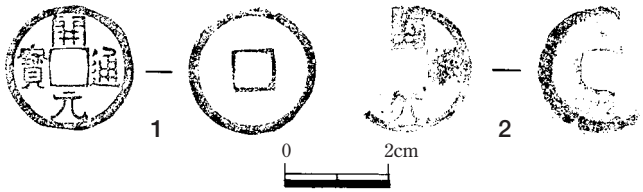
図版76　カムィヤキ

第39図は、胴部片で内面の当て具痕をナデ消しており、外面は叩き目をナデ消しており横位の擦痕が見られる。色調は灰色を呈し、胎土に0.5mmほどの白色粒子が混入している。資料が小破片のため全体像を伺えなかった。

第７節　銭貨（第40図）

銭貨は、２点出土しており、いずれも「開元通寶」（唐・初鋳年代621年）である。いずれもT.P③のⅢｅ、Ⅳ層という貝塚後期段階の層より出土している。

第40図１は、完存しており銭文も鮮明に残っている。銭径（外縁外径）は24.43㎜×24.42㎜、内径（外縁内径）は20.52㎜×20.50㎜、銭厚は1.40㎜、孔径は6.75㎜×6.81㎜、残存重量は3.44ｇで、T.P③・Ⅲ層出土である。同図２は、左部を欠損しており、「寶」の字はない。また、摩滅が激しく銭文は不鮮明である。背上に「月」を配する。銭径は24.04㎜、内径は20.82㎜、銭厚は約0.94㎜、孔径は計測不可、残存重量は1.18ｇでT.P③・Ⅳ層出土である。47と比べると貧弱である。

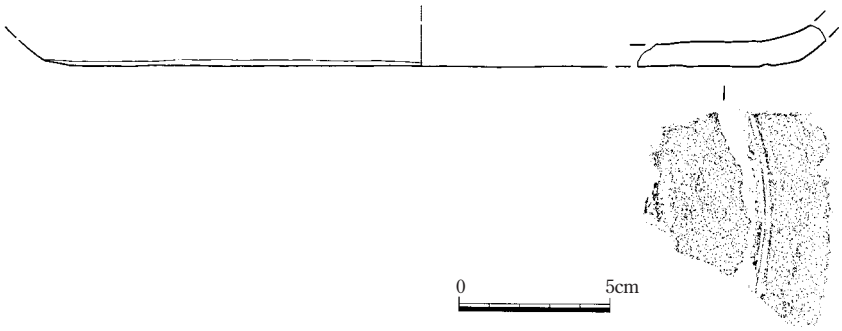


第40図　銭貨

図版77　銭貨

第８節　グスク土器（第41図）

Ⅰ地区二ー５グリッド及びロー４グリッドで鍋型と思われる底部がそれぞれ１点づつ出土し、接合した。底部にはヘラ状工具によるものと思われる円形の調整痕がある。底径25cm。内底面の立ち上がり部が良くナデられており、調整時の指頭圧痕が残る。胎土は砂質で、微砂粒を多量に含み、光沢のある黒色鉱物粒が僅かに見られる。色調は赤茶褐色を呈する。焼成は良く堅固である。



第41図　グスク土器

図版78　グスク土器

第９節　貝塚時代後期土器・弥生土器

後期土器は総数5,544点出土し、総重量53,087.2ｇに及ぶ。弥生土器は総数５点出土し、193.4ｇである。したがって弥生土器の出土量は後期土器の１／1000にも満たない。出土の中心は第Ⅲ層～第Ⅴ層、川跡２～３にあり、第Ⅰ層及び第Ⅱ層から出土したものは当該時期以降の撹乱によるものである。

後期土器は阿波連下層式土器・浜屋原式土器・大当原式土器等が確認され、中にはアカジャンガー式土器と大当原式土器の中間的な様相を持つ土器群もある。分類は、口縁部・胴部については器面の調整を中心にⅠ類～Ⅳ類に、Ⅰ類は器形的な特徴からさらに（ａ）～（ｃ）に、Ⅱ類は砂質が強いものと泥質が強いものによってそれぞれ（１）・（２）に細分した。また、底部については器形を中心にⅠ類～Ⅳ類に分類し、Ⅱ類は器形的な特徴からさらに（ａ）・（ｂ）に細分した。なお、口縁部・胴部の分類数字と底部の分類数字は一致しない。

弥生土器は前期と考えられる甕形土器や壷形土器、中期と考えられる入来式の壷形土器が確認された。出土良が少量のためすべて図化し分類は行わず、特徴の記述のみである。

集計は、層→地区→グリッドへと細分して表現し、点数については約４cm以下の小破片については除外した。点数をカウントしたものについては重量も合わせて計量した。

以下、それぞれの分類概念及び詳細ににについて述べる。また、個々の遺物の詳細は観察表に記述した。分類概念の整理や同定については安座間充氏（金武町教育委員会）に多大な御協力を賜った、記して感謝申し上げる。

１．貝塚時代後期土器（第42図～第48図）

ー口縁部・胴部ー

Ⅰ類：　器面の内外ともにナデを主体とした比較的丁寧な調整が行われるもの。器形はすべて甕（深鉢）形か鉢形で、壷形は確認できなかった。無文がほとんどで、１点のみ２条の凸帯をつけるものが確認できた（８）。器形の特長にはバリエーションがあり細分できる。阿波連下層式土器や宇地泊兼久原遺跡出土の土器群に近い様相をもつ。器形的な特徴からａ～ｃの３類に細分が可能である。

（ａ）　大きく開いた胴部から明確な稜をもって内側へ「く」の字に屈曲し、口縁部に向かって緩やかに外反する器形を呈するもの。

（１～２、10？）

（ｂ）　胴部から口縁部に向かって丸く膨らみ、口縁部直下で外側に向かって外反するもの。

（４・５）

（ｃ）　胴部から口縁部に向かって緩く内傾するもの。

（８・９）

Ⅱ類：　外器面はナデを主体とした比較的丁寧な調整が行われるが、内器面の調整が粗雑で指頭圧痕等が顕著に残るもの。器形はほとんどが甕（深鉢）形か鉢形で、壷形は１点確認できたのみである。また、無文資料が圧倒的に多く、有文は僅かである。胎土の質感から（１）砂質が強いものと（２）泥質が強いものに分類できる。浜屋原式土器の概念で整理できる資料と思われる。

（１）　砂質が強い。11～14のように器形的にはⅠ類に近いものもある。胴部から口縁部へかけて直線的に「ハ」の字に広がる器形を呈する。口縁部を直線的に収めるもの（15～27）や、口縁部を外側にやや折り曲げるもの（28～34）等がある。口唇部を丁寧に面取りするものもある。ほとんどが無文だが、１点のみ直線的な沈線を施す胴部資料が得られた。これは胎土が異質であり、特徴的な資料である。その他、横耳が付く胴部資料が１点のみ（38）確認された。

（11～36）

（２）　泥質が強い。当該時期の資料の有文がほとんどこれに含まれる。Ⅱ類（１）のように口唇部を丁寧に面取りする資料が少なくなる。器形的には胴部から口縁部に向かって「ハ」の字に開き、口縁部を直線的に収めるもの（37）や、胴部から口縁部に向かって「ハ」の字に開く、若しくは若干胴部に膨らみを持たせ口縁部を外側に強く折り曲げるもの（40～43）、胴部が膨らみ口縁部に向かって外反させるもの（44～48？）、胴部に膨らみを持たせ、口縁部に向かって内傾させるもの（49・50）等バリエーションが豊富である。

有文資料はすべて図化したが、出土量が少ないせいかバリエーションが豊富である。口唇部に馬鞍状凸帯を貼り付けるもの（47・48）も見られる。

また、壷形土器の口縁部が１点（52）確認され、泥質の観が強かったためこれに含めたが、器面調整の丁寧さ等はⅠ類に属するとも考えられる。

（37～56）

Ⅲ類： 内外の器面調整が粗雑で指頭圧痕等が顕著に残る。また、粘土帯接合部が丁寧に整えられず、器壁が厚くなる等の特徴ももつ。無文が圧倒的に多いが、有文資料が２点確認できた（61・62）。口縁部の資料が少ない上、小破片が多く器形の特徴を伺える資料が少ない。大当原式土器の概念で整理できる資料と思われる。

（57～62）

Ⅳ類： 胴部にやや膨らみを持たせ、口縁部を外反させる器形をまとめた。第47図66を除き器面調整が粗雑で指頭圧痕が顕著に残り、器面が凸凹する。また、器面に顕著な刷毛目状調整痕が良く残るものが多い。砂質が強いものと泥質が強いものがある。砂質が強いものは比較的硬質で焼成が良好、黄褐色又は黒色を呈している。泥質が強いものは灰色を呈する。成形や胎土等から後述する底部Ⅳ類とセットになると思われ、アカジャンガー式土器と大当原式土器の中間的な様相を持つ資料と考えられる。

なお、本遺跡からは明確なアカジャンガー式土器と思われる資料が得られなかった。

（63～68）

その他： Ⅰ類～Ⅳ類のいずれの概念に含まれない資料である。第47図69・70は器面調整が極めて丁寧で滑々しており、焼成も良好で、本遺跡から出土した貝塚時代後期の土器の内最も堅固な資料である。色調は赤褐色を呈する。第47図71は胴部に１条の凸帯を巡らし、口唇部及び凸帯に連点文を施すものである。黄褐色を呈する。

（69～71）

ー底部ー

Ⅰ類： 尖底又は丸底を呈する。接地面が安定しておらず、固い地面では立たせることができないと思われる。器面調整や胎土の質感等から口縁部分類のⅠ類又はⅡ類の一部とセットになる資料と思われる。

（72・73）

Ⅱ類： 乳房状尖底を呈する。底部の端部に丸みを持たせている。径が小さく接地面が安定しておらず、立たせることができない。器面調整や胎土の質感等から口縁部分類のⅡ類又はⅢ類とセットになる資料と思われる。器形的な特徴からａ・ｂの２類に細分が可能である。

（ａ） 乳房状尖底部から胴部に向かう立ち上りを滑らかに成形する。尖底の突起部を貼り付けによって形成すると思われるが、丁寧な器面調整によって貼付痕を滑らかに消す。

（74～77）

（ｂ） 底部の先端部に明瞭なボタン状の突起を貼り付ける。貼り付けた後の器面調整が粗雑なためか、立ち上がりにかけて明瞭な段やくびれをもつ。接地面の中心部を凹ませるものも見られる。

（78～83）

Ⅲ類： 乳房状尖底を呈するが、Ⅱ類と比べて接地面を平坦に整え安定しており、胴部への立ち上がりの前に微弱な「くびれ」を作る。泥質が多くみられる。底部の径がⅠ類・Ⅱ類と比較してやや大きめの資料が目立つ。器面調整や胎土の質感等から口縁部のⅡ類又はⅢ類とセットになる資料と思われる。

（84～91）

Ⅳ類： くびれ平底状を呈する。Ⅰ類～Ⅲ類の底部の厚さと比べて底部が薄く、胴部への立ち上がり部の器壁とあまり変わらない。第48図93を除いて器面調整が粗雑で、器面がデコボコしている。泥質が多く見られ、器面調整や胎土の質感等から口縁部分類のⅣ類とセットとなる資料と思われる。

（92～98）

２．弥生土器（第48図）

弥生土器は総数５点出土した。貝塚時代後期土器と比べて１／1,000にも満たない量であり、すべて図化した。残存部位は口縁部が２点、頸部が２点、底部が１点である。器種構成は壷形が４点、甕形が１点である。第48図99～101の３点は口縁部、肩部、底部の壷形資料であり、弥生中期の入来式土器と考えられ、胎

土・色調・混入物等から同一固体の可能性が高い。第48図102は甕形の口縁部で弥生時代前期と考えられる刻目凸帯系の土器である。第48図103は壺形の肩部で弥生時代前期の土器と考えられる。少量ながら今回の調査で出土した弥生土器はすべてⅠ地区からの出土であり、当該時期の中心部を考える上で興味深い。

3．出土状況による検討

今回の調査によって出土した貝塚時代後期土器・弥生土器の形態的特長を分類し概観した。今回の調査はⅠ地区からⅢ地区、T.P①～④に分割されており、調査区の端から端まで南北で約150ｍの広がりを持つ。当該時期の明確な遺構が検出できたのはⅡ地区の川跡内で確認されたイモガイ集積のみである。そのため、土器の出土量や分類から遺跡の中心となる場所や推移について考えてみたい。第12表は貝塚時代後期土器・弥生土器出土状況（第13表）を地区別・層序別に簡略にまとめたものであり、地区不明や層序不明については省略している。さらにT.P②はⅢ地区内で実施しているため、Ⅲ地区に含めている。

ー地区別出土量による傾向ー

地区別の土器出土量について見てみる。第13・14表にしたがってデータを整理する。調査区はⅠ地区・Ⅱ地区・Ⅲ地区・T.P①・T.P②、T.P③、T.P④に分割されており、それぞれ海側である北からⅠ地区→Ⅱ地区（東側）・T.P③（西側）→T.P①（東側）・T.P④（西側）→Ⅲ地区（T.P②はⅢ地区のために実施した試掘坑であり、以後Ⅲ地区に含めて考える。）へと山側である南側へ移っていく。調査面積はⅠ地区では403.5㎡、Ⅱ地区では614㎡、Ⅲ地区では1313㎡、T.P①・③・④ではそれぞれ144㎡となっている。

貝塚時代後期の土器出土量はⅠ地区では1,982点／22,339ｇ、Ⅱ地区では1,872点／17,871ｇ、Ⅲ地区では699点／6,163.2ｇ、T.P①では146／886.9ｇ、T.P③では765点／5,053.5ｇ、T.P④では37点／256.5ｇとなっている。このことから、調査面積が少ないにもかかわらず海側であるⅠ地区が最も多い出土量で、最も調査面積が多い山側のⅢ地区が少ない出土量となっている。また、東西に距離が離れているⅡ地区とT.P③ではT.P③の面積の小ささを考慮すると割合としてはほぼ同量の出土傾向がある。したがって、貝塚時代後期の中心部が海側のⅠ地区・Ⅱ地区に近く、さらに西側にも広がっている可能性が高い。このことは、Ⅱ地区の川跡において２基のイモガイ集積が検出されたことも裏付ける資料となるのではなかろうか。また、弥生土器はⅠ地区のみで確認されている。

ー層序別出土量による傾向ー

層序による出土量の違いについて見てみる。第13表にしたがってデータを整理する。出土量が最も多いのは第Ⅴ層（1,305点／12,060ｇ）で、第Ⅳ層（976点／5,961.7ｇ）→第Ⅲ層（693点／5,423.4ｇ）という順で出土量が減少する。ただし、第Ⅳ層はⅡ地区及びT.P③でのみ確認された層のため、包含する密度は高いと言える。川跡では川３層（980点／12,862ｇ）が川２層（333点／6,363ｇ）の約２～３倍の出土量となっている。Ⅰ類からⅣ類の遺物が各層序から混在して出土する傾向がある。

ー分類による傾向ー

次に分類による出土量の違いについて見てみる。第13表にしたがってデータを整理する。口縁部・胴部資料ではⅡ類（686点／14,441.9ｇ）が最も多い出土量で、Ⅳ類（243点／3,836.7ｇ）→Ⅲ類（153点／3,290.3g）Ⅰ類（67点／1,796.8ｇ）の順に減少傾向を見せている。底部資料では乳房状尖底のⅣ類が最も多い出土量（66点／950.9ｇ）で、Ⅲ類（50点／1,054.4ｇ）→Ⅰ類（21点／598ｇ）→Ⅱ類（17点／292.2ｇ）の順に減少傾向を見せており、本遺跡内では貝塚時代後期の最も新しい段階と思われるⅣ類の出土量が最も多い。ただし、Ⅲ類とⅣ類では点数と重さが逆転しているため、あまり差異はないと考えておく。さらに、形態が若干異なるが乳房状尖底であるⅡ類とⅢ類を足せば、出土量はⅡ・Ⅲ類→Ⅳ類→Ⅰ類の順に少なくなっている。したがって、口縁部のⅡ類やⅢ類（浜屋原式土器や大当原式土器が中心）が底部のⅡ類やⅢ類（乳房状尖底）とセットとなるならば、口縁部資料との整合性は取れている。以上の出土傾向から今回の調査区における結果が当該時期の状況を表すと考えれば、阿波連浦下層式土器の時期が最も小さい規模で、浜屋原式土器の時期に爆発的に最盛期を向かえ、大当原式土器の時期に一端縮小し、その後再び増加する傾向を見出すことが可能と思われる。

ー分類と地区別出土量による傾向ー

最後に、分類を地区別の出土量によって見てみる。第13・14表にしたがってデータを整理する。このデータは完形で出土していない口縁部・胴部のⅣ類と底部のⅣ類を器面調整や胎土の質感が似ているという情報以外で、セット関係にある可能性が高いと考えるに至ったものである。口縁部Ⅳ類・底部Ⅳ類（総括してⅣ類と呼ぶ）とした大当原式土器とアカジャンガー式土器の中間的な様相をもつ土器群の出土量はT.P③に大きな偏りがある。底部のⅣ類は全体で66点／950.9ｇ出土しており、その内T.P③からは36点／439.9ｇ出土した。全出土量の半数以上をT.P③が占めおり、T.P③から出土した他の分類による土器群と比較しても最も多い。また、口縁部・胴部Ⅳ類は全体で243点／3,836.7ｇ出土しており、その内T.P③からは72点／768ｇ出土した。全出土量の約１／３を占めており、T.P③から出土した他の分類の土器群と比較しても最も多い。発掘総面積2,762.5㎡の内、わずか144㎡のT.P③にⅣ類が集中して出土しており、偏っている。

このことを踏まえて、Ⅳ類と他の分類とを第13表にしたがって比較してみる。注目するのはⅠ地区・Ⅱ地区・T.P③である。Ⅳ類はⅠ地区（32点／3,838ｇ）→Ⅱ地区（60点／844.1ｇ）→T.P③（108点／1,207.9ｇ）に向かうにつれて増加の傾向を見せている。その反対にⅠ類～Ⅲ類はT.P③（57点／993ｇ）→Ⅱ地区（317点／7,537.4ｇ）→Ⅰ地区（484点／9,869.8ｇ）へ向かうに連れて増加の傾向を見せている。この傾向は調査面積を考慮するとさらに顕著になると思われる。

結論として、Ⅰ類～Ⅲ類の土器群とⅣ類の土器群は出土地と出土量に大きな偏りがあり、古い段階の尖底・丸底様式の土器群は海側であるⅠ地区に、新しい段階の平底様式の土器群はそれより山側によっていると言え、遺跡の中心部が異なっていたと想定できる。

第13表　地区別・層序別出土状況

地区				Ⅰ地区	Ⅱ地区	T.P③	T.P①	T.P④	Ⅲ地区	合計	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	川2層	川3層	Ⅴ層	Ⅵ層	合計
面積				403.5㎡	614㎡	144㎡	144㎡	144㎡	1313㎡										
後期土器	口・胴	Ⅰ		30	25	2	1	0	8	66	2	0	10	1	14	22	10	2	61
				735	807	20	15	0	214	1,791	30	0	213	6	446	693	252	37	1,676
		Ⅱ	(1)	139	108	11	4	1	23	286	29	0	35	17	41	70	74	0	266
				2,666	2,565	207	54	9	592	6,092	609	0	531	302	1,025	1,885	1,458	0	5,810
			(2)	179	142	11	1	3	47	383	31	3	22	21	40	99	140	5	361
				3,512	3,187	158	10	44	1,113	8,023	607	38	515	286	983	2,245	2,788	93	7,554
		Ⅲ		112	23	6	0	0	10	151	16	0	12	4	15	68	30	1	146
				2,339	579	60	0	0	292	3,269	337	0	206	35	496	1,492	587	22	3,176
		Ⅳ		30	46	72	1	1	84	234	8	0	49	55	14	25	74	0	225
				1,680	647	768	23	11	640	3,768	124	0	493	546	1,566	279	651	0	3,659
		不明		1,461	1,495	600	138	31	506	4,231	673	2	547	828	193	684	947	11	3,885
				10,543	9,490	2,853	777	185	2,772	26,620	4,073	9	3,143	4,071	1,451	5,875	5,700	129	24,450
	底部	Ⅰ		13	3	0	0	1	3	20	4	0	2	0	3	5	1	0	15
				366	83	0	0	9	119	576	119	0	43	0	157	140	13	0	470
		Ⅱ		5	7	1	1	0	2	16	2	0	7	0	1	1	3	0	14
				116	113	21	9	0	27	285	26	0	124	0	15	44	54	0	263
		Ⅲ		6	9	26	0	0	8	49	6	0	4	20	4	0	15	0	49
				137	205	528	0	0	171	1,040	135	0	130	373	89	0	313	0	1,040
		Ⅳ		2	14	36	0	0	8	60	3	0	5	30	8	3	10	0	59
				53	197	440	0	0	193	883	47	0	27	342	137	61	228	0	841
弥生土器				5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	3	1		4
				193	0	0	0	0	0	193	0	0	0	0	0	149	16		166
合計				1,982	1,872	765	146	37	699	5,501	774	5	693	976	333	980	1,305	19	5,085
				22,339	17,871	5,054	887	257	6,132	52,539	6,106	47	5,423	5,962	6,363	12,862	12,060	281	49,104

注　上段：個数、下段：重量(g)

第14表　貝塚時代後期土器・弥生土器出土状況a

分類		出土地	Ｉ層																																								
			Ｉ地区																															Ⅱ地区														T.P③
			ロ				ハ				ニ					ホ			ヘ					ト				チ	リ	ｸﾞﾘｯﾄ不明	チ			ヌ						ヲ					
			1	3	4	5	3	4	5	8	2	3	4	5	6	3	4	5	1	2	3	4	5	0	1	2	3	2	3		10	12	16	8	10	12	14	16	18	8	10	12	14	16	
後期土器	Ⅰ	口縁部																																									
		胴部											1																					1											
													10.8																					18.8											
	Ⅱ (1)	口縁部							1				1								2						1		1									2							
									18.3				21.1								24.9						11.1		25.0									17.8							
		耳																																									
		胴部				1	2	2				1	2	1					3		3				1										1	1		2		1					
						16.2	33	43.1				18.2	34.5	14.6					178.2		39				17.4										19.3	11.8		55.2		10.3					
	Ⅱ (2)	口縁部					1																																				
							7.5																																				
		胴部					4	1		1	1	3		1		1	2	1			6	2		1	1			1							2	2									
							90.2	23.4		17	14.1	45		18.9		15.8	34.3	16.5			121.7	37.2		15.2	11.5			24.2							45.4	68.6									
	Ⅲ	口縁部						1																																			
								14.3																																			
		胴部					3	2				1	1								2				1			2							1	1				1					
							53.2	39.9				19.6	28.5								45.9				27.7			42.5							28.9	19.6				17.3					
	Ⅳ	口縁部																			1																1								
																					17.2																12.9								
		胴部											1	1			1								1													1		1					
													12.7	16.6			22								14.7													8.9		18.9					
	不明	口縁部																									1										1	4						1	3
																											6.4										6.1	18						5.2	21.3
		胴部	3	8	3	7	66	31	15		2	27	53	13	1	13	18	7	6	7	65	31	1	1	1	4	5	12	7	1	1	2	1	23	15	30	61	18	1	3	2	2	10	7	79
			18.8	77.1	14.6	38.2	475.2	190.9	84.4		18	168.5	388.6	85.4	7.8	102.8	159.8	57.7	29.5	61.3	344.9	176.6	4.9	3.4	4.5	25.6	34	71.9	61.3	16.5	5.1	8.3	7.2	135.2	74.7	134.4	313.9	162	9.5	22.3	21	7.6	32.6	42.9	317
	底部	Ⅰ											1								2	1																							
													25.6								73.3	19.7																							
		Ⅱ																	1															1											
																			12.7															13.5											
		Ⅲ					1						2																																3
							47.6						15.9																																71.9
		Ⅳ															1																									1			1
																	11.3																									30.4			4.8
弥生土器	口縁部																																												
	胴部																																												
	底部																																												
合 計			3	8	3	8	77	37	16	1	3	32	62	16	1	14	22	8	10	7	81	34	1	2	5	4	7	15	8	1	1	2	1	25	19	34	63	27	1	6	2	3	10	8	86
			18.8	77.1	14.6	54.4	706.7	311.6	102.7	17	32.1	251.3	537.7	135.5	7.8	118.6	227.4	74.2	220.4	61.3	666.9	233.5	4.9	18.6	75.8	25.6	51.5	138.6	86.3	16.5	5.1	8.3	7.2	167.5	168.3	234.4	332.9	261.9	9.5	68.8	21	38	32.6	48.1	415

注　上段:個数、下段:重量(g)

第14表　貝塚時代後期土器・弥生土器出土状況b

分類 ＼ 出土地			Ⅱ層			Ⅲ層																																							
			Ⅱ地区	Ⅲ地区		Ⅰ地区													Ⅱ地区														Ⅲ地区											
			ヌ	ラ		ロ	ハ			ニ		ホ		ヘ				ヌ					チ			ヲ				ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	ソ	ネ				ラ			ウ			
			14	32	34	4	5	4	5	6	4	7	3	4	1	2	3	5	8	10	12	14	18	10	12	14	16	10	12	18	20		26	26	30	32	34	26	30	32	24	26	28	30
後期土器	Ⅰ	口縁部																																											
		胴部																		1	2				1					2								1						
																				17	66.8				17.8					27.1								16.7						
	Ⅱ (1)	口縁部														3				3	1		2		1																				
																28.8				54.1	6.3		17.4		11.1																				
		耳																																											
		胴部						1				2		7		3				5		1	2		2																				
								13.6				23.2		167.5		47.3				54.1		9.5	18.8		45.7																				
	(2)	口縁部					1						1	1							1			1																					
							16.2						8	11.3							11			22.5																					
		胴部	3											2					1	2	2	3	1	3	1																			1	
			38											49.6					20.2	49.8	44.5	55.1	22.7	64.2	85.2																			8.4	
	Ⅲ	口縁部																																											
		胴部										1		6	2	1				1																1									
												6.4		106.9	44.8	14.9				21.7																11.5									
	Ⅳ	口縁部																			1								1														1	1	1
																					25.5								21													6	24	30.6
		胴部						1												3	6	1						1										4				3	23	
								26.8												31.2	86.4	14.1						14.6										11				32	105.6	
	不明	口縁部											1								1			1	1					1															
													7.4								16			11	5					4															
		胴部		1	1	4			7	1	3	1	29	46	1	28	3	3	8	67	80	28	13	15	21	1	7	13	5	45	12		1	4	1	11	1	11	2	1	4	2	2	
				4.1	4.6	12.3			61.1	6.9	19.8	7.2	164.4	293.5	7	162.9	11.4	20	56.8	354.6	518.5	136.2	84.8	109.9	122.3	18	53.2	67.3	25.4	192	51.8		4.1	27.3	7.7	37.5	6.6	45.4	10	5.1	17.2	18.6	12.4	
	底部 Ⅰ								1					1																															
									24.2					18.5																															
	底部 Ⅱ															1						2	1					1			1														
																28.3						55	5.8					11.4			12.2														
	底部 Ⅲ																			2	1									1															
																				41.7	8.7									79.4															
	底部 Ⅳ																			1				2								1										1			
																				5.3				10.6								6.9										3.9			
弥生土器	口縁部																																												
	胴部																																												
	底部																																												
合　計			3	1	1	4	1	2	8	1	3	4	31	63	3	36	3	3	9	85	95	35	19	22	27	1	7	15	6	49	13	1	1	4	1	12	1	16	2	1	5	6	27	1
			38	4.1	4.6	12.3	16.2	40.4	85.3	6.9	19.8	36.8	179.8	647.3	51.8	282.2	11.4	20	77	629.5	783.7	269.9	149.5	218.2	287.1	18	53.2	93.3	46.4	302.5	64	6.9	4.1	27.3	7.7	49	6.6	73.1	10	5.1	21.1	56.6	150.4	30.6

注　上段：個数、下段：重量(g)

第14表　貝塚時代後期土器・弥生土器出土状況c

分類 ＼ 出土地			Ⅲ層											Ⅳ層														川跡2層											
			Ⅲ地区											Ⅱ地区													T.P③	Ⅰ地区(川跡1)						Ⅱ地区(川跡2)						
			ゐ	ノ			ク				マ		フ	チ	ヌ						ヲ				ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		ハ	ニ		ヘ		ト	チ		ヌ			ヲ	
			26	24	26	28	24	26	28	29	24	26	26	14	8	10	12	14	16	18	20	10	16	18	20			6	7	8	6	7	6	10	12	10	12	18	10	12
後期土器	Ⅰ	口縁部																										1												
																												35.8												
		胴部	1					2																			1		1		1	1	1			8	1			
			12.1					55																			5.7		10.7		13.7	27.4	31			283.8	44			
	Ⅱ (1)	口縁部										1								2							2					2		3	4	3	1		1	2
												6.2								34.9							29.7					44.5		152.1	95	37.8	31.8		11.6	30.7
		耳																																						
		胴部					1									1			1	6							5		1		3		2		3	9				2
							27.4									9.9			7.9	144.9							75.1		12		41.5		64		107.6	179.9				51.3
	Ⅱ (2)	口縁部																										1								1	3			
																												11.0								37.9	49.5			
		胴部								1				1			4		1	5			2	1			7		1	1	2		1	1		18	1		2	1
										46				11.1			61.2		12.3	68.7			25.3	17.1			90.6		26	16.1	15.3		38.7	15.1		427.6	13.8		31.5	16.3
	Ⅲ	口縁部																									1													
																											6.5													
		胴部																									3				2					5			4	
																											28.9				26.9					181.5			73.2	
	Ⅳ	口縁部					1		1																		7	1												
							52.4		12																		71.6	1370												
		胴部															3					1					44									4	1		6	
																	35					8.5					431.2									53.7	14.9		87.1	
	不明	口縁部									1	1					1			2						1	15							2					6	
											4	4.5					2			9						5	67.8							27.4					29.5	
		胴部		1	3	1	17	17	5			11	4	1	14	16	52	13	1	290	2	17	5	24	6		368						1	9	8	50	9		26	22
				3.3	16.6	4.4	105.2	101.4	36.1			49.8	25	9.2	55.4	64	254.3	78.2	4.9	1495.1	12.3	50	25.2	123.8	31.6		1783						5.1	107.8	73.1	434.3	66.4		130.4	180
	底部	Ⅰ																																					1	
																																							48.6	
		Ⅱ					1																																1	
							11																																14.7	
		Ⅲ															1			1		1					17								2					
																	25.2			12.5		14.1					320.9								23.1					
		Ⅳ															2										28									2		1	1	
																	26.6										315.5									20		25.4	11.2	
弥生土器	口縁部																																							
	胴部																																							
	底部																																							
合　計			1	1	3	1	20	19	6	1	1	13	4	2	14	17	63	13	3	306	2	19	7	25	6	1	498	3	3	1	8	3	5	15	17	100	16	1	48	27
			12.1	3.3	16.6	4.4	196	156.4	48.1	46	4	60.5	25	20.3	55.4	73.9	404.3	78.2	25.1	1765.1	12.3	72.6	50.5	140.9	31.6	5	3226.5	1416.8	48.7	16.1	97.4	71.9	138.8	302.4	298.8	1656.5	220.4	25.4	437.8	278.3

注　上段:個数、下段:重量(g)

第14表　貝塚時代後期土器・弥生土器出土状況d

分類 ＼ 出土地			川跡2層									川跡3層																										V層			
			Ⅲ地区(川跡3)									Ⅰ地区(川跡1)															Ⅱ地区(川跡2)								Ⅲ地区(川跡3)	Ⅰ地区			
			ソ	ネ		ラ		ウ		マ	ロ		ハ				ニ					ホ		ヘ			チ		ヌ		ヲ		タ	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	ネ	ハ	ニ	ヘ	
			32	30	32	34	32	34	32	34	24	4	5	4	5	6	7	4	5	6	7	8	4	5	4	5	6	10	12	10	12	10	12	10		34	3	3	1	2
後期土器	Ⅰ	口縁部										1						1					1					1				1								
												17.7						122.8					33.6					192.5				17.2								
		胴部											1	5	2		1		3				1		1	1		1		1								1		2
													19.6	94.7	29.7		20.4		54.5				14.7		22.9	14.8		15.6		22								23.9		49.9
	Ⅱ (1)	口縁部		1							1		2	2	1						1							3		6	1	1				1				1
				13							63.7		47.8	21.0	33.9						6.5							82.4		460.6	49.7	8.7				32.3				17.8
		耳										1																												
												28.3																												
		胴部		1		1	1					1	2	16	5			4	3		2				1	1		9			5		1	1			5	4	3	2
				24.1		17.2	47					32.3	77.5	288.4	74			65.3	85.7		31				26	16.9		246.7			103.1		47.9	18.6			101.3	45.4	71.9	40.2
		(2) 口縁部			1			1							1			4	2				1									1								
					46.1			63.7							15.4			79.3	45.7				39.7									19.8								
		胴部			2	2	1					2	1	14	13	1		3	14	1			2		1		1	8	1	24	1	1	2				7	7	1	5
					84.6	33.8	55.6					19.7	14	282.1	250	13.4		41.2	262.7	11.8			23.2		35.5		8.5	195.2	111.9	697	19.2	20.1	39.3				188	115.8	10.7	144.1
	Ⅲ	口縁部												1				1																				3		
														12.4				22.2																				60.3		
		胴部		1	2			1				2		18	6			9	14			1	3	3	3			4		2		1					3	1		
				40.5	68.9			104.9				50.4		399	103.5			200.2	274.4			11.1	98	72.5	56.3			124.1		56		11.6					52.8	9.5		
	Ⅳ	口縁部																	1																					
																			6																					
		胴部					2								2	2			3		5	1				1		1		2		3	4							
							40.1								22	27.1			17.6		38	14.4				1.5		24.1		23.4		57.6	47.6							
	不明	口縁部										3		5	2			1	1				2		1						1							1		3
												7.8		69	17.4			3.6	10.7				9		14.2						4.9							5		20.5
		胴部	2	2	4	7	12	8	19	3	3	43	27	97	71	15		78	45	3	2		83	3	14			112	5	46	3	10	6		3	2	12	51	21	40
			2.8	15.2	49.6	56.9	98.7	52.1	99.4	9.8	12.2	248	199.3	844.7	621	131.6		620.9	442.5	23.3	18.8		569.3	33.5	157.3			1259.9	36.9	330	18.2	70.1	66.8		22.4	23.8	110	456.1	119.8	270.6
	底部	Ⅰ				2									1			1	2											1										
						107.9									21.9			22.3	74.1											21.4										
		Ⅱ											1																											
													44.3																											
		Ⅲ									2																													
											65.5																													
		Ⅳ						1	3																							3								
								16	64.1																							61								
弥生土器	口縁部																									1														
																										10.2														
	胴部												1																											
													22.9																											
	底部														1																									
															116																									
合　計			2	5	9	12	16	11	22	3	6	53	35	158	105	18	1	102	88	4	10	2	93	6	21	4	1	139	6	82	11	21	13	1	3	3	27	68	25	53
			2.8	92.8	249.2	215.8	241.4	236.7	163.5	9.8	141.4	404.2	425.4	2011.3	1304.8	172.1	20.4	1177.8	1273.9	35.1	94.3	25.5	787.5	106	312.2	43.4	8.5	2140.5	148.8	1610.4	195.1	266.1	201.6	18.6	22.4	56.1	452.1	716	202.4	543.1

注　上段:個数、下段:重量(g)

第14表　貝塚時代後期土器・弥生土器出土状況e

分類 ＼ 出土地			Ⅴ層																																									
			Ⅰ地区				Ⅱ地区											Ⅲ地区																									T.P③
			ト			ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	チ	ヌ						ヲ				ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	ソ				ネ		ラ			ウ				ゐ	ノ			ク			マ			フ	
			0	1	2		14	8	10	12	14	16	18	12	14	16	18		26	28	30	32	30	32	28	30	32	26	28	30	32	24	24	25	26	24	26	28	24	26	28	26	
後期土器	Ⅰ	口縁部														1																												
																8																												
		胴部											2										2																	1			1	
													39.6										44.9																	71.2			14.4	
	Ⅱ (1)	口縁部				4		1							1			1																		1	5						1	
						73.2		11.2							8			10.3																		63.6	99						29.4	
		耳																																										
		胴部	2	1		16	2			2	5		4			2		1						1		1							2						1	2			3	
			45.6	16.3		280	25.6			41.8	77		83.5			43.6		19.1						49.4		24.3							29.5						11.5	66.6			73.1	
		(2) 口縁部				3				1					1			1						1			1	1														1	1	
						39.1				8.5					38.7			11.7						86			34.7	9.8														7.7	27.9	
		胴部			1	44	3			1	4		5		1	2		14										1	1				1	1	1	1	6	2	3	11	4		2	
					15	870.3	38.8			13.2	62.9		86.8		17.6	31.5		306.1										15	28.7				12.5	19.9	10.4	12.3	124.2	26.4	42.9	177.3	134.8		18.6	
	Ⅲ	口縁部																1					1								1													
																		10.6					5.3								7.8													
		胴部				14			1																	1	1										1							2	
						351.2			12																	16.5	22.1										14.5							24.3	
	Ⅳ	口縁部																											2	1														
																													14	17														
		胴部				2					1		1					2	6					1			1	4	21	2	1				8								21	
						24.6					10.8		9.1					14.8	44.2					26.8			9	12.6	107.3	13.5	10.4				71.4								265.2	
	不明	口縁部				2							1					2																								2	9	
						29.2							5					16.5																								11	35.5	
		胴部	13	19	5	126	11	5	2	4	25	2	39	3	5	31	2	51	5	14	7	4	1	22	1	1		7	20	20	7		32		6	19	49	1	23	44	34	20	123	
			71.8	134.4	29.9	844.1	51.6	22.6	17.7	26.3	143.5	14.1	288.5	10.5	35.3	175.2	16.4	375.7	16.8	67.6	50.7	16.2	9.6	164.8	2.8	3.9		25.7	77.1	72.1	40.1		184.1		29.7	120.3	216.5	5.6	131.6	214.9	200.3	115	598	
	底部	Ⅰ																1																										
																		12.6																										
		Ⅱ			1																																		1				1	
					17.3																																		16.4				20.6	
		Ⅲ				3														2								2				1							1				6	
						73.5														43								30.5				27.2							4.3				134.8	
		Ⅳ																		2									1														7	
																				40.9									67.8														119.6	
弥生土器	口縁部																																											
	胴部					1																																						
						16.4																																						
	底部																																											
合計			15	20	7	215	16	6	3	8	35	2	52	3	8	36	2	74	11	18	7	4	4	25	1	3	3	15	45	23	9	1	35	1	15	21	61	3	29	58	38	23	177	
			117.4	150.7	62.2	2601.6	116	33.8	29.7	89.8	294.2	14.1	512.5	10.5	99.6	258.3	16.4	777.4	61	151.5	50.7	16.2	59.8	327	2.8	44.7	65.8	93.6	294.9	102.6	58.3	27.2	226.1	19.9	111.5	196.2	454.2	32	206.7	530	335.1	133.7	1361.4	

注　上段:個数、下段:重量(g)

第14表　貝塚時代後期土器・弥生土器出土状況f

分類 ＼ 出土地			VI層						層序不明																			不明	合計
			II地区					T.P③	I地区						II地区									III地区	T.P①	T.P②	T.P③	T.P④		
			ヌ		ヲ		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		ハ	ニ		ホ	ヘ	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	ヌ						ヲ	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明							
			10	12	16	18			7	7	8	7	6		8	10	12	14	16	18	14									
後期土器	I	口縁部	1						1																			1	10
			22.5						35																			6	491.1
		胴部	1						2																1	1			57
			14.6						51																14.6	14.3			1305.7
	II (1)	口縁部										1											1		2				78
												11.2											5		24.3				1882.8
		耳																											1
																													28.3
		胴部							2				1	10									1		2			1	9	217
									46.2				12.2	147.9									12.2		29.3			8.9	119.1	4315.2
	II (2)	口縁部																				2						2	37
																						29.8						149.3	927.8
		胴部	1			1	2	1	2	1				9								2	1	1	1		3	6	354
			22.4			24.8	25	20.6	28.6	4.7				268.5								52	17.5	9.7	14.7		43.5	58.8	7302.8
	III	口縁部												2															12
														40.2															179.6
		胴部				1					1	1		1														2	141
						22.2					25.3	6.3		21.7														21.1	3110.7
	IV	口縁部																										1	22
																												10	1690.2
		胴部												6								1		1			1	8	221
														48.8								26.6		23.1			10.6	58.4	2146.5
	不明	口縁部												3										1			1	3	88
														33.2										6.3			6	11	565.4
		胴部	3	4	3	1			1				2	129	2	6	10	1	1	2	9	6		137	2	3	30	3	4149
			18.8	63.5	31.1	15.4			16.7				8.5	844.1	12.9	26.5	66.4	6.5	27.4	15.8	40.4	55		771	24	30	179	22.7	26087.9
	底部 I										1			2									1				1	1	21
											42.1			44.5									11				8.5	21.8	598
	底部 II													1										1				1	17
														13.1										8.6				7.3	292.2
	底部 III																											1	50
																												14.6	1054.4
	底部 IV													1														6	66
														41.3														64.2	946.8
弥生土器	口縁部													1															2
														27.9															38.1
	胴部																												2
																													39.3
	底部																												1
																													116
合計			6	4	3	3	2	1	8	1	2	2	3	165	2	6	10	1	1	2	9	11	4	146	4	3	37	44	5546
			78.3	63.5	31.1	62.4	25	20.6	177.5	4.7	67.4	17.5	20.7	1531.2	12.9	26.5	66.4	6.5	27.4	15.8	40.4	163.4	45.7	886.9	53	30	256.5	564.3	53118.8

注　上段:個数、下段:重量(g)

第15表　貝塚時代後期土器・弥生土器観察一覧a

単位:cm

挿図番号 図版番号	番号	分類	残存部位	口径 器高 底径	形態の特徴等	器面調整	胎土	混入物	色調	焼成	地区 層 グリッド
第42図・図版79	1	Ⅰ(a)	口～胴	15.0 － －	口唇部が丁寧に面取りされる。胴部から口縁部に向かって屈曲する部分は粘土帯から割れる。外面胴部が火を受けて煤ける。	内外面全体的にナデ、口唇部及び外反する口縁部は特に丁寧にナデを行い仕上げる。	砂質	白色砂粒	外:赤褐色 内:暗褐色	良	Ⅰ地区 川1－3層
	2	Ⅰ(a)	肩	－ － －	1と似る。胴部から口縁部に向かって強く屈曲する。	内外面ナデられるが、特に外面のナデは丁寧。	砂質	白色砂粒 赤色粒 黒色粒	外:黄灰色 内:黄灰色	良	Ⅰ地区 川1－3層
	3	Ⅰ(a)	口～肩	－ － －	1と似る。胴部から口縁部に向かって強く屈曲する。	内外面全体的にナデ、特に外面は横位のナデが強い。	砂質	光沢微砂粒	外:にぶい橙色 内:赤褐色	やや脆弱	Ⅰ地区 川1－3層
	4	Ⅰ(a)	口～肩	27.2 － －	1と似るが、径が大きく大型。胴部から口縁部に向かって強く屈曲する。	内外面横位のナデ。外面に刷毛目状の筋が僅かに残る。	砂質	石灰質粒 黒色粒 赤色粒 光沢微粒子	外:にぶい橙色 内:橙色	良、堅固	Ⅱ地区 Ⅳ層 ヲ－14
	5	Ⅰ(b)	口	22.0 － －	膨らむ胴から一端内傾し、口縁部へ向かって外反。口縁部が面取りされていたようだが、磨耗を受けている。	内外面良くナデられる。口縁部付近に指頭圧痕が残る。	砂質	石灰質微粒 光沢微粒	外:黒褐色 内:黒色	良	Ⅰ 層不明 ハ－7
	6	Ⅰ (aorb)	口	－ － －	口縁部が外反し、胴部が口縁部より張りそう。口唇部を丁寧に面取する。	内外面良くナデられる。	砂質	石灰質微粒 黒光沢粒	外:明褐色 内:明褐色	良	Ⅱ地区 Ⅴ層 ヌ－16
	7	Ⅰ (aorb)	口	－ － －	口縁部が外反し、胴部が口縁部より張りそう。口唇部を丁寧に面取する。	内外面良くナデられるが、内面は指頭圧痕が良く残る。	泥質	石灰質微粒	外:明褐色 内:明褐色	良	Ⅱ地区 川2－3層 ヲ－10
	8	Ⅰ(c)	口～胴	18.8 － －	胴部から口縁部緩やかに内傾。口唇部を舌状に整える。2条の凸帯を施す。外面は煤ける。搬入土器の可能性がある。	内外面良くナデられる。外面は特に丁寧な横位のナデ。内面はナデられるが指頭圧痕は残る。	砂質	白色砂粒	外:淡橙色 内:赤褐色	良	Ⅱ地区 川2－3層 チ－10
	9	Ⅰ(c)	口～胴	11.0 － －	胴上部が最も膨らみ、口縁部に向かって僅かに内傾する。口唇部は舌状にし、指で良く整えている。外面は煤ける。	内外面良くナデられ、丁寧に仕上げている。	砂質	白色微砂粒	外:明褐色 内:にぶい橙色	良、堅固	Ⅱ地区 Ⅵ層 ヌ－10
	10	Ⅰ (aorb)	口	－ － －	胴から口縁部へ向かって屈曲し、外反する。1と胎土・器面調整等良く似る。口唇部が面取りされる。	内外面丁寧にナデられるが、内面は指頭圧痕が残る。	砂質	多量の砂粒 光沢微粒	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	良	Ⅱ地区 川2－3層 チ－10
	11	Ⅰ orⅡ(1)	口～胴	14.6 － －	胴が丸みを帯び、口縁部に向かってさらに屈曲して開く。口唇部は舌状に整える。	内外面良くナデられる。外面の口縁部付近は特に横位に良くナデる。	砂泥質	石灰質微粒 赤色粒	外:黄灰色 内:淡灰色	良	Ⅱ地区 川2－3層 ヌ－10
	12	Ⅱ(1)	口～胴	11.6 － －	丸みを帯びた胴から口縁部に向かって内傾する。	外面下半が良くナデられる。内外面の口縁部付近は指頭圧痕が顕著に残りデコボコする。	砂質	多量の 大砂粒	外:黒色 内:暗褐色	やや脆弱	Ⅰ地区 川1－2層 ハ－6
第43図・図版80	13	Ⅱ(1)	口～胴	19.7 － －	丸みを帯びた胴から口縁部に向かって外反する。口縁部は徐々に細くし、口唇部を舌状に整える。	外面は粗雑なナデ、口縁部付近は指頭圧痕がのこる。内面は指頭圧痕が顕著に残りデコボコする。	砂～砂泥質	少量の 黒色粒	外:にぶい 赤褐色 内:にぶい橙色	やや脆弱	Ⅰ地区 川1－3層 ハ－5
	14	Ⅱ(1)	口～胴	－ － －	丸みを帯びた胴から口縁部に向かって僅かに外反する。口唇部を舌状に整える。	内外面ともに斜位・縦位の粗雑なナデ。内面に横位の擦痕が残る。	砂質	多量の 大砂粒	外:明茶褐色 内:明茶褐色	やや脆弱	Ⅰ地区 川1－3層 ホ－4
	15	Ⅱ(1)	口～胴	33.8 － －	胴がやや膨らむが、ハの字に開く器形。口唇部を舌状に整える。	外面は丁寧にナデられる。内面は粗雑なナデで、器面がデコボコし、粘土帯の凹凸が目立つ。	砂質	赤色粒 石灰質微粒	外:赤褐色 内:明赤褐色	良	Ⅱ地区 川2－3層 ヌ－10
	16	Ⅱ(1)	口～胴	33.6 － －	大きくハの字に開く器形。口唇部を舌状に整える。	外面は丁寧にナデられる。内面は粗雑なナデで、器面がデコボコし、粘土帯の凹凸が目立つ。16と良く似る。	砂質	赤色粒 石灰質微粒	外:赤褐色 内:にぶい橙色	良	Ⅱ地区 川2－3層 ヌ－11

第15表　貝塚時代後期土器・弥生土器観察一覧b

単位:cm

挿図番号 図版番号	番号	分類	残存部位	口径 器高 底径	形態の特徴等	器面調整	胎土	混入物	色調	焼成	地区 層 グリッド
第43図・図版80	17	Ⅱ(1)	口～胴	29.4 － －	大きくハの字に開く器形。口唇部を舌状に整える。外面が煤ける。	外面は丁寧にナデられる。内面は粗雑なナデで、器面がデコボコし、粘土帯の凹凸が目立つ。16と良く似る。	砂質	石灰質微粒 微砂粒	外:暗褐色 内:にぶい橙色	良	Ⅱ地区 川2－2層 チ－12
	18	Ⅱ(1)	口	－ － －	砲弾状の器形。口唇部を舌状に整える。	外面は丁寧にナデられる。内面は粗雑なナデで、器面がデコボコし、粘土帯の凹凸が目立つ。18と良く似る。	砂質	石灰質微粒 微砂粒	外:明～暗褐色 内:明～暗褐色	良	Ⅱ地区 川2－2層 ヌ－12
	19	Ⅱ(1)	口	－ － －	砲弾状の器形。口唇部を丁寧に面取りする。	外面は丁寧にナデられる。内面は粗雑なナデで、器面がデコボコし、粘土帯の凹凸が目立つ。19と良く似る。	砂質	石灰質微粒 微砂粒	外:淡灰色 内:にぶい橙色	良	T.P③ Ⅴ層
第44図・図版81	20	Ⅱ(1)	口	－ － －	砲弾状の器形。口唇部を丁寧に面取りする。	外面は丁寧にナデられる。内面は粗雑なナデで器面がデコボコする。内面口縁部付近に斜位のヘラ状工具による調整痕が顕著に残る。	砂質	光沢微粒 微砂粒	外:明褐色 内:明～暗褐色	良	Ⅲ地区 川3－2層
	21	Ⅱ(1)	口	－ － －	砲弾状の器形。口唇部を丁寧に面取りする。	内外面ともに丁寧にナデられる。内面口縁部付近に縦位のヘラ状工具による調整痕が顕著に残る。	砂質	光沢微粒 微砂粒	外:暗褐色 内:暗褐色	良、堅固	Ⅲ地区 Ⅴ層 ク－26
	22	Ⅱ(1)	口	－ － －	砲弾状の器形。口唇部を粗雑に面取りするため、歪んでいる。21と胎土・器面調整等良く似る。	内外面ともに丁寧にナデられる。	砂質	光沢微粒 微砂粒	外:明褐色 内:暗褐色	良、堅固	Ⅲ地区 Ⅴ層 ク－26
	23	Ⅱ(1)	口	－ － －	砲弾状の器形。口唇部を舌状に整える。	外面は口縁部付近を中心として、横位の丁寧なナデ。内面は指頭圧痕が顕著に残る。	砂質	石灰質微粒 微砂粒	外:明黄色 内:にぶい黄色	良	Ⅱ地区 川2－2層 チ－10
	24	Ⅱ(1)	口	－ － －	砲弾状の器形。口唇部を粗雑に面取りする。	外面は口縁部付近を中心として、横位の丁寧なナデ。内面は口縁部付近は丁寧にナデられるが、胴部は指頭圧痕が顕著に残る。	砂質	石灰質微粒 微砂粒	外:にぶい橙色 内:淡灰色	良	Ⅱ地区 川2－2層 チ－12
	25	Ⅱ(1)	口	－ － －	砲弾状の器形。口唇部を丁寧に面取りする。	外面は丁寧なナデ。内面は口縁部付近は指頭圧痕を消す努力がなされるが、胴部は指頭圧痕が顕著に残る。	砂質	少量の 微砂粒 光沢微粒	外:明褐色 内:にぶい橙色	良	T.P③ Ⅴ層
	26	Ⅱ(1)	口	－ － －	口縁部をやや外反させる。器壁が一定していない。	外面は丁寧なナデ。内面は指頭圧痕が顕著に残る。	砂質	光沢微粒	外:黒褐色 内:茶褐色	脆弱	Ⅱ地区 Ⅴ層
	27	Ⅱ(1)	口	22.9 － －	砲弾状の器形。口唇部は丸みを持った平坦面を意識する。	内外面ともに丁寧にナデられるが、内面は指頭圧痕が僅かに残る。	砂質	少量の 白色微砂粒	外:明橙色 内:明橙色	やや脆弱	Ⅲ地区 川3－3層 ネ－34
	28	Ⅱ(1)	口	21.0 － －	口縁部端部をやや外反させ、胴部に膨らみを持たせる。口唇部を舌状に整える。	外面は横位の丁寧なナデ。内面は粗雑なナデ。内面に横位の刷毛状調整痕が顕著に残る。	砂質	少量の 大砂粒 少量の 大赤色粒	外:黒褐色 内:茶褐色	良	T.P③ Ⅳ層
	29	Ⅱ(1)	口	－ － －	直線的な胴部で、口縁部をやや外反させる。	外面は丁寧なナデ。内面は指頭圧痕が顕著に残る。内面胴部に斜位のヘラ状工具調整痕が残る。	砂質	少量の 石灰質微粒	外:明褐色 内:明褐色	やや脆弱	Ⅱ地区 川2－2層 ヌ－12
	30	Ⅱ(1)	口	－ － －	直線的な胴部で、口縁部をやや外反させる。口唇部に丸みを持たせる。	外面は丁寧なナデ。内面は指頭圧痕が顕著に残る。内面胴部に斜位のヘラ状工具調整痕が残る。	砂～ 砂泥質	石灰質微粒	外:にぶい橙色 内:橙色	良	Ⅱ地区 川2－2層 チ－10
	31	Ⅱ(1)	口	－ － －	直線的な胴部で、口縁部をやや折り曲げる。口唇部に丸みを持たせる。	外面は丁寧なナデ。内面は指頭圧痕が顕著に残る。	砂質	大砂粒	外:明褐色 内:暗褐色	良	Ⅱ地区 川2－3層 チ－10

第15表　貝塚時代後期土器・弥生土器観察一覧c

単位:cm

挿図番号 図版番号	番号	分類	残存部位	口径 器高 底径	形態の特徴等	器面調整	胎土	混入物	色調	焼成	地区 層 グリッド
第44図・図版81	32	Ⅱ(1)	口	― ― ―	やや膨らみを持った胴部で、口縁部を外反させる。口唇部は舌状に整える。胎土に大砂粒を多く含むため、器面がザラつく。	外面は粗雑なナデ。内面は指頭圧痕が顕著に残る。	砂質	大砂粒	外:黒褐色 内:茶褐色	やや脆弱	Ⅲ地区 Ⅴ層 ク－24
	33	Ⅱ(1)	口	― ― ―	やや膨らみを持った胴部で、口縁部を外反させる。口唇部は舌状に整える。胎土に大砂粒を多く含むため、器面がザラつく。	外面は粗雑なナデで、口縁部直下には外反器形に整えるための指頭圧痕が顕著に残る。内面は横位置の粗雑なナデ。	砂質	大砂粒	外:茶褐色 内:灰褐色	やや脆弱	Ⅲ地区 Ⅴ層 ク－26
第45図・図版82	34	Ⅱ(1)	口	― ― ―	口縁部をL字に折る。	外面は口縁部直下を中心に横位置のナデ。内面は粗雑なナデ。	砂質	黒色光沢粒 石灰質微粒	外:明褐色 内:にぶい橙色	良	Ⅰ地区 Ⅰ層 ト－3
	35	Ⅱ(1)	胴	― ― ―	外面に縦位の沈線。煤ける。異質で搬入土器の可能性あり。	外面は丁寧なナデ。内面は粗雑なナデで、指頭圧痕が顕著に残る。また、ヘラ状工具調整痕がのこる。	砂～泥質	赤色粒 黒色粒	外:淡灰色・橙色 内:灰色	良	Ⅱ地区 Ⅴ層 ヌ－18
	36	Ⅱ(1)	胴	― ― ―	横耳が付く。	耳の付近は丁寧にナデる。	砂質	赤色粒 黒色粒 微砂粒	外:にぶい橙色 内:にぶい黄色	良、堅固	Ⅰ地区 川1－3層 ロ－4
	37	Ⅱ(2)	口	― ― ―	ハの字に開く器形。口唇部は舌状に整えるが、粗雑なため、デコボコする。大粒の砂粒を多量に含むため、器面がザラつく。	外面は口縁部付近が横位、斜位のナデ。胴部には斜位の刷毛目状調整痕が残る。内面は粗いナデで指頭圧痕が顕著に残る。	砂泥～泥質	多量の 大砂粒	外:淡茶褐色 内:淡茶褐色	良	Ⅲ地区 Ⅴ層 ネ－32
	38	Ⅱ(2) orⅢ	胴	― ― ―	口縁部付近か。ハの字に大きく開く器形。	内外面ともに粗雑なナデ。内面は特に指頭圧痕が良く残る。	泥質	大砂粒	外:赤褐色 内:にぶい赤褐色	良	Ⅰ地区 Ⅴ層 へ－2
	39	Ⅱ(2)	胴	― ― ―	有文。外面に、縦位の放物線状の沈線を何本も施す。	小破片のため省略。	泥質	大砂粒	外:淡褐色 内:淡褐色	良	Ⅰ地区 川1－3層
	40	Ⅱ(2)	口～胴	― ― ―	有文。胴部上位に1条の横位の沈線を施し、区画を作る。区画内は縦位の沈線を3条の単位で施す。口縁端部の器壁を薄く整形し、L字に折り曲げる。胴は上位にやや膨らみを持たせる。	外面は丁寧なナデ。内面は粗雑なナデで指頭圧痕が良く残る。また、横位の刷毛目状の調整痕が良く残る。	砂泥～泥質	赤色粒 石灰質微粒	外:にぶい明褐色 内:にぶい褐色	良	Ⅲ地区 川3－2層 ラ－34
	41	Ⅱ(2)	口～胴	― ― ―	直線的な胴部で砲弾状の器形。口縁端部を外側に折り曲げる。	外面は横位の丁寧なナデ。内面は粗雑なナデで、指頭圧痕が謙虚に残る。	砂泥～泥質	石灰質微粒 光沢微粒 微砂粒	外:にぶい橙色 内:明橙色	良、堅固	Ⅲ地区 Ⅴ層
	42	Ⅱ(2)	口	― ― ―	口縁部を外反させ、さらに端部を外側に折り曲げる。	外面は横位のナデ。内面は粗雑で指頭圧痕が顕著に残る。また、斜位のヘラ状工具調整痕が残る。	泥質	赤色粒 光沢黒色粒	外:淡灰色 内:橙色	良、堅固	Ⅰ地区 川1－3層 ニ－5
	43	Ⅱ(2)	口～胴	― ― ―	胴上位に膨らみを持たせ、口縁端部は外側に折り曲げる。	外面は粗雑な横位のナデ。内面はさらに粗雑で指頭圧痕が顕著にのこる。	砂泥～泥質	大砂粒 少量の 黒色光沢粒	外:茶褐色 内:灰色・橙色	良、堅固	Ⅱ地区 Ⅲe層 チ－12
	44	Ⅱ(2)	口～胴	― ― ―	胴部に膨らみを持たせ、口縁部が外反する。器壁が胴から口縁部に向かって徐々に薄くなる。口唇部を尖らせる。大砂粒を含むため、器面がザラつく。	外面は良くナデられ、斜位の刷毛目状の調整痕が残る。内面は粗雑で、部分的に横位のナデ。指頭圧痕が顕著に残る。	砂泥～泥質	多量の 大砂粒	外:黄褐色 内:淡灰色	良	Ⅲ地区 川3－3層 ネ－32
	45	Ⅱ(2)	口	18.6 ― ―	有文。胴上位が膨らみを持ち、口縁部が外反する。外面に放射状の沈線を縦位に何本も施す。口縁部は波状を呈する。	外面は丁寧にナデられる。内面はかなり粗雑でデコボコする。	泥質	多量の 大砂粒	外:明黄褐色 内:にぶい黄色	良、堅固	Ⅰ地区 川1－3層 ニ－4

第15表　貝塚時代後期土器・弥生土器観察一覧d

単位:cm

挿図番号 図版番号	番号	分類	残存部位	口径 器高 底径	形態の特徴等	器面調整	胎土	混入物	色調	焼成	地区 層 グリッド
第46図・図版83	46	Ⅱ(2)	口	― ― ―	有文。口縁部が外反する。外面に縦位の粗雑な点線状の沈線を施す。	外面に縦位のナデ。内面は粗雑なナデで、器面がデコボコする。	泥質	石灰質微粒	外:明褐色・灰色 内:淡灰色	良	Ⅱ地区 川2－2層 ヌ－12
	47	Ⅱ(2)	口	25.0 ― ―	有文。口縁部をやや外反させるが、端部は内傾させる。口唇部を舌状に整える。外面に斜位の凸帯を貼り付けるが、粗雑である。凸帯は数条貼り付けられたと見られ、取れているものがある。	内外面ともに粗雑なナデ。内面口縁部付近に指頭圧痕が顕著に残る。	泥質	少量の 大砂粒	外:暗褐色 内:暗赤褐色	良	Ⅰ地区 川1－3層 二－5
	48	Ⅱ(2)	口	― ― ―	口縁部に馬鞍状凸帯が付く。	外面は丁寧なナデ。内面は粗雑で器面の剥落が著しい。	砂泥～ 泥質	石灰質微粒	外:赤褐色 内:にぶい橙色	脆弱	Ⅰ地区 川1－3層
	49	Ⅱ(2)	口	― ― ―	内傾的な器形。口唇部の作りが粗雑で、面取りされる場所と丸みを帯びる場所がある。外面が煤ける。	外面は丁寧にナデられるが、刷毛目状調整痕が残る。内面は粗雑で指頭圧痕が顕著に残り、デコボコする。	砂泥～ 泥質	石灰質微粒 光沢微粒	外:橙色～ にぶい橙色 内:淡灰色	良	Ⅰ地区 川1－3層
	50	Ⅱ(2)	胴	― ― ―	有文。48と胎土・器面調整・色調等が似る。外面に斜位の沈線を2条施す。	外面は丁寧にナデられる。内面は粗雑で指頭圧痕が顕著に残る。	砂泥～ 泥質	石灰質微粒	外:赤褐色 内:茶褐色	脆弱	Ⅰ地区 川1－3層 二－4
	51	Ⅱ(2)	胴	― ― ―	有文。横位に1条の連点文を施す。	小破片のため省略。	泥質	少量の 石灰質微粒	外:淡灰色 内:淡灰色	脆弱	Ⅱ地区 Ⅲe層 ヌ－12
	52	Ⅱ(2) or Ⅰ	口	8.2 ― ―	本遺跡で唯一明確に確認できる壷形。器面調整ではⅠ類と似るため、Ⅰ類でもよい。	内外面ともに横位に良くナデられる。また、横位に刷毛目状の細かい擦痕が残る。	泥質	極少量の 白色微砂粒	外:赤褐色 内:赤褐色	良	Ⅱ地区
	53	Ⅱ(2)	胴	― ― ―	有文。外面に半円を繋いだ、幾何学的な2条の沈線を施す。	外面は丁寧なナデ。内面は粗雑で、横位のヘラ状工具調整痕が深く残る。	砂泥質	極少量の 白色微砂粒	外:明褐色 内:茶褐色	やや脆弱	Ⅰ地区 Ⅴ層 ハ－3
	54	Ⅲ	口	― ― ―	大きくハの字に開く器形。口唇部を舌状に整える。	内外面ともに粗雑で指頭圧痕が顕著に残り、デコボコする。	泥質	石灰質微粒 大砂粒	外:赤褐色 内:にぶい黄色	良、堅固	Ⅰ地区 川1－3層 二－4
	55	Ⅱ(2)	胴	― ― ―	有文。胴部に横位の凸帯を1条貼り付ける。	外面は凸帯付近は横位に、胴下半は縦位に丁寧にナデられる。内面は粗雑で、斜位の刷毛目状擦痕が残る。	砂泥質	多量の 微砂粒 光沢粒	外:茶褐色・ にぶい橙色 内:黒褐色	良	Ⅱ地区 Ⅴ層 ヌ－10
	56	Ⅱ(2)	胴	― ― ―	有文。胴部に横位の凸帯を2条貼り付ける。	小破片のため省略。	泥	みられない	外:灰色 内:灰色	脆弱	T.P③ Ⅳ層
	57	Ⅲ	口	― ― ―	口縁部がやや内傾する。	内外面が粗雑で、器面がデコボコする。粘土帯接合部の器壁が太く残り、消されていない。	泥質	極少量の 石灰質微粒	外:淡橙色 内:にぶい橙色	良、堅固	Ⅰ地区 Ⅴ層 二－3
	58	Ⅲ	口	― ― ―	口縁部がやや内傾する。	内外面が粗雑で、器面がデコボコする。粘土帯接合部の器壁が厚く残り、消されていない。	泥砂質	石灰質微粒 光沢微粒	外:にぶい橙色 内:赤褐色	良、堅固	Ⅰ地区
	59	Ⅲ	口	― ― ―	口縁端部をやや内傾させる。	内外面が粗雑で、器面がデコボコする。内面口縁直下は横位の粗雑なナデ。	泥質	石灰質微粒	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	良、堅固	Ⅰ地区
	60	Ⅲ	胴	― ― ―	大きくハの字に開く器形。	内外面が粗雑で器面がデコボコする。細かい刷毛目状の擦痕が横位、斜位に残る。粘土帯接合部の器壁が厚く残る。	泥質	白色微粒 微砂粒	外:橙色・淡灰色 内:暗赤褐色	良	Ⅲ地区 川3－2 ラ－34
	61	Ⅲ or Ⅱ(2)	胴	― ― ―	薄い横位の凸帯が1条貼り付けられる。	外面は横位のナデ。内面は粗雑で指頭圧痕が残り、デコボコする。	泥質	微砂粒 大砂粒	外:黒褐色 内:茶褐色	やや脆弱	Ⅰ地区

第15表　貝塚時代後期土器・弥生土器観察一覧e

単位:cm

挿図番号 図版番号	番号	分類	残存部位	口径 器高 底径	形態の特徴等	器面調整	胎土	混入物	色調	焼成	地区 層 グリッド
第47図・図版84	62	Ⅲ	胴	― ― ―	外面に据歯状の沈線が施される。	内外面が粗雑でデコボコする。特に内面は指頭圧痕が顕著に残る。	泥質	石灰質微粒	外:明橙色 内:にぶい灰色	良	Ⅰ地区 Ⅴ層
	63	Ⅳ	口～胴	36.0 ― ―	胴がやや膨らみ、口縁部が僅かに外反する。	内外面ともに、ナデや刷毛目状工具によるマメな器面調整を行うが、器面の凹凸が著しく残る。刷毛目状の擦痕は顕著に残る。粘土帯接合部の器壁が安定せず、デコボコする。	砂泥質	赤色微粒 微砂粒	外:にぶい黄色 内:にぶい黄色	良	Ⅰ地区 川1－2層
	64	Ⅳ	口	26.0 ― ―	口縁部が外反する。口唇部は粗雑に面取りされるため、デコボコする。	内外面ともに粗雑で指頭圧痕が顕著に残り、デコボコする。	砂泥質	微砂粒 大砂粒 光沢微粒	外:黒褐色 内:茶褐色	良	Ⅲ地区 Ⅲ層 クー24
	65	Ⅳ	口	17.8 ― ―	口縁部が外反する。口唇部は粗雑に面取りされるため、丸みを帯びてデコボコする。	内外面ともにナデられるが粗雑。	泥質	極少量の 微砂粒	外:淡灰色 内:淡灰色	やや脆弱	Ⅱ地区 Ⅲe層 ヌー12
	66	Ⅳ	口～胴	― ― ―	64と胎土・色調・器形等良く似るが、器面調整がより丁寧である。胴部に膨らみを持たせ、口縁部が外反する。	内外面はナデられ、丁寧な調整である。内面に横位の刷毛目状の擦痕が残る。	泥砂質	微砂粒 光沢微粒	外:茶褐色 内:暗褐色	良	Ⅲ地区 Ⅴ層 ウー28
	67	Ⅳ	口	― ― ―	口縁部を外反させる。口唇部は細く舌状に仕上げる。	内外面が粗雑で器面がデコボコする。特に内面は細かい刷毛目状の擦痕が横位に残る。	泥質	赤色微粒	外:茶褐色 内:茶褐色	良	T.P③ Ⅳ層
	68	Ⅳ	口	― ― ―	67と良く似る。口縁部を外反させる。口唇部は細く舌状に仕上げる。	内外面が粗雑で器面がデコボコする。特に内面は細かい刷毛目状の擦痕が横位に残る。	泥質	赤色微粒	外:灰色 内:灰色	良	T.P③ Ⅳ層
	69	他	口	― ― ―	口唇部が丁寧に面取りされる。口縁部は直線的である。	内外面ともに丁寧な調整で、器面が滑々である。外面には縦位の刷毛目状調整痕が、内面には横位の刷毛目状調整痕が顕著に残る。	砂泥質	極少量の 石灰質微粒	外:赤褐色 内:茶褐色	良 最も堅固	Ⅱ地区 Ⅰ層 ヌー11
	70	他	胴	― ― ―	有文。70と胎土・器面調整等良く似る。外面に斜位及び横位の沈線が施される。	内外面ともに丁寧な調整で、器面が滑々である。内面には横位の刷毛目状調整痕が顕著に残る。	砂泥質	極少量の 石灰質微粒	外:赤褐色 内:茶褐色	良 最も堅固	Ⅰ地区 川1－3層 ニ－5
	71	他	口	― ― ―	有文。直線的な口縁部で、口縁端部を斜め外側にやや折り曲げる。胴部上位に凸帯を貼り付け、口唇部及び凸帯に連点文を施す。	内外面ともに丁寧にナデられる。	砂質	微砂粒 光沢微粒	外:黄褐色 内:茶褐色	良	Ⅰ地区 Ⅰ層 へ－3
	72	底Ⅰ	底	― ― ―	尖底。	内外面ともに良くナデられる。	砂質	微砂粒 光沢微粒 石灰質微粒	外:明褐色 内:暗黄色・灰色	良	Ⅱ地区 川2－2層 ラ－10
第48図・図版85	73	底Ⅰ	底	― ― ―	尖底。	内外面ともに粗雑でザラつく。	砂質	大砂粒	外:明褐色 内:黒褐色	良	Ⅰ地区 Ⅰ層 へ－3
	74	底Ⅱ(a)	底	― ― ―	乳房状尖底or尖底の概念。立ち上がりの角度が急である。	内外面ともに粗雑で、指頭圧痕が顕著に残る。	泥質	大砂粒	外:赤褐色 内:赤褐色	脆弱	Ⅲ地区 川3－2層 ネ－34
	75	底Ⅱ(a)	底	― ― ―	乳房状尖底。突起部から立ち上がりが滑らか。立ち上がりが大きくハの字に開く。	外面は縦位のナデ。内面は粗雑で器面がデコボコする。	砂質	大砂粒 微砂粒	外:にぶい橙色 内:明褐色	良	Ⅰ地区 川1－3層
	76	底Ⅱ(a)	底	― ― ―	乳房状尖底。突起部から立ち上がりが滑らか。立ち上がりの角度が急である。	外面は縦位の丁寧なナデ。内底面は丁寧なナデ。	砂質	大砂粒	外:明橙色 接地面:黒色 内:淡橙色	良	Ⅰ地区
	77	底Ⅱ(a)	底	― ― ―	乳房状尖底。突起部から立ち上がりが滑らか。立ち上がりの角度が急である。	外面は縦位の丁寧なナデ。内底面は丁寧なナデ。	砂泥質	赤色粒 微砂粒	外:淡黄色 接地面:黒色 内:黒褐色	良	Ⅰ地区 川1－3層 ニ－5

第15表　貝塚時代後期土器・弥生土器観察一覧f

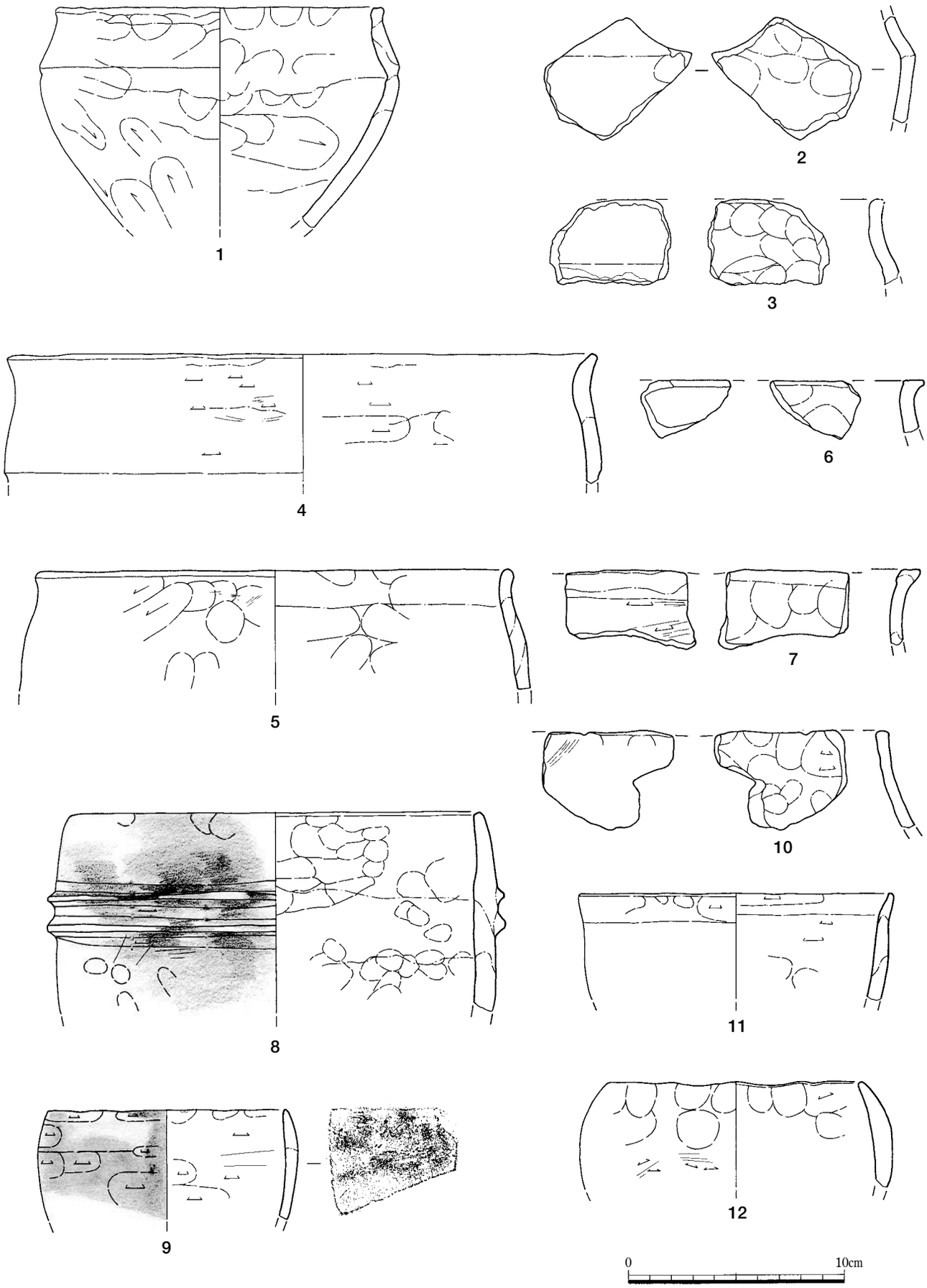
単位:cm

挿図番号 図版番号	番号	分類	残存部位	口径 器高 底径	形態の特徴等	器面調整	胎土	混入物	色調	焼成	地区 層 グリッド
第48図・図版85	78	底Ⅱ(b)	底	― ― ―	乳房状尖底。ボタン状の突起を貼り付ける。立ち上がりが大きく広がる。	内外面ともに丁寧なナデ。器面が滑々する。	砂質	石灰質微粒 微砂粒	外:赤褐色 内:黒褐色	良	Ⅰ地区 川1－3層 ロ－5
	79	底Ⅱ(b)	底	― ― ―	乳房状尖底。ボタン状の突起を貼り付ける。	内外面ともに丁寧なナデ。	砂質	微砂粒 光沢微粒 黒色微粒	外:にぶい橙色 内:淡灰色	良	Ⅱ地区 Ⅳ層
	80	底Ⅱ(b)	底	― ― ―	乳房状尖底。ボタン状の突起を貼り付けるが、消す努力をしており、滑らかにくびれる。	外面は縦位の丁寧なナデ。内面は粗雑。	砂泥質	光沢微粒	外:淡橙色 内:淡灰色	やや脆弱	T.P③ Ⅴ層
	81	底Ⅱ(b)	底	― ― ―	乳房状尖底。ボタン状の突起を貼り付けるが、消す努力をしており、滑らかにくびれる。接地面の中心部が凹む。	外面は粗雑にナデる。内面は丁寧にナデられる。	泥質。	極少量の 白色微粒	外:淡灰色 内:茶褐色	やや脆弱	Ⅱ地区 Ⅳ層 ヌ－14
	82	底Ⅱ(b)	底	― ― ―	乳房状尖底。ボタン状の突起を貼り付けるが、消す努力をしており、滑らかにくびれる。	内外面は粗雑にナデ。器面がザラつく。	砂質	黒色微粒 光沢微粒	外:橙色・淡橙色 内:淡灰色	良	T.P③ Ⅴ層
	83	底Ⅱ(b)	底	― ― ―	乳房状尖底。ボタン状の突起を貼り付ける。接地面の中心部が凹む。	内外面を丁寧にナデる。	砂質	微砂粒 光沢黒色粒	外:にぶい橙色 内:黒褐色	良	Ⅱ地区 Ⅲe層 ヲ－20
	84	底Ⅲ	底	― ― 8.1	径が大きく、接地面が安定している。貼付部を滑らかに消すため、くびれる。接地面の中央部が凹む。	外面はくびれ部が横位に、その他は縦位に丁寧にナデる。内面は粗雑でザラつく。	砂質	大砂粒 光沢微粒	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	良	Ⅰ地区 Ⅰ層 ハ－3
	85	底Ⅲ	底	― ― 5.9	径が大きく、接地面が安定している。貼付部を滑らかに消すため、くびれる。接地面の中央部が凹む。	外面はくびれ部が横位に、その他は縦位に丁寧にナデる。内面はやや粗雑で、縦位にナデる。内面には刷毛目状調整痕が縦位に残る。	泥質	微砂粒	外:明茶褐色 接地面:黒色 内:淡灰色	良	T.P③ Ⅳ層
	86	底Ⅲ	底	― ― 5.2	86と良く似る。径が大きく、接地面が安定している。貼付部を滑らかに消すため、くびれる。接地面の中央部が凹んでいるが、剥がれたものと思われる。	外面は縦位に丁寧にナデる。内面はナデられるが粗雑で、デコボコする。	泥質	微砂粒	外:明茶褐色 接地面:黒色 内:淡灰色	良	T.P③ Ⅴ層
	87	底Ⅲ	底	― ― 5.0	85・86と良く似る。径が大きく、接地面が安定している。貼付部を滑らかに消すため、くびれる。	外面は横位にナデ。内面は刷毛目状調整痕が縦位に残る。	泥質	微砂粒	外:暗褐色 内:明褐色	良	Ⅱ地区 ヌ－10
	88	底Ⅲ	底	― ― 6.0	径が大きく、接地面が安定している。貼付部を滑らかに消すため、くびれる。	外面は縦位に指頭圧痕が残る。内面は粗雑で器面がデコボコする。	砂質	微砂粒 光沢微粒	外:にぶい橙色 内:暗灰色	良	Ⅱ地区 Ⅲe層 ラ－18
	89	底Ⅲ	底	― ― 4.5	径は小さいが、接地面が安定している。貼付部を滑らかに消すため、くびれる。	内外面ともに丁寧なナデ。器面が滑々する。	泥質	極少量の 微砂粒	外:にぶい橙色 内:暗褐色	良	T.P③ Ⅳ層
	90	底Ⅲ	底	― ― 3.8	径は小さいが、接地面が安定している。貼付部を滑らかに消すため、くびれる。接地面の中央部が僅かに凹む。	内外面ともに粗雑にナデられ、器面がデコボコする。内面は縦位の刷毛目状調整痕が残る。	泥質。	極少量の 微砂粒	外:にぶい淡橙色 内:淡灰色	やや脆弱	T.P③ Ⅳ層
	91	底Ⅲ	底	― ― 3.8	厚みがあるくびれた突起部を持つ。接地面は安定している。	内外面ともに良くナデられる。	砂質	多量の 微砂粒	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	良	Ⅲ地区 Ⅴ層 ヌ－24
	92	底Ⅳ	底	― ― ―	平底。薄い底部。	内外面ともに粗雑で、指頭圧痕が顕著に残り、デコボコする。	泥質	少量の 大砂粒	外:淡黄色 内:淡黄色	やや脆弱	Ⅲ地区 川3－2層 ウ－34

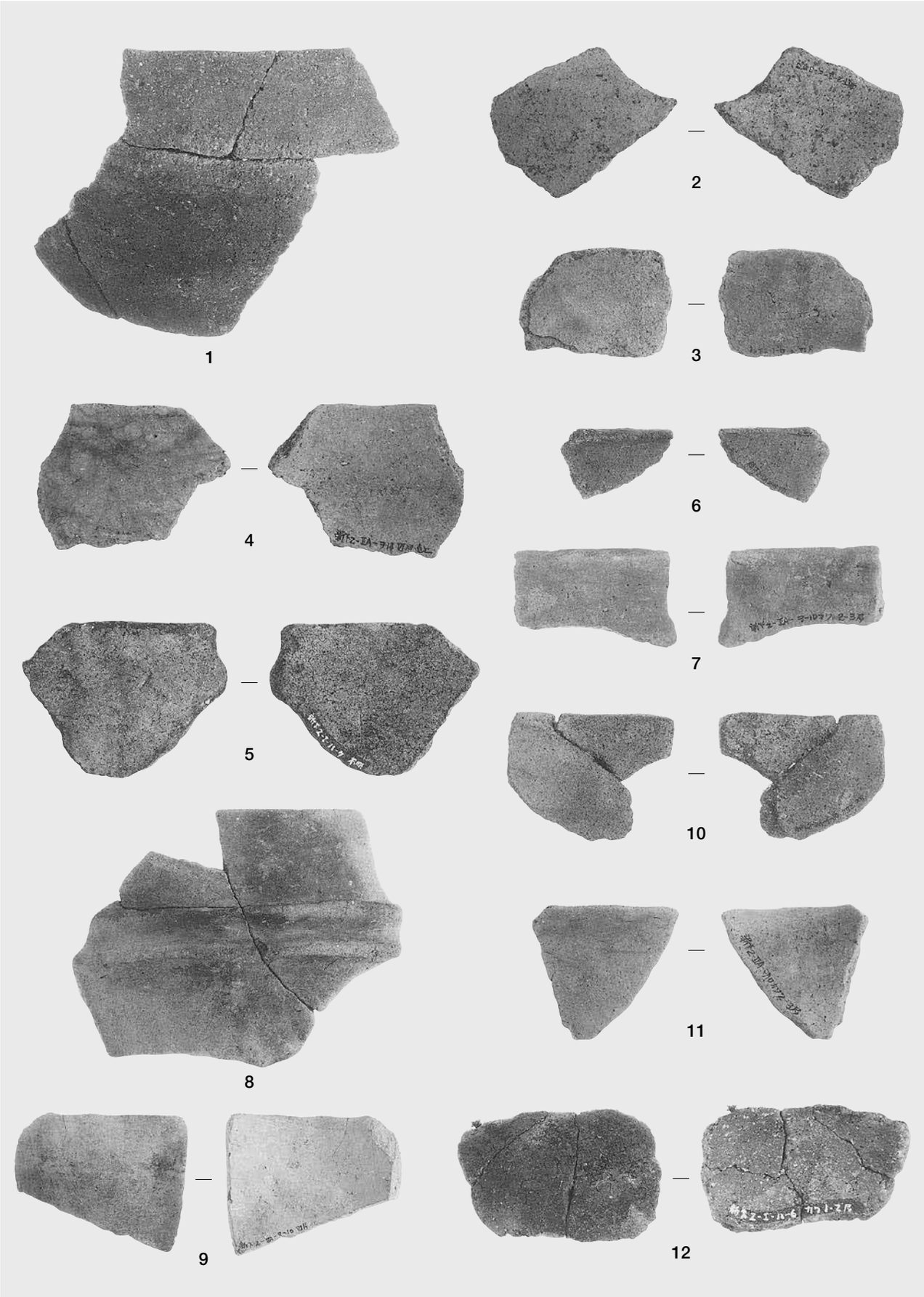
第15表　貝塚時代後期土器・弥生土器観察一覧g

単位:cm

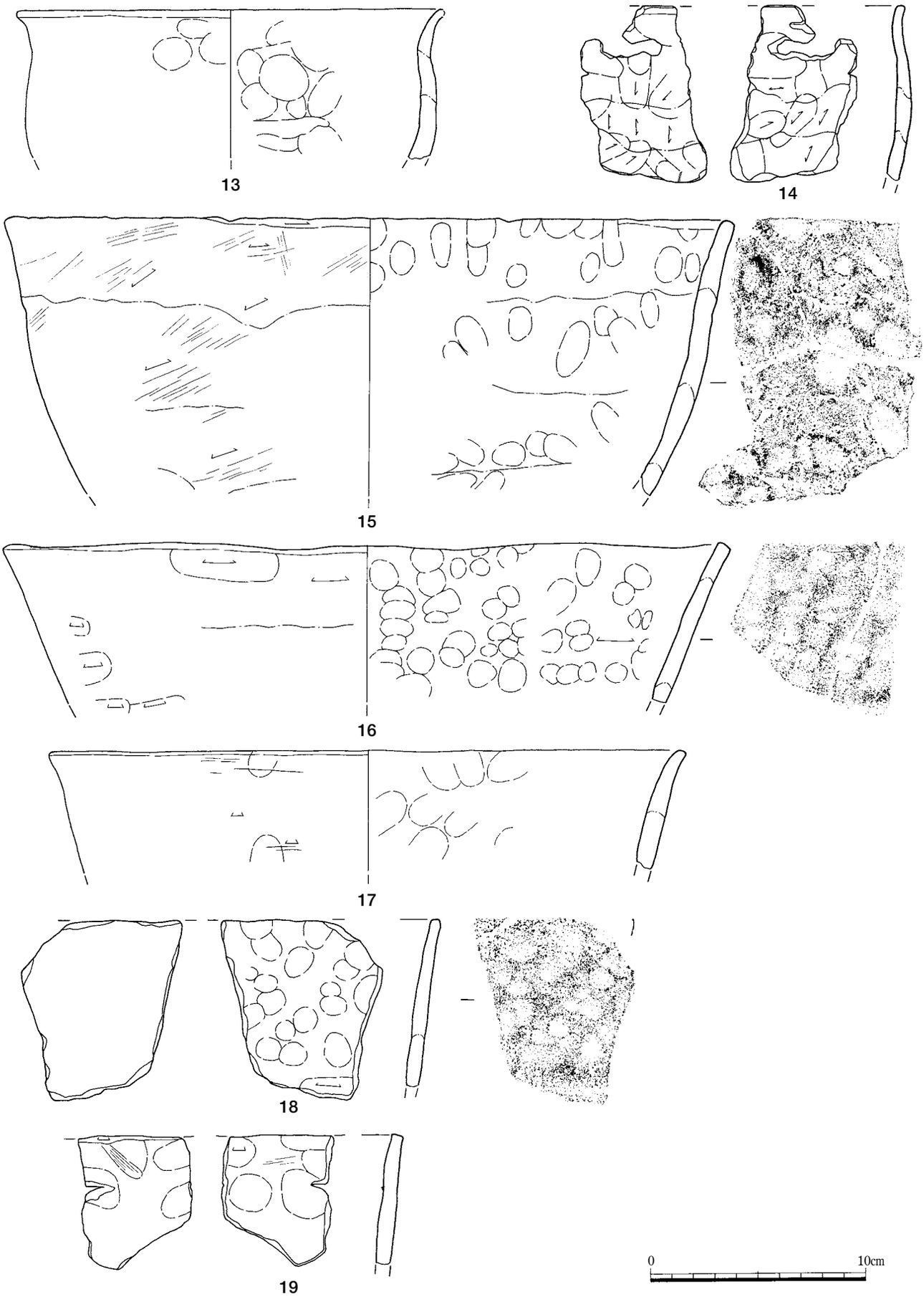
挿図番号 図版番号	番号	分類	残存部位	口径 器高 底径	形態の特徴等	器面調整	胎土	混入物	色調	焼成	地区 層 グリッド
第48図・図版85	93	底Ⅳ	底	― ― 9.0	くびれ平底状を呈する。円形の板状の底部に丸底状の底部を貼り付けている。	外面は横位に丁寧にナデ、接合部を滑らかに消している。内面は縦位にナデ、刷毛目状調整痕が残る。	砂質	大砂粒 石灰質微粒 光沢微粒	外:暗褐色 内:暗褐色	良	Ⅲ地区 Ⅴ層 ウ－28
	94	底Ⅳ	底	― ― 9.0	くびれ平底状を呈する。底部が薄い。接地面の中央部が凹んでいる。	内外面ともに粗雑で、器面がデコボコする。	泥質	極少量の 微砂粒	外:淡灰色 内:淡灰色	良	不明
	95	底Ⅳ	底	― ― 6.0	くびれ平底状を呈する。底部が薄い。	内外面ともに粗雑で、特に内面は器面がデコボコする。	泥砂質	微砂粒	外:にぶい桃色 内:灰色	良	T.P③ Ⅳ層
	96	底Ⅳ	底	― ― 6.5	95と良く似る。くびれ平底状を呈する。底部が薄い。	内外面ともに粗雑で、特に内面は器面がデコボコする。	泥質	微砂粒	外:淡灰色 接地面:にぶい橙色 内:淡灰色	良	Ⅱ地区 川2－2層 ヌ－10
	97	底Ⅳ	底	― ― 7.8	くびれ平底状を呈する。底部が薄い。	内外面ともに粗雑で、器面がデコボコする。	泥質	極少量の 微砂粒	外:茶褐色 内:橙色・淡灰色	良	T.P③ Ⅴ層
	98	底Ⅳ	底	― ― 6.6	くびれ平底状を呈する。底部が薄い。接地面の中央部が凹んでおり、接地面には多量の砂粒が付着する。	内外面ともに粗雑で、器面がデコボコする。	泥質	微砂粒 接地面:多量の砂粒	外:にぶい橙色・淡灰色 内:明褐色	良	Ⅱ地区 川2－3層 ヌ－10
	99	弥生 土器	口	17.0 ― ―	壷。弥生時代中期の入来式土器の範疇に含まれる。口縁部をL字に折り曲げる。	器面が剥落	砂質	微砂粒 黒色粒 白色粒	外:淡黄色 内:淡黄色	良	Ⅰ地区
	100	弥生 土器	肩	― ― ―	2条の凸帯。弥生時代中期の入来式土器の範疇に含まれる。99と同一固体の可能性が高い。	器面が剥落	砂質	微砂粒 黒色粒 白色粒	外:淡黄色 内:淡黄色	良	Ⅰ地区 Ⅴ層
	101	弥生 土器	底部	― ― ―	平底。	器面が剥落	砂質	微砂粒 黒色粒 白色粒	外:淡黄色 内:淡黄色	良	Ⅰ地区 川1－3層 ハ－5
	102	弥生 土器	口	― ― ―	有文。刻目凸帯系土器。口縁部に横位の1条の凸帯を貼り付け、連点文を施す。	外面は丁寧な横位のナデ。内面は丁寧な横位のナデと、縦位の指ナデ。	砂質	白色微粒 光沢微粒 黒色粒	外:明褐色 内:茶褐色	良	Ⅰ地区 川1－3層 ヘ－5
	103	弥生 土器	肩	― ― ―	弥生時代前期の壷の肩部。丸みを帯びた胴から明瞭な稜を持って屈曲し立ち上がる。	内外面ともに丁寧な横位のナデ。	砂質	白色微粒 光沢微粒 黒色粒	外:明黄褐色 内:淡灰色	良	Ⅰ地区 川1－3層 ロ－5



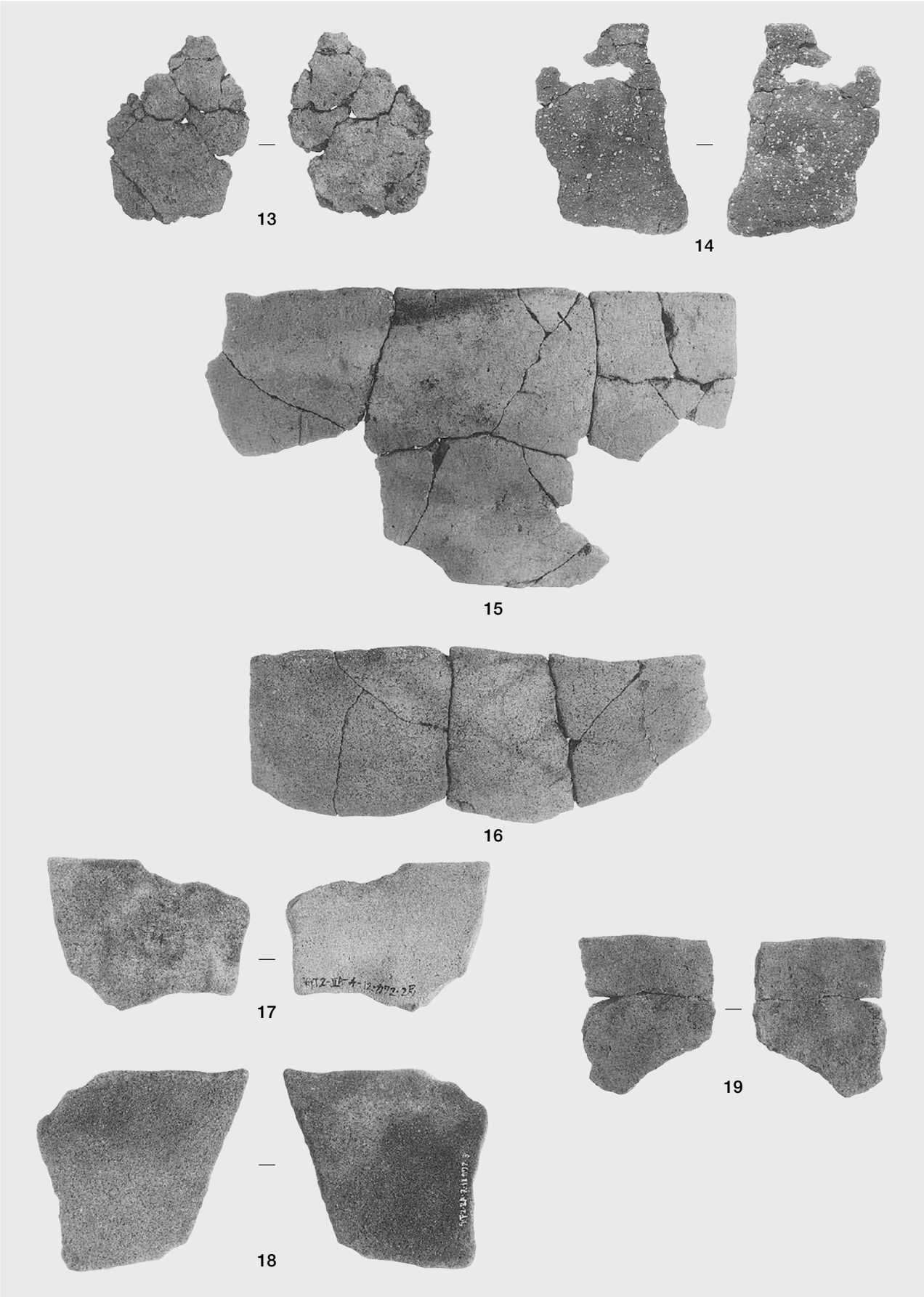
第42図　後期土器１　（Ⅰ類1～9、Ⅱ（1）類10～12）



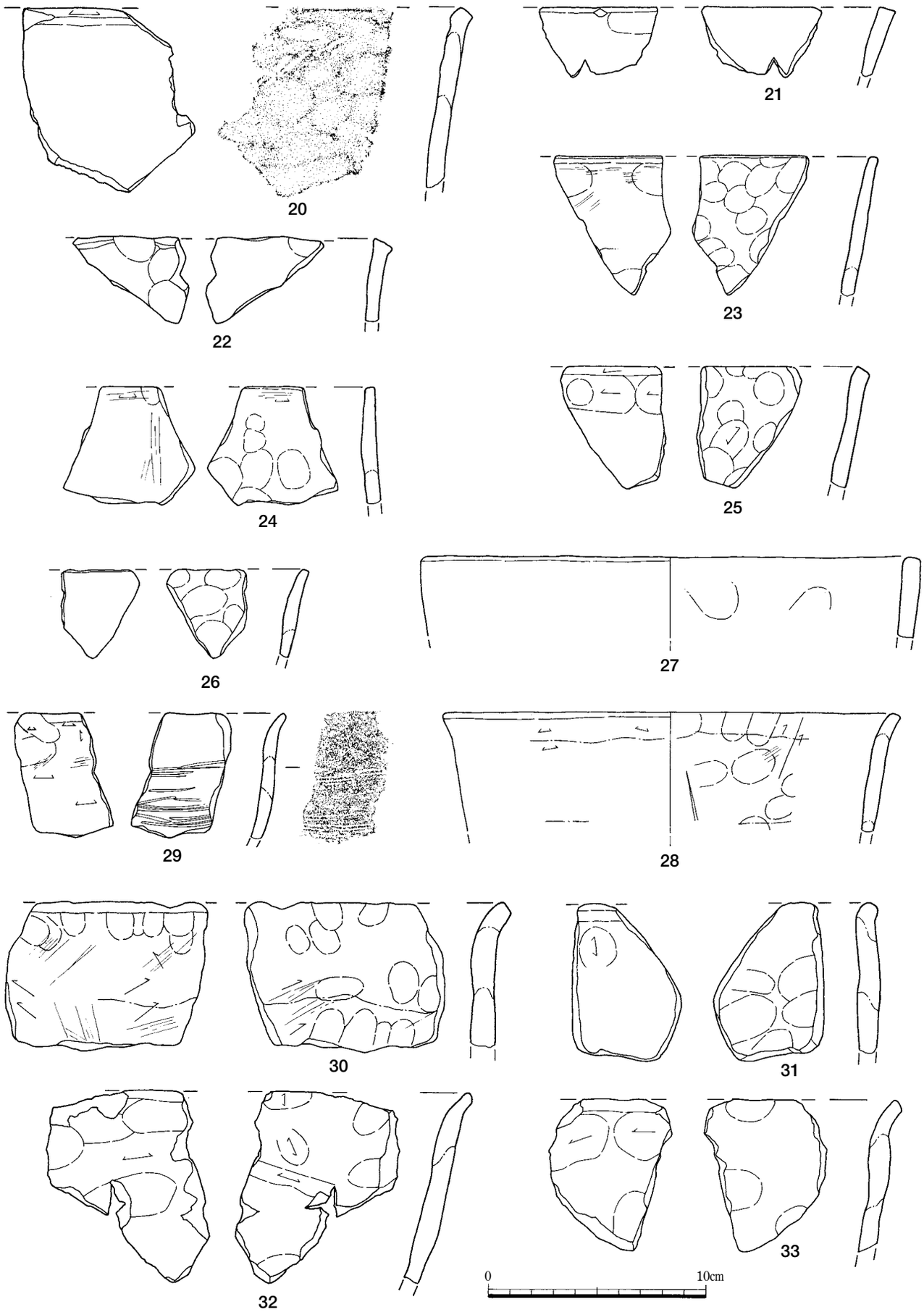
図版79　後期土器 1



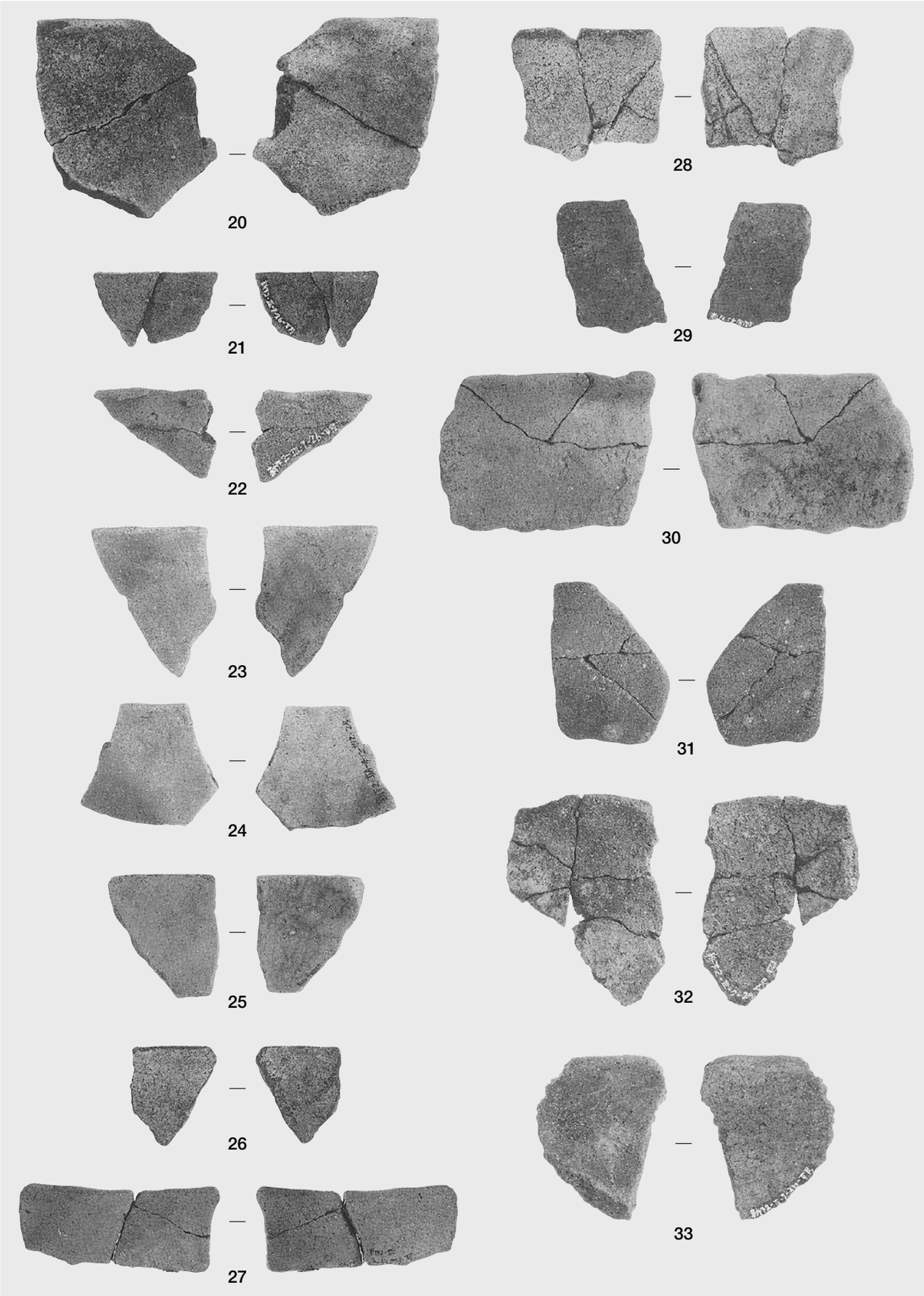
第43図　後期土器 2　（Ⅱ（1）類）



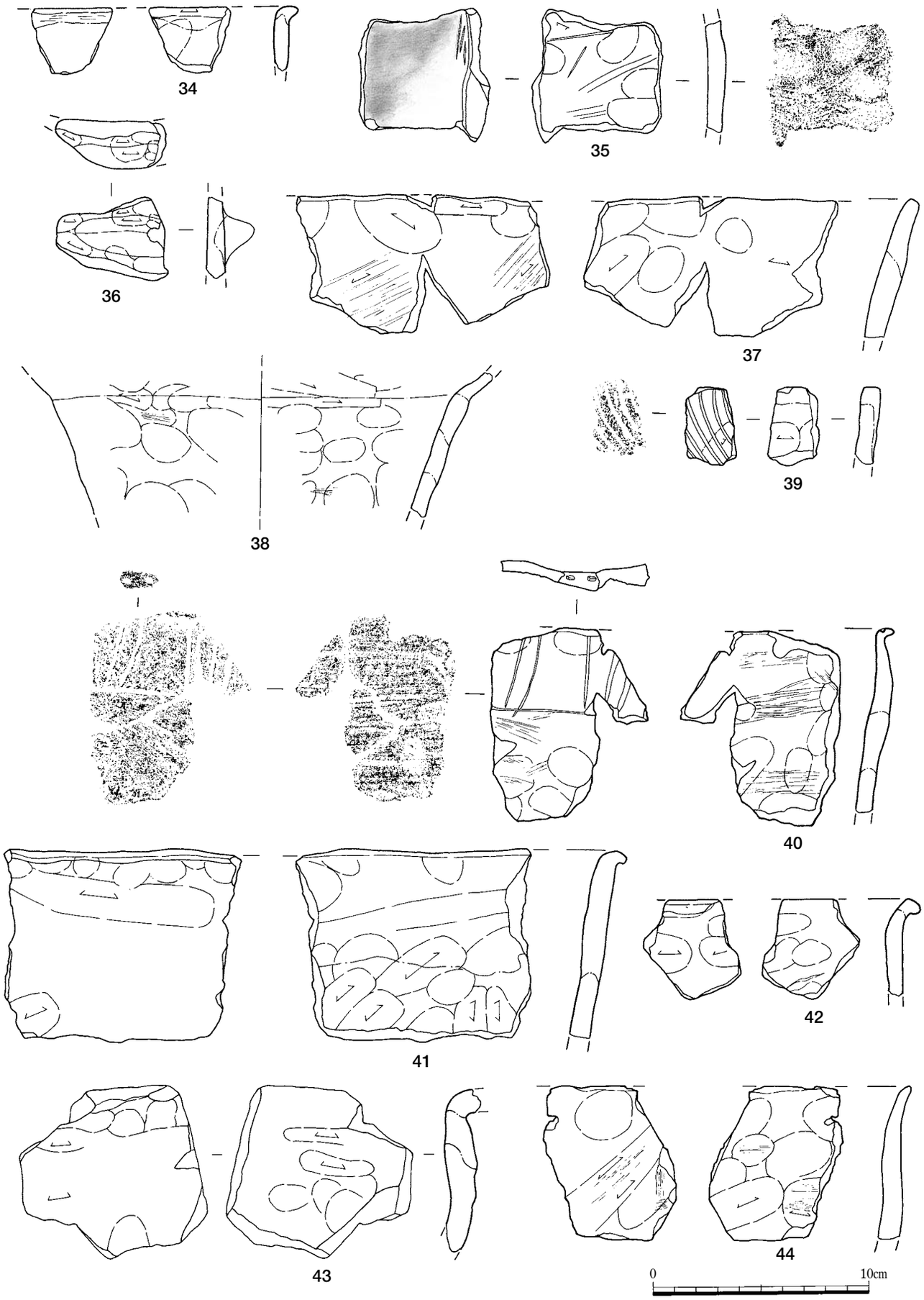
図版80　後期土器 2



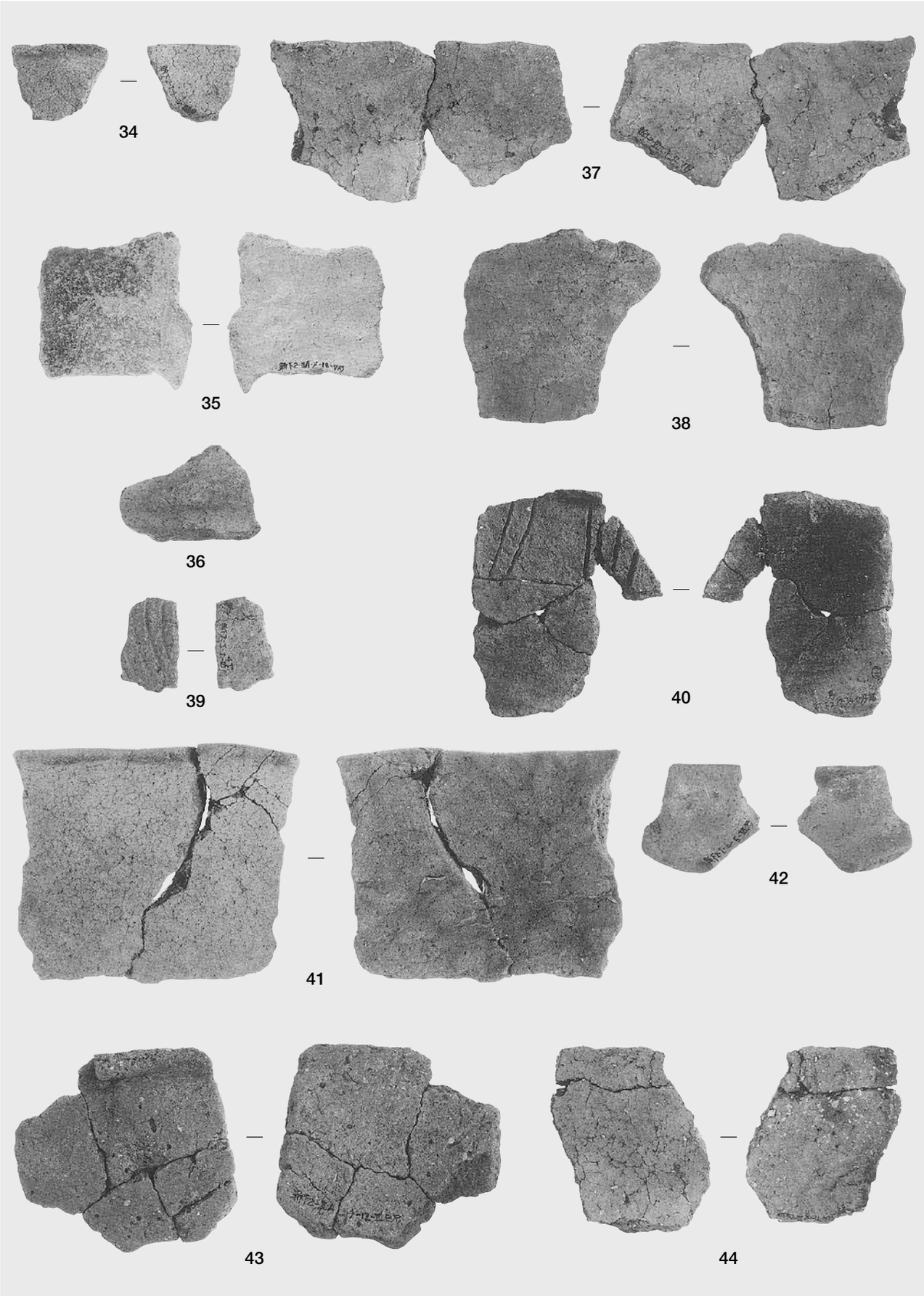
第44図　後期土器 3　（Ⅱ（1）類）



図版81　後期土器 3

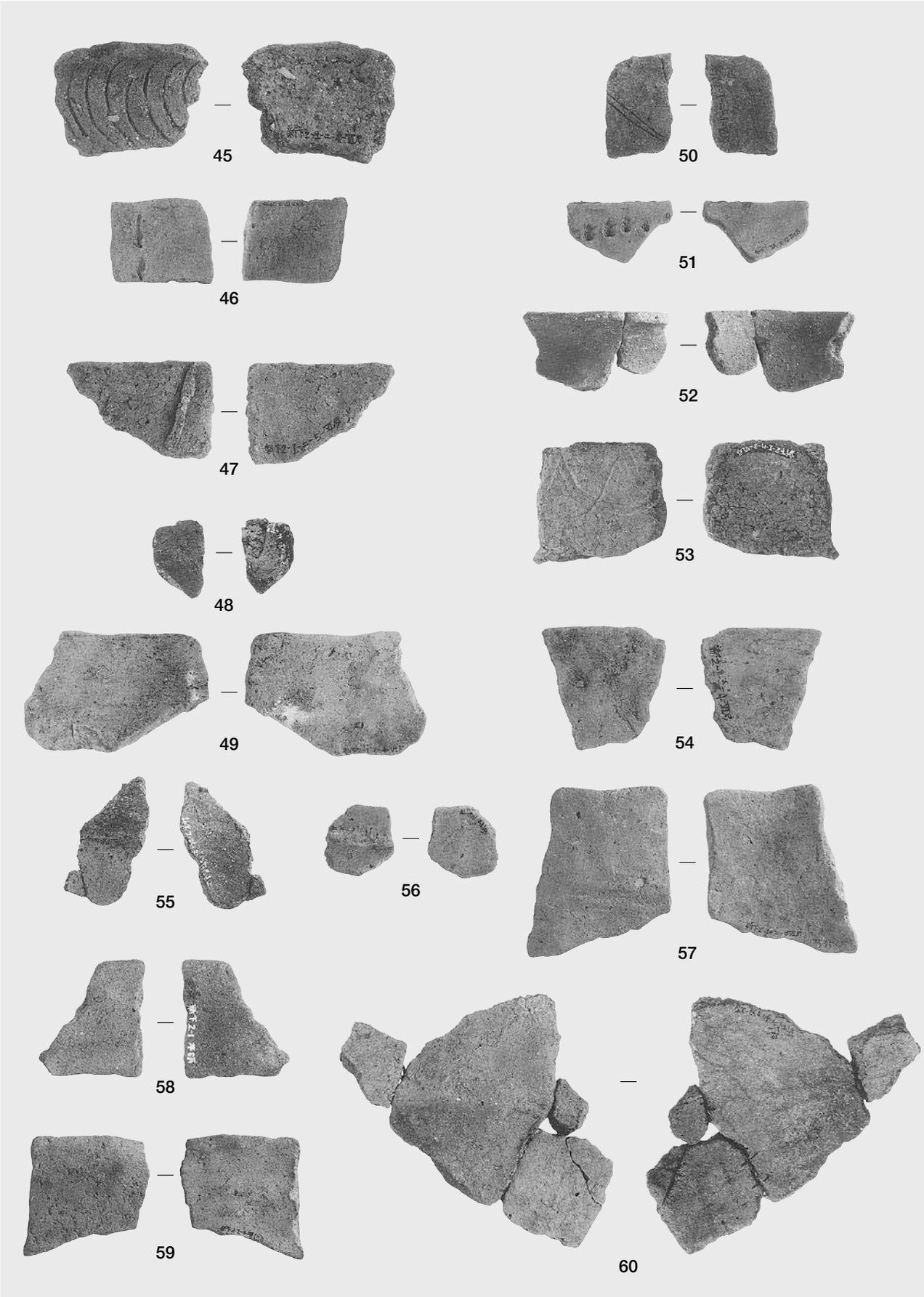


第45図　後期土器４　（Ⅱ（1）類34～36、Ⅱ（2）類37～44）

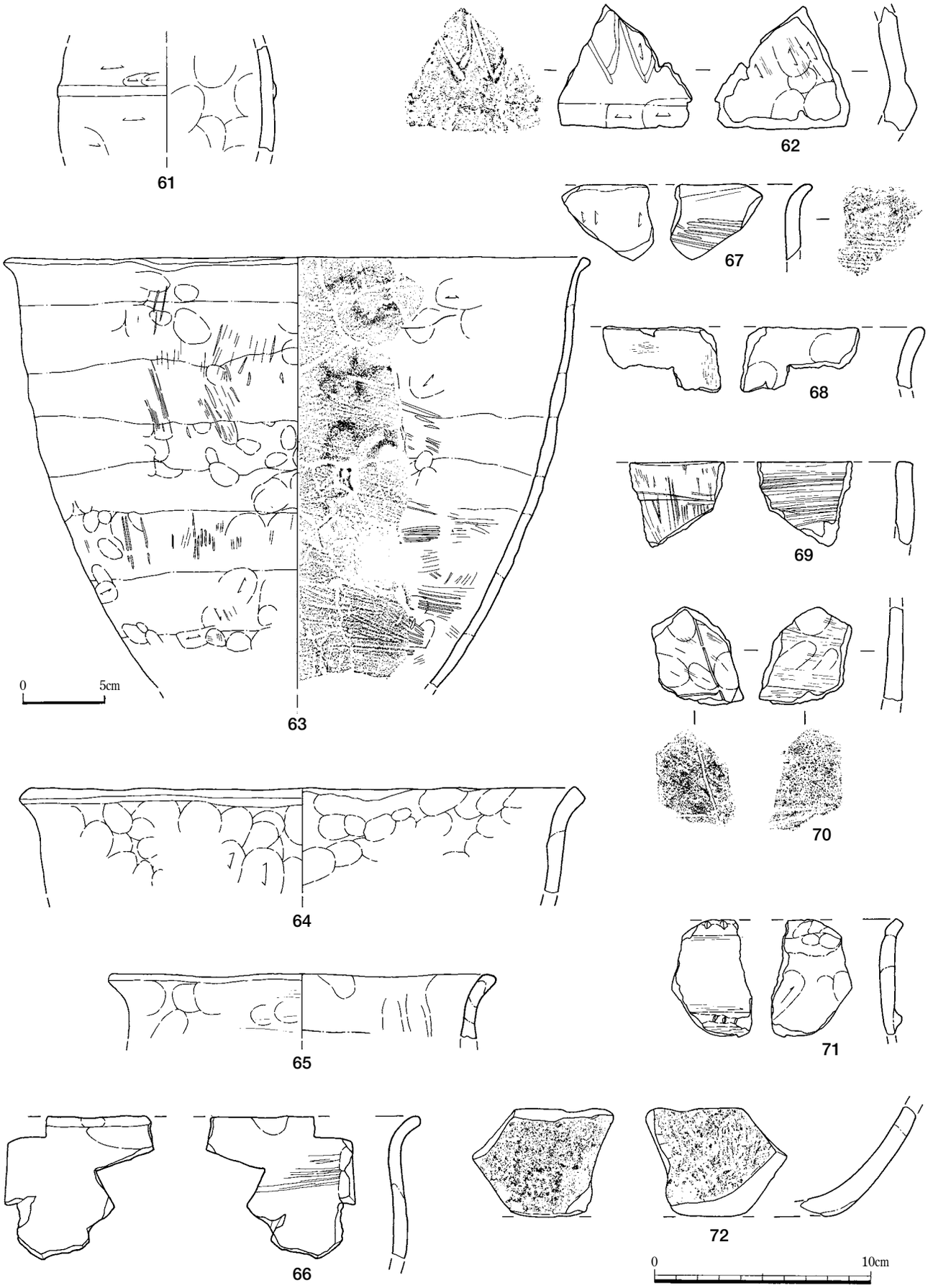


図版82　後期土器 4

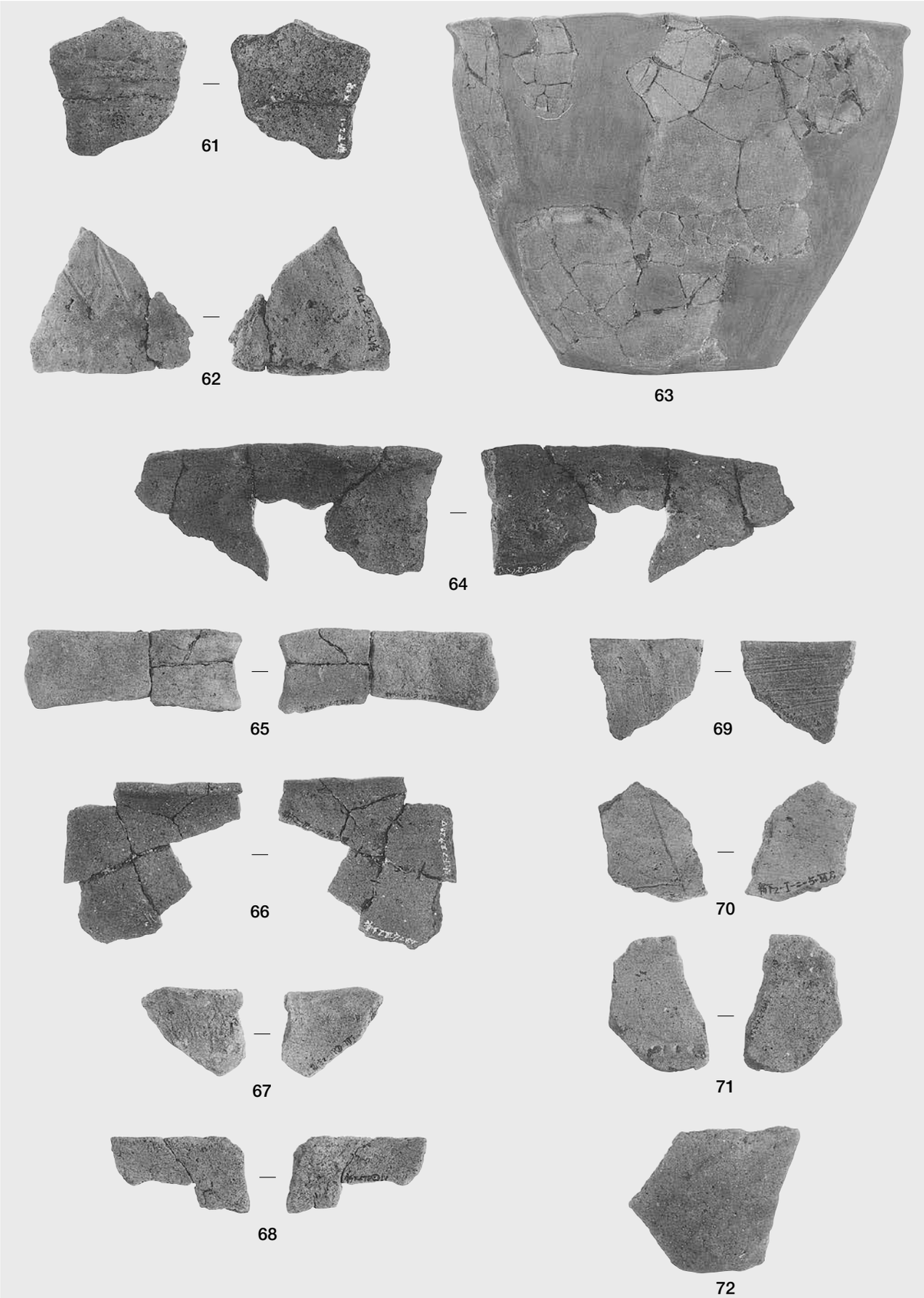
第46図　後期土器５　（Ⅱ（2）45～53、Ⅲ類54～60）



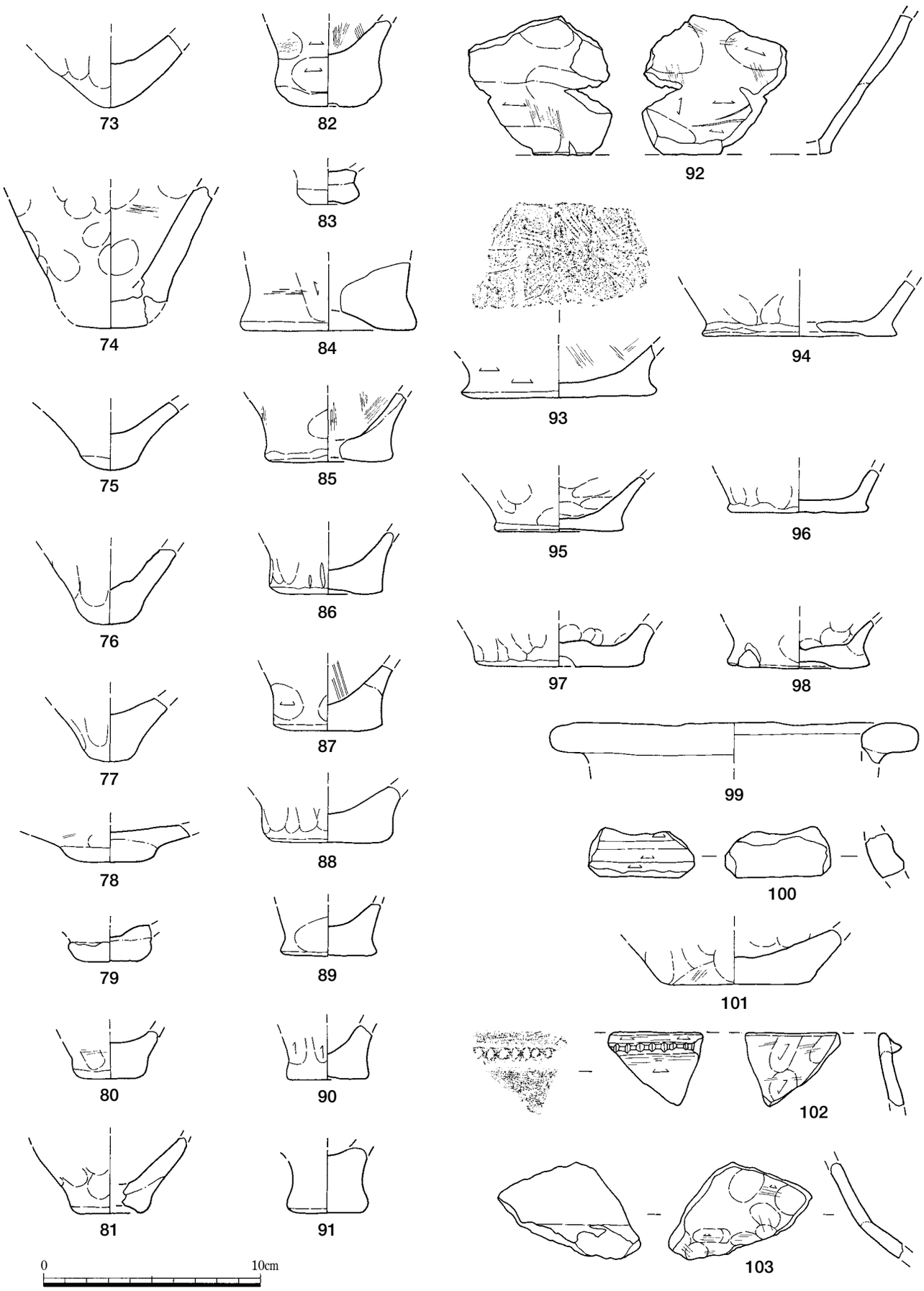
図版83　後期土器 5



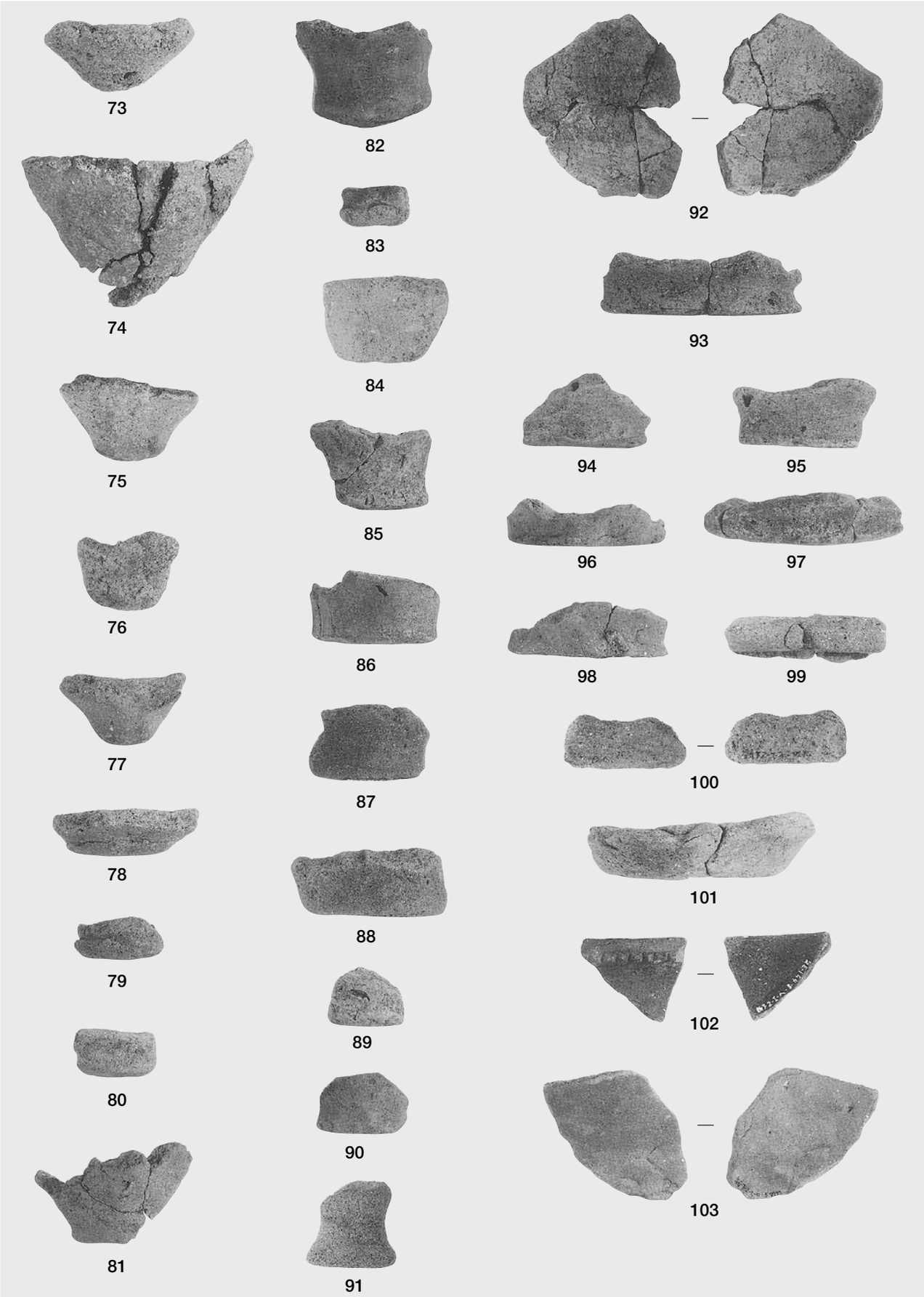
第47図　後期土器６　（Ⅲ類61～62、Ⅳ類63～71、底Ⅱ類72）



図版84　後期土器 6



第48図　後期土器７・弥生土器（底Ⅱ類73～77、底Ⅲ類78～83、底Ⅳ類84～91、底Ⅴ類92～98、弥生土器99～103）



図版85　後期土器７・弥生土器

第10節　貝塚時代中期土器（第49図）

貝塚時代中期（高宮暫定編年前Ⅴ期）と思われる土器が僅かに５点出土した。内訳はⅠ地区川跡１内より２点、Ⅱ地区第Ⅴ層より２点、T.P③第Ⅰ層より１点である。

１～４は仲原式土器と考えられる口縁部資料である。しかし、1は成形の丁寧さと器形から阿波連浦下層式土器とも考えられ、４は体部の器壁に比べて口縁部が丸みを持って膨らんでおり、仲原式土器の概念からやや外れるとも考えられる。５は平底の資料である。

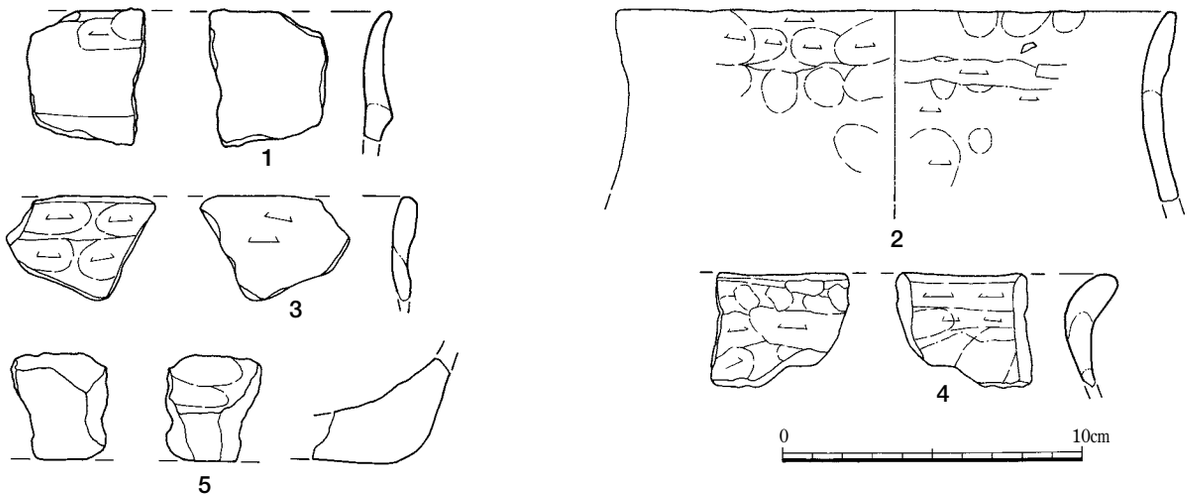
調査面積に比べて出土量が少なく、いずれも付近に存在する当該時期の遺跡から流れ込んできた資料と考えられる。

以下、詳細は観察表にまとめる。

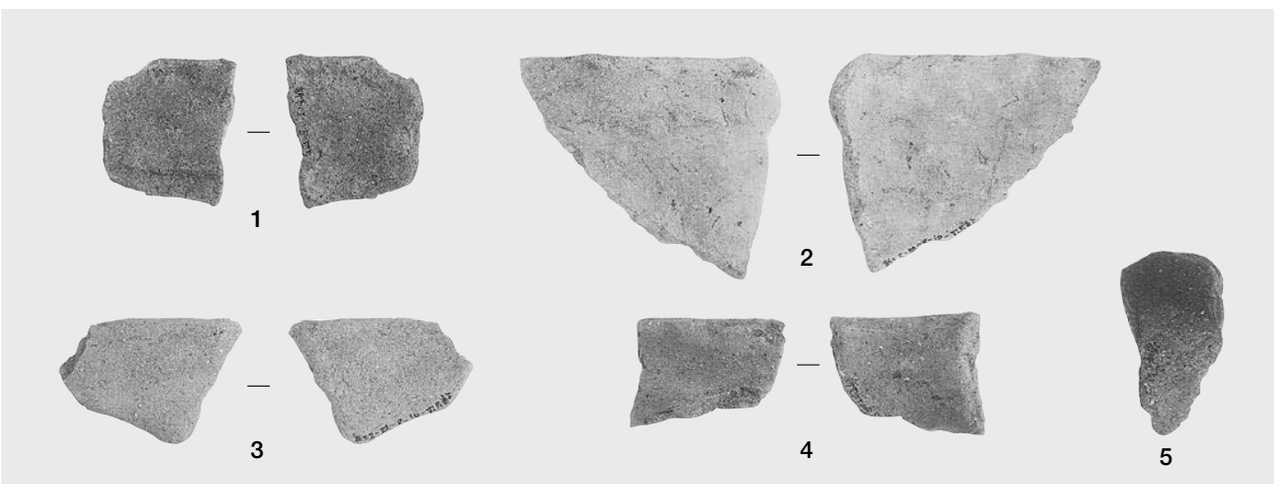
第16表　貝塚時代中期土器観察一覧

単位：cm

挿図番号 図版番号	番号	器種	部位	口径 器高 底径	形態の特徴・器面調整等	胎土	混入物	色調	焼成	地区 層 グリッド
第49図・図版86	1	深鉢形	口	― ― ―	胴部から口縁部にかけてやや膨らみをもって屈曲し、外反口縁を呈する。器壁は屈曲する位置で膨らみ、口唇部に向かって収束し細く仕上げる。内外面の調整が丁寧で良くナデられている。調整の丁寧さや口縁部にかけての強い屈曲から阿波連浦下層式土器に含まれるとも考えられる。	砂質	微砂粒 光沢微粒	外：暗褐色 内：明茶褐色	良	Ⅰ地区 川1－3層 ハ－5
	2	深鉢形	口～胴	18.6 ― ―	仲原式土器と考えられる資料である。膨らみを持った胴部からいったん収束し、口縁部に向かって外反していく器形を呈する。口縁部に段を持たせるため、やや肥厚するように見える。全体的に粗雑なナデ調整が行われ、器面には指痕が顕著に残る。	砂泥質	石灰質粒 赤色鉱物粒	外：淡橙色 内：淡橙色	良	Ⅱ地区 Ⅴ層 ヌ－10
	3	深鉢形	口	― ― ―	仲原式土器と考えられる資料である。膨らみを持った胴部からいったん収束し、口縁部に向かって外反していく器形を呈する。口縁部に段を持たせるため、やや肥厚するように見える。全体的に粗雑なナデ調整が行われ、器面には指痕が残る。	砂質	微砂粒 光沢微粒 黒色粒	外：淡灰色 内：淡灰色	良	Ⅱ地区 Ⅴ層 ヌ－10
	4	深鉢形	口	― ― ―	体部の器壁に比べて外反する口縁部が丸みをもって膨らむ。全体的に粗雑なナデ調整が行われる。仲原式土器の概念からやや離れるか。	砂質	微砂粒 石灰質粒 赤色鉱物粒	外：暗褐色 内：明茶褐色	良	T.P③ Ⅰ層
	5	深鉢形	底	― ― ―	立ち上り部がやや厚みを持つ。	砂泥質	微砂粒 大粒砂粒 光沢微粒	外：明褐色 内：暗茶褐色	良	Ⅲ地区 Ⅴ層 マ－28



第49図　中期土器　深鉢形



図版86　中期土器

第11節　貝塚時代前期土器（第50図）

【暫定編年前Ⅱ期の土器】

条痕文土器（第50図11）

今回の調査によってⅠ地区より１点出土している。出土層序は不明である。器面の内外面にみられる貝殻による仕上げ調整痕が条痕文とされている（久里原貝塚1981）。同図11は、口縁部が直口する深鉢形で、口縁部が舌状に丸みを帯びて尖っている。器壁が約１cmと厚手である。外面と内面上端部に斜めの条痕文がみられ、内面の口縁下部には縦位に条痕文が何条も見られる。外面は磨耗が激しく一部条痕文が消えかけている。

室川下層式土器（第50図６～10）

沖縄市室川貝塚の最下層より出土した土器を標識としている。器形は、深鉢形で尖底の土器である。条痕を施し、撫で消した後に施文するものとされている。器壁が１cmほどで厚い。混和物が１mmほどの大きな粒子が多く含まれる。

今回の調査によってⅠ地区より５点の胴部片が出土した。すべて小破片のため、器形態について伺えないため、文様等について記載する。５点のうち４点（６～９）が単篦工具を用い、列点文を施すものである。横位に施文したり、頸部から胴下部に向けて施文された資料が出土している。残りの１点（10）は、単篦工具による列点文と沈線文とを組み合わせ施文するものである。これらのほとんどが川跡の最下層から出土しており、川底のⅥ層に混入していた土器が巻き上げられた可能性が高い。

【暫定編年前Ⅳ期の土器】

伊波式土器（第50図１～５）

今回の調査で、T.P②・④より計14点出土している。今回得られた資料は、器形がすべて深鉢形で第Ⅰ文様帯の上下段に同種の区画文を施し、中段を空白にする空白型（伊藤　2000）が得られている。

口縁部が若干外に開き、頚部が窄まり胴上部が若干膨らみを持つ器形と直行口縁で頚部が窄まらず底部に向けて次第に窄まる器形の２形態がみられる。前者は、第Ⅰ文様帯中段の施文幅が３cmほどで狭く横位区画文様に３mmほどの単篦工具を用い刺突文を施し、口唇部にも刺突文を施している（２～５）。後者は、横位区画文に叉状工具を用い刺突文を施し第Ⅰ文様帯中段を空白にし、口唇部に刻目を施している（１）。器壁が0.5mmと薄手で内面に刷毛目痕が残る資料が多い。

今回得られた資料は、器形態や文様構成から見ると伊波式土器の範疇に含まれる。しかし、典型的な伊波式土器は出土していない。そのため、当資料は後続の荻堂式土器の第Ⅰ文様態中段が狭くなってくる器形に移行する途中の土器群で伊波式土器の新しい時期の資料と思われる。

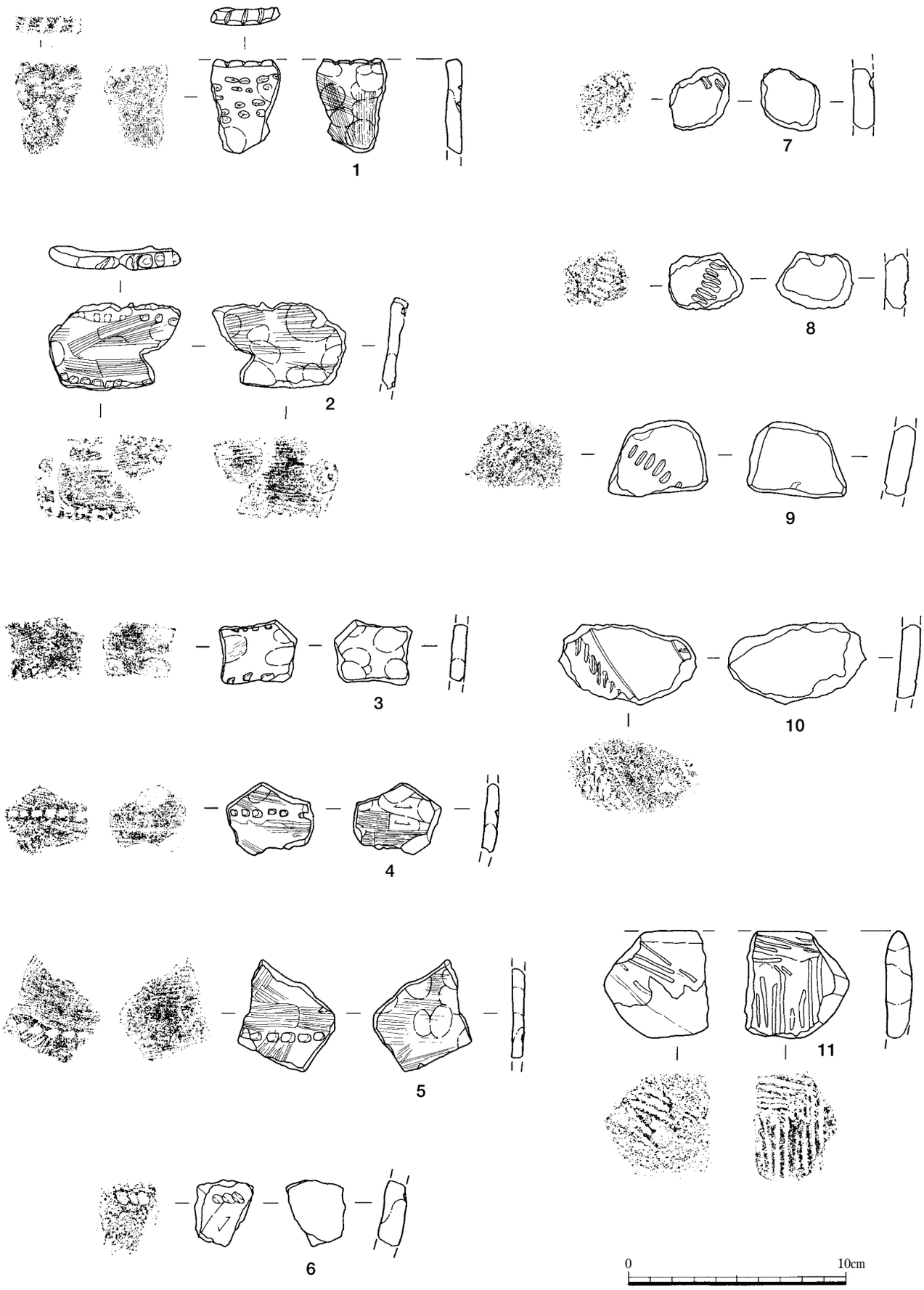
第17表　貝塚時代前期土器出土状況

出土地＼分類				高宮暫定編年前Ⅱ期				高宮暫定編年前Ⅳ期						合　計	
				条痕文土器		室川下層式		伊波式				不明			
				口縁部		胴部		口縁部		胴部		胴部			
Ⅲd層	Ⅰ地区	へ	2									1	13.8	1	13.8
Ⅳ層	TP③											2	39.3	2	39.3
川跡2層	Ⅱ地区(川跡2)	ヌ	10									2	51.9	2	51.9
川跡3層	Ⅰ地区(川跡1)	ロ	4			1	11.5							1	11.5
			5									1	76.4	1	76.4
		ハ	4									3	26.7	3	26.7
			5			3	42.4					1	16	4	58.4
			6									2	21.2	2	21.2
		ニ	4									6	151.1	6	151.1
			5									2	22	2	22
			7									1	19.6	1	19.6
Ⅴ層	Ⅰ地区	ニ	3									1	22.3	1	22.3
		へ	1									1	19.2	1	19.2
		グリッド不明				1	12							1	12
	Ⅱ地区	グリッド不明										6	114.3	6	114.3
層序不明	Ⅰ地区	ホ	7									2	51	2	51
		へ	6									1	13	1	13
		グリッド不明		1	21.7							3	36.4	4	58.1
	TP②							1	11.4					1	11.4
	TP④									13	199.1	3	57.8	16	256.9
合　計				1	21.7	5	65.9	1	11.4	13	199.1	38	752	58	1050.1

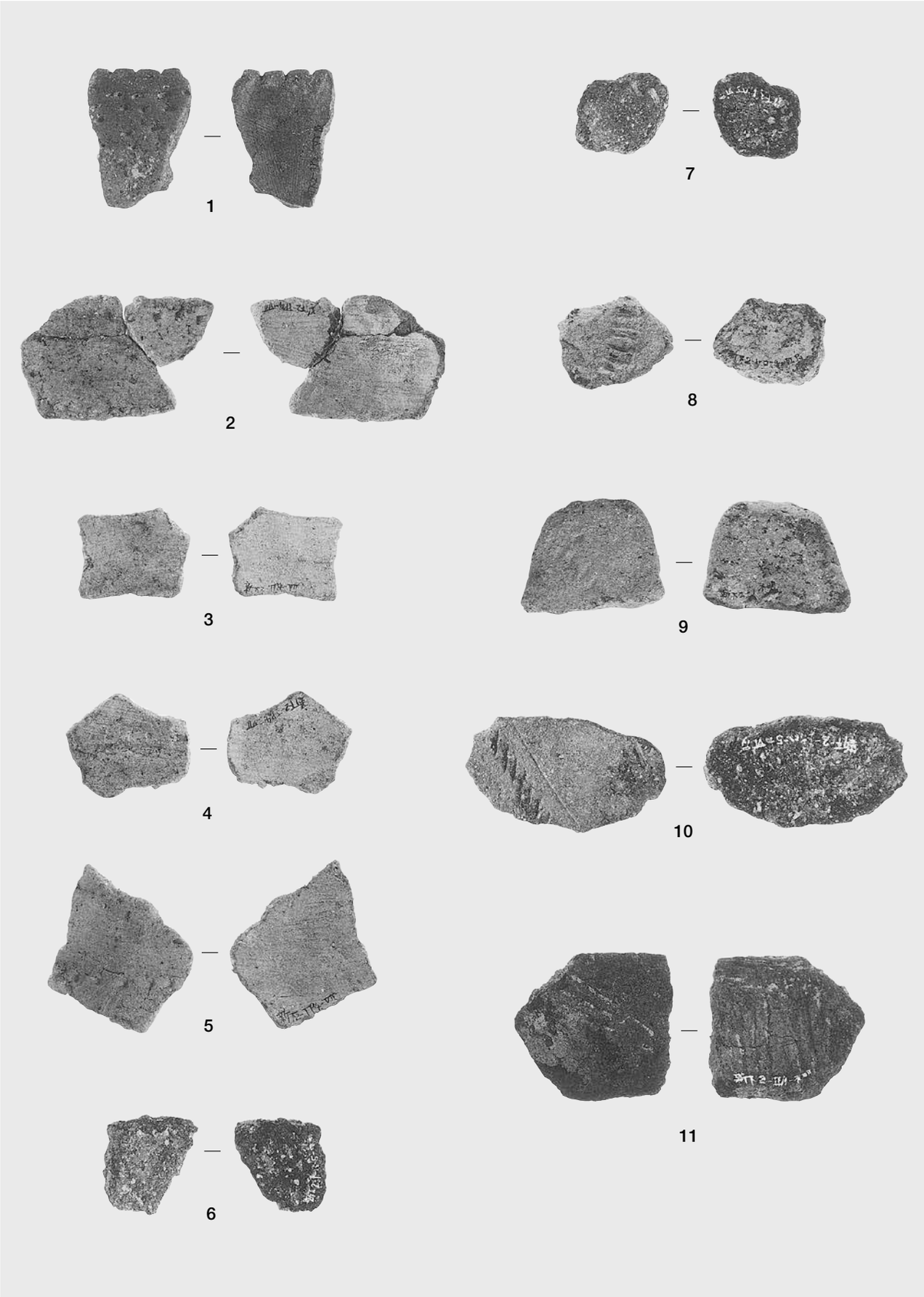
注　左は個数、右は重量(g)

第18表　貝塚時代前期土器観察一覧

挿図番号 図版番号		高宮 暫定 編年	器種 部位	文様分類	形態の特徴	器面調整 の状況	胎土混入物及び重量(g)	色調 ①外面 ②内面	出土地点 層/遺構
第50図・図版87	1	前Ⅳ期	深鉢形 口縁部	区画文様が叉状工具による刺突文。口唇部に刻目がみられる。空白型。	直口口縁で底部に向けて次第に窄まる器形。	外面に丁寧なナデ調整 内面に指頭圧後刷毛目調整	器壁0.6cmで泥砂質。0.5mmほどの石英・雲母が混入。焼成が良い。11.3g	①暗褐色 ②黒褐色	TP② 層不明
	2		深鉢形 口縁部	区画文様と口唇部に単篦工具による刺突文。空白型。	若干外反し、頸部が窄まり胴上部がはる器形。	外面に横位の刷毛目調整 内面に横位の刷毛目調整	器壁0.5cmで泥砂質。0.5mmほどの石英・雲母が混入。焼成が良い。14.8g	①灰褐色 ②にぶい赤褐色	TP④ 層不明
	3		深鉢形 頸部	区画文様が単篦工具による刺突文。空白型。	若干外反し、頸部が窄まり胴上部がはる器形。	外面に横位の刷毛目調整 内面に指頭圧調整	器壁0.5cmで泥砂質。0.5mmほどの石英・雲母が混入。焼成が良い。7.7g	①灰褐色 ②にぶい赤褐色	TP④ 層不明
	4		深鉢形 胴上部	区画文様が単篦工具による刺突文。空白型。	若干外反し、頸部が窄まり胴上部がはる器形。	外面に刷毛目調整 内面にナデと刷毛目調整	器壁0.5cmで泥砂質。0.5mmほどの石英・雲母が混入。焼成が良い。8.3g	①黒褐色 ②にぶい赤褐色	TP④ 層不明
	5		深鉢形 胴上部	区画文様が単篦工具による刺突文。空白型。	若干外反し、頸部が窄まり胴上部がはる器形。	外面に刷毛目調整 内面に指頭圧後刷毛目調整	器壁0.5cmで泥砂質。0.5mmほどの石英・雲母が混入。焼成が良い。12.2g	①黒褐色 ②にぶい赤褐色	TP④ 層不明
	6	前Ⅱ期	深鉢形 胴部	単篦工具による横位に列点文を施文。	小破片のため詳細不明。	内外面に丁寧なナデ調整	器壁1cmで砂質。1mmほどの石英・雲母が混入。9.7g	①暗赤褐色 ②黒色	Ⅰ地区 ハ－5 川1－3層
	7		深鉢形 胴部	単篦工具による横位に列点文を施文。	小破片のため詳細不明。	内外面に丁寧なナデ調整	器壁1cmで砂質。1mmほどの石英・雲母が混入。8.4g	①暗赤褐色 ②黒色	Ⅰ地区 ハ－5 川1－3層
	8		深鉢形 胴部	単篦工具による底部に向けて曲線を描き列点文を施文。	小破片のため詳細不明。	内外面に丁寧なナデ調整	器壁1cmで砂質。1mmほどの石英・雲母が混入。10.9g	①暗赤褐色 ②黒褐色	Ⅰ地区 ロ－4 川1－3層
	9		深鉢形 胴部	単篦工具による底部に向けて曲線を描き列点文を施文。	小破片のため詳細不明。	内外面に丁寧なナデ調整	器壁1cmで砂質。1mmほどの石英・雲母が混入。21.7g	①明赤褐色 ②黒褐色	Ⅰ地区 出土地不明
	10		深鉢形 胴部	単篦工具による底部に向けて曲線を描き列点文を施文。列点文に沿うように沈線文を施文。	小破片のため詳細不明。	外面に丁寧なナデ調整 内面に指頭圧調整	器壁0.7cmで砂質。1mmほどの石英・雲母が混入。23.3g	①暗赤褐色 ②黒褐色	Ⅰ地区 ハ－5 川1－3層
	11		深鉢形 口縁部	外面と内面口縁上部に斜めの条痕文。内面口縁下部に縦位に条痕文が施文。	直口口縁で口縁部が舌状を呈する。	外面は磨耗していて不明瞭 内面はナデ調整後条痕が見られる。	器壁が1cmで砂質。0.3mmほどの石英・雲母が混入。27.6g	①黒色 ②黒褐色	Ⅱ地区 出土地不明



第50図　前期（前Ⅱ・Ⅳ期）土器　（伊波式・室川下層式）



図版87　前期（前Ⅱ・Ⅳ期）土器

第12節　貝塚時代早期土器（第51図～第55図）

今回の調査で、Ⅱ地区の第Ⅸ層からまとまって爪形文土器と無文土器が得られた。爪形文土器が125点（約780ｇ）、無文土器が43点（約507ｇ）得られておりそのうち、分類に耐えられる資料を64点図化した。各土器については以下に詳細を記した。

爪形文系土器群

当遺跡の爪形文土器は、ヤブチ式土器の範疇に含まれる土器群である。今回得られた資料は、すべて小破片のため器形復元はできなかった。そのため、器面に残存する指頭圧の形態を元に分類を試みた。大きく分けて、指頭圧を止めるものと縦に押し引くものの２種に分けられる。細分類すると前者が若干指頭圧を押し引くものと止めるものがみられ、後者に斜めに押し引き粘土を締める要素を持ちながら成形する野国タイプと、縦に押し引くものが見られた。

この土器群の胎土分析を、Ⅰ類ヤブチ式土器（指頭圧を主体とするもの）、Ⅱ類ヤブチ式土器（野国タイプを含む縦長の押し引きをする土器群）、無文土器の胎土分類を行った。

ヤブチ式土器（１～50）

指頭圧を基調とする土器群（指頭圧を止めるものと長く押し引くものが見られる）。

Ⅰ類　指頭圧を止めるものもしくは、若干指頭圧を引くもの。指頭圧の平面観が円形ないしＤ字状になるものの２種が見られる。（野国貝塚のⅢａ類に類似）施文に使用する指の部分において細分を試みた。（１～18）

ａ　指の側面を使用し、指頭圧を施すもの。指頭圧が楕円形をなし、断面が半円状に浅めに窪む。（１～８）。今回の資料中で第51図８だけは、刺突文と指頭圧を有するという東原式土器の要素を持つ資料である。しかし、今回は指頭圧の施文方法に着眼したため便宜上、当分類に含めた。ヤブチ式土器の最終局面に位置する資料で、東原式土器の要素（刺突文）とヤブチ式土器の要素（指頭圧）が混在する時期の資料として解釈した。

ｂ　指頭と爪の部分を用い、指頭圧を施すもの。平面観がＤ字状に施文され、断面形態は、一端が深くなり、断面がレ字状に窪む。Ⅰａ類と比較すると深く施文される。区画的要素を持つ爪形文が伴うものと伴わないものを含めた（９～18）。

口縁直下の文様形態（１・２）

口縁部の資料は、第51図の１・２の２点得られている。第51図１は、口縁直下に横位に爪痕を押し当てて口縁部を一周するように施文され、それによって口縁部が若干外反する直口口縁である。第51図２は、口縁直下に横位に爪痕がみられるが１のように口縁部を廻らせるようには施文されていない。口唇部に工具による刺突文が施文されている。

Ⅱ類　指頭圧を縦長に押し引くもの。爪の部分を使用せず、指側面を利用し押し引くものと爪を利用して押し引くものの２種がみられる。野国貝塚のⅡａ類・Ⅲｂ類に属すると思われる。一部、野国貝塚Ⅳ類に類似資料が得られている（19～48）。

ａ　指の側面を使用し、縦長に押し引くもの。（野国貝塚Ⅳ類野国タイプに類似）

ａ－1　指頭の横幅を広く押し引き、縦位に文様同士をつなげる意識が見られないもの。断面が一端が深くなり、断面がレ字状に窪む。（19～22）

ａ－2　指頭の横幅が狭く、縦長に押し引かれるもの。縦位に文様同士をつなげる意識が見られるもの。文様全体が捩れた野国貝塚のⅣ類に類似している資料も含めた。断面が半円状に窪む。（23～40）

ｂ　爪を押しあてるようにして、線状に押し引くもの（41～48）

縦位に密に爪を線状に押し引くもの。押圧が弱く、爪で施された線が強調され、縦位に文様同士をつなげる意識が見られるもの。

底部資料（49・50）

今回底部資料は、２点得られている。２点とも尖底で底部まで施文されていたと思われるが、磨耗しており僅かに窪みが確認できる程度である。文様形態の詳細は不明である。胴部の器壁の厚さは他の共伴する爪形文土器と同じ４mmほどで底部の厚さが最も厚い所で1.2cmほどである。２点とも胎土が同じで焼成が良く、しまりが強く、Ⅰ砂質で①黒色を呈している。

爪形文系土器群に伴う無文土器（51～64）

今回の調査で、総数43点（約507ｇ）得られており、そのうちの14点を図化した。無文土器は、第ⅩⅡ層から１点（64）と第Ⅸ層で爪形文系土器群と共伴して出土している。器壁、焼成によって第ⅩⅡ層と第Ⅸ層の土器とでは違いが見られた。第ⅩⅡ層の土器（64）は、器壁が５mmと薄く焼成が第Ⅸ層の無文土器と比較するとしっかりしている。第Ⅸ層の無文土器（51～63）は、器壁が７～９mmと厚く、焼成が悪く脆い。小破片のため器形復元が可能な資料が得られなかった。

無文土器は、形態的な分類に耐えられる資料がなかったため、爪形文系土器との関連性を見るため胎土分類を行った。以下の手法を用いて胎土観察を行った。

胎土分類

爪形文土器及び無文土器の胎土を肉眼・触感で観察を行った。胎土の質感を貝塚時代早期の土器全体と当遺跡の土器を比較したいため砂質・砂泥質・泥質のⅠ～Ⅲに分け、また胎土の色調で三つに分けた。

今回得られた当遺跡の爪形文土器期の土器群は、概ね砂質（細粒砂）の土器である。器壁観察では、爪形文系土器群が３～５mmと薄手で、共伴する無文土器は７～９mmと厚手である。

Ⅰ砂質　①黒色土（主に爪形文土器のⅡ類が主流であるⅠ類や無文土器にもみられた）
②黄褐色土（無文土器は、かなり脆い。爪形文土器Ⅰ類、Ⅱ類にもみられた）
③赤褐色土（無文土器、爪形文土器Ⅰ類、Ⅱ類aにもみられた）

Ⅱ砂泥質　①黒色土（無文土器、爪形文土器Ⅰ類ｂにみられた）
②黄褐色土（爪形文土器Ⅰ類ａにみられた）
③赤褐色土（無文土器にみられた）

Ⅲ泥質　①黒色土（今回の資料で該当するものは見当たらなかった）
②黄褐色土（東原式に見られる）
③赤褐色土（今回の資料で該当するものは見当たらなかった）

胎土分類の結果

今回得られた貝塚時代早期の土器群の中で多く得られた胎土は、黒色を呈し砂質で粒子が細かいものが多用されており、野国貝塚で得られたような赤褐色の土器はほとんど得られなかった。爪形文土器の胎土は混和材も0.5mm以下と細かくして利用されており焼成も良く、薄手でやや硬質に焼きしめられている。それに対し、共伴する無文土器は厚手で混和材も荒く大きな粒子が見られる。焼成も悪く、しまりがなく脆い。以上のことから無文土器と爪形文土器は若干の時期差もしくは制作方法の相違があるのかもしれない。

小結

今回得られた爪形文土器は、125点中23点がⅠ類（指頭圧をとめるもの）と少なく、Ⅱ類（指頭圧を押引くもの）が残りの84点で数・重量的にも主体を占めている。これらのほとんどが第Ⅸ層より出土している。この層では無文土器と野国タイプに類似するⅡ類が共伴しており、東原式土器が共伴しないことから古手の様相を示しているだけに、野国貝塚、伊礼原Ｃ遺跡、箕隅原Ｃ遺跡との関連性が興味深い。さらに下層の第ⅩⅡ層から１点だけ無文土器が出土している。胴部片で器形態についての推測は出来ないが、第Ⅸ層の土器群との間に無遺物層の間層を含むことから爪形文土器群よりさらに古い土器（64）である。

今回得られた資料から、第Ⅸ層を対象として土器の接合関係や位置関係について観察したが調査区全体に散乱していたため空間的な位置関係を抑えることは出来なかった。ヤブチ式土器の古式の土器である野国タイプに類似する（Ⅱ類）と無文土器が主体を占めて多く、指頭圧を止めて施す土器（Ⅰ類）が少ないが共伴関係にあることが判明した。また、食糧残滓として豊富な猪などの獣骨及び貝類遺体、他の人工遺物として局部磨製石斧、砥石、敲打具類、ヤス状刺突具（骨製品）、鏃状製品（貝製品）、土製品などが共伴して出土している。放射性炭素測定で、第Ⅸ層が6080±50BPの測定結果が得られている。

以上のことから、当遺跡の縄文時代早期後葉期の土器の共伴関係及び他の遺物の共伴関係について大まかなことが判明した。今回の調査は、貝塚の調査で遺構と遺物が共伴関係を伺うことは出来なかった。今後の調査成果に期待したい。

第19表　貝塚時代早期土器出土状況

出土地		分類	高宮暫定編年前Ⅰ期 爪形文 Ⅰ類 a 胴部 Ⅰ－①		爪形文 Ⅰ類 a 口縁部 Ⅰ－②		爪形文 Ⅰ類 a 胴部 Ⅰ－②		爪形文 Ⅰ類 a 胴部 Ⅰ－③		爪形文 Ⅰ類 a 胴部 Ⅱ－②		爪形文 Ⅰ類 b 胴部 Ⅰ－①		爪形文 Ⅰ類 b 胴部 Ⅰ－②		爪形文 Ⅰ類 b 胴部 Ⅰ－③		爪形文 Ⅰ類 b 胴部 Ⅱ－①		爪形文 Ⅱ類 a 1 胴部 Ⅰ－①		爪形文 Ⅱ類 a 1 胴部 Ⅰ－③		爪形文 Ⅱ類 a 2 胴部 Ⅰ－①		爪形文 Ⅱ類 a 2 胴部 Ⅰ－②		爪形文 Ⅱ類 a 2 胴部 Ⅰ－③		爪形文 Ⅱ類 b 胴部 Ⅰ－①		爪形文 Ⅱ類 b 胴部 Ⅰ－②		爪形文 Ⅱ類 b 胴部 Ⅰ－③		爪形文 不明 胴部 Ⅰ－①		爪形文 不明 胴部 Ⅰ－②		爪形文 不明 胴部 Ⅱ－①		爪形文 底部 Ⅰ－①		無文 胴部 Ⅰ－①		無文 胴部 Ⅰ－②		無文 胴部 Ⅰ－③		無文 胴部 Ⅱ－①		無文 胴部 Ⅱ－③		合計	
Ⅸa層	Ⅱ地区	A			2	9.3					1	8.6	1	3.9	2	14.4	1	4					2	9.6	3	43.9	6	65.8			2	6.5			1	2.8			3	15.3							1	12							25	196.1
		B	1	7.6			1	6											1	4.3	1	7.4			8	80.2	7	21.4	1	7.8	7	46.5	1	15.6			3	9.4	2	6.3	1	4.6									1	10.3			35	227.4
		C									1	6.8	1	4.1	1	10					1	4.8			5	45.5	2	6.1			1	4.6															1	3.9			1	10.8	1	15.4	15	112
		D													1	3.4									2	10.7	1	2.7			1	1.3	1	2.6					2	7.8							5	55.1							13	83.6
		E											1	1.5							1	2.4			3	15.7	1	8.6																	8	122.8	13	180.9							27	331.9
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明																							1	4.3																					5	19.8							6	24.1
Ⅸb層		A									1	7			1	4									6	55.5	4	15.1			1	13.7																							13	95.3
		B							1	3.2			1	5	1	3.1									1	6.3													2	3.5															6	21.1
		D											1	2.7																																									1	2.7
		E																							1	4											1	3.6							1	24.5	1	3.8					1	20.5	5	56.4
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明																							1	10.5																													1	10.5
Ⅸc層		D																																													1	11.2							1	11.2
		E																																													2	9.4							2	9.4
Ⅸ層不明		B											1	5.8													1	4.9			2	9.7																							4	20.4
		E																																									1	24											1	24
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明													1	2.6					2	10.5									2	4.1											1	19.7			1	6.5							7	43.4
ＸⅠ層		E																																															1	11.8					1	11.8
層序不明		B																									1	6.4																											1	6.4
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明																									1	3.3	1	1.5			1	1.5					2	4.1															5	10.4
合　計			1	7.6	2	9.3	1	6	1	3.2	3	22.4	6	23	7	37.5	1	4	1	4.3	5	25.1	2	9.6	31	276.6	24	134.3	2	9.3	16	86.4	3	19.7	1	2.8	4	13	11	37	1	4.6	2	43.7	9	147.3	30	302.6	1	11.8	2	21.1	2	35.9	169	1298.1

注　左は個数、右は重量(g)

第20表　貝塚時代早期土器の観察一覧a

単位:cm

挿図番号		種類	器種	分類	部位	文様形態の特徴	形態 器面調整の状況	胎土分類 混入物	重量 (g)	色調 ①外面②内面	出土地点 層/遺構
第51図・図版88	1	爪形文土器	深鉢形	Ⅰ類a	口縁	口縁部直下には爪を押し当てた爪痕が施文され、口縁部下端には指頭押圧文が施されている。文様断面形が半円状になる。浅く施文されている。	口縁部を若干外反させる直口口縁部である。外面は調整後施文し、内面は指頭圧とナデが残存する。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	4.1	①暗褐色 3/4Hue7.5YR ②にぶい黄褐色 4/3Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D2639
	2		深鉢形	Ⅰ類a	口縁	口唇部に刺突文が施され、口縁部直下には爪痕が施文される。口縁部下端には指頭押圧文が施され、文様断面形が半円状になる。浅く施文されている。	口縁部を若干外反させる直口口縁部である。外面は調整後施文し、内面は指頭圧が残存している。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	5.2	①暗褐色 3/4Hue7.5YR ②にぶい黄褐色 4/3Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1570
	3		深鉢形	Ⅰ類a	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形が半円状になる。浅く施文され、縦位につなげる意識がみられない。	外面に指頭押圧を施し、内面に指頭圧が見られる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子が混入	7.6	①黒色 2/1Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1685
	4		深鉢形	Ⅰ類a	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形が半円状になる。文様が横位に並び、浅く施文されている。縦位につなげる意識がみられない。	外面を指頭押圧に留めて文様としての要素と成形の要素を含めている。内外面に指頭圧が見られる。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子と赤色粒子/雲母含む	6.0	①にぶい黄褐色 5/4Hue10YR ②にぶい赤褐色 5/4Hue5YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1946
	5		深鉢形	Ⅰ類a	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形が半円状になる。文様が横位に並び、浅く施文されている。縦位につなげる意識があまり見られない。	外面を指頭押圧に留めて文様としての要素と成形の要素を含めている。内外面に指頭圧が見られる。	Ⅱ一② 微細粒砂で若干粘土質である。1mmほどの黒色粒子を多く含む	8.6	①にぶい黄褐色 5/4Hue10YR ②にぶい黄褐色 5/3Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D3510
	6		深鉢形	Ⅰ類a	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形が半円状になる。文様が横位に並び、浅く施文されている。縦位につなげる意識があまり見られない。	外面を指頭押圧に留めて文様としての要素と成形の要素を含めている。内面に指頭圧が見られる。	Ⅰ一③ 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子と石英/雲母含む	3.2	①にぶい赤褐色 4/4Hue5YR ②にぶい赤褐色 5/4Hue5YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層 D3186
	7		深鉢形	Ⅰ類a	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形が半円状になる。文様が横位に並び、浅く施文されている。縦位につなげる意識があまり見られない。	外面を指頭押圧に留めて文様としての要素と成形の要素を含めている。内外面に指頭圧が見られる。	Ⅱ一② 微細粒砂で若干粘土質である。0.3mmほどの黒色粒子を多く含む	7.0	①灰黄褐色 4/2Hue10YR ②灰黄褐色 5/2Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層 D2255
	8		深鉢形	Ⅰ類a	胴部	上端部に区画文様の爪形文を施し、下部に指頭押圧を施している。文様断面が半円形を成す。爪形文以外は浅く施文している。	外面を調整後施文し、内面に指頭圧が残存している。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.7mmほどの石英を多く含む	5.9	①黒褐色 3/1Hue10YR ②にぶい黄褐色 5/3Hue10YR	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明 Ⅸ層
	9		深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様が横位に並べて施文される。縦位につなげる意識があまり見られない。	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧後ナデで丁寧に調整されている。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子と雲母含む	5.8	①黒褐色 3/2Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸ層
	10		深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様が横位に並べず施文され、縦位につなげる意識が見られない	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧後ナデで丁寧に調整されている。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの雲母を多く含む	4.1	①黒褐色 3/1Hue10YR ②灰黄褐色 4/2Hue10YR	Ⅱ地区 Cｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D57
	11		深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様が横位に並べて施文される。縦位に繋がっている。	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧後ナデで丁寧に調整されている。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子と石英/雲母含む	3.9	①黒色 2/1Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層
	12		深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様が横位に並べて施文される。縦位につなげる意識が見られない。浅く施文される。	外面は調整後施文されており、内面には指頭圧の痕跡がある。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子と石英/雲母含む	2.6	①②褐色 4/4Hue7.5YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸ層
	13		深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様があまり並ばず施文される。縦位につなげる意識があまり見られない。	外面を指頭押圧に留めて文様としての要素と成形の要素を含めている。内外面に指頭圧が見られる。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色/赤色粒子と雲母含む	10.0	①にぶい黄褐色 5/4Hue10YR ②にぶい黄褐色 5/3Hue10YR	Ⅱ地区 Cｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D157

第20表　貝塚時代早期土器の観察一覧ｂ

単位:cm

挿図番号		種類	器種	分類	部位	文様形態の特徴	形態 器面調整の状況	胎土分類 混入物	重量 (g)	色調 ①外面②内面	出土地点 層/遺構
第51図・図版88	14	爪形文土器	深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様があまり並ばず施文される。縦位につなげる意識があまり見られない。	外面は調整後、施文される。内面に指頭圧の痕跡が残る。	Ⅰ－③ 微細粒砂で0.3mmほどの黒色/赤色粒子と雲母含む	4.0	①にぶい赤褐色 5/4Hue5YR ②灰黄褐色 5/2Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1611
	15		深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様が横位に並び、深く施文されている。縦位につなげる意識がみられない。	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧が横位に並ぶように残存している。	Ⅰ－② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	10.6	①灰黄褐色 5/2Hue10YR ②灰黄褐色 4/2Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D3527
	16		深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様が横位に並び、深く施文されている。縦位につなげる意識がみられない。	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧が横位に並び、ナデ消され若干残存している。	Ⅰ－① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	4.3	①黒色 2/1Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1239
	17		深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様が横位に並び、深く施文されている。幅をあけ施文している	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧が若干残存している。	Ⅰ－② 微細粒砂で0.3mmほどの雲母が多く混入	3.4	①灰黄褐色 5/2Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Dｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D534
	18		深鉢形	Ⅰ類b	胴部	指頭押圧文が施され、文様断面形がレ字状になる。文様が横位に並び、深く施文されている。幅をあけ施文している	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧が残存している。	Ⅰ－② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が混入	4.0	①にぶい黄褐色 5/4Hue10YR ②灰黄褐色 5/2Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層
第52図・図版89	19		深鉢形	Ⅱ類a-1	胴部	横幅の広い指頭圧を押引き、縦位に文様同士をつなげる意識が見られない。文様の断面形が半円形を呈する。	外面は調整後施文されており、内面は磨耗していて不明瞭である。	Ⅰ－① 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子を若干含む	4.8	①黒色 2/1Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Cｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D2545
	20		深鉢形	Ⅱ類a-1	胴部	横幅の広い指頭圧を押引き、縦位に文様同士をつなげる意識が見られない。文様の断面形が半円形を呈する。文様が浅く施文される。	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧が残存している。	Ⅰ－③ 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子を若干含む	3.1	①明赤褐色 5/6Hue5YR ②にぶい黄褐色 5/3Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1512
	21		深鉢形	Ⅱ類a-1	胴部	横幅の広い指頭圧を押引き、縦位に文様同士をつなげる意識が見られない。文様の断面形がレ字状を呈する。文様が深く施文される。	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧が残存している。	Ⅰ－③ 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子/石英/雲母を含む	6.5	①赤褐色 4/6Hue2.5YR ②にぶい赤褐色 4/3Hue5YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D2696
	22		深鉢形	Ⅱ類a-1	胴部	横幅の少し広い指頭圧を押引き、縦位に文様同士をつなげる意識が見られない。文様の断面形が半円状を呈する。文様が深く施文される。	外面は調整後施文されており、内面は磨耗しているが若干指頭圧が残存している。	Ⅰ－① 微細粒砂で0.3mmほどの雲母が多く混入	4.6	①②黒色 2/1Hue10YR	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 不明 Ⅸ層
	23		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。すこしずれているが、縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形がレ字状を呈す。深く施文される。	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧後ナデで丁寧に調整されている。	Ⅰ－① 微細粒砂で0.3mmほどの白色粒子/雲母が多く混入	9.9	①黒褐色 3/1Hue10YR ②赤褐色 4/6Hue2.5YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1492
	24		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状になる。粘土帯をつなげた様な横位に稜が走っている。深く施文される。	外面は調整後施文されており、内面は粘土帯にそって指頭圧調整しその後ナデで丁寧に調整している。	Ⅰ－① 微細粒砂で0.7mmほどの赤色粒子黒色粒子/0.3mmの雲母が混入	32.8	①黒褐色 3/1Hue10YR ②赤褐色 4/6Hue2.5YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D3505
	25		深鉢形	Ⅱ類a-2	底部付近	指頭押圧が少し押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状で、深く施文され、底部に近づくと施文の長さが短くなる	外面は調整後施文されており、若干磨耗している。内面には指頭圧とナデ調整がみられる。	Ⅰ－① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	30.1	①黒褐色 3/1Hue10YR ②にぶい黄褐色 4/3Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D3567
	26		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が少し押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状で、深く施文される。	外面は調整後施文されており、内面には粘土帯にそって指頭圧がみられる。	Ⅰ－① 微細粒砂で0.3mmほどの雲母が多く混入	24.3	①暗褐色 3/3Hue10YR ②黒褐色 3/2Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層 D3287

第20表　貝塚時代早期土器の観察一覧c

単位:cm

挿図番号		種類	器種	分類	部位	文様形態の特徴	形態 器面調整の状況	胎土分類 混入物	重量 (g)	色調 ①外面②内面	出土地点 層/遺構
第52図・図版89	27	爪形文土器	深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。すこしずれているが、縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形がレ字状を呈す。深く施文される。	外面は調整後施文されており、内面には指頭圧とナデ調整がみられる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	6.6	①黒色 2/1Hue10YR ②黒褐色 3/2Hue10YR	Ⅱ地区 Cｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D2542
	28		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状を呈す。深く施文される。	外面は調整後施文されており、内面には指頭圧が横位に並んでいる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	8.3	①黒色 2/1Hue10YR ②黒褐色 3/2Hue10YR	Ⅱ地区 Cｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D58
第53図・図版90	29		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧がすこし押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状になる	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧後ナデ調整され平らに仕上げている。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	7.4	①黒色 2/1Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1261
	30		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧がすこし押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状になる。	外面は調整後施文されており、内面は粘土帯に沿って指頭圧がみられ、指ナデが上端部にみられる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	16.1	①黒褐色 3/1Hue10YR ②黒褐色 3/2Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1200
	31		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧がすこし押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形がレ字状になる。	外面は調整後施文されている。内面は粘土帯に沿って指頭圧が見られる。	Ⅰ一③ 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/1mmほどの黒色粒子が混入	7.8	①にぶい赤褐色 4/4Hue5YR ②灰褐色 4/2Hue5YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D2781
	32		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧がすこし押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状もしくはレ字状になる。	外面は調整後施文されている。内面は指頭圧とナデ調整が見られる。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.2mmほどの黒色粒子/雲母が少し混入	11.1	①黄褐色 5/6Hue10YR ②褐色 4/4Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1511
	33		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。縦位につなげる意識が見られる。細く密に施文されている。文様の断面形が半円状を呈す。	外面は調整後施文されている。内面は指頭圧とナデ調整が見られる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.2mmほどの白色粒子/黒色粒子/雲母が多く混入	10.1	①②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層
	34		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状を呈す。上端部は施文が見られず口縁部に近いと思われる。	外面は調整後施文されている。内面は指頭圧とナデ調整が見られる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.2mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	16.2	①黒色 2/1Hue10YR ②灰黄褐色 4/2Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D2793
	35		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状を呈す。	外面は調整後施文されている。内面は若干磨耗しているが、指頭圧とナデ調整が見られる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.2mmほどの白色粒子/黒色粒子/雲母が多く混入	10.5	①黒色 2/1Hue10YR ②暗褐色 3/4Hue7.5YR	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 不明 Ⅸb層
	36		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形がレ字状を呈す。	外面は調整後施文されている。内面に、指頭圧調整が見られる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	6.3	①黒色 2/1Hue10YR ②灰黄褐色 5/2Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層
	37		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧がすこし押引かれる。縦位につなげる意識が見られ、文様全体が捩れている。磨耗している。	器壁が3mmと薄く外面は調整後に施文され、内面は粘土帯に沿って丁寧な指頭圧がなされている。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの白色粒子/黒色粒子/雲母が多く混入	21.3	①②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Cｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D136
	38		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。縦位につなげる意識が見られ、文様全体が捩れている。押引文を2回ほど施文後に押圧文が一帯巡らされている。	外面は調整後施文されており、内面は粘土帯に沿って指頭圧後ナデ調整されている。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が多く混入	37.7	①暗褐色 3/4Hue7.5YR ②にぶい黄褐色 4/3Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1506

第20表　貝塚時代早期土器の観察一覧ｄ

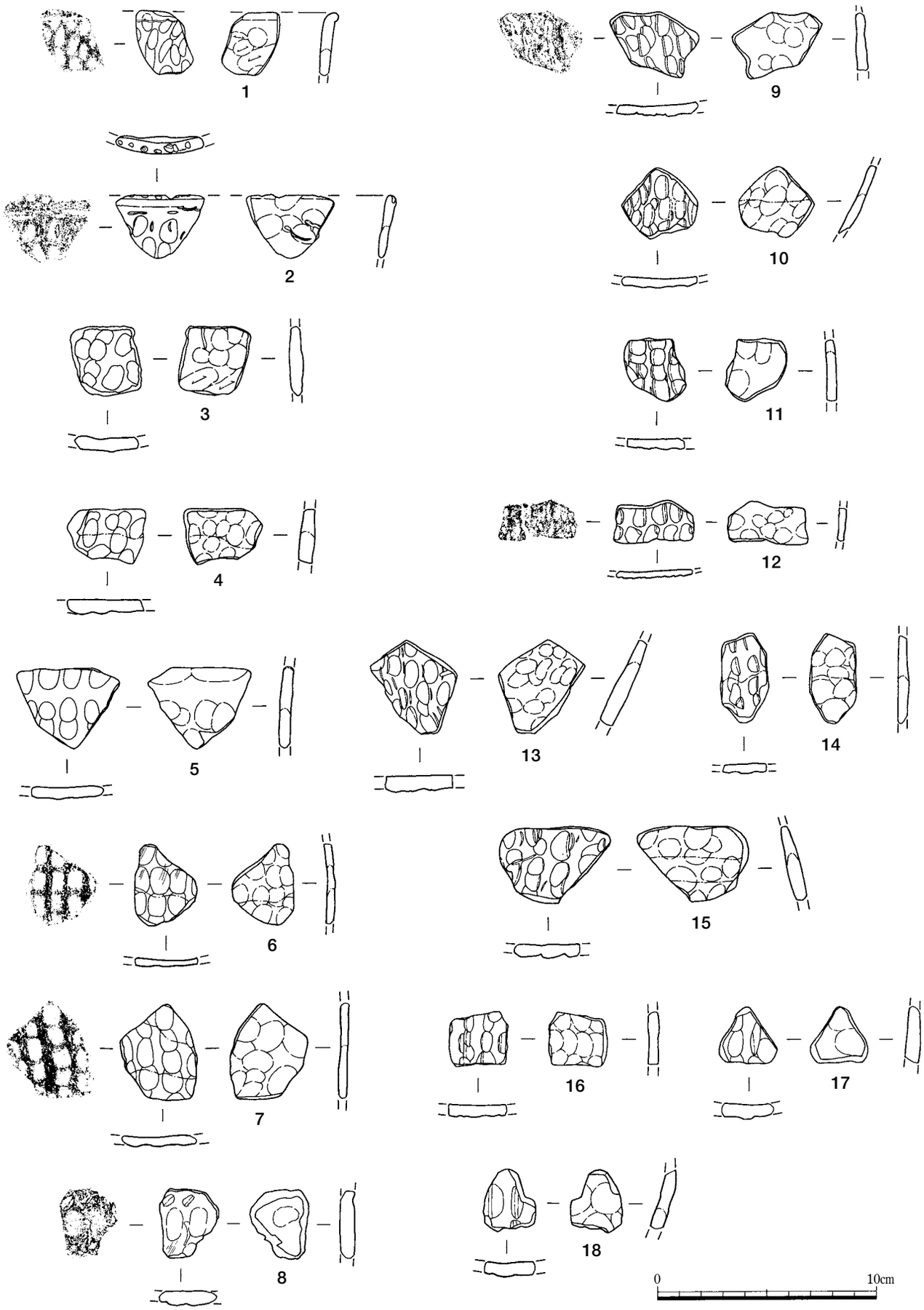
単位:cm

挿図番号		種類	器種	分類	部位	文様形態の特徴	形態 器面調整の状況	胎土分類 混入物	重量 (g)	色調 ①外面②内面	出土地点 層/遺構
第53図・図版90	39	爪形文土器	深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状もしくは一端が深くなるレ状になる。	外面は調整後施文されており、内面は粘土帯に沿って指頭圧が残存している。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母/白色粒子が多く混入	10.4	①黒褐色 3/2Hue10YR ②灰黄褐色 4/2Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1033
	40		深鉢形	Ⅱ類a-2	胴部	指頭押圧が長く押引かれる。縦位につなげる意識が見られる。文様の断面形が半円状もしくは一端が深くなるレ状になる。	外面は調整後施文されており、内面は指頭圧と指ナデ調整が行われている。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子と0.2mmほどの雲母が混入	8.1	①黒褐色 3/2Hue10YR ②灰黄褐色 4/2Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層 D3315
第54図・図版91	41		深鉢形	Ⅱ類b	胴部	指頭押圧が長く押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。爪痕を強調し、断面形が一端が深くなるレ状を呈す。若干深めに施文される。	外面は調整後施文されており、内面には指頭圧痕が残っている。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.2mmほどの雲母を多く含む	2.9	①黒褐色 3/1Hue10YR ②黒褐色 3/2Hue10YR	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 不明 Ⅸ層
	42		深鉢形	Ⅱ類b	胴部	指頭押圧が長く押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。爪痕を強調し、断面形が一端が深くなるレ状を呈す。若干深めに施文される。	外面は調整後施文されており、内面には指頭圧後の指ナデ痕が残っている。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.2mmほどの雲母と0.5mmほどの黒色粒子を含む	4.6	①黒褐色 3/2Hue10YR ②灰黄褐色 4/2Hue10YR	Ⅱ地区 Cｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D158
	43		深鉢形	Ⅱ類b	胴部	指頭押圧が長く押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。爪痕を強調し、断面形が一端が深くなるレ状を呈す。若干浅めに施文される。	外面は整形後施文されており、内面には指頭圧と指ナデがみられる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.2mmほどの雲母を多く含む	9.7	①②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D3586
	44		深鉢形	Ⅱ類b	胴部	指頭押圧が長く押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。爪痕を強調し、断面形が一端が深くなるレ状を呈す。若干深めに施文される。文様が途中で途切れ、下部には沈線が2本施されている。	外面は整形後施文されており、内面には指頭圧がみられる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.7mmほどの黒色粒子を多く含む	13.7	①黒褐色 3/1Hue5YR ②褐灰色 5/1Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層 D2257
	45		深鉢形	Ⅱ類b	底部付近	指頭押圧が長く押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。爪痕を強調し、断面形が一端が深くなるレ状を呈す。若干深めに施文される。	外面は整形後施文されており、内面には粘土帯に沿って指頭圧と指ナデがみられる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.2mmほどの黒色粒子と雲母を多く含む	10.5	①②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D2789
	46		深鉢形	Ⅱ類b	底部付近	指頭押圧が長く押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。爪痕を強調し、断面形が一端が深くなるレ状を呈す。底部にまでは施文されず、途中で止まっている。若干浅めに施文される。	底部に近く傾きから丸底になると思われる。外面は丁寧なナデ調整後に施文され、内面には指頭圧が残る。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が混入	4.4	①黒色 2/1Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D3488
	47		深鉢形	Ⅱ類b	胴部	指頭押圧が長く押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。爪痕を強調し、断面形が一端が深くなるレ状を呈す。若干深めに施文される。	外面は調整後施文されており、内面には粘土帯に沿って指頭圧痕が残っている。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が混入	15.6	①にぶい黄褐色 4/3Hue10YR ②暗褐色 3/4Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D3582
	48		深鉢形	Ⅱ類b	胴部	指頭押圧が長く押引かれ、縦位につなげる意識が見られる。爪痕を強調し、断面形が一端が深くなるレ状を呈す。若干浅めに施文される。	外面は調整後施文されており、内面には指頭圧痕とナデ消しの痕跡が残っている。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.2mmほどの黒色粒子と2mmほどの石英若干混入	2.6	①にぶい黄褐色 5/3Hue10YR ②灰黄褐色 4/2Hue10YR	Ⅱ地区 Dｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D538
	49		深鉢形	不明	底部	磨耗しており不明瞭。上端部に若干指頭圧の痕跡あり。	形態がやや尖底よりの丸底である。底部が胴部と比較すると1cmほどで厚い。外面は磨耗が激しく、調整が不明瞭である。内面には指頭圧痕が残存している。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子と0.2mmほどの雲母が混入	24.0	①②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D709
	50		深鉢形	不明	底部	上端部に若干Ⅰ類aの文様が残存する。下端部には施文が見られない。	形態がやや尖底よりの丸底である。底部が胴部と比較すると1cmほどで厚い。外面はナデ調整で仕上げており、内面には指頭圧と指ナデが残存している。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子を多く含む	19.7	①②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ 不明 Ⅸ層

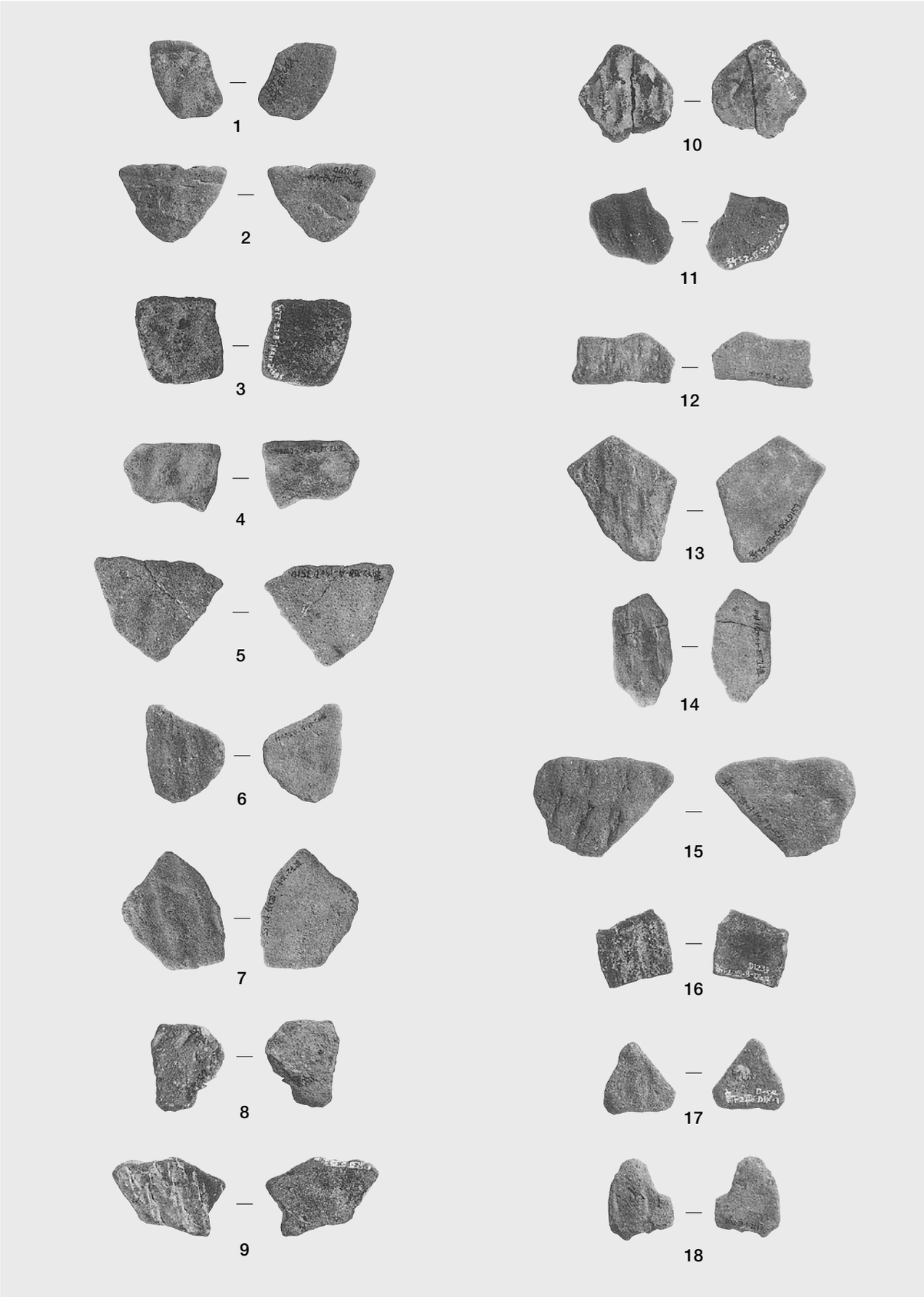
第20表　貝塚時代早期土器の観察一覧e

単位:cm

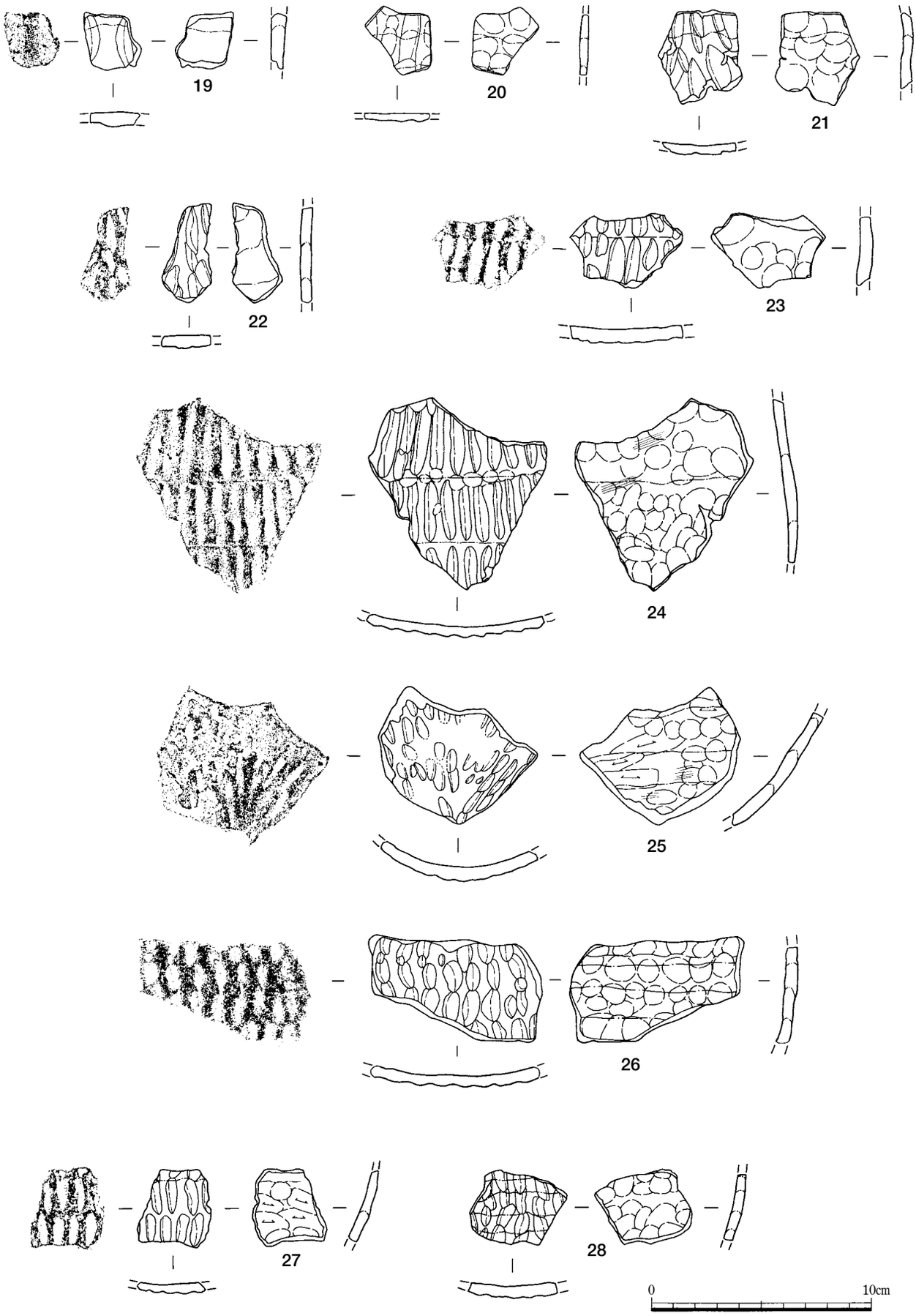
挿図番号		種類	器種	分類	部位	文様形態の特徴	形態 器面調整の状況	胎土分類 混入物	重量 (g)	色調 ①外面②内面	出土地点 層/遺構
第54図・図版91	51	無文土器	深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。外面は指頭圧で整形されており、内面は粘土帯にそって指頭圧及びナデ消しがみられる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子/雲母/石英が混入	15.2	①黒色 2/1Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層
	52		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。外面は指頭圧後ナデで整形されており、内面は粘土帯にそって指頭圧及びナデ消しがみられる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子が混入	10.6	①黒褐色 3/1Hue10YR ②暗褐色 3/3Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D801
	53		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。内外面ともに粘土帯に沿って指頭圧が横位に並んでいる。作りが荒く、指頭圧で成形のみにとどめている。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が混入	29.0	①②黒褐色 3/2Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D965
	54		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。外面は指頭圧後ナデで整形されており、内面は粘土帯にそって指頭圧及びナデ消しがみられる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/白色粒子が混入	14.7	①②黒褐色 3/2Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D8
	55		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。外面は粘土帯に沿って指頭圧後ナデ調整され、内面は粘土帯にそって指頭圧及びナデ消しがみられる。	Ⅰ一① 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/白色粒子が混入	31.5	①黒褐色 3/1Hue10YR ②暗褐色 3/3Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1063
	56		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。外面は指頭圧後丁寧にナデ調整され、内面は粘土帯にそって指ナデがみられる。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子/雲母が混入	24.2	①褐色 4/6Hue10YR ②にぶい黄褐色 5/4Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1352
第55図・図版92	57		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。内外面に粘土帯をつなげる意識と消す意識で指頭圧成形後ナデ消しがなされている。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.3mmほどの石英・雲母が混入	28.8	①黒褐色 3/1Hue5YR ②にぶい黄褐色 4/3Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D908
	58		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。内外面に粘土帯をつなげる意識と消す意識で指頭圧成形後ナデ消しがなされている。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.5mmほどの黒色粒子/雲母が混入	25.6	①②にぶい黄褐色5/3 Hue10YR	Ⅱ地区 Dｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D414
	59		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。内外面に粘土帯をつなげる意識と消す意識で指頭圧成形後ナデ消しがなされている。	Ⅰ一② 微細粒砂で0.3mmほどの黒色粒子/雲母が混入	12.0	①にぶい黄褐色 5/4Hue10YR ②にぶい黄褐色 5/3Hue10YR	Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1623
	60		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。内面は、粘土帯の間に丁寧な指頭圧とナデが横位に並ぶように調整されている。外面は、磨耗しており調整不明瞭である。	Ⅰ一② 微細粒砂で1mmほどの黒色粒子を含む	8.6	①②にぶい黄褐色5/3 Hue10YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D2056
	61		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。内外面に粘土帯をつなげる意識と消す意識で指頭圧成形後ナデ消しがなされている。	Ⅱ一① 微細粒砂で若干粘土質である。1mmほどの黒色粒子を多く含む	10.3	①褐灰色 4/1Hue10YR ②黒褐色 3/1Hue10YR	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D1146
	62		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。内外面に粘土帯をつなげる意識と消す意識で指頭圧成形後ナデ消しがなされている。	Ⅱ一① 微細粒砂で若干粘土質である。1mmほどの黒色粒子を多く含む	10.8	①②褐灰色 4/1Hue10YR	Ⅱ地区 Cｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層 D48
	63		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。内面に粘土帯をつなげる意識で指頭圧がみられ、外面には指頭圧成形後ナデ消しがなされている。	Ⅱ一③ 微細粒砂で若干粘土質である。1mmほどの黒色粒子を含む	20.5	①にぶい赤褐色 4/4Hue5YR ②赤褐色 4/6Hue5YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層
	64		深鉢形	無文土器	胴部	無文土器	詳細な形態は不明である。内面に粘土帯をつなげる意識で指頭圧がみられ、丁寧にナデ消している。外面には指頭圧成形後丁寧なナデ消しがなされている。	Ⅰ一③ 微細粒砂で0.3mmほどの石英・雲母が混入	11.8	①赤褐色 4/6Hue2.5YR ②にぶい赤褐色 5/3Hue5YR	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ XⅡb層 直上 D2613



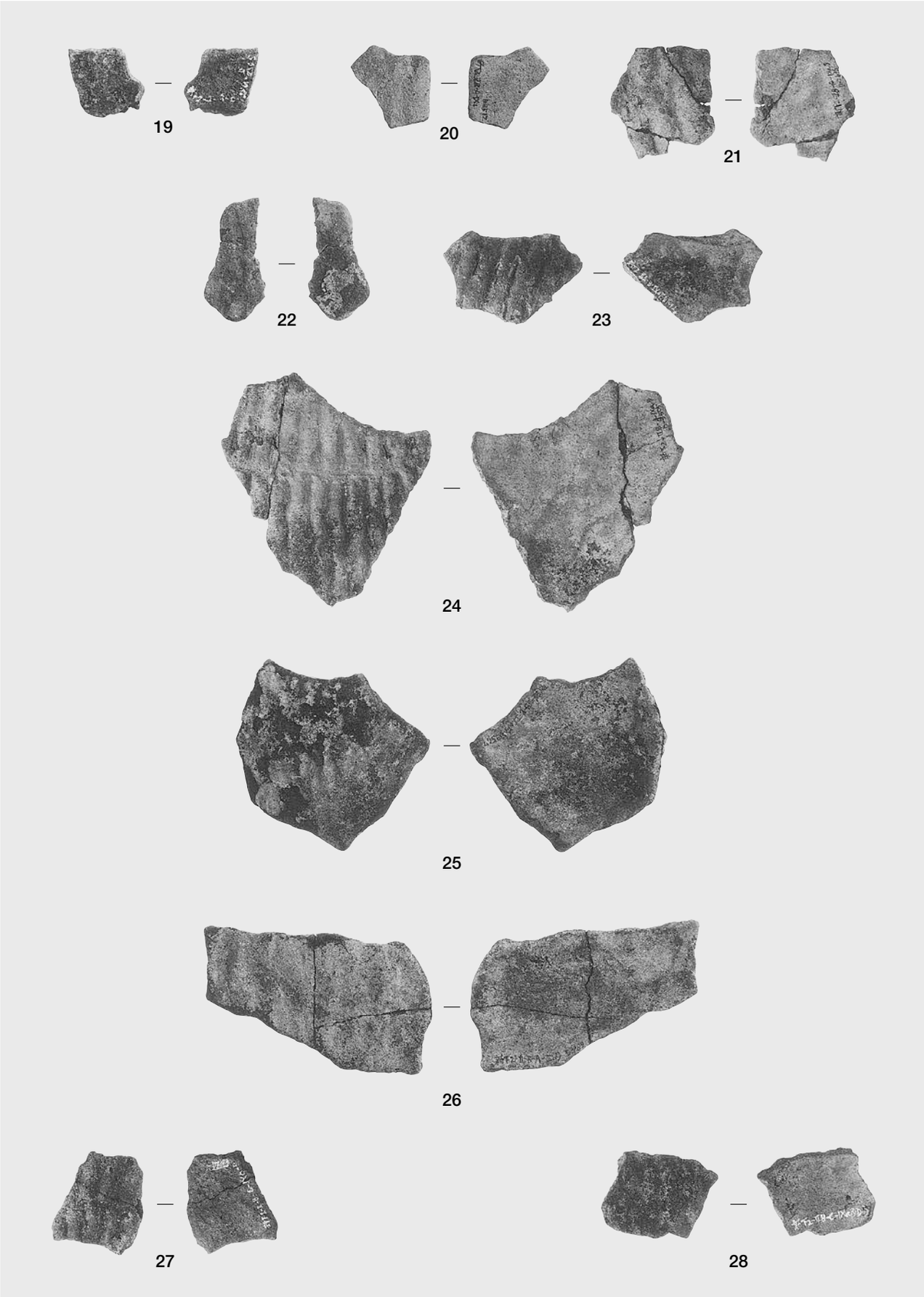
第51図　早期土器１（爪形文　Ⅰ類）



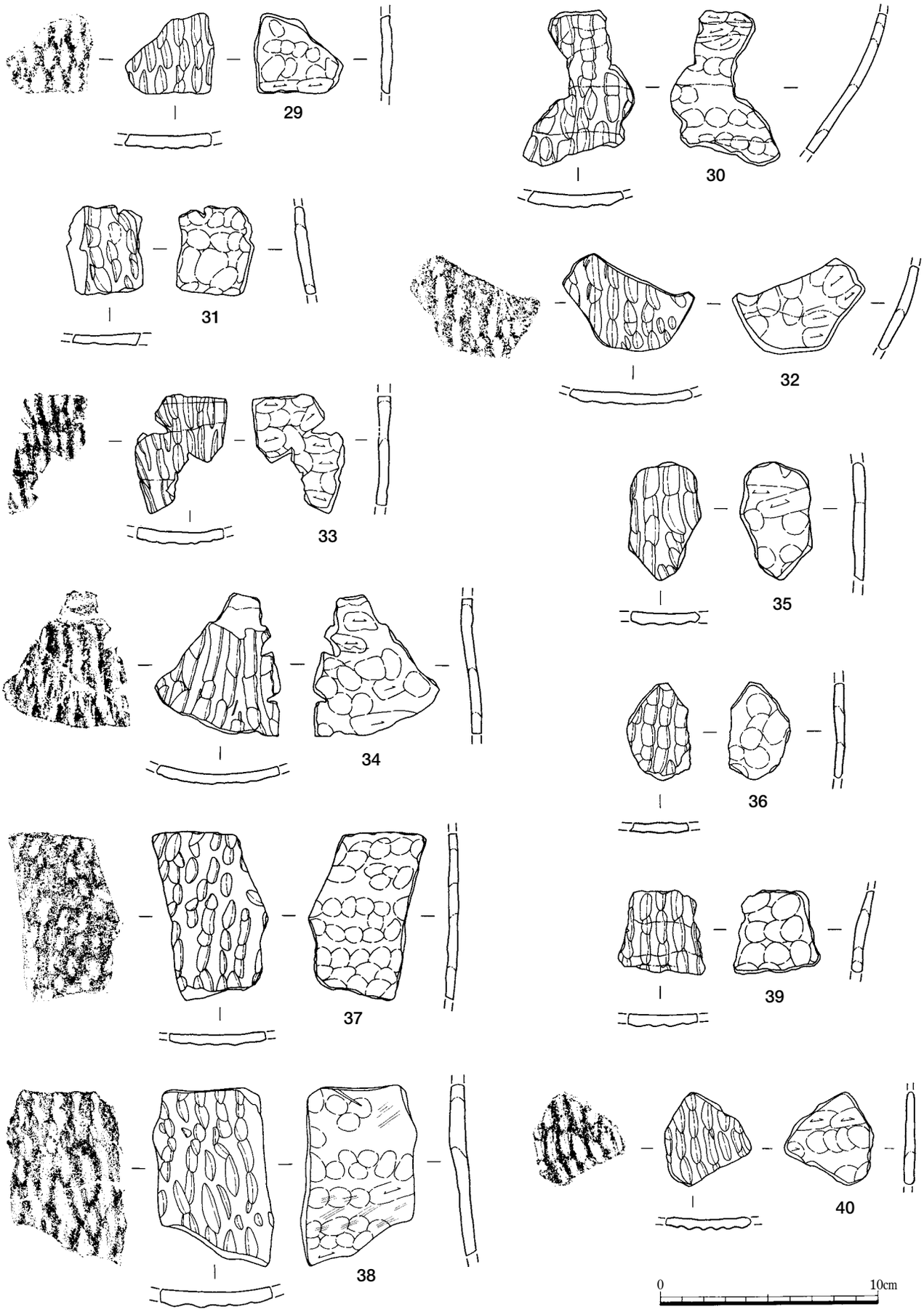
図版88　早期土器 1



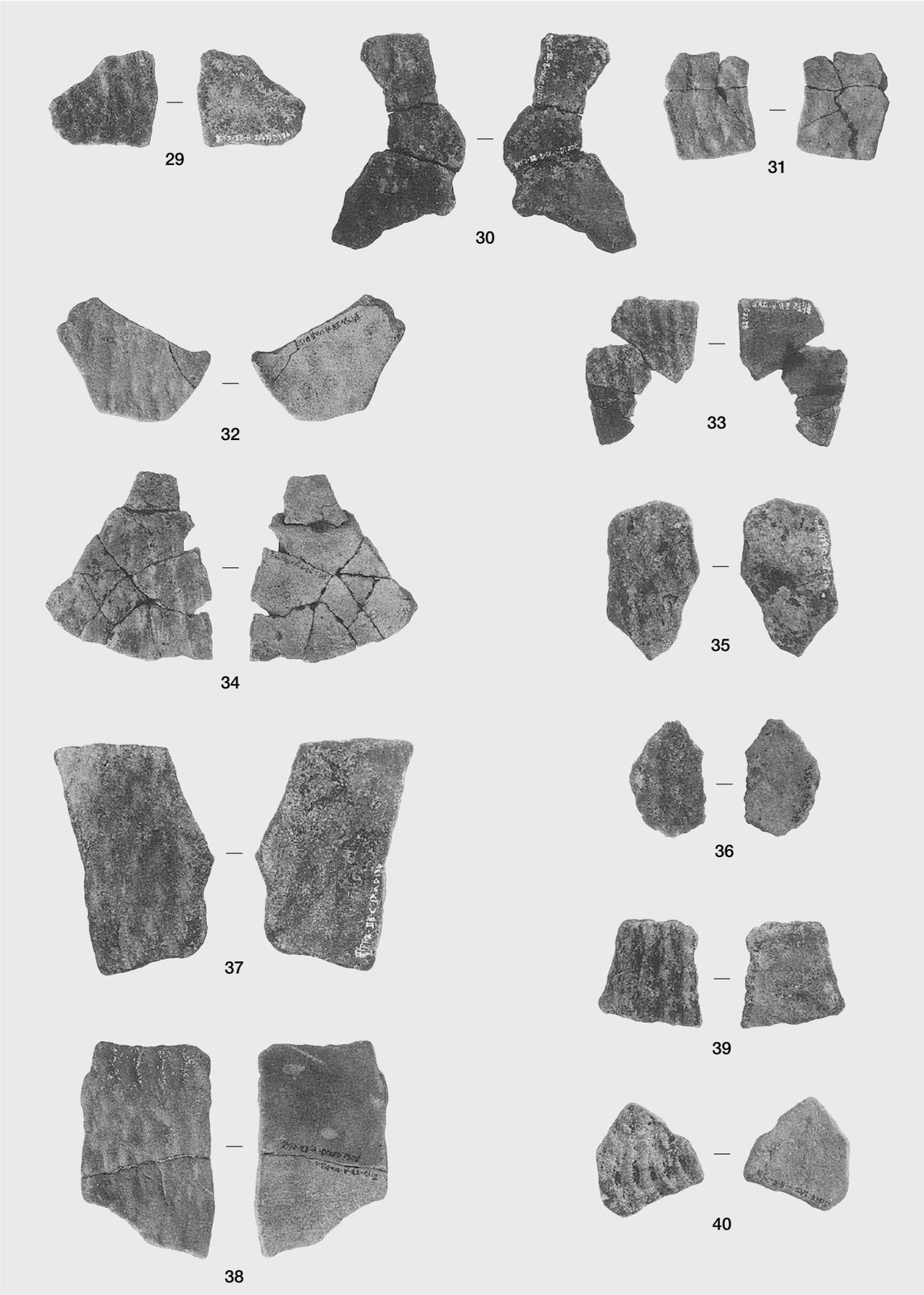
第52図　早期土器 2（爪形文　Ⅱ類a）



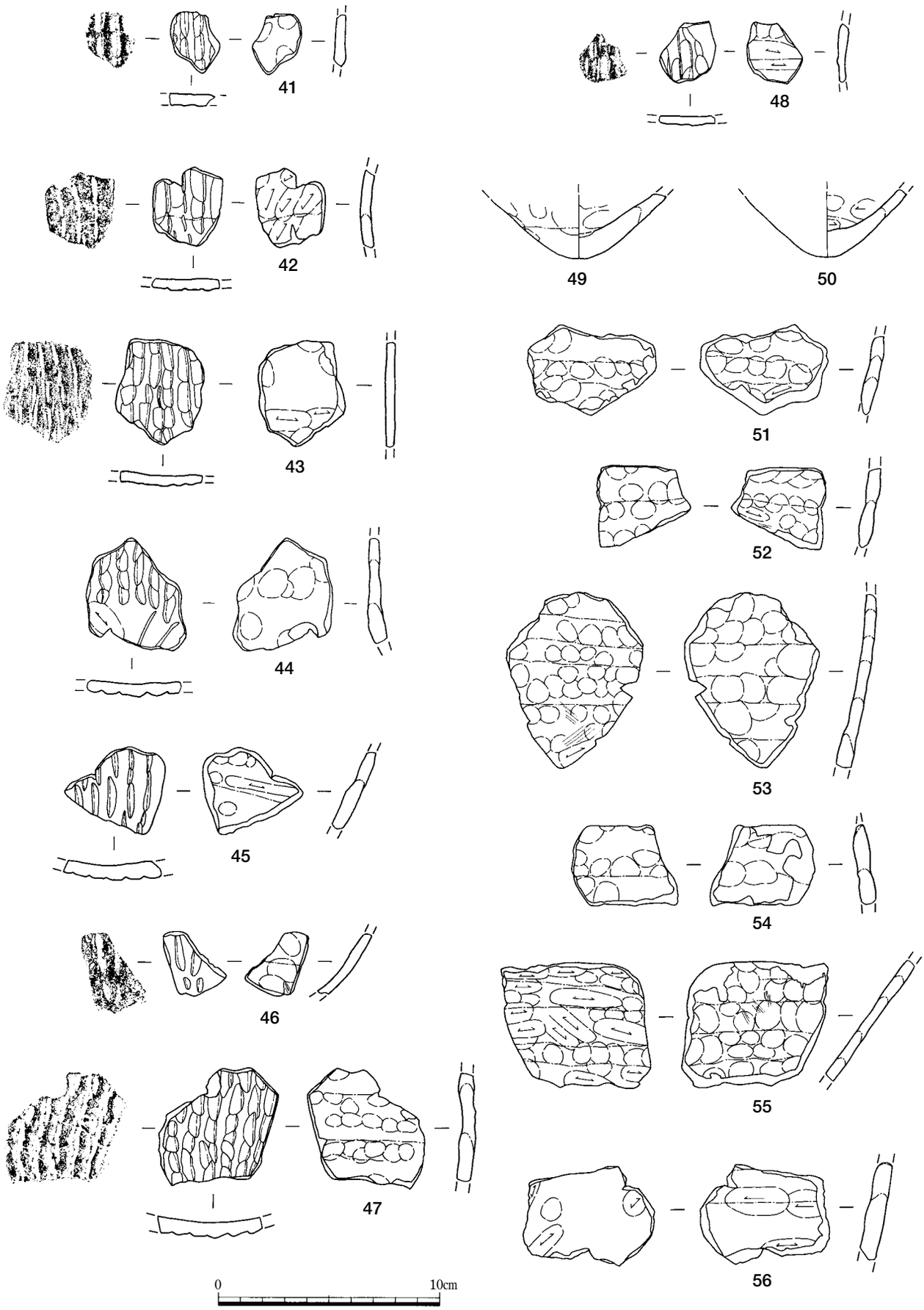
図版89　早期土器 2



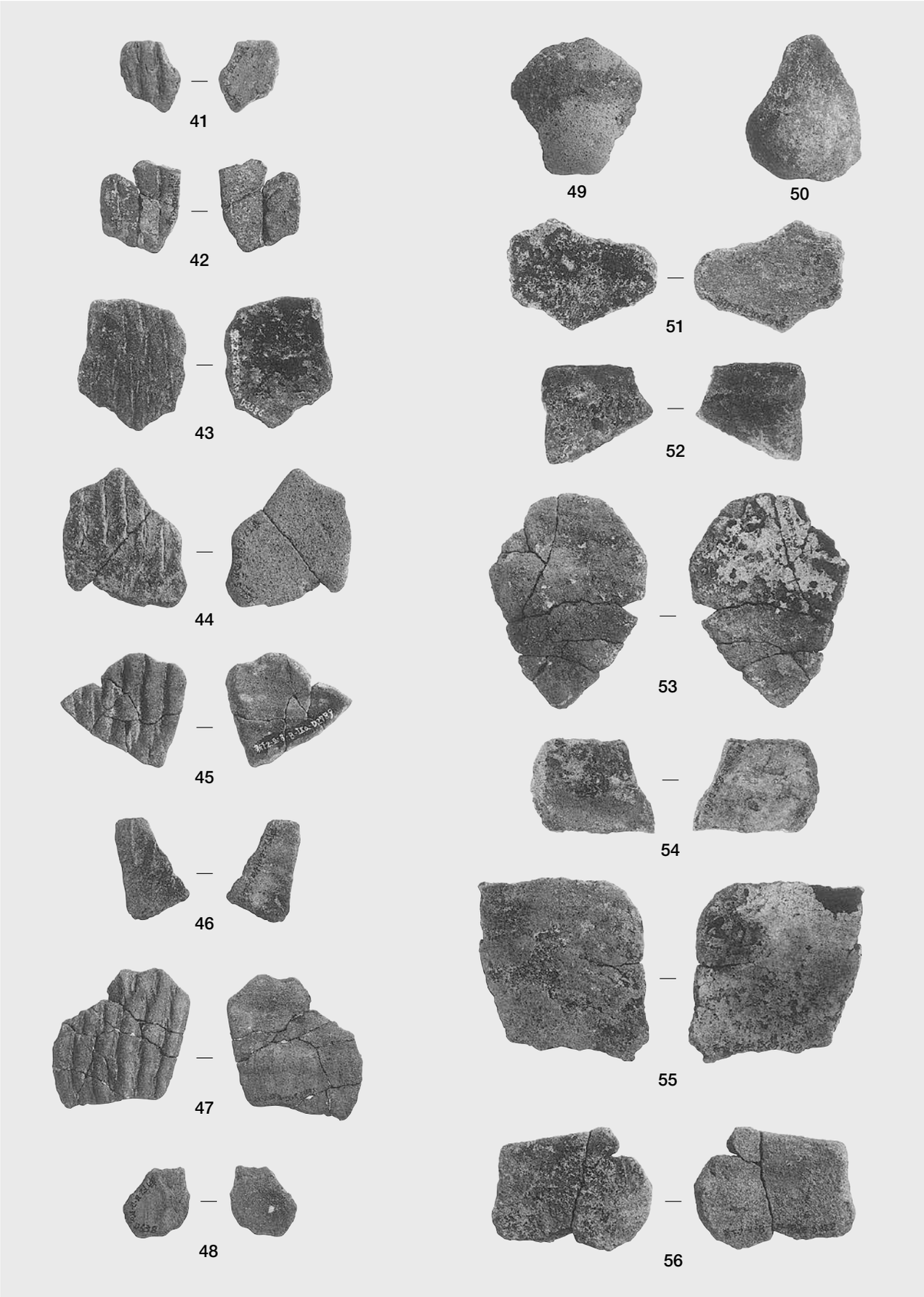
第53図　早期土器 3（爪形文　Ⅱ類a）



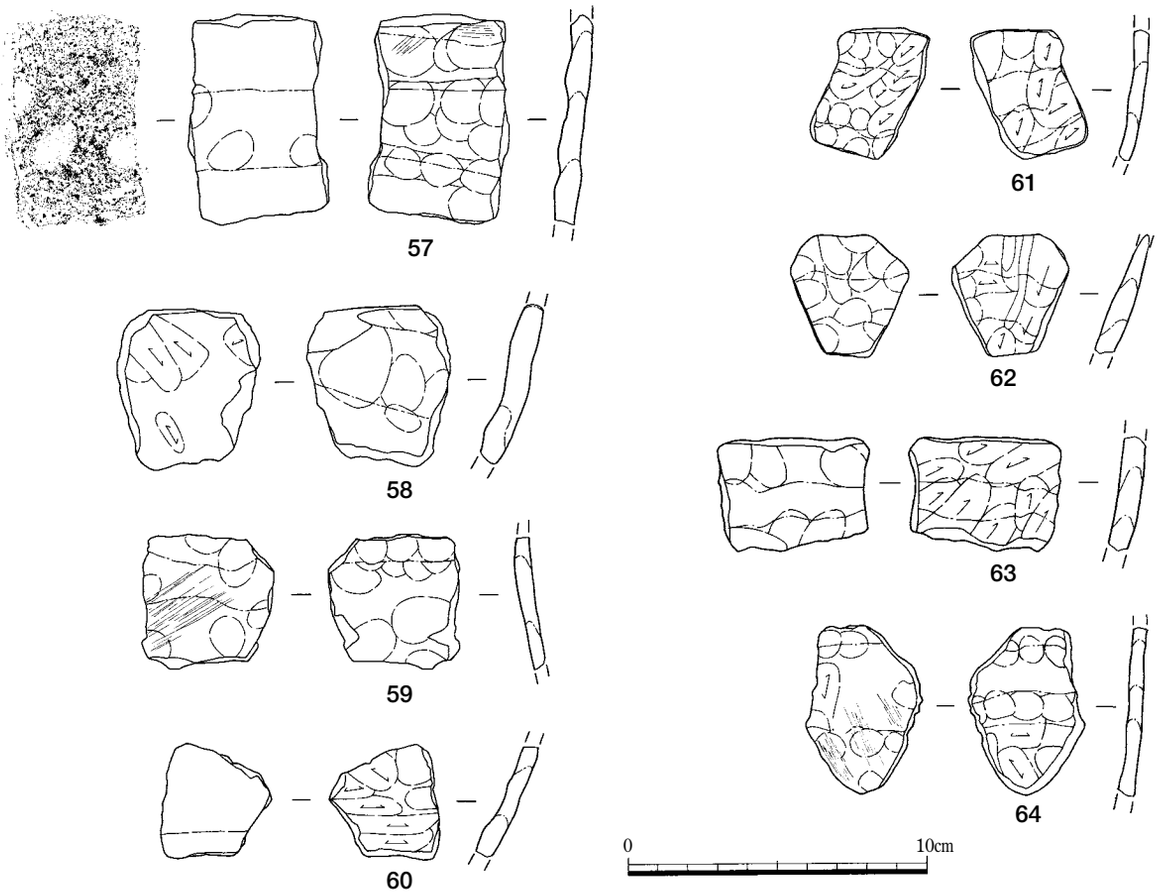
図版90　早期土器 3



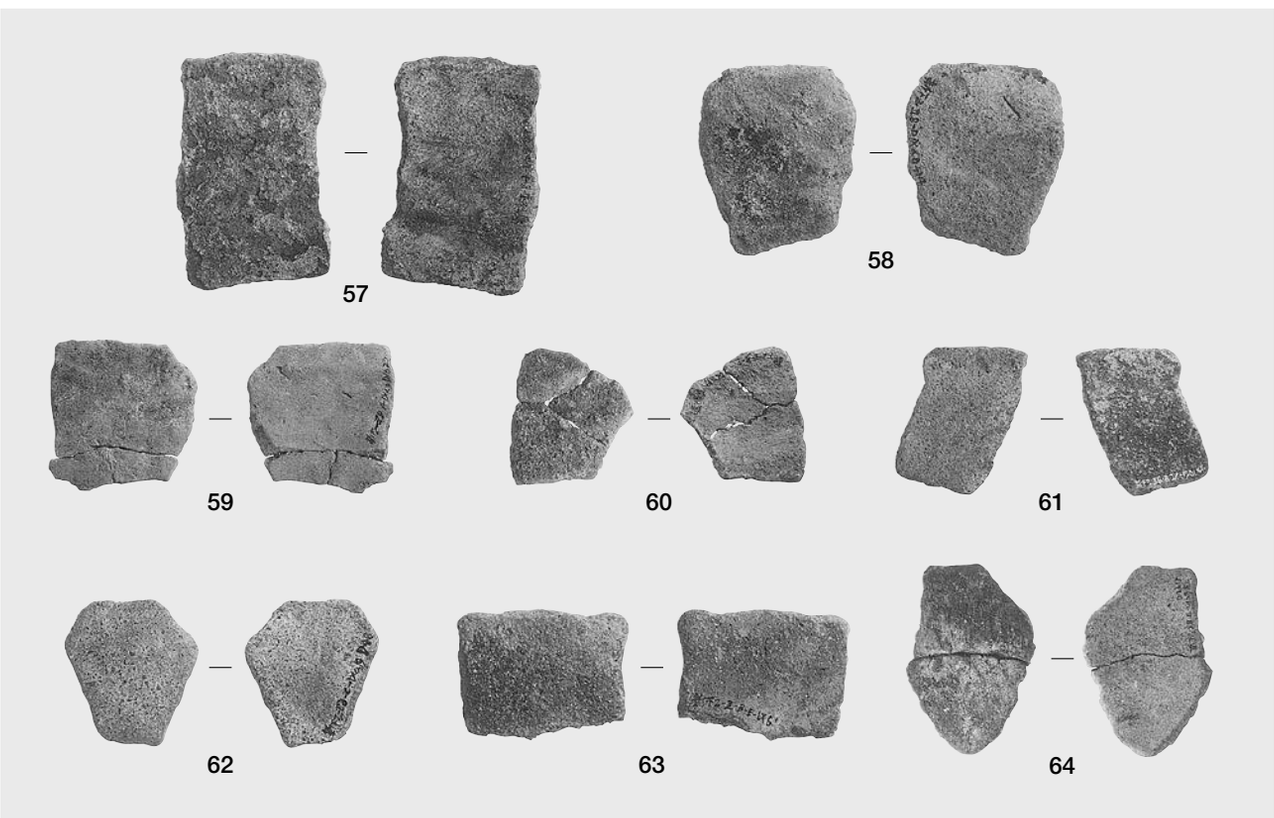
第54図　早期土器 4（爪形文　Ⅱ類b(41～48)・底部(49・50)・無文(51～56)）



図版91　早期土器 4



第55図　早期土器５（無文）



図版92　早期土器５

第13節　石器・石製品（第56図～第62図）

今回の調査で、石器53点、石製品４点、石材11点出土している（第21表）。今回の報告では、石器と石製品を中心に報告したい。石器を第56～61図に示し、石製品を第62図に示した。以下、器種ごとに記述する。なお、個々の遺物に関しては観察表にまとめた（第22表）。

【石器】（第56図１～第61図34）

今回の調査によって石器が53点、石材が11点出土している。Ⅰ地区からⅢ地区までさまざまな石器が出土しているが今回の調査によって時期ごとの器種構成が大まかに窺えた。以下に記す。

石斧（第56～57図）

Ⅰ群　貝塚時代早期相当の爪形文土器と共伴する一群。

局部磨製石斧（９～11）

打製によりバチ形に成形した後、石斧側面を敲打により整形し刃部のみを磨製で仕上げている。

Ⅱ群　貝塚時代後期相当以降の石斧群（１～７）

A類　平面観が幅広な長方形状を呈するもので側面が板状に薄く全面磨製で仕上げられている。(1)

B類　平面観が細長い棒状を呈しており、局部に稜を持たず、全体的に丸みを持つ石斧。（２・３）

C類　小型の石斧で、バチ形と短冊形の二形態が今回確認できた。

C-ⅰ　平面観がバチ形の小型の石斧。今回の資料では、片刃が多く見られる。（６・７）

C-ⅱ　平面観が短冊形の小型の石斧。今回の資料では、両刃が多く、片刃も見られた。（４・５・８）

砥石（第59図19～第61図30）

今回の調査で手持砥石と置砥石の２種類が得られた。手持砥石は、軽量で縦長の棒状を呈しており側面で磨るため、削られ横断面が菱形をなす（19～20）。置砥石は、重量が重く板状を呈しており内外面を磨り面として利用している（22～30）。貝塚時代早期の層からは手持砥石と置砥石の両方が得られている。

球状石器（第61図32）

砂岩製で上端部に尖部を有し下端部は球状を呈する。調整痕が不明瞭で自然面を多く残している資料である。用途は不明で、野国貝塚でも発見されている。

敲打具（第58図15～18）

母材として河原石や身近にあった石を用いて敲打具として使用している。貝塚時代早期と後期の層に伴うものを図化した。使用方法は、ほぼ同じで側面を敲打面として利用し、その他には自然面が残存している。第58図15は、側面を利用するとともに表裏にも敲打痕を残している資料である。

石鏃（第57図12～14）

黒曜石製とチャート製の2種類が得られた。平面観が二等辺三角形状のもの（12・14）と正三角形状のもの（13）が得られた。同図13には、鏃と矢を接続するところに抉りがいれられている。

磨石（第61図31）

上下端部に叩いたり、磨った痕跡が見られ、磨り石として使用されていたと思われる。今回の調査で得られた資料の中には磨り石に伴うすり皿が共伴して出土していない。今後の調査に期待したい。

用途不明（第61図33・34）

磨き面を有する石器で、全体像が不明なものを図化した。

【石製品】（第62図35～38）

今回の調査で石製品とされるものは４点出土している。呪術的な製品及び用途が不明なものが得られている。各遺物について以下に記す。

同図35は、粘板岩製で平面観が楕円形を呈しており、側縁部に大きな抉りを２つ入れ、側面部の稜を削り丸みを帯びさせている。中心に一つ穿孔し、表面に9つ円形の窪みを施している。

鹿児島県草野貝塚に類似する資料が出土している（草野貝塚の第107図78）。草野貝塚出土の製品は軽石製である。この製品は、松山式土器やそれよりも新しい遺物と共伴して出土している。

同図36は、側面部が破損しており、全形を窺うことができない資料である。砂質であることから砥石の可

能性もあるが、擦った痕跡が見られなかった。側面部に刃部状になっており、そこに敲打痕が残る資料である。

同図37は、砂岩製で皿状を呈し、内面に凹凸が多くみられる資料である。

同図38は、安山岩製で破損していて全体像が窺えない資料である。内外面に段を有している。砥石のように擦った痕跡はなく段のみが残存している。

第21表　石器・石材・石製品出土状況

出土地＼器種				石器													石材	石製品	合計
				石斧					敲打具	石鏃	球状石器	磨き面を有する石器	磨り石	砥石	用途不明				
				Ⅰ群	Ⅱ群														
				局部磨製	A類	B類	C−ⅰ類	C−ⅱ類											
Ⅰa層	Ⅰ地区	ハ	3						1	1									2
Ⅰb層	Ⅰ地区	ニ	5							1									1
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明					1												1
Ⅰ層ミゾ	Ⅱ地区	ヌ	16									1		1					2
Ⅱ層	Ⅲ地区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明										1							1
Ⅲ層	Ⅰ地区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明													1				1
	Ⅲ地区	ネ	32													1			1
Ⅲe層	Ⅱ地区	ヌ	12						1										1
Ⅳ層	Ⅱ地区	ヌ	18			1		2	1										4
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明										1							1
	TP③											1							1
川跡2層	Ⅰ地区(川跡1)	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明														1			1
	Ⅱ地区(川跡2)	ヲ	10								1								1
	Ⅲ地区(川跡3)	ラ	32													1			1
川跡3層	Ⅰ地区(川跡1)	ロ	5									1							1
		ハ	4													1			1
			5						1							1			2
		ニ	4						1			2				2			5
			5									1						1	2
			8													1			1
		ヘ	5						1										1
	Ⅱ地区(川跡2)	ヌ	10		1									1					2
	Ⅲ地区(川跡3)	ラ	34									1							1
Ⅴ層	Ⅰ地区	ト	1															1	1
		ヌ	8													1			1
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明														1			1
	Ⅱ地区	ヌ	18										1						1
	Ⅲ地区	ラ	30													1			1
		ウ	24												1				1
			26												1				1
		ク	26									1							1
		マ	24											1					1
			26				1												1
Ⅸa層	Ⅱ地区	ヌ	10	1										2					3
		D												1					1
		E												1					1
Ⅸb層	Ⅱ地区	B												2					2
		D		1															1
Ⅸc層	Ⅱ地区	D												1					1
Ⅸ層不明	Ⅱ地区	E							1										1
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		1					1										2
層序不明	Ⅰ地区	ハ	5											1					1
		ニ	3							1									1
		ホ	4					1											1
		ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明					1											1	2
	Ⅱ地区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明				1								2					3
	TP①											1		1				1	3
合　計				3	1	2	3	3	8	3	1	11	1	14	3	11		4	68

第22表　石器・石製品観察一覧a

単位:cm

挿図番号 図版番号		器種		分類		法量				石質	観察事項	出土地点 層/遺構
				群	類	長さ	幅	厚さ	重量(g)			
第56図・図版93	1	石器	石斧	Ⅱ群	A類	11.7	8.5	2.1	408.5	緑色片岩	平面観が扁平で幅広の磨製両刃石斧である。敲打で成形と整形を行い、研磨仕上げをしている。使用され、上端部が破損している。	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明 層不明
	2				B類	11.5	5.3	3.0	287.7	緑色片岩	平面観が縦長の略短冊状を呈し、横断面形が横長の楕円形をなす。河原石を用い、全面研磨で仕上げている磨製両刃石斧である。使用され、上端部が破損している。	Ⅱ地区 ヌ-18 Ⅳ層
	3				B類	13.2	6.3	3.7	558.5	緑色片岩	平面観が縦長の略短冊状を呈し、横断面形が横長の楕円形をなす。河原石を用い、全面研磨で仕上げている磨製両刃石斧である。柄を設置しやすくするため両面に削りが見られる。使用され、上端部が破損している。	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明 層不明
	4				C-ⅱ類	6.7	3.7	1.1	53.5	緑色千枚岩	平面観が短冊形を呈し、片刃の小型磨製石斧である。刃部及び側面を研磨し、片方を打製のみに留めている。裏面は自然面が残る。使用され、上端部が破損している。	Ⅱ地区 ヌ-18 Ⅳ層
	5				C-ⅱ類	8.8	4.4	1.7	110.0	緑色片岩	平面観が短冊形を呈し、両刃の小型磨製石斧である。敲打による成形後、全面研磨により仕上げている。若干成形時の敲打痕が残存。使用され、上端部が破損している。	Ⅱ地区 ヌ-18 Ⅴ層直上
第57図・図版94	6		石斧		C-ⅰ類	9.0	9.3	1.7	105.7	緑色千枚岩	平面観が幅広のバチ形を呈し、刃部に敲打痕が残る。片刃の小型磨製石斧である。敲打による成形後全面研磨されている。	Ⅰ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明 Ⅰb層
	7				C-ⅰ類	8.0	4.6	1.6	126.4	緑色千枚岩	平面観が幅広のバチ形を呈し、刃部に敲打痕が残る。片刃の小型磨製石斧である。敲打による成形後全面研磨されている。使用され、上端部が破損している。	Ⅲ地区 マ-26 Ⅴ層
	8				C-ⅱ類	6.5	3.0	0.9	48.4	緑色片岩	平面観が短冊形を呈し、両刃の小型磨製石斧である。敲打による成形後、全面研磨により仕上げている。若干成形時の敲打痕が残存。	Ⅰ地区 ホ-4 層不明
	9			Ⅰ群	局部磨製石斧	残10.4	5.2	残1.0	119.1	粘板岩	平面観が短冊状を呈している。側面に敲打による整形が見られる。裏面は破損しており、刃部も破損している。造りや共伴関係から局部磨製石斧と思われる。	Ⅱ地区 ヌ-10 Ⅸa層
	10				局部磨製石斧	残7.1	7.3	2.0	180.1	緑色片岩	平面観がバチ形を呈する。側面が若干厚く、全面に成形時の敲打痕が見られる。刃部のみ磨製されている両刃の局部磨製石斧である。上端部が破損している。爪形文土器と共伴する。	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明 Ⅸ層
第57図・図版94	11			Ⅰ群	局部磨製石斧	残8.3	6.2	2.0	162.3	砂岩 (ﾆｰﾋﾞの骨)	平面観がバチ形を呈する。側面が若干厚く、表裏には自然面を残し側面に成形時の敲打痕が見られる。刃部は破損しているが、共伴関係から局部磨製石斧であると推測される。	Ⅱ地区 Dｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層

第22表　石器・石製品観察一覧b

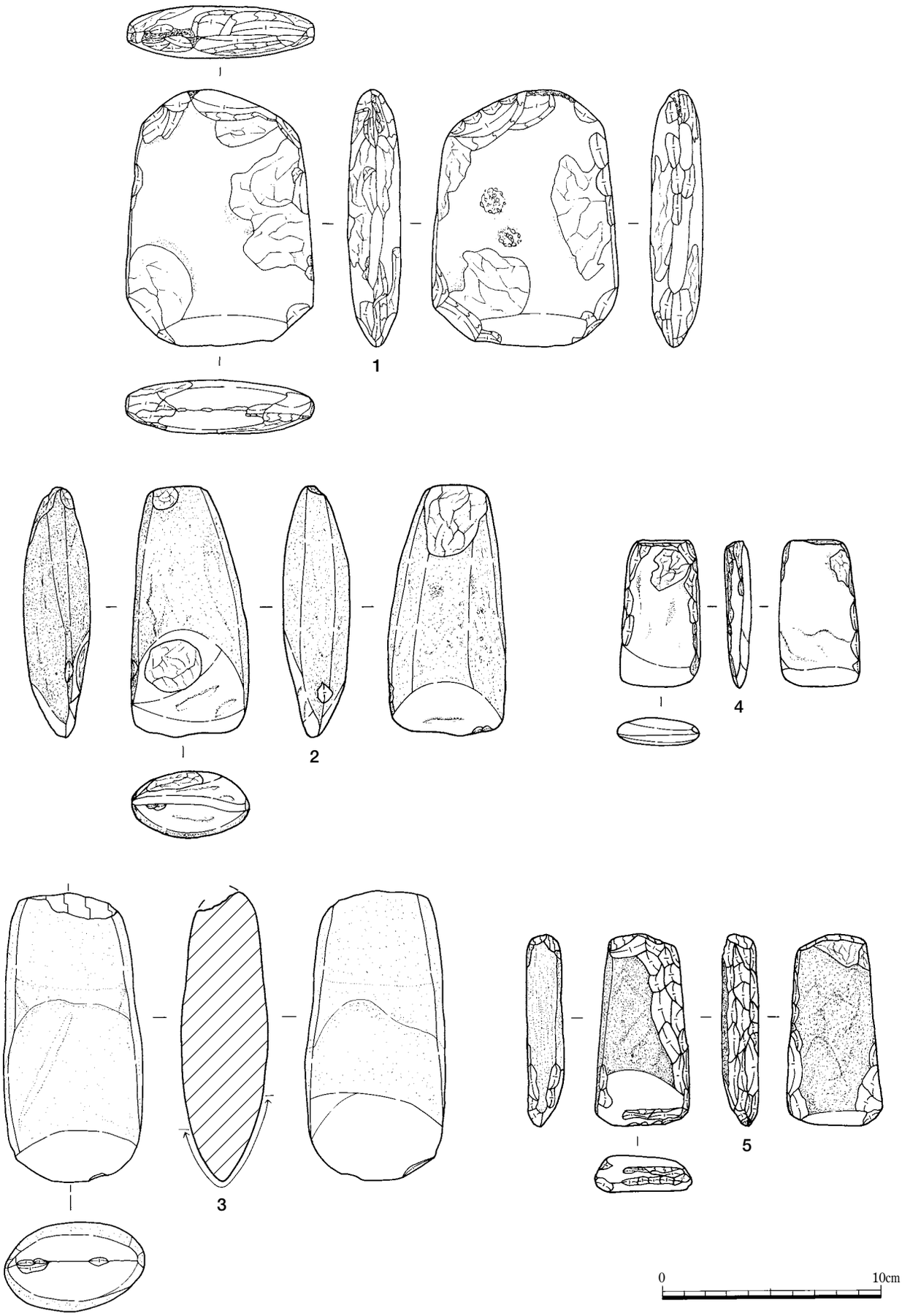
単位:cm

挿図番号 図版番号		器種		分類		法量				石質	観察事項	出土地点 層/遺構
				群	類	長さ	幅	厚さ	重量(g)			
第57図・図版94	12	石器	石鏃	石鏃		残1.6	1.6	0.2	0.8	黒曜石 (黒色)	平面観が縦長の二等辺三角形を呈する。押圧剥離によって整形している。上端部が破損している。	Ⅰ地区 ハ-3 Ⅰa層
	13					2.0	2.3	0.3	1.8	チャート (明緑色)	平面観が縦長の二等辺三角形を呈し、下部にえぐりがみられる。押圧剥離によって整形している。	Ⅰ地区 ニ-5 Ⅰb層
	14					2.5	1.6	0.1	1.3	チャート (暗緑色)	平面観が縦長の二等辺三角形を呈する。押圧剥離によって整形している。	Ⅰ地区 ニ-3 層不明
第58図・図版95	15		敲打具	敲打具		14.5	10.4	5.8	1565.1	砂岩	平面観が幅広の楕円形を呈し、全面研磨されており、4側面及び表裏中央部に敲打痕が見られる。	Ⅰ地区 ヘ-5 川1-3層
	16					9.2	5.5	3.1	264.9	緑色片岩	平面観が縦長の略短冊形を呈する。河原石を用い片側面と上下面に敲打痕が見られる。	Ⅰ地区 ハ-5 川1-3層
	17					10.3	8.0	3.1	354.8	砂岩 (ﾆｰﾋﾟの骨)	平面観が扁平で幅広の楕円形をなす。自然面を多く残し、側面のみに敲打痕を有する。爪形文土器と共伴関係にある。	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明 Ⅸ層
	18					12.8	8.3	6.7	886.3	砂岩	同図15と同様に平面観が幅広の楕円形を呈していたと思われる。破損してからも側面を敲打具として使用している。	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸ層
第59図・図版96	19		砥石	手持砥石		12.7	5.6	2.9	202.5	玢岩	手持用の砥石。平面観が縦長の楕円形を呈し、横断面形が菱形をなす。磨面が四面ある。	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明 層不明
	20					残5.8	残6.7	2.0	110.3	砂岩	手持用の砥石。平面観が縦長の三角形を呈し、横断面形が菱形をなす。磨面が四面ある。	Ⅱ地区 Dｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層
	21					9.5	4.1	1.7	84.9	砂岩	手持用の砥石。平面観が縦長の楕円形を呈し、横断面形が菱形をなす。磨面が四面ある。	Ⅱ地区 ヌ-10 Ⅸa層
	22			置砥石		残7.75	残6.7	4.5	302.2	砂岩	全形を想定すると重量が比較的重いことから置砥石の破片と思われる。表裏と片側面に磨面が残存している。	TP① 層不明
	23					残6.3	残7.1	残3.5	271.5	砂岩	全形を想定すると重量が比較的重いことから置砥石の破片と思われる。表面に磨面が残存している。	Ⅱ地区 Eｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸa層
	24					残6.2	残6.1	残2.4	113.3	砂岩	全形を想定すると重量が比較的重いことから置砥石の破片と思われる。表面と片側面に磨面が残存している。	Ⅱ地区 ヌ-10 Ⅸa層
	25					残9.2	残9.9	残4.4	533.6	砂岩	全形を想定すると重量が重いことから置砥石の破片と思われる。表面に磨面が残存している。	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層

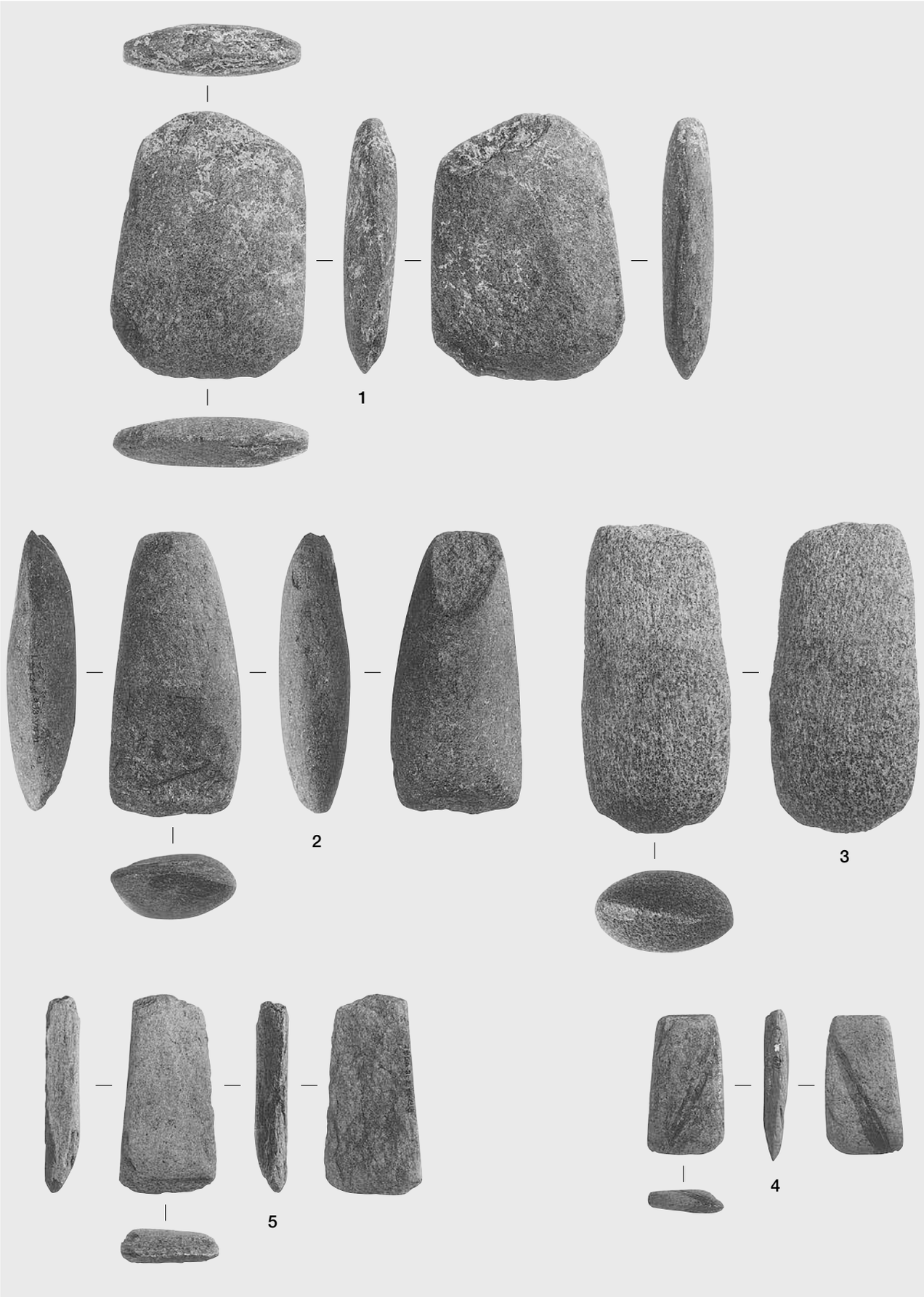
第22表　石器・石製品観察一覧c

単位:cm

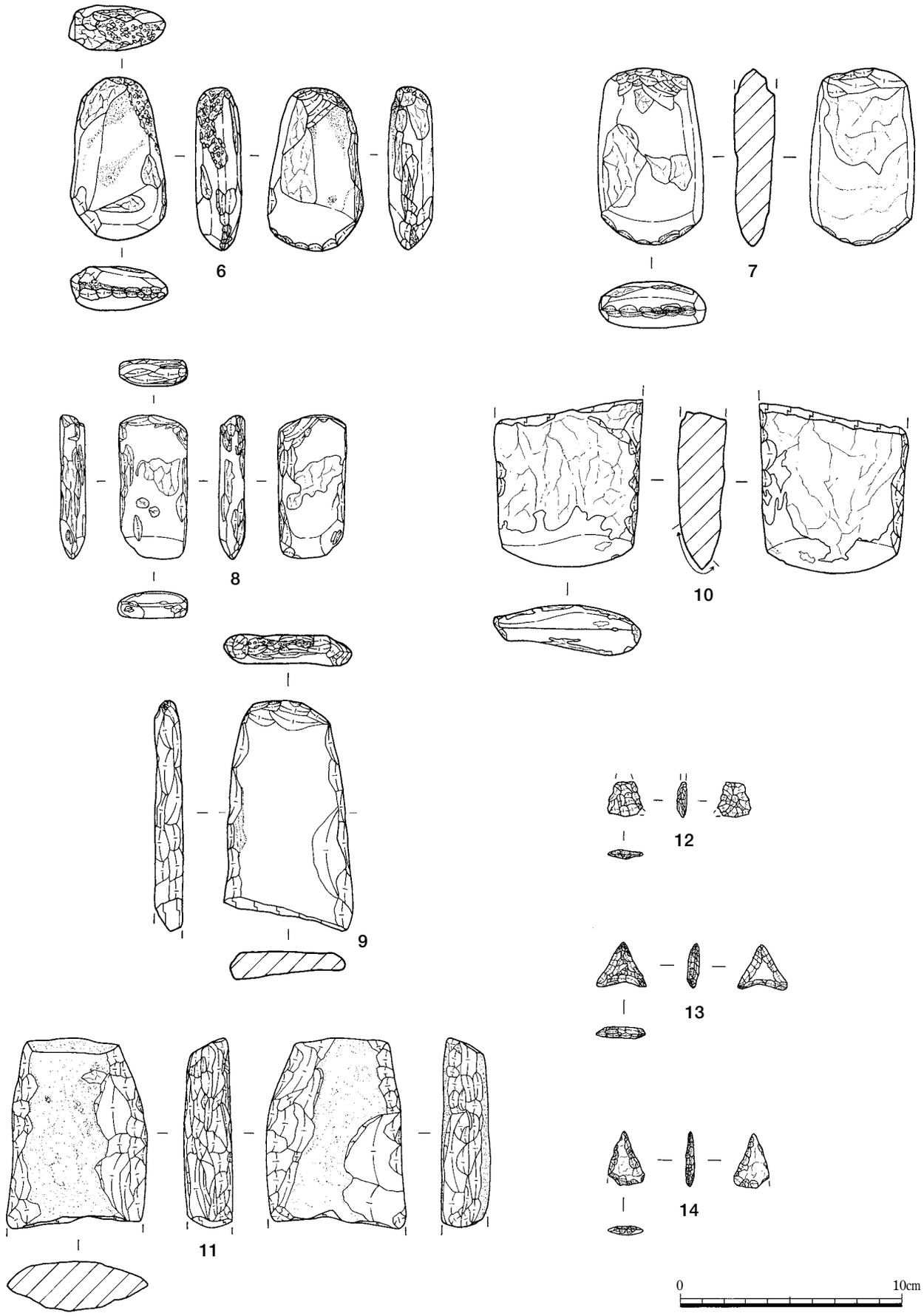
挿図番号 図版番号		器種		分類		法量				石質	観察事項	出土地点 層/遺構
				群	類	長さ	幅	厚さ	重量(g)			
第60図・図版97	26	石器	砥石	置砥石		残12.4	残7.8	1.3	207.3	砂岩	平面観が隅丸の長方形をなす。破損して4分の1ほど残存している。表裏に磨面が残存している。	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層
	27					残7.6	残6.8	残2.1	144.0	砂質千枚岩	破損していて全体観が不明である。表面に磨面が残存している。	Ⅲ地区 マ-24 Ⅴ層
	28			置砥石		残10.7	残 11.5	3.2	508.2	砂岩	平面観が隅丸の長方形をなす。表裏に磨面が残存している。	Ⅱ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明 層不明
	29					18.0	残 14.0	2.1	1177.1	砂岩	平面観が隅丸の長方形をなす。表裏に磨面が残存している。	Ⅱ地区 Dｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸc層
第61図・図版98	30	石器	砥石	置砥石		残23.9	残 15.5	1.8	1172.4	砂岩 (ﾆｰﾋﾞの骨)	平面観が隅丸の長方形をなす。表裏に磨き面が残存している。	Ⅰ地区 ハ-5 層不明
	31		磨石	磨石		5.9	4.6	3.4	161.5	変輝緑岩	平面観が楕円形をなす。全面に磨り面が残存する。	Ⅱ地区 ヌ-18 Ⅴ層
	32		球状	球状石器		7.0	6.8	5.7	353.3	砂岩 (ﾆｰﾋﾞの骨)	平面観が球状をなし、上端部に尖部を有す。	Ⅱ地区 ヲ-10 川2-2層
	33		磨き面を持つ石器	詳細不明		残13.1	残5.4	残5.5	492.0	緑色片岩	平面観は不明である。表面に磨き面を有する。	Ⅲ地区 ラ-34 3-3層
	34					残9.0	残5.1	残3.1	253.0	緑色片岩	平面観は不明である。多面に磨き面を有する。	TP① 層不明
第62図・図版99	35	石製品	石製品			2.7	6.3	0.3	15.9	粘板岩	平面観が隅丸の長方形状を呈し下端部に二箇所えぐりがはいる。中心に穿孔が見られ、表面に8箇所円形のくぼみが見られる。	TP① 層不明
	36					残12.1	残7.8	3.5	481.5	砂岩 (ﾆｰﾋﾞの骨)	平面観は残存状況からは推測不明である。下端部に刃部らしき形態を持ち、敲打痕が残る。砥石の可能性もある。	Ⅰ地区 ト-1 Ⅴ層
	37					残21.0	口径 38.5	2.7	6000.0	砂岩 (ﾆｰﾋﾞの骨)	皿状を呈する。内面に凹凸がみられる。完形ではなく、二分に一ほど残存している。水磨を受けており、明確な製品としての加工痕を確認することができなかった。	Ⅰ地区 ニ-5 川1-3層
	38					残14.0	残 17.4	3.1	1592.2	安山岩	用途不明の石製品。内外面に段を有している。	Ⅰ地区 ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明 層不明



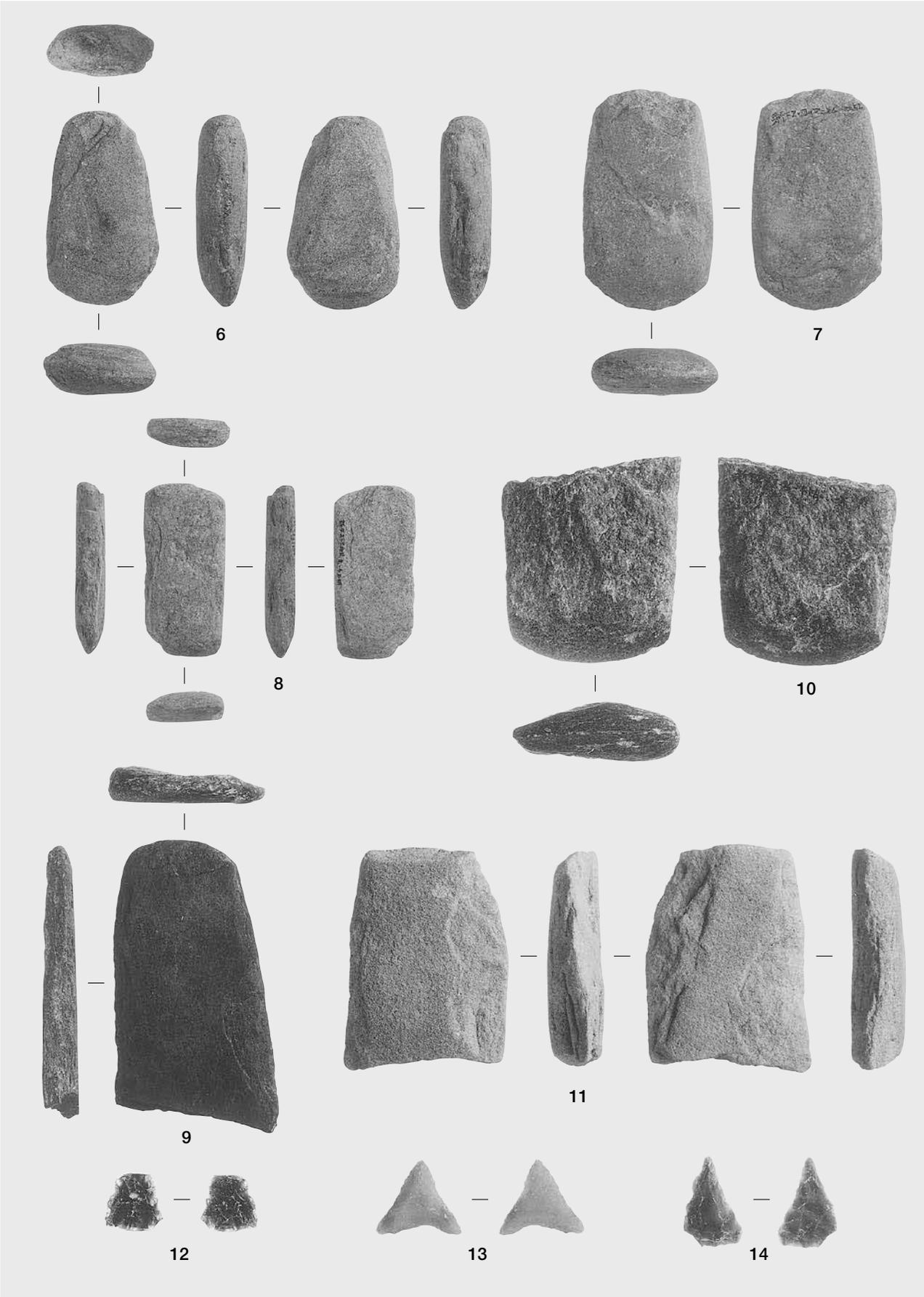
第56図　石器１　石斧１



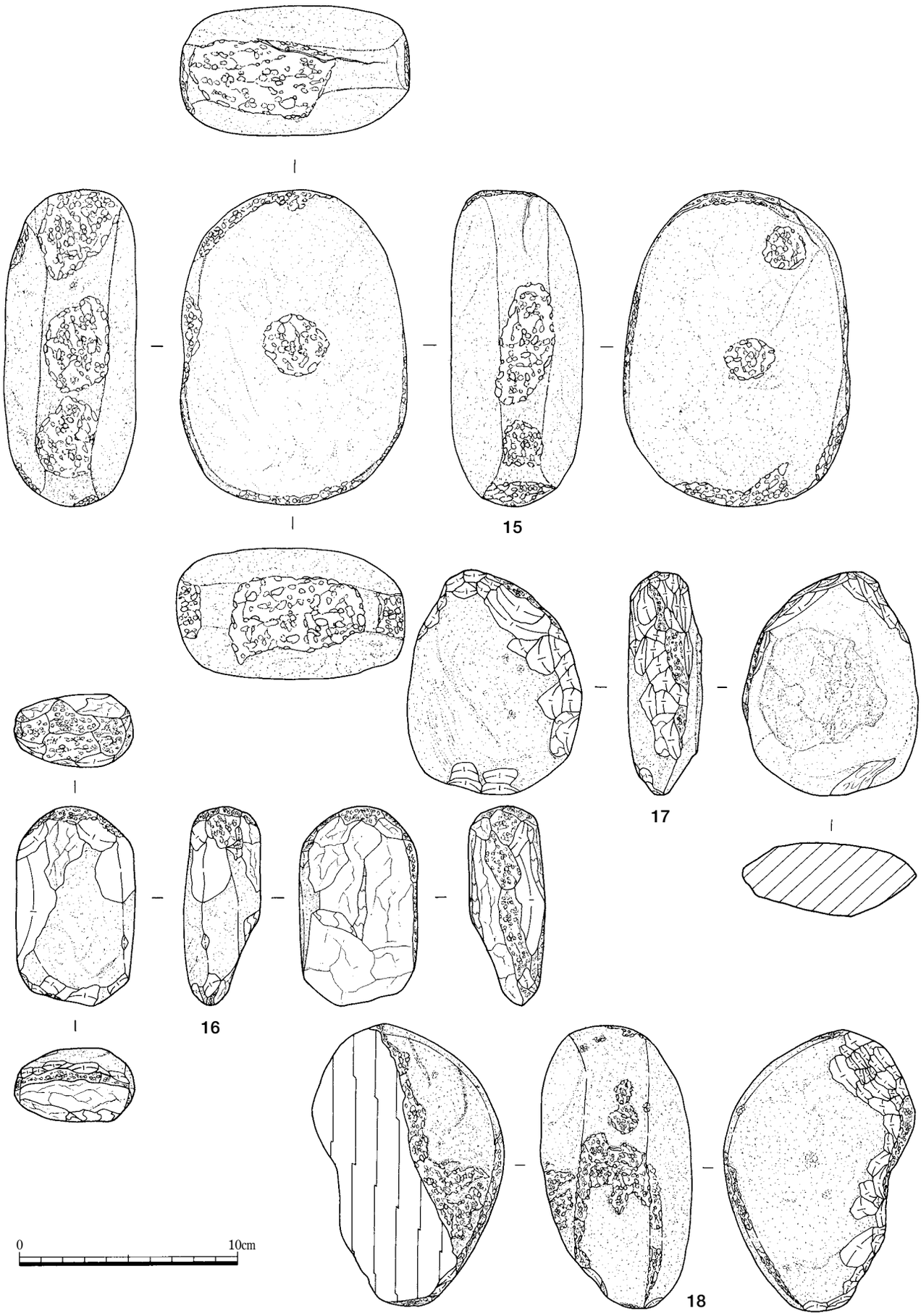
図版93　石器 1



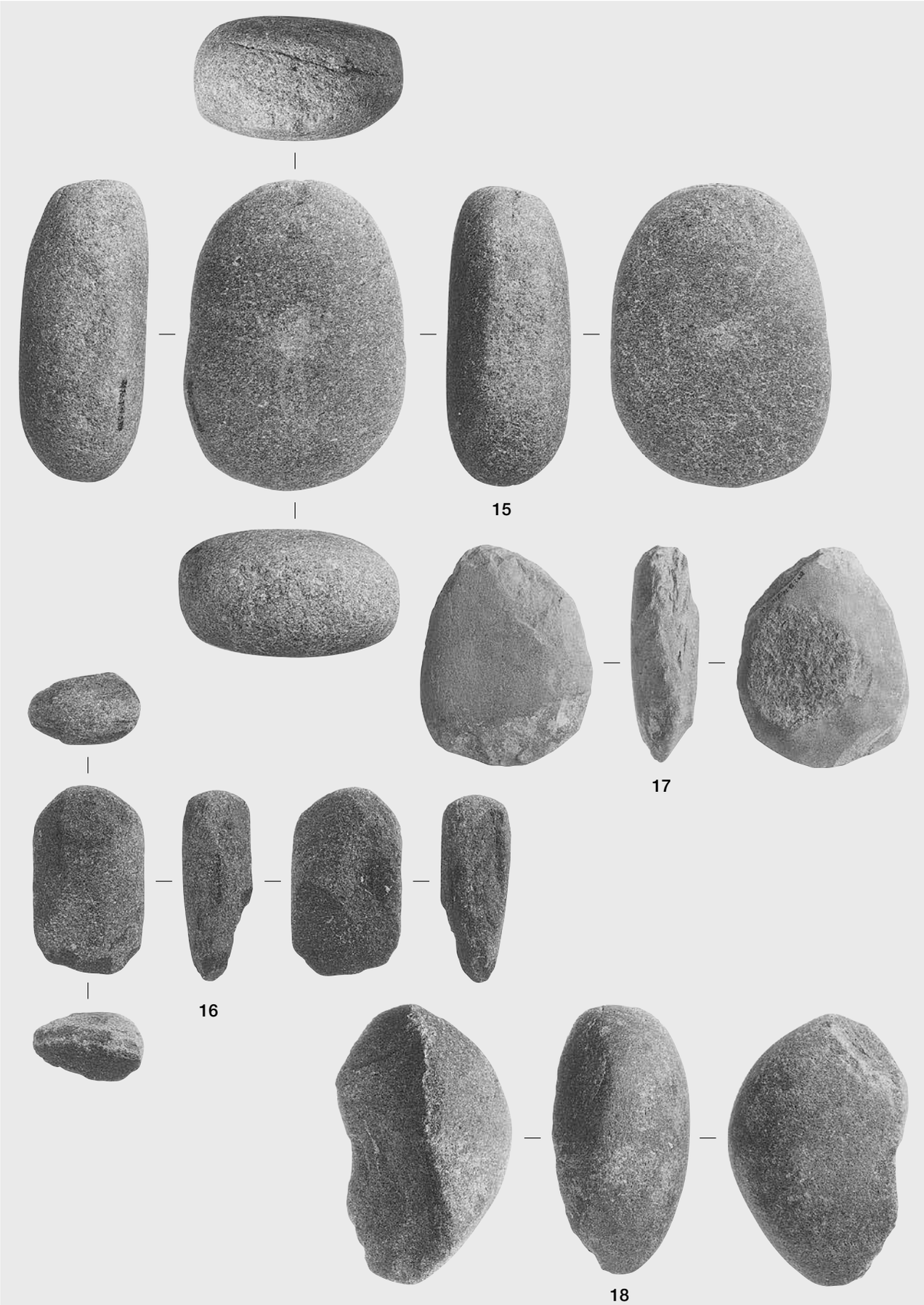
第57図　石器 2　石斧 2 (6～11)　石鏃(12～14)



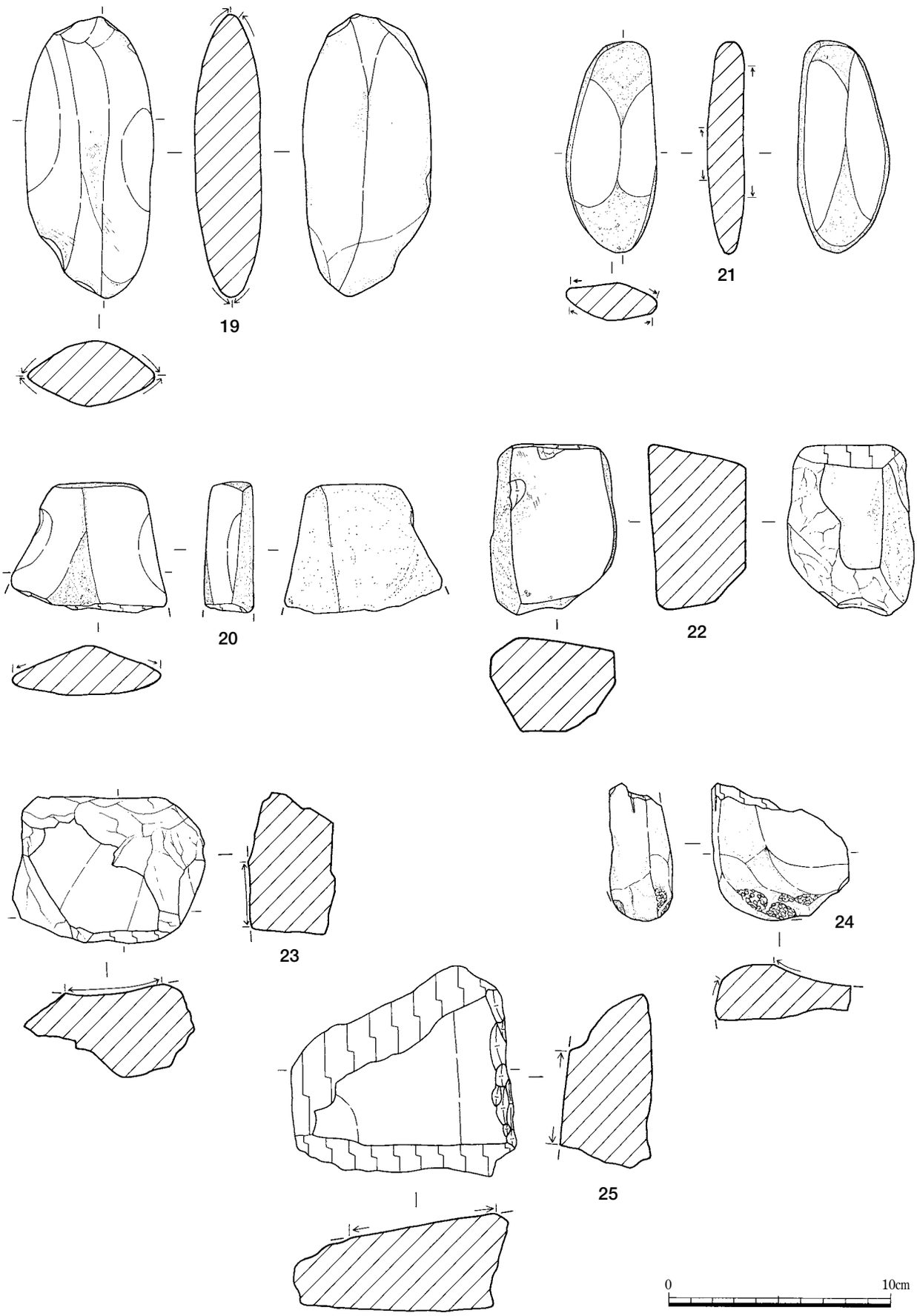
図版94　石器 2



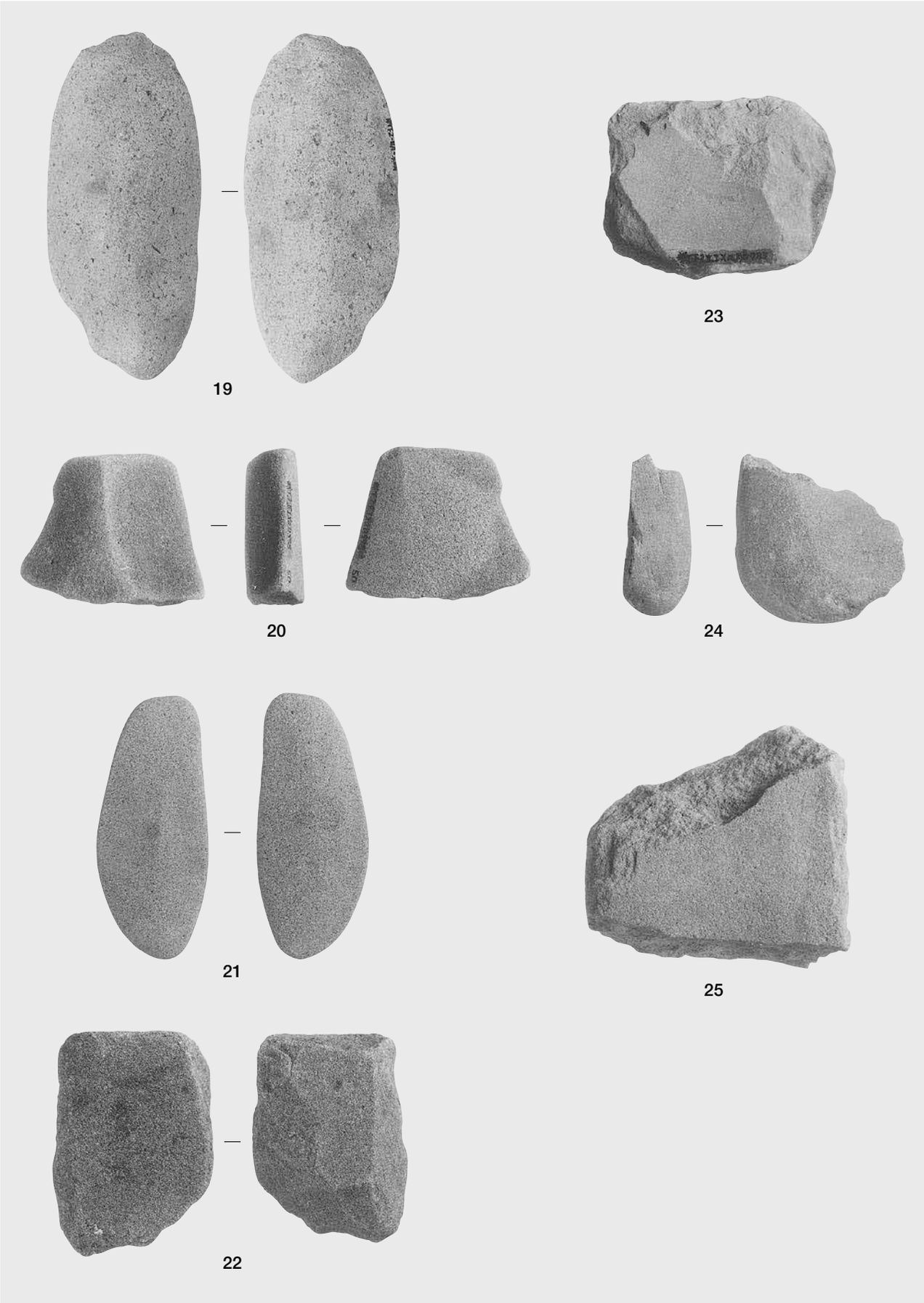
第58図　石器 3　敲打具



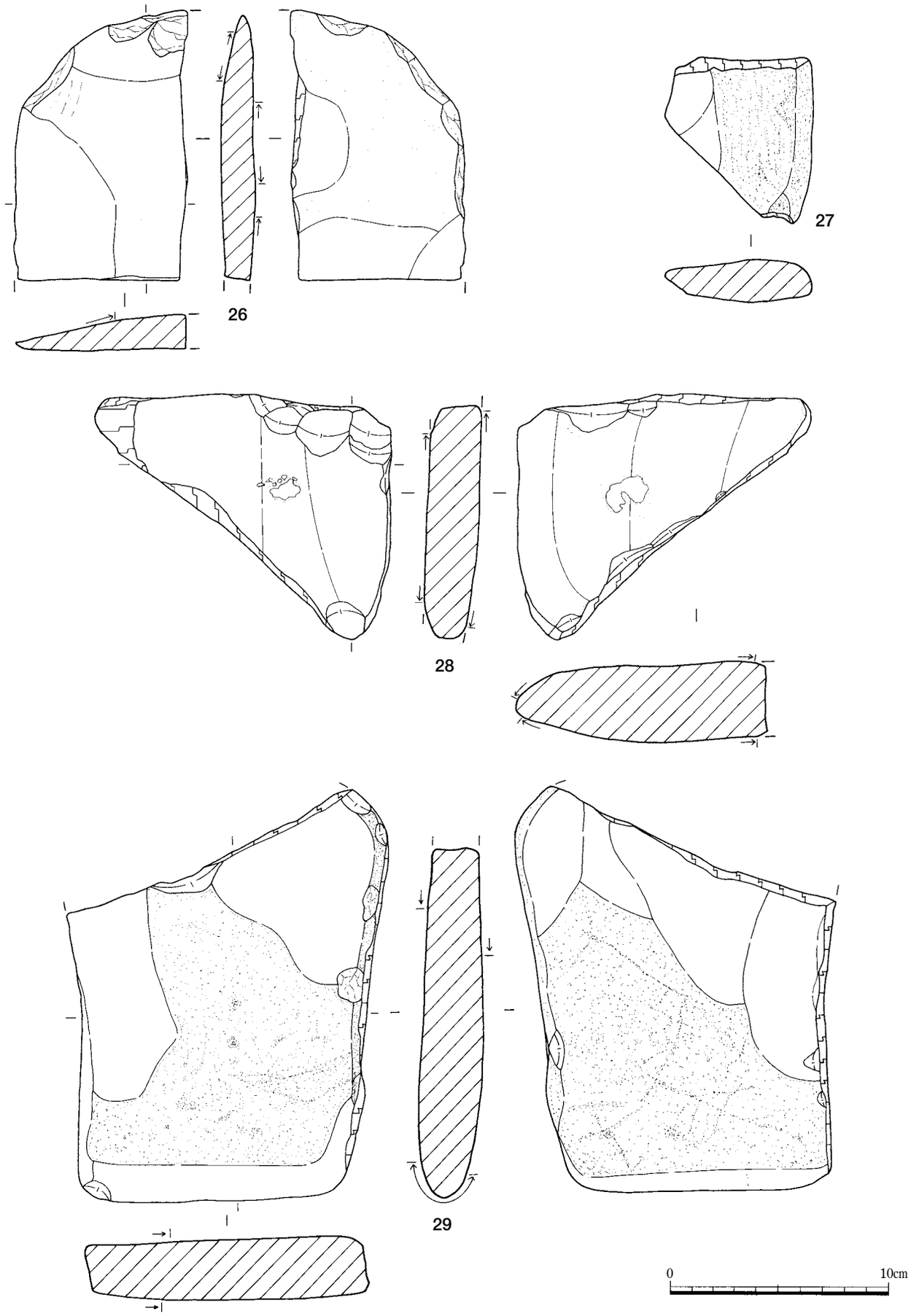
図版95　石器 3



第59図　石器 4　砥石 1



図版96　石器 4

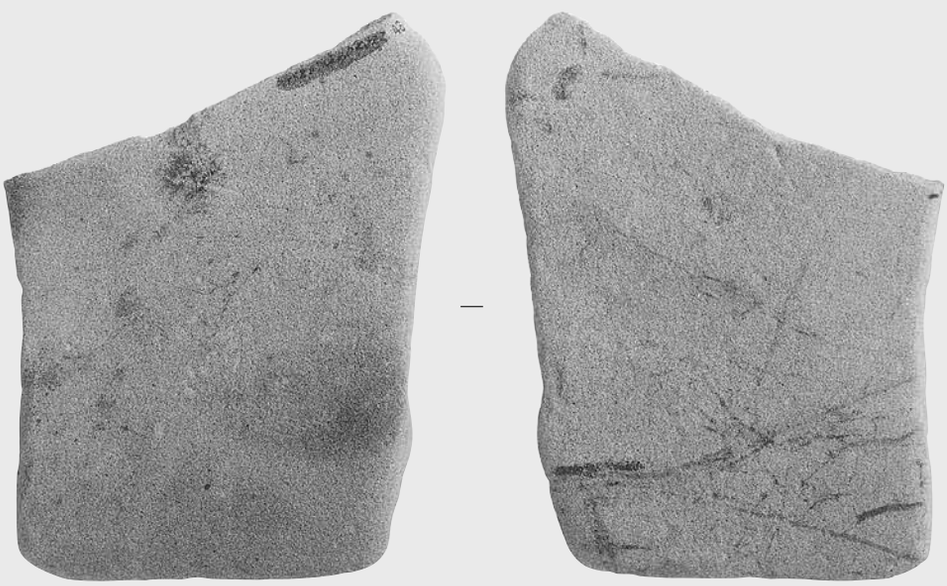


第60図　石器 5　砥石 2

26

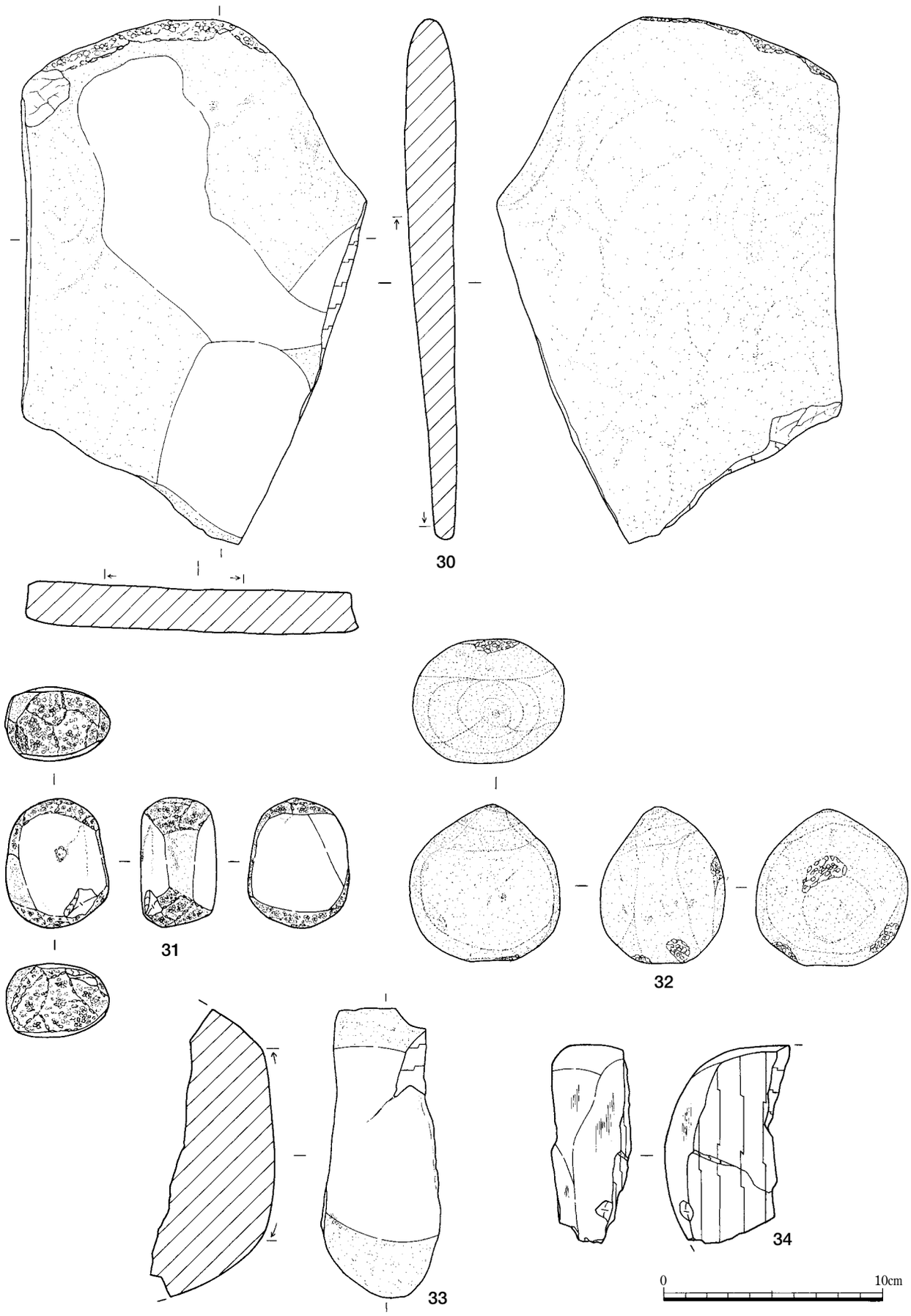
27

28

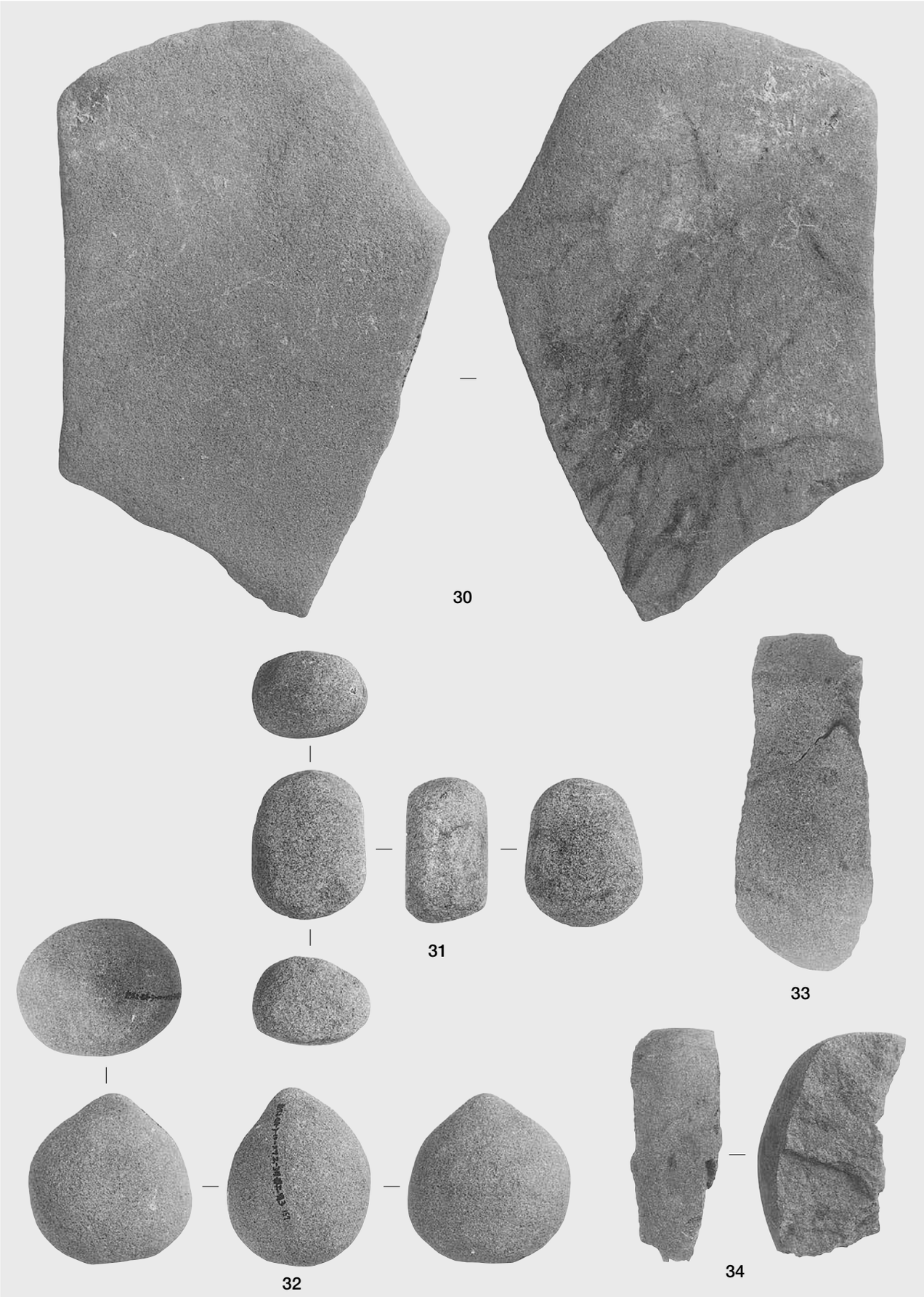


29

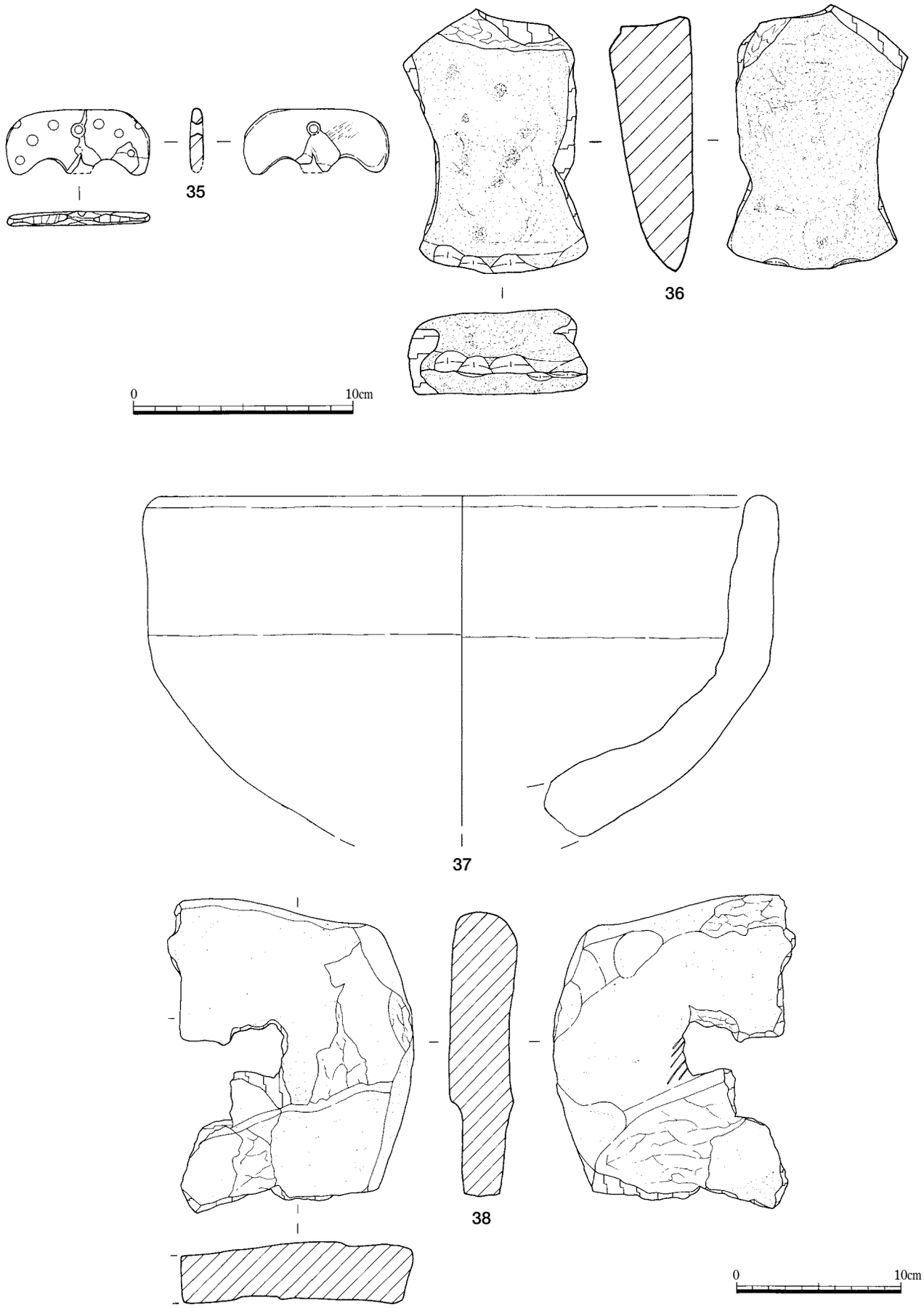
図版97　石器 5



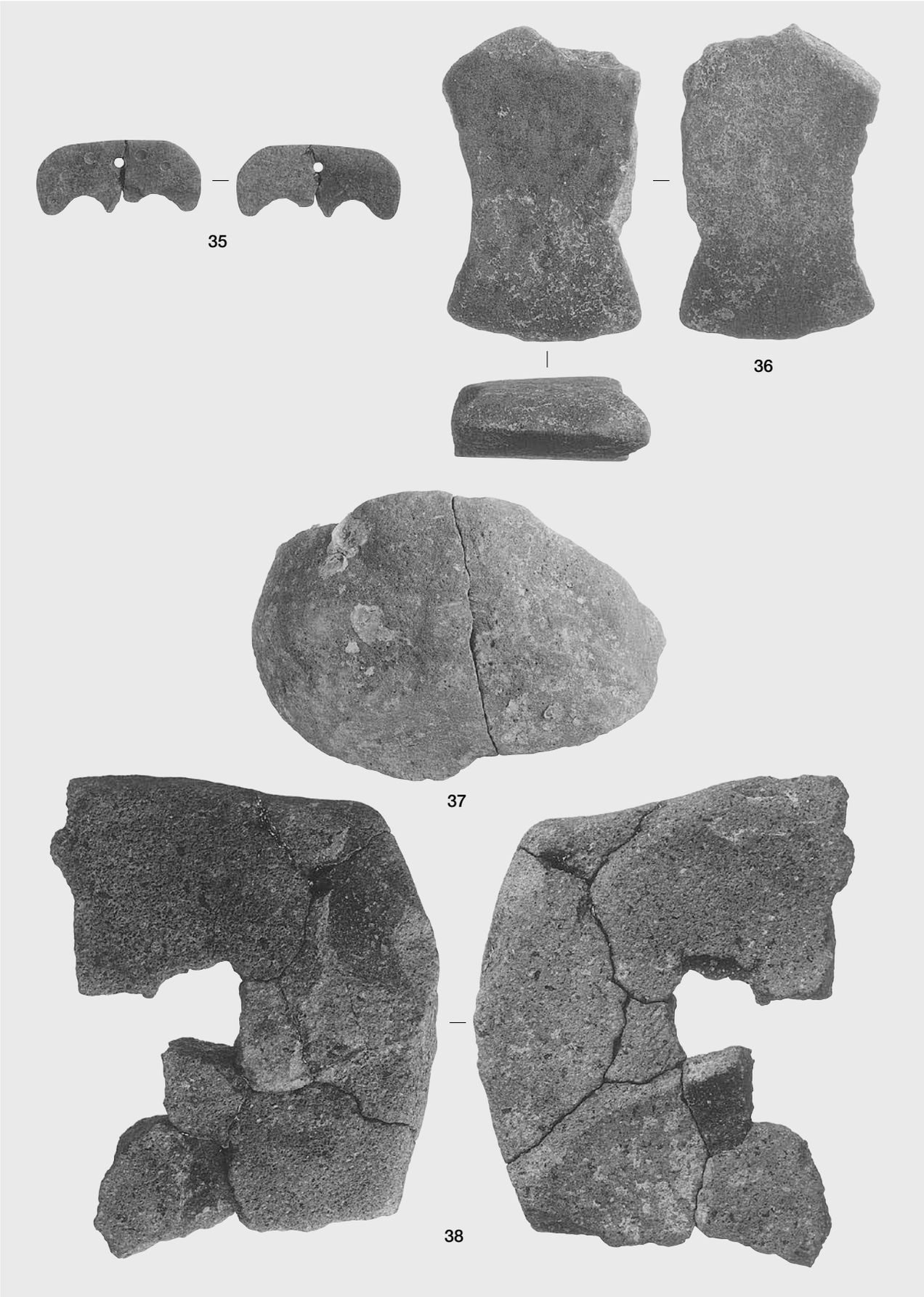
第61図　石器 6　砥石 3 (30)　磨石(31)　球状石器(32)　磨ぎ面を持つ石器(33･34)



図版98　石器 6



第62図　石製品



図版99　石製品

第14節　バレン状製品（第63図）

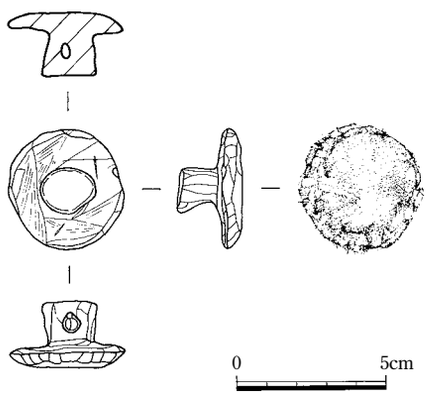
今回の調査では、滑石製石鍋の形状を留めている資料はなく、転用品としてバレン状製品が１点出土した。

滑石製バレン状製品は、伊佐前原第一遺跡発掘調査概報（當銘・安座間　2000）で紹介された石製品である。今回の調査で、T.P①から完形で出土している。出土層序は不明である。

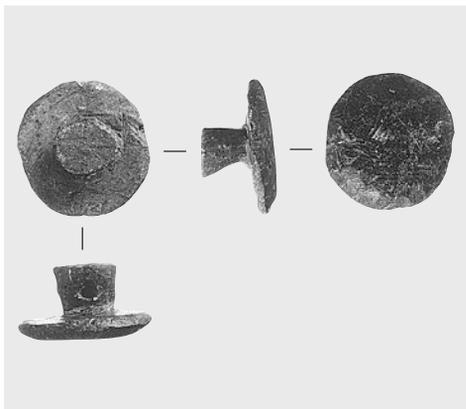
第63図１は、ノミ状工具によって整形されており全面にその痕跡が見られる。平面観は、長軸4.0cm、短軸3.0cmの楕円形を呈し、側面の幅が2.1cmである。側面に把手があり、長さが1.4cmで直径0.4cmの穿孔が見られる。外面全体に煤が付着している。他の類例資料と比較すると比較的小さい製品であると言える。

【類例】

滑石製バレン状製品の形状が類似する資料に関して紹介する。（第23表）



第63図　バレン状製品



図版100バレン状製品

第23表　バレン状製品・模造品の県内出土一覧

単位：cm

No.	遺跡名	市町村	滑石製	他の石材	長軸×短軸			幅	孔（直径）	記載
1	新城下原第二遺跡	宜野湾市	○		4.0	×	3.0	2.1	0.4	本報告
2	大里エーヤマ遺跡	沖縄市	○		4.7	×	4.9	2.0	0.4	沖縄市教育委員会 『沖縄市の埋蔵文化財-遺跡分布調査報告-』1982
3	伊佐前原第一遺跡	宜野湾市	○		残2.8	×	3.3	残1.3	0.4	沖縄県埋蔵文化財センター 『伊佐前原第一遺跡ー宜野湾北中城線(伊佐～普天間)道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書(Ⅲ)ー』2001
4	後兼久原遺跡	北谷町	○		9.0	×	7.5	復元3.9	0.5	沖縄県立埋蔵文化財センター　『後兼久原遺跡ー米軍送油管移設に係る緊急発掘調査報告書ー』2004
5	後兼久原遺跡	北谷町	○		残4.9	×	残2.7	2.7	復元0.7	北谷町教育委員会 『後兼久原遺跡ー庁舎建設に係る文化財発掘調査報告ー』2003
6			○		残3.5	×	復元1.5	5.5	復元0.6	
7	銘苅原遺跡	那覇市	○		3.8	×	1.9	2.6	0.4	那覇市教育委員会 『銘苅原遺跡ー那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅳー』1997
8	伊良波東遺跡	豊見城市	○		残2.8	×	残2.8	残1.1	0.4	豊見城村教育委員会 『伊良波東遺跡ー伊良波小・中学校建設工事に伴う緊急発掘調査報告ー』1987
9	糸数城跡	玉城村		○(軽石)	残11.3	×	残6.5	残5.1	復元0.9	玉城村教育委員会 『糸数城跡ー発掘調査報告書Ⅰー』1991
10				○(軽石)	残6.2	×	残4.7	残2.4	ー	
11				○(軽石)	残4.9	×	残4.7	残3.3	ー	
12	今帰仁城跡	今帰仁村		○(軽石)	残6.1	×	復元5.9	残2.5	復元1.2	今帰仁村教育委員会 『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅱ』1991

当表は、報告書記載の計測数値及び実測図を用いて大まかな規格を計測した。

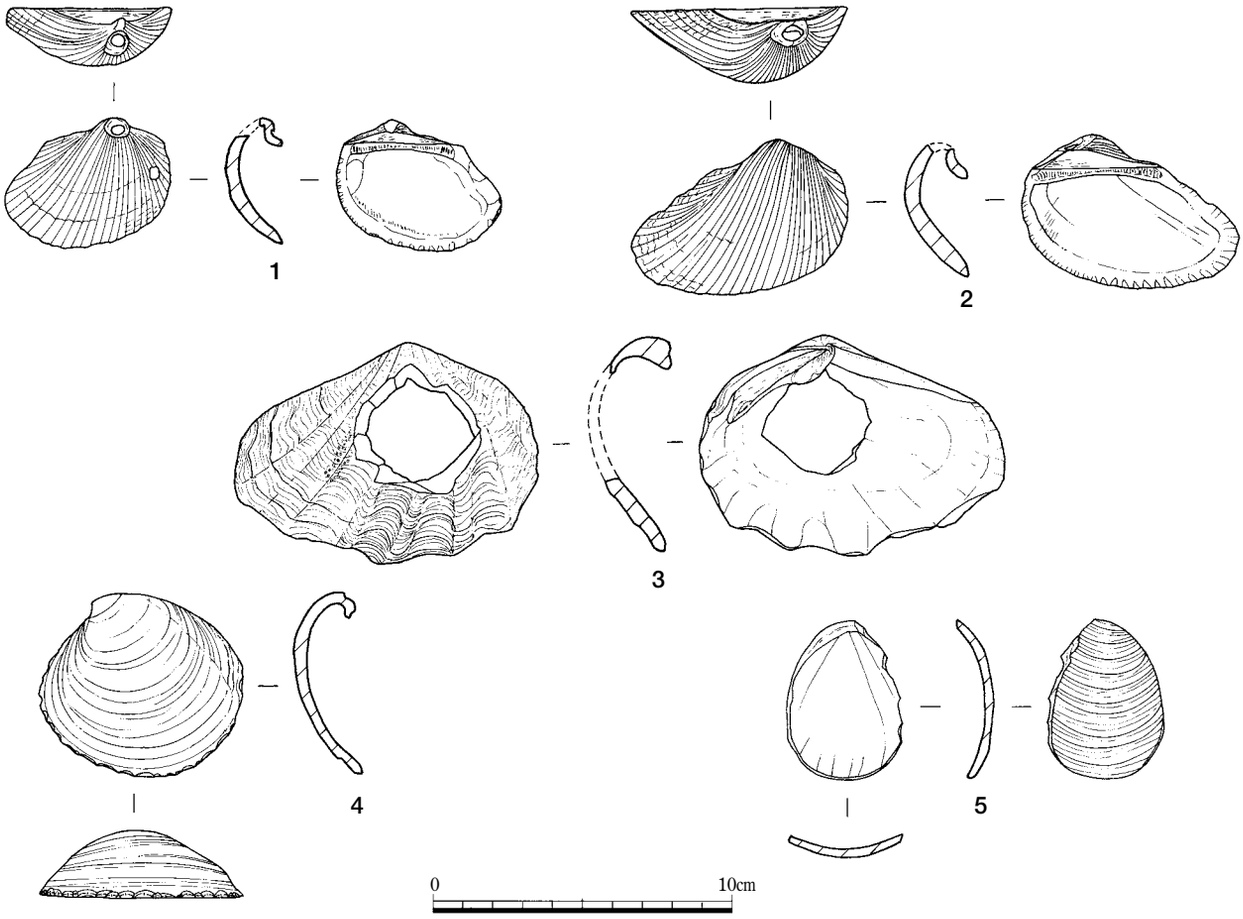
第15節　貝製品（第64図）

貝製品は総数12点出土している。貝製品の種類としては、貝錘３点、貝刃１点、杓状製品２点、貝製鏃３点、貝輪３点が出土している。

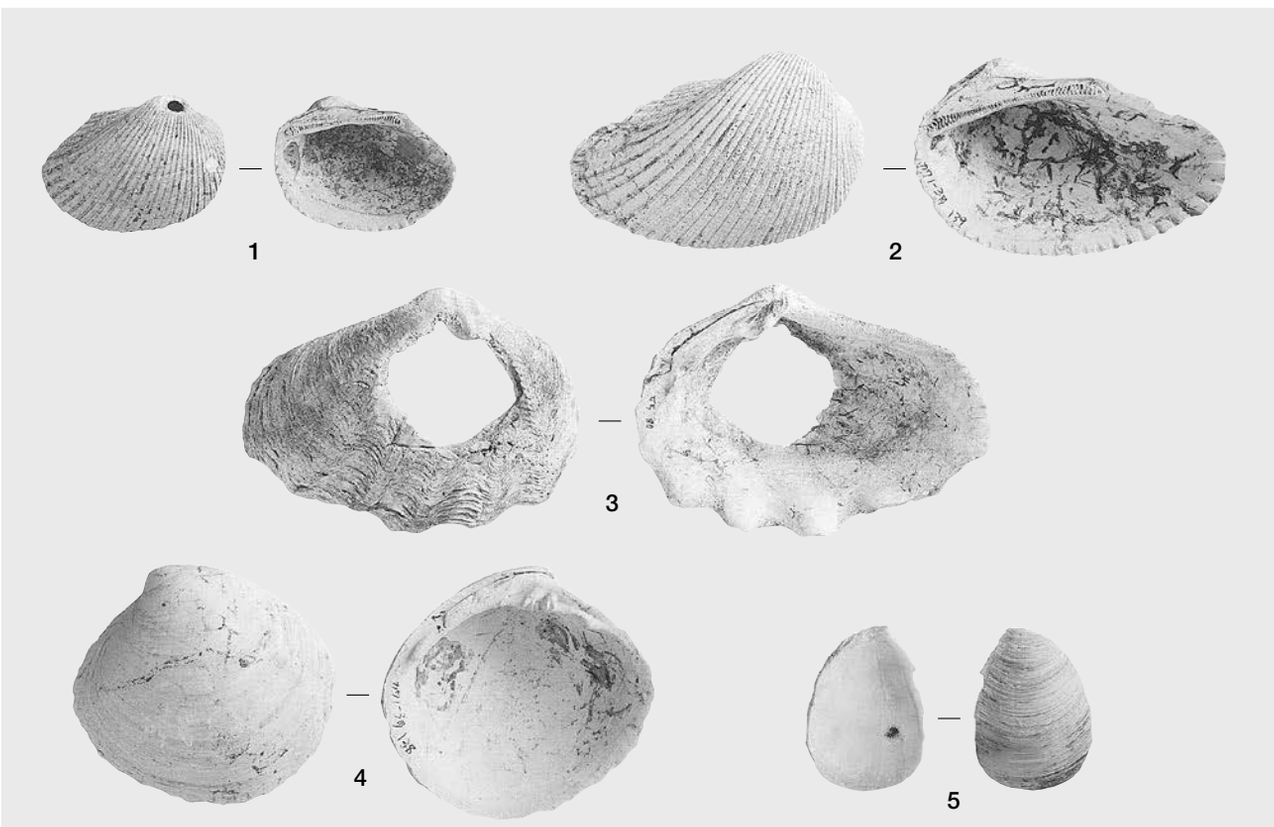
同図１は、リュウキュウサルボウガイ(R)を素材とした貝錘である。殻頂部の外側を打ち欠いて穿孔を施している。殻頂55.4㎜、殻高40.8㎜、孔径5.3×4.5㎜、残存重量22.6ｇ。Ⅰ地区Ⅰ層より出土。同図２も、リュウキュウサルボウガイ(R)を素材とした貝錘である。殻頂部を打ち欠いて穿孔を施している。殻長は73.2㎜、殻高47.6㎜、孔径7.7×5.3㎜、重量34.7ｇである。Ⅰ地区・ハ‐4・川跡1-3より出土。同図３は、ヒメジャコ(L)を素材とした貝錘である。殻頂部周辺に穿孔を穿っている。殻長は102.0㎜、殻高74.9㎜、孔径35.3×37.2㎜、重量69.5ｇである。グリッド不明・Ⅴ層より出土。同図４は、シレナシジミ(R)を素材とした貝刃である。本製品は腹縁部を敲打もしくは押圧剥離によって鋸歯状に成形している。殻長67.4㎜、殻高63.9㎜、残存重量34.3ｇ。Ⅰ地区・ハ-6・川跡1-3より出土。同図５は、貝種不明の杓状製品である。貝の側面部を打割によって整形し、腹縁部は研磨によって丁寧に仕上げられている。残存長53.2㎜である。Ⅱ地区下層・Bグリッド・Ⅸｂ層より出土。第65図６は、ヤコウガイを素材として杓状製品である。身部は破損しており杓部が残存している。縁部も含めて全体的に入念に研磨が施されている。表面は、６割程が真珠層を露出しており、表面も光沢を有している。グリッド不明・Ⅴ層より出土。同図７は、貝種不明の貝製鏃である。先端部のみ残存しており、全体的な形状は二等辺三角形状を呈すると想定される。全体的に丁寧な研磨によって仕上げられている。現状では孔の有無を確認することはできないが、北原貝塚出土の鏃のⅠ類と類似する製品と思われる。残存長25.4㎜、残存幅21.4㎜、残存重量1.72ｇである。Ⅰ地区・へ-1・川跡1-3より出土。同図８は、貝種不明の貝製鏃である。一部欠損するものの、全体的な形状は木の葉型をなすと想定される。僅かに湾曲しており、表裏面とも斜位の擦痕を残す。残存長44.46㎜、最大幅14.30㎜。残存重量1.60ｇ。Ⅱ地区下層・Aグリッド・Ⅸa層より出土。同図９は、貝種不明の貝製鏃である。先端部を欠損するものの有柄の鏃の形状を呈する。身部の中心部の表面には自然面と思われる凹が認められる。残存長50.9㎜(身部38.4㎜、柄部12.5㎜)、残存重量28.6ｇ。Ⅱ地区下層・Aグリッド・Ⅸa層より出土。同図10は、ゴホウラガイを素材とした貝輪である。ゴホウラガイの背面を利用しており右半分を欠損する。横断面は、ハの字をややふせたような形態をなすと想定される。全体的に丁寧な研磨が施されている。残存重量10.69ｇ。Ⅰ地区・ト-1・Ⅰ層より出土。同図11もゴホウラガイを素材とした貝輪である。本製品はゴホウラガイの螺塔から螺背にかけてを幅約1.8㎝で縦位に切りとっている。そのため、裏面は螺塔の自然面をよく残しており、殻頂は欠損する。また、螺背部も途中で欠損する。また縦位に２本の線が平行に施されている。残存長は89.2㎜、幅約18.0㎜、残存重量14.10ｇ。Ⅰ地区・ハ-4・川跡1-3より出土。同図12は、イモガイを素材とした貝輪である。全体的な形状は、中心部がくびれており、鼓形を呈する。表裏面とも風化が認められるが、裏面の両側面には５㎜ほどの横位の線状の傷跡が多数平行に並んでいる。残存長91.34㎜、残存重量23.60ｇ。Ⅰ地区・マ‐24・川跡3-2層より出土。

第24表　貝製品出土状況

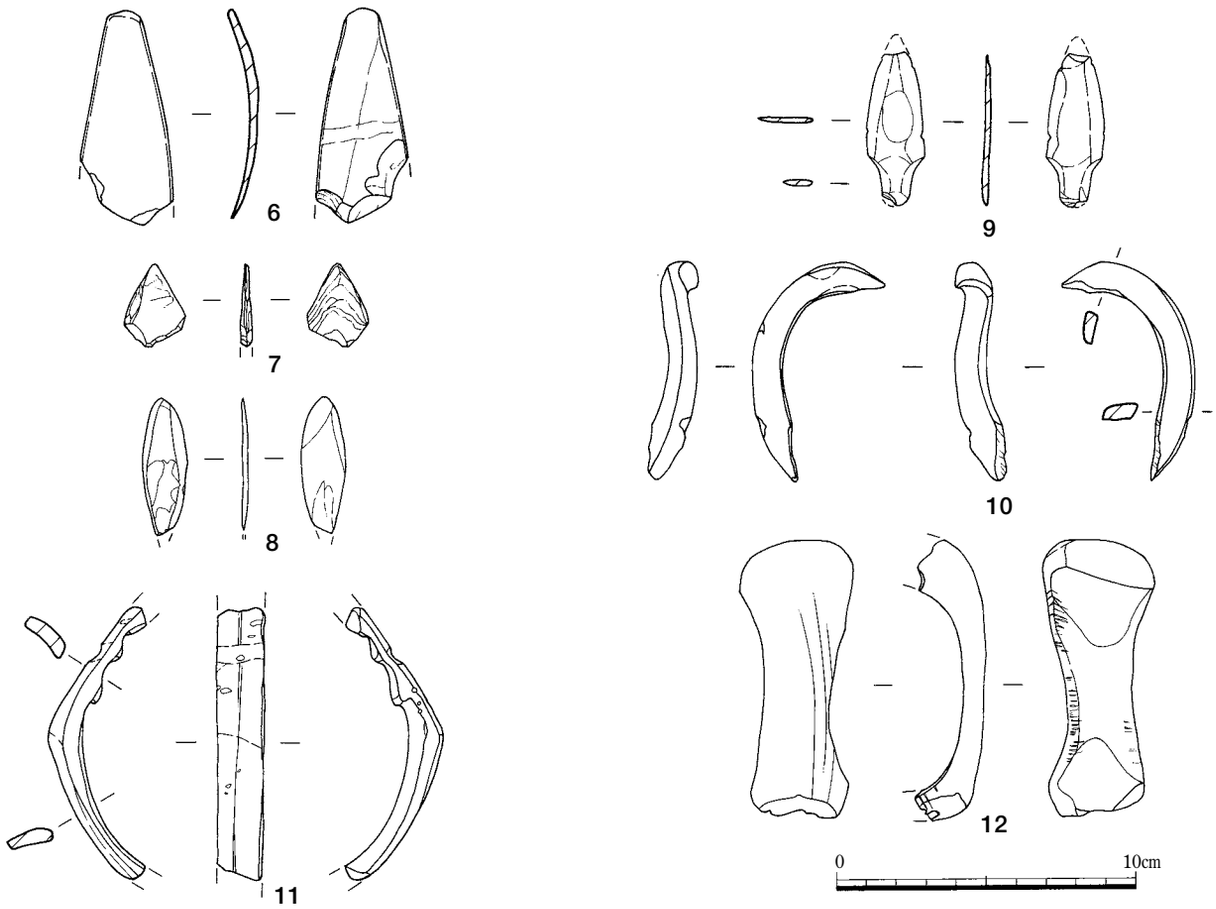
出土地＼種類				貝錘	貝刃	貝鏃	匙状製品	貝輪	合計
Ⅰ層	Ⅰ地区	ト	0	1					1
			1					1	1
川跡3層	Ⅰ地区(川跡1)	ハ	4	1				1	2
			6		1				1
		へ	1			1			1
川跡2層	Ⅰ地区(川跡3)	マ	24					1	1
Ⅴ層	Ⅰ地区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		1			1		2
Ⅸa層	Ⅱ地区	A				2			2
Ⅸb層		B					1		1
合　計				3	1	3	2	3	12



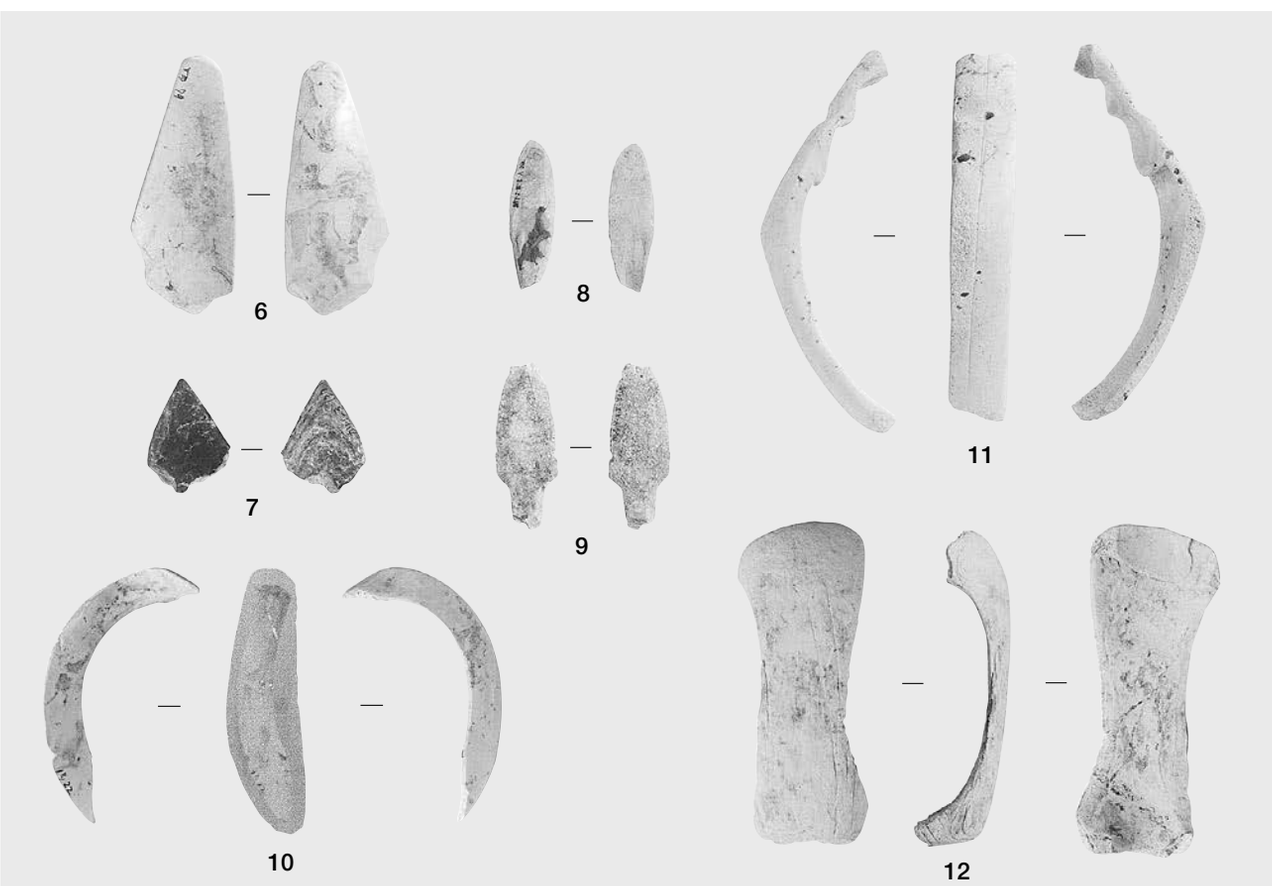
第64図　貝製品１



図版101　貝製品１



第65図　貝製品 2

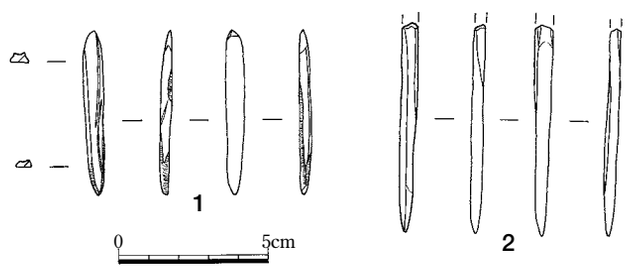


図版102　貝製品 2

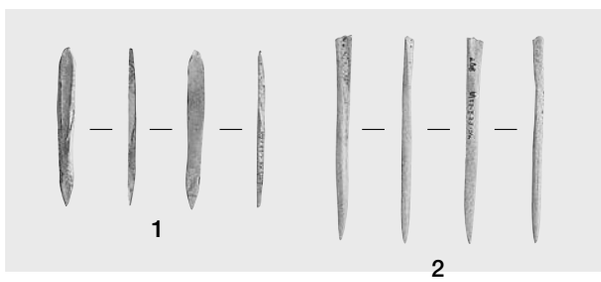
第16節　骨製品（第66図）

骨製品は２点出土している。いずれもⅨａ、Ⅸｃ層という爪形文土器段階の骨製品として捉えられる。

同図１は、形態的な特徴からヤス状刺突具と想定され、素材となる動物種・部位は不明である。両先端は尖っているが、一方は両側面からの成形によって他方より鋭角に仕上げられており、側面には調整痕としての擦痕が明瞭に認められる（図面上で斜線の範囲）。一方他方は、尖りだしを行うが、両側面は滑面を有し丸みをおびる。断面形は、略台形状を呈し、上面には浅い凹が走っており自然面を残し、下面は非常にフラットである。残存長5.5㎝、残存幅0.6㎝、残存厚0.3㎝、重量1.4ｇで、Ⅱ地区下層・ＤグリットⅨａ層出土である。同図２は、頂部を欠損しているものの、形態的特長から骨針と想定され、素材としてリュウキュウイノシシの腓骨(R)を使用している。先端部は尖っているが滑面を有しており、他は自然面をよく残す。残存長6.9㎝、残存幅0.8㎝、重量1.8ｇで、Ⅱ地区下層・ＥグリットⅨｃ層出土である。



第66図　骨製品



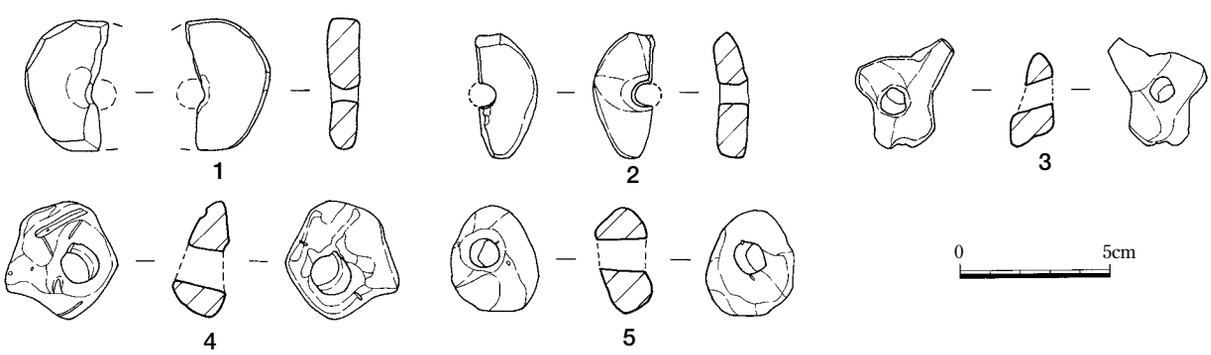
図版103　骨製品

第17節　土製品（第67図）

今回の調査で得られた土製品は、総数５点である。土製品の形態は、楕円形を呈し穿孔を有する定形的な資料と不定形で穿孔を有する資料に大別できる。

楕円形を呈し穿孔を有する定形的な土製品（１・２）は、貝塚時代後期の包含層以上より出土した。平面観が２点とも直径約４cmの楕円形で中心に0.8cmほどの穿孔を有し、１cmほどの厚みを有する。２点とも半分の形状しか残存していない。

不定形で穿孔を有する資料（３～５）は、貝塚時代早期の遺物と共伴して出土した。平面観が楕円形の物や不定形な物があり、ほぼ中心に直径１cm未満の穿孔を有する。1.5～1.0cmほどの厚みを有する。すべて第Ⅸ層から出土しており、爪形文土器群などの人口遺物と貝、獣骨などの食糧残滓と共伴している。



第67図　土製品

図版104　土製品

第25表　土製品観察一覧

単位:cm

挿図番号 図版番号		種類	法量					材質	色調	観察事項	出土地点 層/遺構
			長軸	短軸	厚さ	孔直径	重量(g)				
第67図・図版104	1	定形	4.3	残2.2	0.9	0.7	13.2	土製	暗褐色	全面にナデ調整の痕跡が見られる。中心に穿孔がみられる。半分から破損している。	Ⅱ地区 ヌ-14 Ⅴ層
	2		4.1	残1.9	1.1	0.8	8.1	土製	暗褐色		Ⅰ地区 ハ-3 Ⅰa層
	3	不定形	3.1	2.1	1.3	0.8	9.9	泥土(クチャ)	灰白色	クチャを不定形に成形している。整形痕は磨耗しており不明瞭である。削られたような痕跡あり。中心に穿孔がみられる。穿孔内に筋状に削られた痕跡が見られる。	Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸc層
	4		3.7	3.5	1.8	1.2	20.3	泥土(クチャ)	灰白色		Ⅱ地区 Bｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層
	5		3.5	2.5	1.8	1.0	16.6	泥土(クチャ)	灰白色		Ⅱ地区 Aｸﾞﾘｯﾄﾞ Ⅸb層

図版105　主な出土遺物

第18節　貝類遺体

１，方法

対象サンプルはⅠ地区、Ⅱ地区、Ⅲ地区及びT.P①、T.P②、T.P③、T.P④の貝類をピックアップ法ですべてピックアップし、出土した貝類すべてを集計した。

２，個体数の算出方法

出土した貝類は斧足綱（二枚貝)と腹足綱（巻き貝)などが見られるが、これらを同じように比較するため、下記のように個体数を算出し、個体数を比較した。

＜二枚貝（斧足綱）＞

二枚貝は右殻、左殻に分ける。さらに完形、殻頂、破片に分け、完形と殻頂のそれぞれ左右殻で多い方を合計し、個体数とした。

＜巻き貝＞

巻き貝も完形・殻頂・破片に分け、完形と殻頂の合計を個体数とした。ただし、下記の貝類については独自の算出を行った。

サラサバティは、殻が真珠質で脆いため、殻底も集計し、個体数の算出の参考にした。

ヤコウガイ、チョウセンサザエは殻以外に蓋も集計し、殻の完形と殻頂を個体数とし、さらに蓋と比べ、多い方を個体数とした。

貝の種名出土一覧は、頁数の都合上、集計表を参考にされたい。また、学名については、図鑑などによって若干異なるので割愛した。

なお、貝類の生息地の分類は古我地原貝塚（黒住1987)を基準にした。

３，遺跡の概略

本遺跡は平成11年～平成16年まで調査が行われた。平成11年度がⅠ地区、Ⅱ地区、平成12年度がⅡ地区、T.P①～④、平成14年度がⅡ地区、平成15年度がⅡ地区・Ⅲ地区、平成16年度がⅠ地区である。

４，層序別の出土状況

地区別（68図)・層序別（69図）の貝類の出土状況を示した。これによるとⅠ地区44.93%（37684個体)、Ⅱ地区42.51%（35654個体)、Ⅲ地区0.03%（68個体)、T.P①0.08%（68個体)、T.P②2.2%（1858個体)、T.P③0.39%(323個体)、T.P④5.92%（4966個体)得られている。貝類のほとんどは海岸側のⅠ・Ⅱ地区で出土している。

層はⅠ層～ⅩⅣ層まで確認でき、そのうち、文化層はⅠ層の近世・近代の水田跡、Ⅲ・Ⅴ層のグスクの水田跡、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層の貝塚時代後期、Ⅸ層の貝塚時代前Ⅰ期（爪形文土器)の４つで、Ⅹ層以下は基本的には無遺物層で、貝類の出土もわずかである。

Ⅰ層は粘土層で近世の水田が確認されている。貝は全体の7.04％（5902個体)出土し、そのほとんどがⅠ地区で得られ、Ⅱ地区でも得られている。

Ⅱ層は植物遺体層で貝類はみられない。

Ⅲ層はシルト層で全体の2.24%（1882個体)が出土し、地区別にはⅠ層と同様にⅠ・Ⅱ地区で出土するが、Ⅱ地区の方が多くなる。

Ⅳ層は細砂層で全体の0.73%（609個体)と少ない。本層もⅠ・Ⅱ地区で出土し、Ⅲ層と同様Ⅱ地区の方が多い。

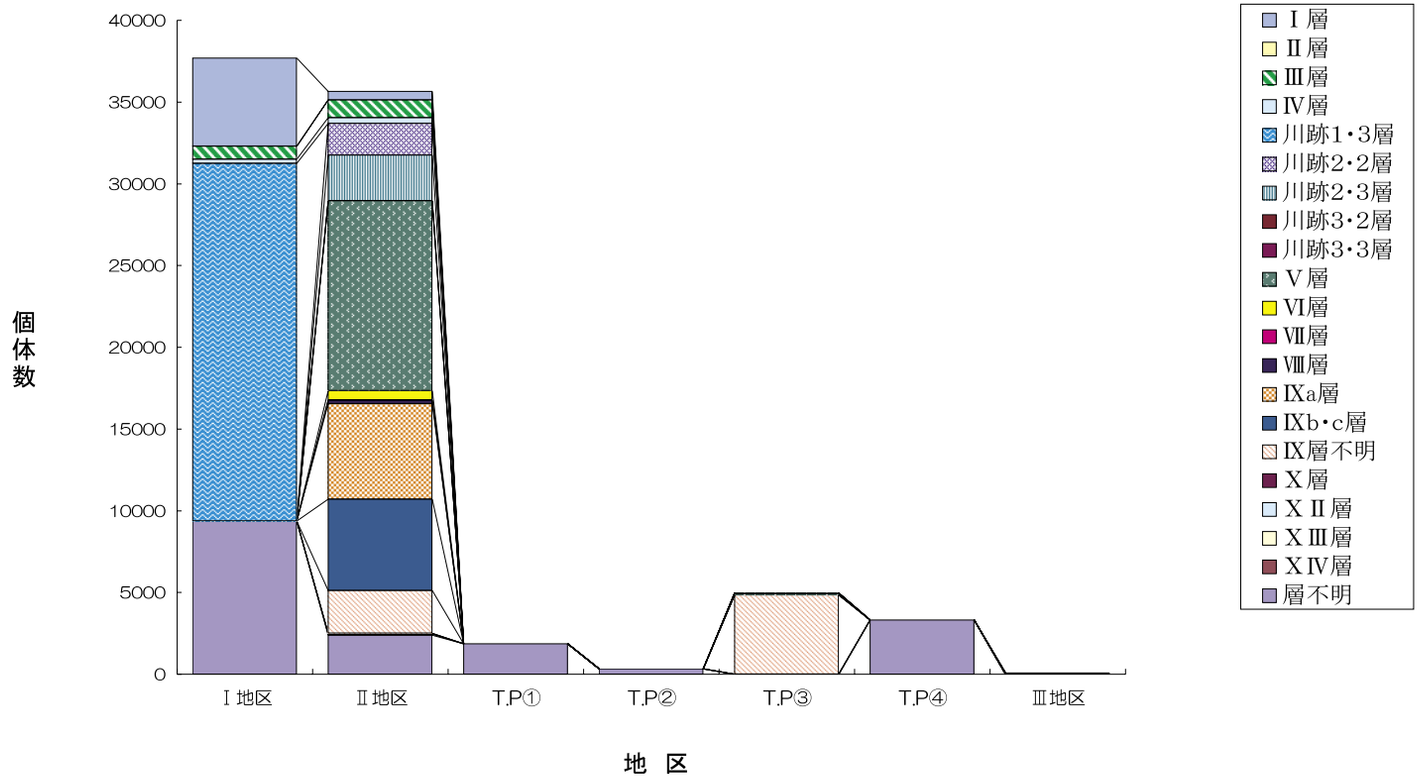
川跡層とはⅠ・Ⅱ・Ⅲ地区で部分的に抉られている層で、Ⅰ地区では川跡１、Ⅱ地区では川跡２、Ⅲ地区では川跡３と命名した。

川跡層はさらに上（２層)、下（３層）に分けられる。

貝類は川跡１の３層で26.09%（21881個体)、川跡２の２層で2.30%（1927個体)、３層で3.34%（2805個体)、川跡３の２層で0.01%（12個体)、３層で0.05%（45個体)で出土している。

Ⅴ層は細砂層で、ニービの風化したものと思われる。貝塚時代後期の文化層で、貝類は全体の13.9%(11694個体）得られ、そのほとんどはⅡ地区（11619個体)で出土するが、その他にT.P③で66個体、Ⅲ地区で10個体得られた。

Ⅵ層は砂層で全体の0.68%（569個体)Ⅱ地区で565個体、T.P③で４個体出土している。



	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	川跡1・3層	川跡2・2層	川跡2・3層	川跡3・2層	川跡3・3層	Ⅴ層	Ⅵ層	Ⅶ層	Ⅷ層	Ⅸa層	Ⅸb・c層	Ⅸ層不明	Ⅹ層	ⅩⅡ層	ⅩⅢ層	ⅩⅣ層	層不明	合計
Ⅰ地区	5381	0	799	244	21881	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9379	37684
Ⅱ地区	521	0	1082	362	0	1927	2805	0	0	11618	565	12	209	5837	5602	2616	4	9	42	58	2385	35654
T.P①	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1858	1858
T.P②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	323	323
T.P③	0	0	0	3	0	0	0	0	0	66	4	53	0	0	0	4840	0	0	0	0	0	4966
T.P④	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3313	3313
Ⅲ地区	0	0	1	0	0	0	0	12	45	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68

第68図　地区別出土状況

Ⅶ層は砂利層で0.08%（65個体）出土した。T.P③で53個体、Ⅱ地区で12個体出土した。
Ⅷ層は砂層で0.25%（209個体）出土した。Ⅱ地区のみの出土である。
Ⅸ層はシルト層でⅡ地区とTP.③で確認された貝塚時代前Ⅰ期の文化層である。
本層はa～c層に分かれているが、集計ではa層、b･c層、そのどちらか明瞭でないものは不明と区別した。Ⅸ層aで6.96%（5837個体）、Ⅸ層b･cで6.68%（5602個体）、Ⅸ層不明で8.89%（7456個体）の出土である。
Ⅹ層は砂層で0.01%（9個体）、ⅩⅡ層は砂層で0.05%（42個体）、ⅩⅢ層は細砂と混合の粘土層で0.07%（58個体）の出土である。
ⅩⅣ層は基盤層でⅡ地区では琉球石灰岩、Ⅲ地区では島尻層が確認されている。貝類はⅡ地区で0.05%（58個体）が得られた。Ⅹ層以下は自然に混入したもの思われる。

5，貝類出土状況

①層序別

文化層別に貝類の出土状況を略述する。

a近世・近代

Ⅰ層で多く出土したのは、Ⅲ-1-cに生息するアラスジケマンガイ（62.25%）が最も多く出土した。次に多い場所Ⅰ-2-cでマガキガイやクモガイ、Ⅰ-1-aのイソハマグリである。また、水田に生息するマルタニシも５個体得られ、水田遺構の存在を裏付ける資料である。

b貝塚時代後期

Ⅲ層は貝塚時代後期の上層で、主な貝はⅠ層と同じアラスジケマンガイであるが、前者と異なるのはⅠ-2-aのヒメジャコガイの割合が増える。

川跡層では前述と同様、アラスジケマンガイが主体をなすが、Ⅱ-1-cのスダレハマグリ、Ⅰ-2-aのヒメジャコガイ、Ⅰ-1-cのイソハマグリなどの出土が増えてくる。川跡３-２層からは貝交易に関係するアンボンクロザメの貝集積が２基検出されている。ゴホウラやイモガイの貝輪などの貝製品も出土した。

Ⅴ層ではⅡ-2-cのタママキガイ、カワラガイ、リュウキュウザルガイ、Ⅱ-1-cのスダレハマグリ、Ⅰ-1-cのイソハマグリの出土が増え、アラスジケマンガイの出土する量は少なくなる。この時期に前面する海岸の底質の変化を伺わせる資料である。

Ⅲ層～Ⅴ層は貝塚時代後期の時期に環境の変化を示唆するものと考える。Ⅲ層～Ⅴ層は貝塚時代後期の遺物を包含するが、Ⅲ層はグスク時代の水田耕作土、Ⅴ層直上では区画を持った水田遺構が確認されている。

c貝塚時代前Ⅰ期

Ⅸ層は調査によってⅨa層とⅨb･c層、Ⅸ層不明に分けられるが、第69図では出土量をまとめた。

Ⅲ-1-cのヘラサキガイが多く、Ⅰ-1-bクマノコガイ、アマオブネガイ、Ⅱ-1-bカンギク、Ⅱ-2-cタママキガイが増え、また、マングローブに生息するシレナシジミも出土し、上層とは貝の組成が大きく異なり、時代の隔たりを思わせる資料である。本層は、礫が多く生活層とは考えにくいようであるが、ヤコウガイやチョウセンサザエなどの岩礁に棲み、肉量の多い貝も採集されている。

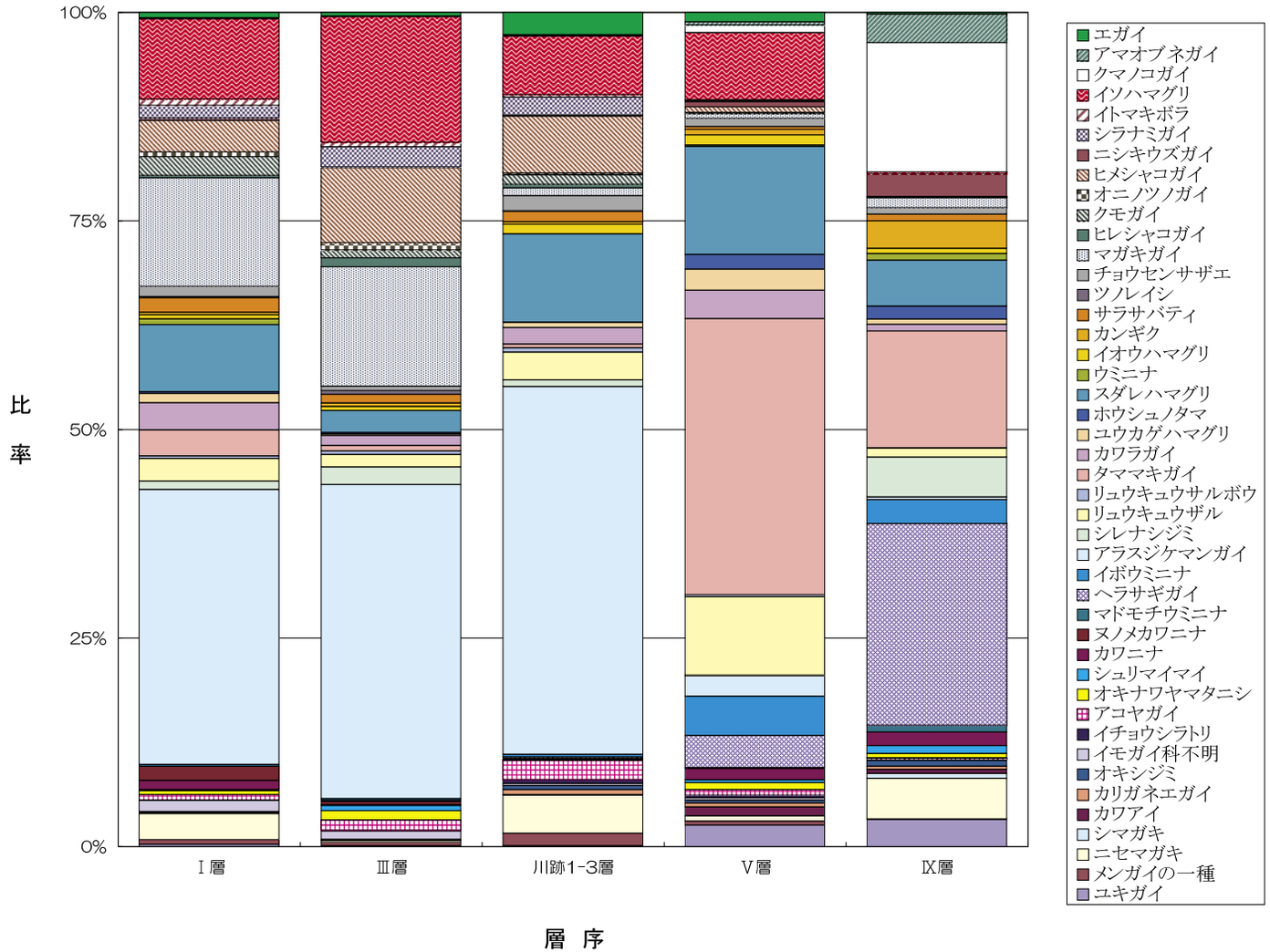
また、シレナシジミは第29図に示したように左殻と右殻が合体され、食料というよりは自然堆積の可能性が考えられる。

②主な貝の出土状況と大きさ

キバウミニナはマングローブに棲む中では大型の貝で、現在は北谷の海岸では見られない貝である。Ⅸ層で最も多く出土する。計測個数38個で、最大殻高79.6㎜×殻径31.6㎜（Ⅸ層）、最小殻高23.9㎜×殻径9.3㎜（Ⅲ層）を測る。最も多い大きさは殻径25㎜～30㎜である。（第70図）

センニンガイは、キバウミニナ同様、マングローブに生息するが現在沖縄本島ではほとんど見られない貝である。Ⅸ層で最も多く出土し、Ⅴ層、Ⅵ層ではわずかに見られる。計測数は57個で、最大は、殻高92.0㎜×殻径39㎜、最小は殻高38.8㎜×殻径20㎜である。最も多い大きさは殻径30㎜～34㎜で、その前後に徐々に少なくなる。（第71図）

カンギクは浅海の岩礫底に棲む貝である。層序別にはⅨ層が多く出土する。計測数664個で、最小は殻高10.1㎜×殻径13.8㎜、最大は殻高37.4㎜×殻径44㎜である。最も多く出土する大きさは殻径25㎜で、その前後



	Ⅰ層	Ⅲ層	川跡1-3層	Ⅴ層	Ⅸ層
エガイ	0.3%	0.1%	0.1%	2.6%	3.3%
アマオブネガイ	0.6%	0.4%	1.5%	0.5%	0.1%
クマノコガイ	3.1%	0.2%	4.6%	0.6%	4.8%
イソハマグリ					0.6%
イトマキボラ				1.1%	0.5%
シラナミガイ	0.1%	0.1%	0.6%	0.5%	0.4%
ニシキウズガイ	0.1%	0.1%	0.5%	0.3%	0.7%
ヒメシャコガイ	1.4%	1.0%	0.2%	0.3%	0.0%
オニノツノガイ		0.1%	0.5%	0.3%	0.2%
クモガイ	0.6%	1.3%	2.3%	0.7%	0.1%
ヒレシャコガイ	0.5%	1.1%	0.1%	0.8%	0.5%
マガキガイ	0.1%	0.6%	0.1%	0.4%	0.9%
チョウセンサザエ	1.1%	0.1%	0.1%	1.4%	1.6%
ツノレイシ	1.7%	0.4%			
サラサバテイ		0.1%		0.1%	0.8%
カンギク		0.1%	0.2%	3.8%	24.2%
イオウハマグリ	0.2%	0.2%	0.3%	4.7%	2.9%
ウミニナ	33.0%	37.6%	44.1%	2.4%	0.3%
スダレハマグリ	1.0%	2.1%	0.8%	0.1%	4.8%
ホウシュノタマ	2.7%	1.5%	3.3%	9.4%	1.1%
ユウカゲハマグリ	0.3%	0.4%	0.5%	0.2%	0.0%
カワラガイ	3.1%	0.7%	0.4%	33.1%	14.0%
タママキガイ	3.2%	1.2%	2.0%	3.4%	0.8%
リュウキュウザル	1.1%	0.2%	0.6%	2.5%	0.6%
リュウキュウサルボウ	0.2%	0.2%		1.8%	1.6%
シレナシジミ	8.0%	2.6%	10.6%	12.9%	5.5%
アラスジケマンガイ	0.7%			0.2%	0.8%
イボウミニナ	0.5%	0.5%	1.1%	1.2%	0.6%
ヘラサギガイ	0.3%	0.4%	0.3%	0.7%	3.3%
マドモチウミニナ	1.7%	1.0%	1.2%	0.4%	0.8%
ヌノメカワニナ	0.1%	0.5%	0.1%		
カワニナ	1.2%	0.5%	1.8%	1.0%	0.7%
シュリマイマイ	13.0%	14.3%	1.0%	0.5%	1.2%
オキナワヤマタニシ	0.3%	1.1%	0.4%		0.1%
アコヤガイ	2.2%	0.9%	1.1%	0.1%	0.1%
イチョウシラトリ	0.6%	0.9%	0.2%	0.1%	
イモガイ科不明	3.8%	9.0%	6.8%	0.7%	
オキシジミ	0.3%	0.1%	0.1%	0.6%	2.6%
カリガネエガイ	1.5%	2.5%	2.2%	0.2%	
カワアイ	0.8%	0.5%	0.3%	0.1%	
シマガキ	9.6%	15.1%	7.0%	8.0%	0.3%
ニセマガキ				0.9%	15.5%
メンガイの一種	0.1%	0.1%	0.1%	0.4%	3.4%
ユキガイ	0.7%	0.5%	2.7%	1.2%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

第69図　層序別出土状況

が多い（第72図）。
層別の変化は特に認められない。

クマノコガイはⅨ層で多数得られている。計測数2698個で最小は殻高18.1㎜×殻径15.4㎜、最大は殻高37.8㎜×殻径39.4㎜の範囲で最も多い大きさは殻径25㎜台である。（第73図）、本貝は大きさの変化よりは出土数の変化の方が大きいようである。

チョウセンサザエはⅠ-3-aに生息するわりと肉量の多い貝である。Ⅰ層、川跡層、Ⅸ層に見られる貝である。本貝は蓋と殻があるが、出土する割合は若干、殻の方が多いようである。また、Ⅸ層では図版107に示したように殻口、体層、殻頂と規則的な割れ方をして出土する傾向が見られる。このような出土の仕方はこれまでの遺跡ではあまりみられない。貝の採肉の方法に一定の規則性があるようである。Ⅸ層出土の貝殻は色もよく残っているようである。

マガキガイはⅠ-2-cに沖縄の先史時代の遺跡では一般に見られる貝で、群衆して生息することから比較的容易に採集される貝である。大きさについてみると計測数323個、最小径18.4㎜×38.1㎜は川跡２層、最大径36.5㎜×40.5㎜はⅨb･c層で出土した。最も多い大きさは各層も25㎜台である。どの層でも安定して採集されているようである。（第74図）

クモガイはマガキガイと同様Ⅰ-2-cに生息する貝で川跡１-３層での個体数は219個体であるが、破片は1156個と他の貝に比べて多い。また、Ⅴ層、Ⅸ層などの古い層では出土しないようである。この貝は現在でも遺跡周辺でよく採れるようで、近くで本貝の食べ方を訪ねると殻頂に打撃を加えて採肉するようである。破片の数からするとマガキガイを超えるものと思われる。本貝の個体数の算出に新たに袖部を加えるべきであろう。北谷の海岸の特徴的な貝である。

ヤコウガイは殻高13cm、殻幅20cmにも達する大型種で、殻もふたも厚く堅固で肉量も多く、殻も大きく、有用貝である。遺跡からはほとんど破片で出土するが、本遺跡ではⅨ層でほぼ完形で出土したので計測一覧と写真（図版106）を示した。殻が33個体、蓋32個体出土した。

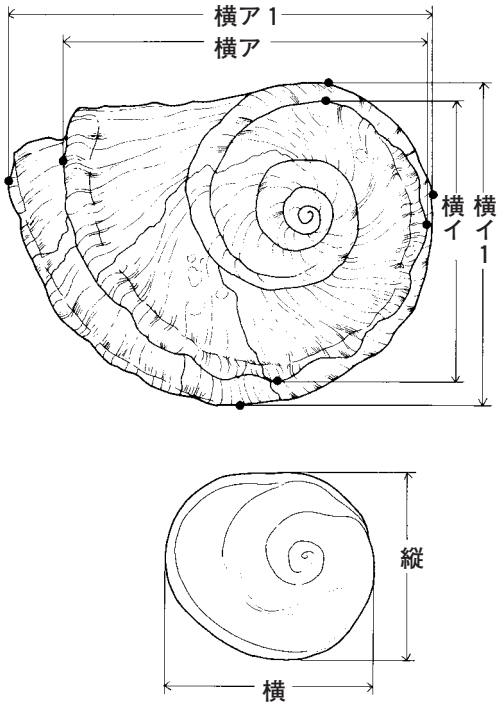
殻についてみるとⅨ層で26個体（78%）まとまって出土している。第26表に殻の出土一覧を示した。

第26表　ヤコウガイ（殻）計測一覧

写真	出土地	横ｱ	横ｱ1	横ｲ	横ｲ1	重量	外唇	背面	殻頂
1	Ⅱ　Ⅸa層　Bｸﾞﾘｯﾄ　D44	―	―	10.78	―	274.5	欠	欠+被熱	欠
2	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D796	7.5	8.2	5.8	6.2	139.4	欠	有	有
3	Ⅱ　Ⅸa層　Dｸﾞﾘｯﾄ　D291	―	―	6	―	155.2	欠	欠	有
4	Ⅱ　Ⅸa層　Dｸﾞﾘｯﾄ　D329	6.2	―	5.7	6.6	88.2	欠	被熱	有
5	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D3448	12.3	12.6	9.3	10.8	497.7	欠	ヒビ	欠
6	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D868	9.32	―	84.8	―	272.8	欠	欠	有
	Ⅱ　Ⅸb･c層　Cｸﾞﾘｯﾄ	6.4	7.8	5.2	5.5	96.1	欠	被熱	欠
	Ⅱ　Ⅸ層不明　ｸﾞﾘｯﾄ不明	―	―	―	―	100.1	欠	被熱	欠
	Ⅱ　ｸﾞﾘｯﾄ不明	7.9	8.8	6	6.3	135.7	欠	有	欠
	Ⅱ　Ⅸ層　ｸﾞﾘｯﾄ不明	―	―	―	―	173.2	有		有
	Ⅱ　Ⅸ層　ｸﾞﾘｯﾄ不明	9.1	10.5	7	8.3	220.5	欠	上側欠	有
	Ⅱ　Ⅸ層　ｸﾞﾘｯﾄ不明	7.6	8.6	6.5	―	126	欠	被熱	欠
	Ⅱ　Ⅸ層　Eｸﾞﾘｯﾄ	5.9	6.3	―	5.1	69.6	欠		欠
	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D1055	8.5	9.2	4.7	―	128.2	欠	欠	有
	Ⅱ　Ⅸb･c層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D1864	5.7	6.8	4.3	5	75.1	欠	有	有
	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D2576	6.3	6.9	4.7	5.1	82.7	欠	被熱	有
	Ⅱ　Ⅸb･c層　Bｸﾞﾘｯﾄ　D2799	―	―	―	―	63.4	欠	欠	欠
	Ⅱ　Ⅸa層　Dｸﾞﾘｯﾄ　D329	―	―	―	―	127.5	欠	欠	欠
	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D3401	―	―	―	―	55.4	欠	有	欠
	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D651	―	―	5.93	―	88.7	欠	被熱	有
	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D765	6.5	―	4.7	5	83.1	欠	被熱	有
	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D818	―	―	―	―	137.3	欠	欠	有
	Ⅱ　Ⅸ層　ｸﾞﾘｯﾄ不明	―	―	―	―	285.4	欠	有	有
	Ⅱ　Ⅸa層　Eｸﾞﾘｯﾄ　D831	―	―	―	―	197.5	欠	欠	有
	Ⅱ　Ⅸa層　Aｸﾞﾘｯﾄ　D2717	―	―	―	―	48.1	欠	欠	欠
	Ⅱ　Ⅸa層　Aｸﾞﾘｯﾄ　D3507	―	―	―	―	196.7	欠	欠	欠
	Ⅱ　Ⅸb･c層　Dｸﾞﾘｯﾄ	―	―	―	―	58.4	欠	体層のみ	欠
	Ⅱ　Ⅸa層　Dｸﾞﾘｯﾄ　D2737	8.6	9.7	5.6	7	172.2	欠	欠+被熱	欠
	Ⅱ　Ⅸa層　Dｸﾞﾘｯﾄ　D445	7	7.8	4.8	5.1	98.2	欠	欠+被熱	欠
	Ⅱ　Ⅸa層　Dｸﾞﾘｯﾄ　D492	6.9	7.7	4.6	4.7	87.6	欠	破損	有

第27表　ヤコウガイ（蓋）計測一覧

no.	出土地	縦/cm	横/cm
1	Ⅰ　川跡1-3層　い―5	6.4	7
2	Ⅰ　川跡1-3層　い―5	7.4	8.1
3	Ⅱ　Ⅴ層	3.1	3.3
4	Ⅱ　Ⅴ層	3.2	3.5
5	Ⅱ　Ⅴ層	4.7	5.2
6	Ⅱ　Ⅸa層	4	4.3
7	Ⅱ　Ⅸa層	4.1	4.5
8	Ⅱ　Ⅸa層	5.5	6.2
9	Ⅱ　Ⅸa層	6.4	7.1
10	Ⅱ　Ⅷ層	4.9	4.4
11	Ⅱ　Ⅸa層	3	3.2
12	Ⅱ　Ⅸa層	3.7	4.1
13	Ⅱ　Ⅸa層	3.8	4.1
14	Ⅱ　Ⅸa層	4.1	4.5
15	Ⅱ　Ⅸa層	4.3	4.7
16	Ⅱ　Ⅸa層	4.6	5
17	Ⅱ　Ⅸa層　D200	6.6	7.2
18	Ⅱ　Ⅸ層不明	4	4.3
19	Ⅱ　Ⅸ層不明	5.7	6.2
20	Ⅱ　Ⅸ層不明	6.8	7.5



ヤコウガイ殻と蓋の計測部位

これによると外唇と殻頂を若干破損するものの貝殻の形を残している。そのほとんどは、背面側の外殻が剥離するか（図版106-２・４・６）、破損するもの（図版106-１・３）である。背面の破損や剥離は、ホラガイ有孔製品と同じような状況を示すことから火を受けたと想定される。

蓋は川跡では２個体得られ、いずれも完形である。Ⅸ層では13個体（40%）の出土である。そのうち完形は７個である。計測可能な蓋は20個で大きさは第27表に示した。これによると縦は3.0cm～7.4cm、横3.2cm～8.1cmを測る。

那覇市天界寺跡出土の蓋と比較すると本遺跡のものは小さいようである。

シャコガイ科の貝にはヒメジャコ、シラナミ、ヒレジャコがあり、いずれもⅠ-２に生息する。川跡層より上で多く見られるようである。その中でもヒメジャコガイが多いようである。本品は破片数も多い。

ヒメジャコガイの計測数は左殻418個、右殻456個の計874個である。大きさについてみると最小は殻高が最小21mm、殻長48mm、最大は殻高98mm、殻長132mmを測る。殻長の大きさ分布をみると（第76・77図）川跡２-２層では75㎜～100㎜に集中し、Ⅲ層では55㎜～70㎜が多くなる。時代が下るにつれて殻が小さくなる傾向があることが窺える。このような傾向は糸満市伊原遺跡でも見られた。乱獲による可能性が考えられる。

ヘラサギガイは干潟の砂底に群集して生息する貝である。Ⅸa層、Ⅸb･c層で多く出土する。

ヘラサギガイⅢ-1-cに生息する貝でⅨ層で最も多く出土する。計測数は左殻3408個、右殻3541個の合計6949個である。最小は殻高22㎜×殻長20.6㎜、最大は殻高35.0㎜×殻長50.0㎜を測る。殻長40㎜台が最も多いようである。（第78・79図）

イトマキボラは川跡層より上の層で出土する。図版111-153も見られるように内唇および殻頂近くの腹面が摩耗することからオカヤドカリの宿貝だった可能性が高い。このような例は本部町兼久原貝塚、名護市部瀬名貝塚などでも報告されている。ヤドカリも食用の可能性を示唆するものである。

その他に貝製品あるいは貝集積で検出されるゴホウラ（図版109―69）やアツソデガイ（図版109-70）、スイジガイ（図版109-72）なども出土している。

６，まとめ

本遺跡の特徴として３つの異なる時期の貝類の特徴が見られ、各々の時期の海岸の様子を知る上で好資料と思われる。（第69図）

Ⅰ層では数個ではあるがマルタニシが検出されており、水田遺構を裏付けるものである。アラスジケマンガイやイソハマグリなど小形の貝を多く採取していたようで、水田との関わりと考えると貝の採集は二次的な食料確保の手段のようである。

川跡層ではアラスジケマンガイが主体をなすが、これ以外にヒメジャコガイやクモガイ、マガキガイ、チョウセンサザエなどやや大きめの貝を採取していたようである。これは、この時期まだ、貝の採取は食料確保の主流をなし、さらにイノーがより発達していたころと思われる。イモガイの集積が２基検出されており、この時期を反映している。

Ⅴ層は貝塚時代後期とⅢ層、川跡層と時期は同じくするが、貝類の組成は大きく変わり、アラスジケマンガイと同じ生息地ではあるがタママキガイの出土する割合が高くなり、他の貝組成も異なってくる。

Ⅸ層は前者と同様に生息するヘラサギガイの割合が高くなり、クマノコガイが増えるようで上層の貝組成とは全く異なってくる。

しかし、本層は河口に近い貝が増える一方で岩礁性のチョウセンサザエやヤコウガイが出土している。この２種の貝に関しては前者が割れ方に規則性が見られ、後者は被熱の可能性が考えられ、人為的な様相を呈している。同時期の嘉手納町野国貝塚群でもヤコウガイの貝殻は多く出土しているようで、貝塚時代前Ⅰ期の食料事情を知る上の貴重な貝と考える。

以上、貝類遺体からみると本遺跡は貝塚時代前Ⅰ期のころはシレナシジミやイボウミニナが出土することからマングローブの生えた干潟のような環境であったことが窺える。その一方、近くにはヤコウガイやチョウセンサザエの採取できるところがあり、大型のヤコウガイを意図的に採取し、火を受けた痕跡が見られることからホラガイ有孔製品のような、器として考える。

貝塚時代後期のⅤ層、川跡層の間には貝種の組成にも大きな変化が見られることから何らかの海底の変化が見られるようである。川跡層以降、海底質は大きな変化は見られないが、ヒメジャコガイがⅢ層には小さくなることから（第76図）、食料として肉量も多い貝であり、乱獲の可能性が想定される。

近世になるとこれらヒメジャコガイが少くなり、アラスジケマンガイやイソハマグリなど砂地の貝が主流をなす。食料確保のための貝採取の依存度が低くなったことを裏付けるものであろう。

本遺跡の貝類遺体は３つの大きな時期の環境や食料確保の変遷を知る上で好資料として位置づけられる。

引用文献

・島袋春美（編：島袋洋） 1986年「伊原遺跡」『沖縄県文化財調査報告書』第73集 沖縄県教育委員会

・盛本勲　（編：岸本義彦） 1984年「野国　野国貝塚群Ｂ地点発掘調査報告」『沖縄県文化財調査報告書』第57集 P187沖縄県教育委員会

・上原静・知念勇・岸本義彦　1977年「兼久原貝塚発掘調査報告」本部町教育委員会

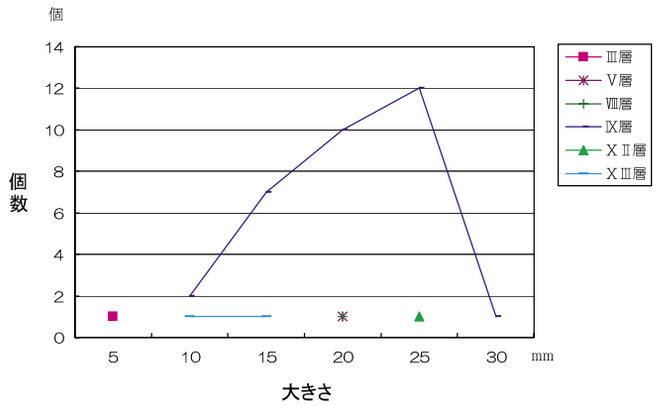
・仲宗根禎・新城卓也　2002年「部瀬名南遺跡―市道・部瀬名線道路改良事業に伴う緊急発掘調査」『名護市文化財報告―15』

・黒住耐二　1987年　「第6章　第6節　3.　遺跡出土貝類の生息場所類型化の試み」『古我地原貝塚－沖縄自動車道（石川～那覇間）建設工事に伴う緊急発掘調査報告（6）－』沖縄文化財調査報告書第84集　沖縄県教育委員会

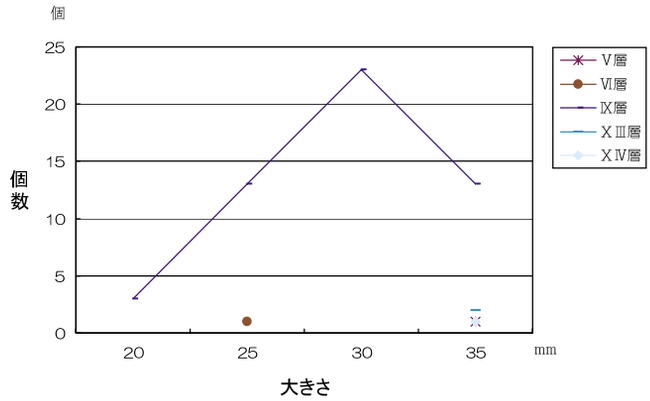
貝類生息地の分類

外洋～内湾		水　深		底　質	
Ⅰ	外洋・サンゴ礁	0	潮間帯上部（1ではノッチ、Ⅲではマングローブ）	a	岩板
		1	潮間帯中・下部	b	軽石
Ⅱ	内湾・軽石地域	2	亜潮間帯上部（1ではイノー）	c	岩礁底、砂泥底、砂底
		3	干瀬（1にのみ適用）	d	マングローブ植物上
Ⅲ	河口干潟・マングローブ域	4	礁斜面およびその下部	e	淡水の流入する礫底
Ⅳ	淡水域	5	止水		
		6	流水		
Ⅴ	陸域	7	林内		
		8	林内・林縁部		
		9	林縁部		
		10	海浜域		
Ⅵ	その他	11	打ち上げ物		
		12	化石		

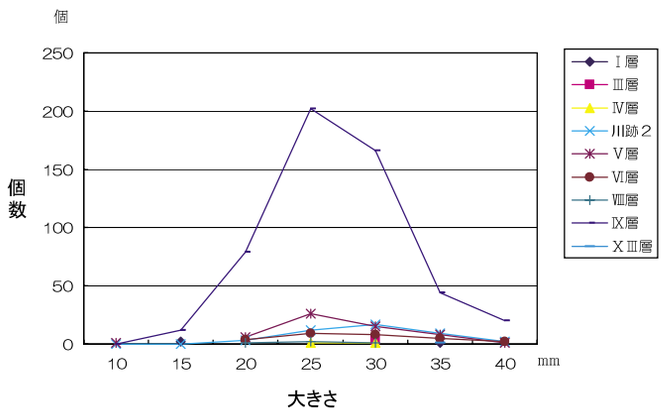
『古我知原貝塚』沖縄県文化財調査報告書　第84集　1987.2



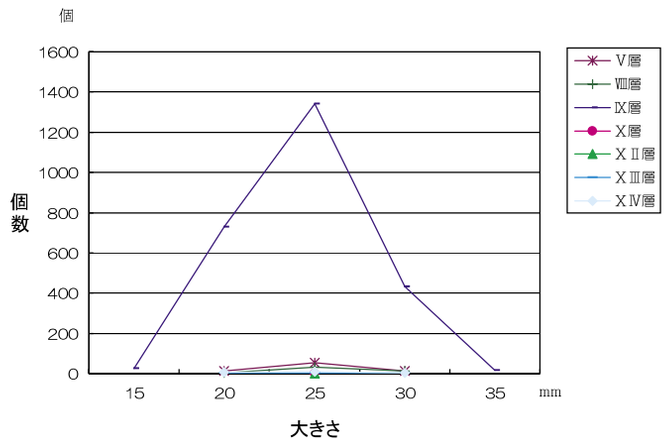
第70図　キバウミニナ（殻径）



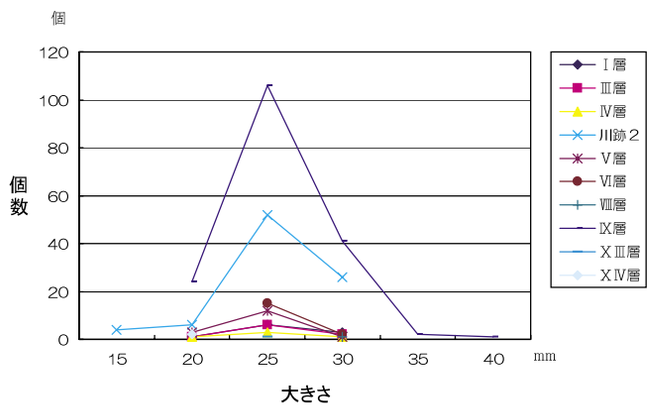
第71図　センニンガイ（殻径）



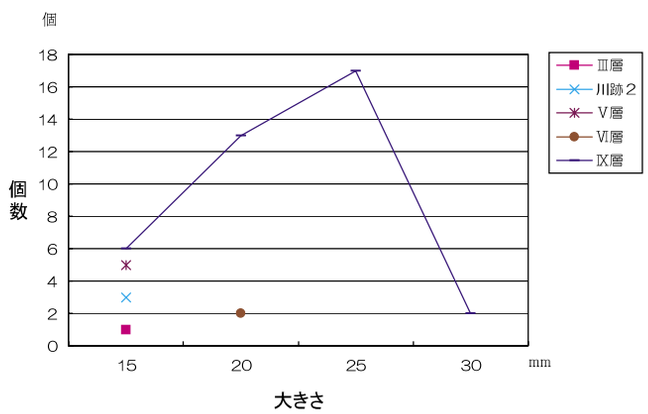
第72図　カンギクガイ（殻径）



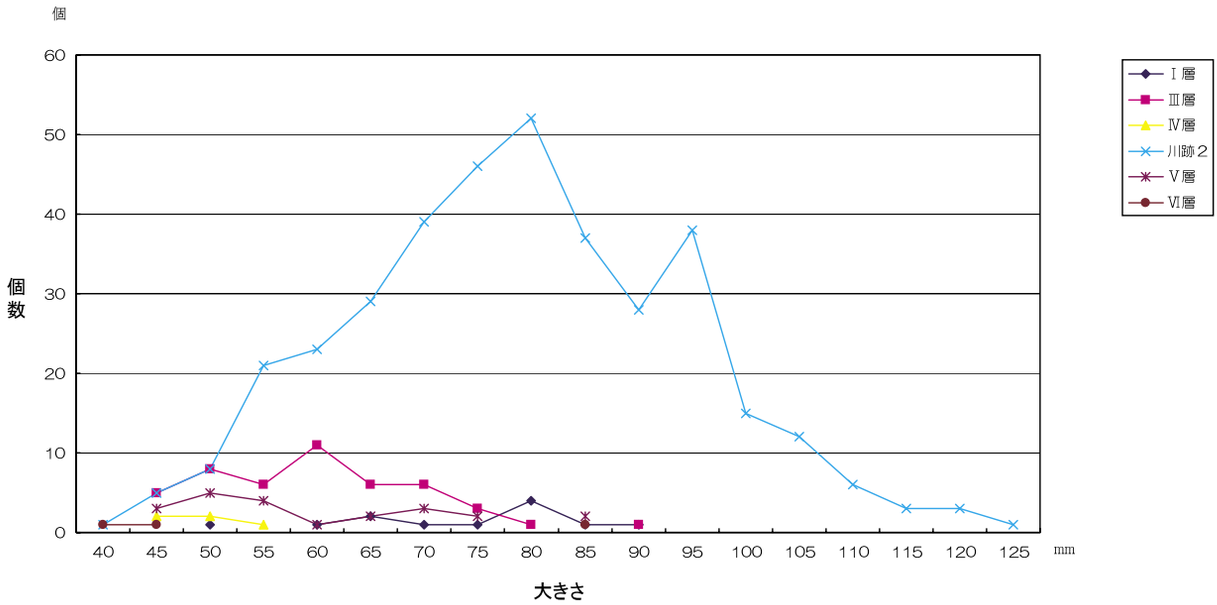
第73図　クマノコガイ（殻径）



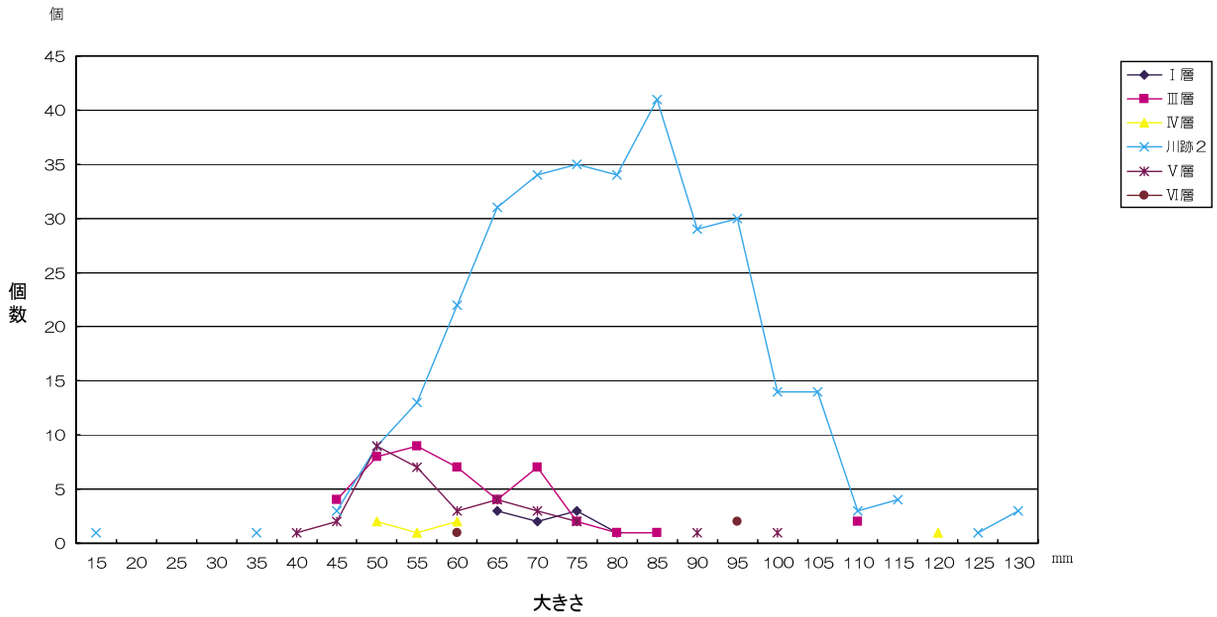
第74図　マガキガイ（殻径）



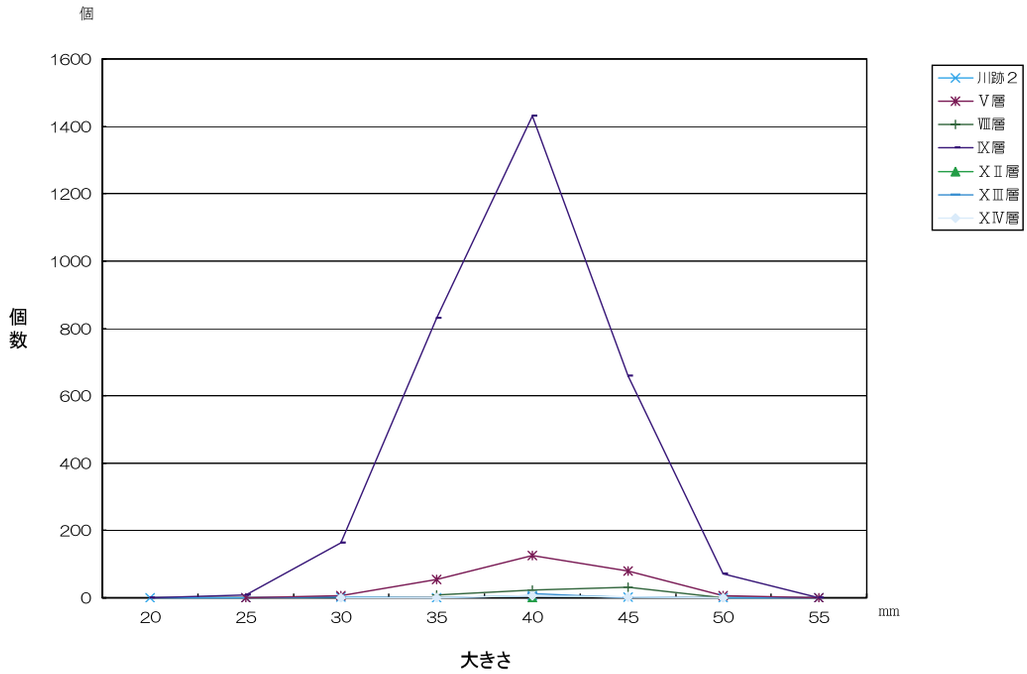
第75図　マドモチウミニナ（殻径）



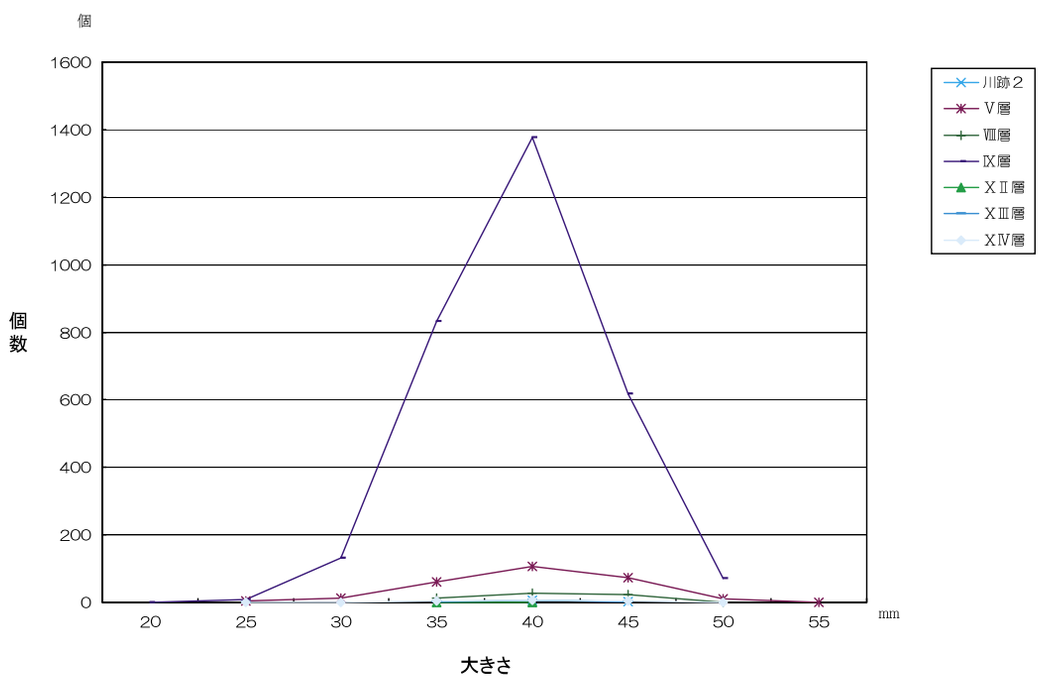
第76図　ヒメジャコガイ（殻長）右



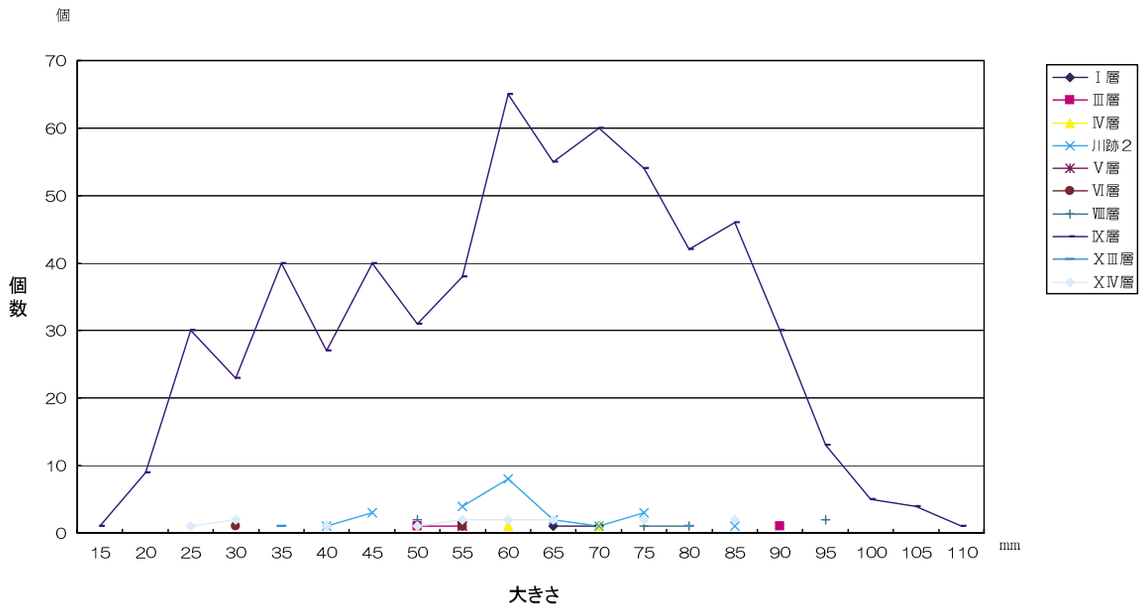
第77図　ヒメジャコガイ（殻長）左



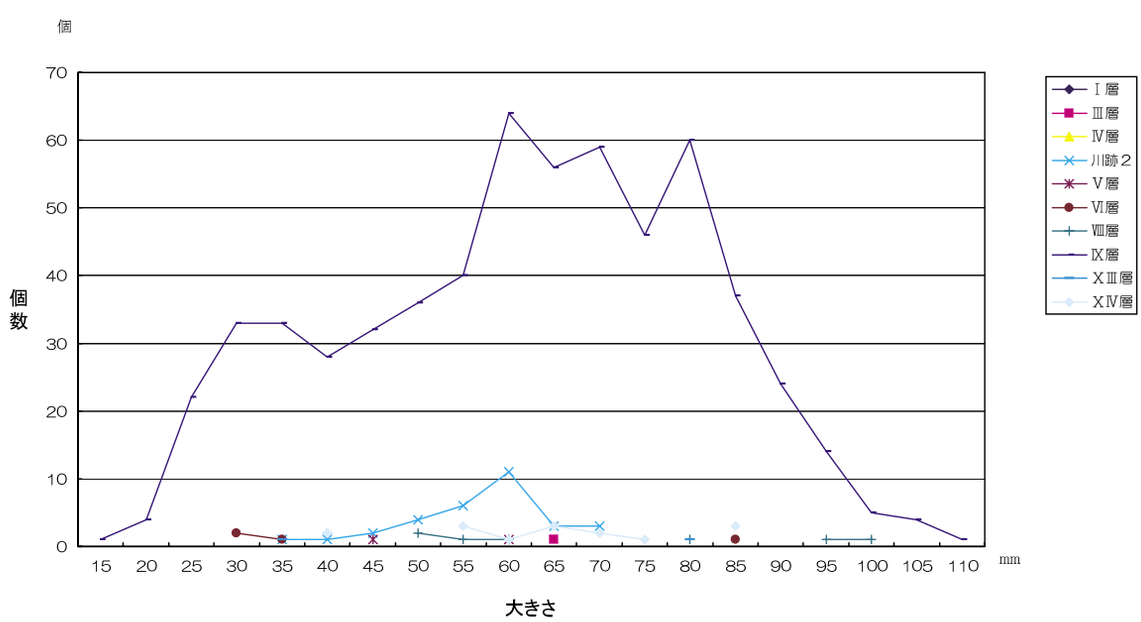
第78図　ヘラサギガイ（殻長）右



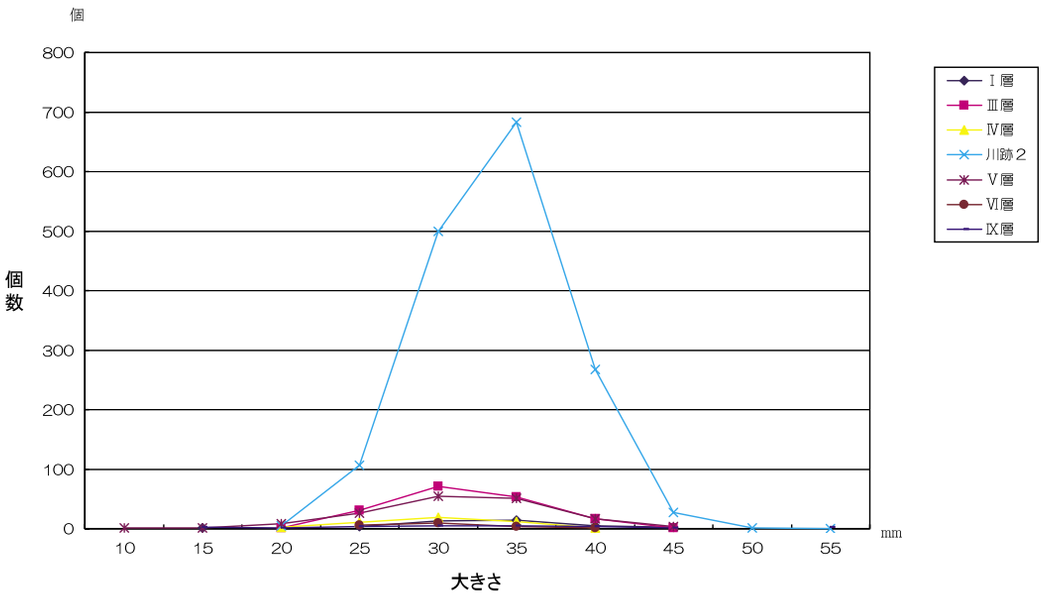
第79図　ヘラサギガイ（殻長）左



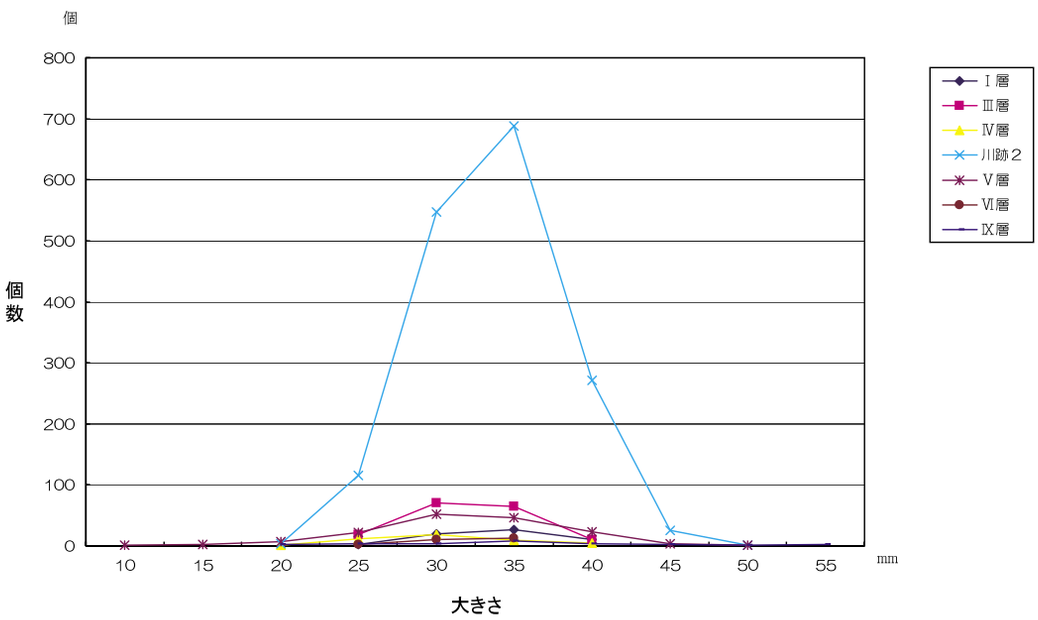
第80図　シレナシジミ（殻長）右



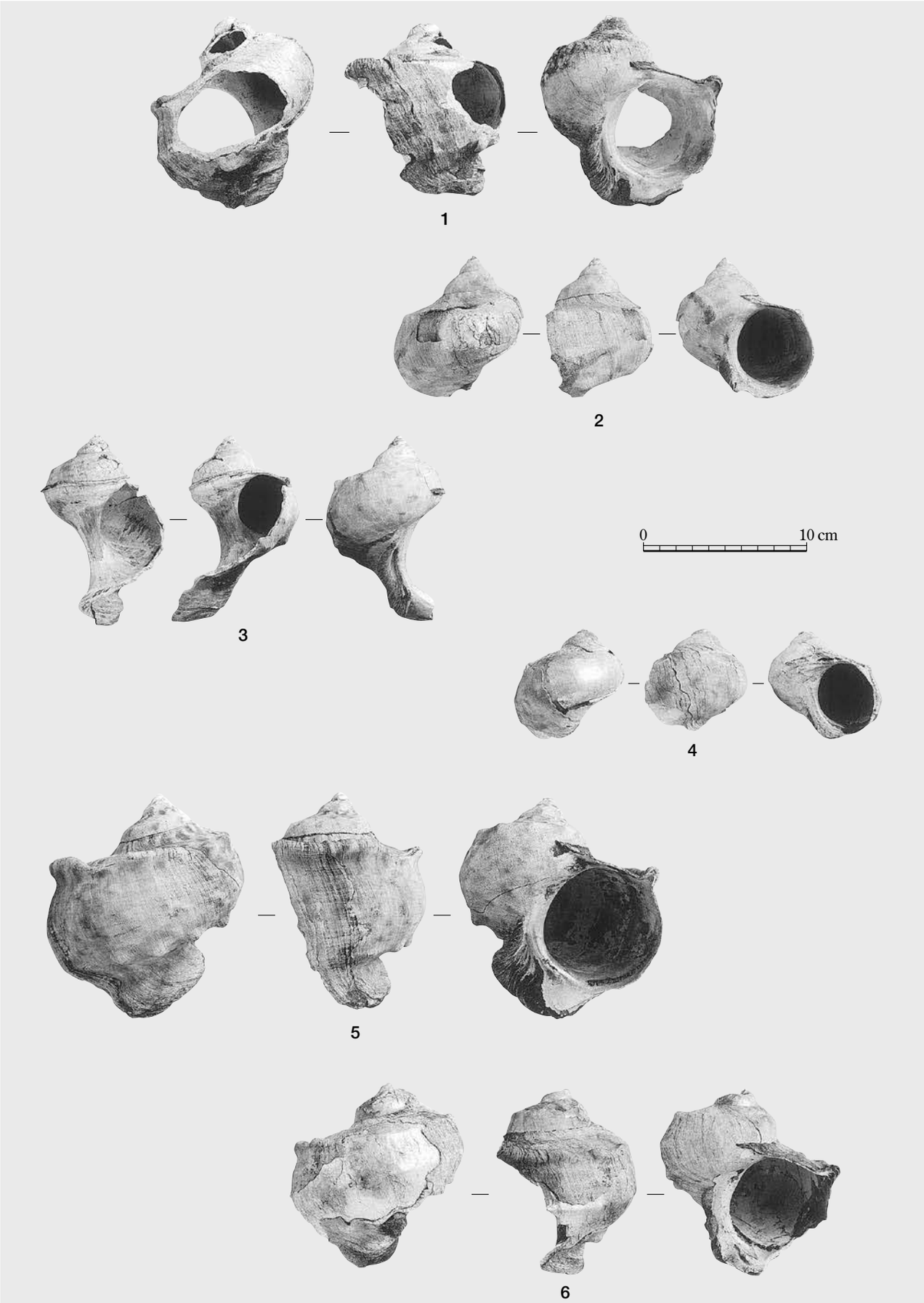
第81図　シレナシジミ（殻長）左



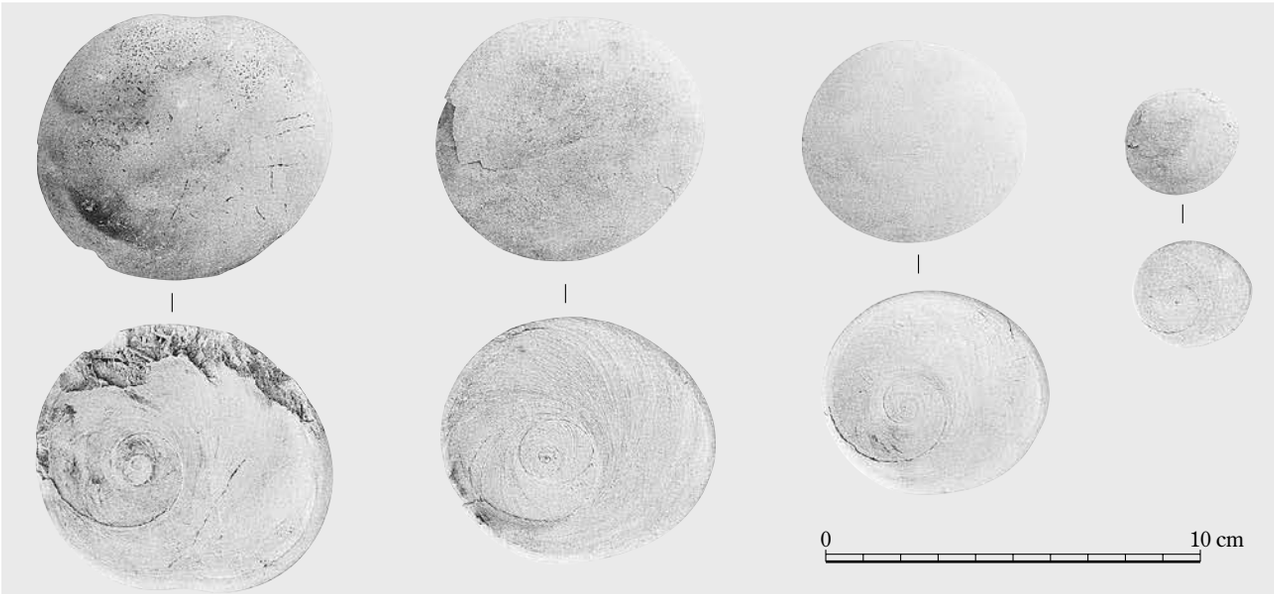
第82図　アラスジケマンガイ（殻長）右

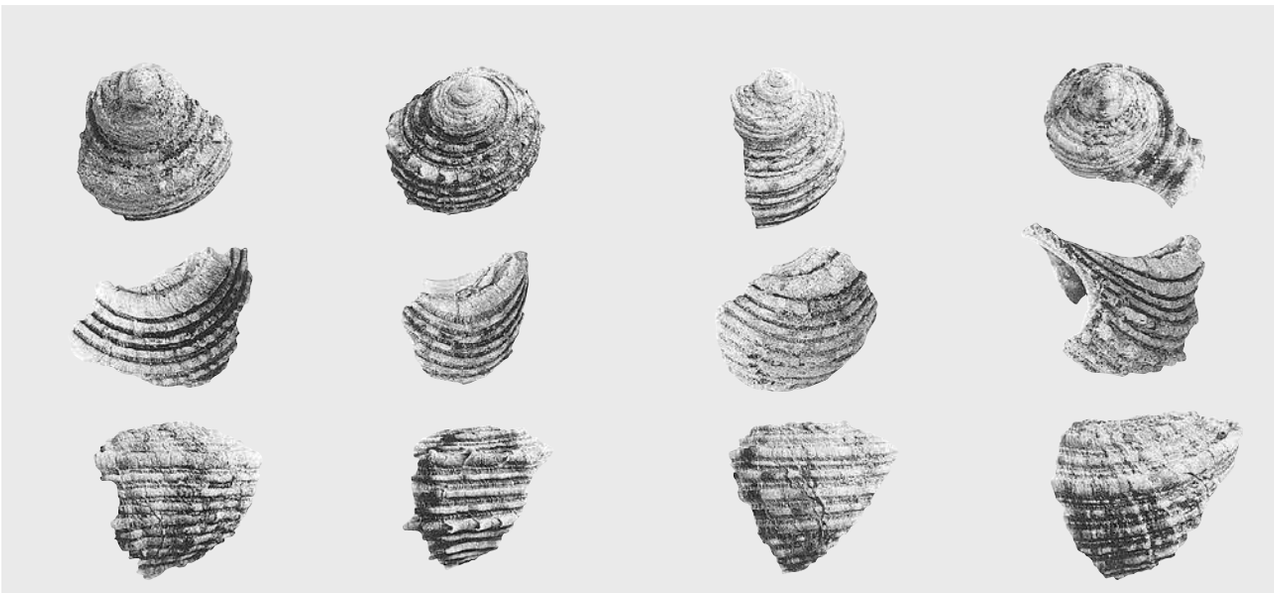


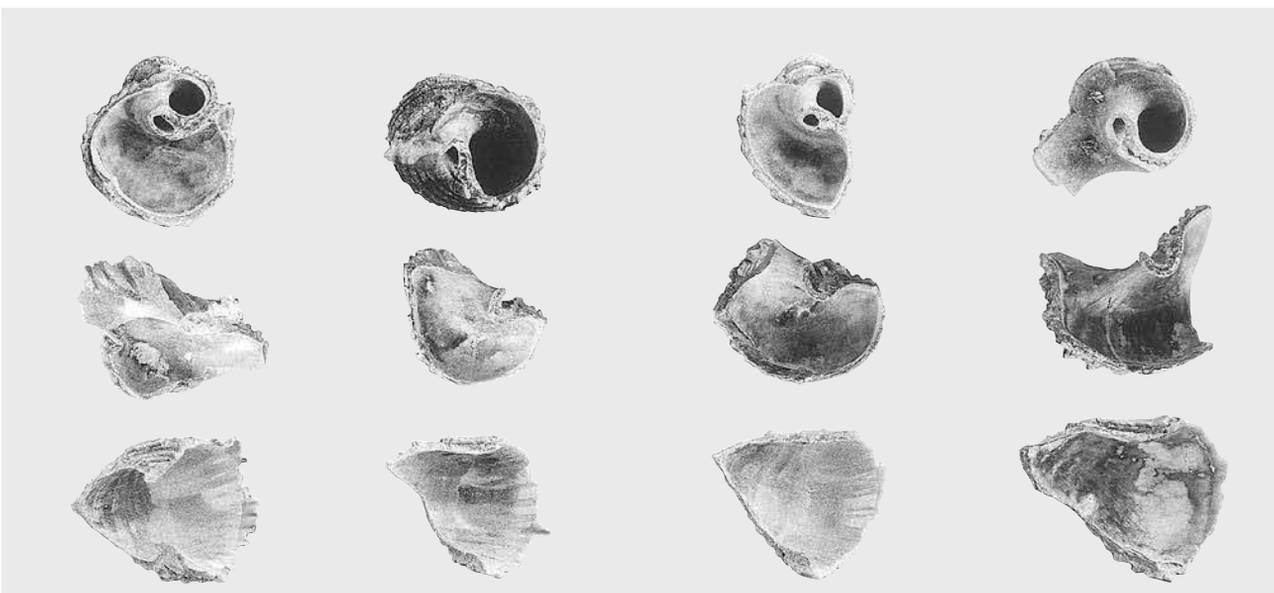
第83図　アラスジケマンガイ（殻長）左



図版106　ヤコウガイ貝殻（Ⅸ層出土）







図版107　上：ヤコウガイ螺蓋（Ⅸ層出土）
中：チョウセンサザエの貝殻表面（上段:殻頂、中段:体層、下段:殻口）
下：チョウセンサザエの貝殻裏面（上段:殻頂、中段:体層、下段:殻口）

第28表　貝類遺体出土状況（巻貝）a

種類 ＼ 出土地					Ⅰ層						Ⅱ層			Ⅲ層						Ⅳ層						川跡2層						川跡3層									Ⅴ層									Ⅵ層						Ⅶ層		
					Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅲ地区			Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区(川跡2)			Ⅲ地区(川跡3)			Ⅰ地区(川跡1)			Ⅱ地区(川跡2)			Ⅲ地区(川跡3)			Ⅱ地区			Ⅲ地区			TP③			Ⅱ地区			TP③			TP③		
番号	綱名	科名	貝種名	生息地	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
1	多板綱	クサズリガイ科	ヒザラガイの一種	Ⅰ-1-a			1																									1											4							6		9						
2	腹足綱	ヨメガカサガイ科	オオベッコウガサ	Ⅰ-1-a																													2	3								2															
3			ベッコウガサ																															1																								
4		ユキノカサガイ科	ヒメコザラ(シボリガイ型)																																																1						
5		ミミガイ科	イボアナゴウ																																						2	5	1														
6		ニシキウズガイ科	クマノコガイ	Ⅰ-1-b		1			1																							5	1								79	11	3								1	2						
7			ニシキウズガイ	Ⅰ-2-a	3	9	15	2		1					3		1	5			2			3	2	2	11				18	7	82	5	3	10	1	1		39	21	153								2	6						
8			ムラサキウズ	Ⅰ-3-a	1					1															2		1																														
9			ギンタカハマ	Ⅰ-4-a	1	1			1									4					2	1	6	12					2	19		3	6				1	3	11									4						1
10			コシタカギンタカハマ	Ⅰ-4-a																																					1	1															
11			ベニシリタカ	Ⅰ-4-a																														1			3																				
12			サラサバテイ	Ⅰ-4-a	9	79	261		6	18				1	8	24		9	29	3		44			1	3	44	94	150	1	7	1	12	232	1118	15	63	81		2	1	5	29	95		1				1		2	8					1	1
13			オキナワイシダタミ	Ⅱ-1-b																												1		3							6		3							3								
14			フルヤガイ																																							1															
15		サザエ科	ヤコウガイ	Ⅰ-4-a		1	6			1					1			2			4							2					1	32			1						2															
16			ヤコウガイの蓋	Ⅰ-4-a		1	4			1								2									2					2	2							7	2																	
17			チョウセンサザエ	Ⅰ-3-a	9	48	80		8	8	1			1	2	9	1	5	6		1	9			8	6	42	43	1		2	27	319	516	6	35	27	1			8	88	130						4		5	13						
18			チョウセンサザエの蓋	Ⅰ-3-a	184	13	5	6	1					24	2		4			6			10			3		1				246	7	2	3						51									6					1		
19			コシタカサザエ	Ⅰ-2-a													1																																							
20			カシギク	Ⅱ-1-b	6	4	9	3	5	2					1		3	3	1				2	3	1	25	12	9				46	12	10	18	9	2		1		57	9	6							28	6	2					
21			カンギクの蓋	Ⅱ-1-b	2																																				1																
22			オオウラウズガイ	Ⅰ-2-a																								1							1																							
23		アマガイモドキ科	アマガイモドキ	Ⅰ-4-a																																																					
24		アマオブネガイ科	イシダタミアマオブネ	Ⅰ-0-a																																					3									1								
25			アラスジアマガイ		3																					2						7	2	2							3																	
26			コシダカアマガイ																													1									1																	
27			マルアマオブネ	Ⅱ-1-b														1																1							1																	
28			アマオブネガイ	Ⅰ-1-b	2	1		1						1												7		3				22	1	6	1						37									1								
29			ニシキアマオブネ	Ⅰ-0-c																						1						2	1	1							5		1															
30			シマカノコ	Ⅲ-0-d																							1					1			3																							
31			ドングリカノコ											1																		1																										
32			イナヅマカノコ																																						1										1	1						
33			ヒロクチカノコ																																																						
34			カノコガイ	Ⅲ-1-e	1			1																																																		
35			イシマキガイ		1																													1							2									1								
36		フネアマガイ科	フネアマガイ																																						1																	
37		ヤマタニシ科	アオミオカタニシ					1																																																		
38			オキナワヤマタニシ	Ⅴ-8	15	1	3	8	1	2				7		3	9	3	2				3	2	3	34	3	12				12	2	5	24	3		2			70	12	21				1			15	1	2						2
39		タニシ科	マルタニシ		1	2		2																																	2																	
40		トウガタカワニナ科	トウガタカワニナ	Ⅳ-5	14	5	1	45	4								1	2	1							3	1	3					1		1						3	3									1							
41			スグカワニナ				1										3	4	8					2	4	2	1	1							1						1																	
42			ヌノメカワニナ	Ⅳ-5	20	9	2	47	15	2							5	2	1				11	15	11		2					1	1		3	2	1				3	2	1								2	2						
43			タイワンカワニナ						1								2		1							2	2								1	1			1														1					
44		カワニナ科	カワニナ	Ⅳ-5・6	43	14	7	3	1	1				1			1				1				1	2	7	5				6	5	3	4	3	2				72	62	34				1			10	16	12				1		
45		オニノツノガイ科	オニノツノガイ	Ⅰ-2-c	2	26	29	1	2	6				1		3		14	9	3	2	1		11	7	11	125	26				4	42	27	9	66	5					6	9								4						
46			ジュズカケカニモリ																																																						
47			コゲツノブエ																																						6	3	1							6	1							
48			ヒメクワノミカニモリ																													1									1																	
49			カヤノミカニモリ	Ⅰ-0																																					1																	
50			ウミニナカニモリ																													2									2																	
51			クワノミカニモリ	Ⅰ-1-a		1	1		2	1															1		1																1															
52		ウミニナ科	ウミニナ	Ⅱ-1-c	38		10																									1	2	1							12	3																
53			イボウミニナ	Ⅲ-1-c	4	5			1	3				2	1	1		1	1						1		4					37	23	3	5	6	2				261	198	44				7	3		20	34	2						
54		フトヘナタリ科	フトヘナタリ(イトカケヘナタリ)																													1	2									1									1	1						
55			ヘナタリ		3		1	1																								1		1	1							28	7	1							2	1						
56			カワアイ																													1				1						29	77	22							7	1						
57			マドモチウミニナ	Ⅲ-1-c			3									1		1									4	1					1	1		2							7	1															
58			キバウミニナ	Ⅲ-0-c		1											1										1						1	1		1							2										2	2					
59			センニンガイ	Ⅲ-0-c		1																											3	1									2										1	1					
60		タマキビ科	ウズラタマキビ																																																						
61			ヒメウズラタマキビ																																																						
62		ソデボラ科	トンボソデガイ																																																						
63			オハグロガイ	Ⅱ-2-c	2			1								1											1														2		1															1
64			フトスジムカシタモト(ヒダトリガイ)	Ⅱ-2-c																							1																															
65			ムカシタモト	Ⅰ-2-c	1	1		1																																	1	2	1															
66			ネジマガキガイ		1	1																	1																																			
67			マガキガイ	Ⅰ-2-c	43	570	66	10	85	5				13	38	7	9	191	25	7	28	3	5	89	10	46	128	23	1	1		51	135	36	42	36	2				16	37	5				1			17	16	4						
68			イボソデガイ	Ⅰ-2-c			2											1															1	3																1								
69			ゴホウラ																									1					1	5																								
70			アツソデガイ																							2							1																									
71			クモガイ	Ⅰ-2-c	8	101	489	1	12	101				1	5	52		10	122		9	31		11	58	4	45	206		2	10	16	203	1156	3	22	78		1	1	2	7	132		2						1	35					2	
72			スイジガイ	Ⅰ-2-c			3												1			1				1							10	38		1				1				1														
73		トンボガイ科	トンボガイ	Ⅱ-2-c																																														1							
74		スズメガイ科	カワチドリ	Ⅰ-3-a																																					1																	
75			ホシガタフウリンチドリ																					1																		2		2								1							
76			ズキンフウリンチドリ																																																						
77		ムカデガイ科	リュウキュウムカデガイ		4																											2									1		1															

注　右殻、左殻のそれぞれの完形と殻形と合計し多い方を個体数とした。合計数と個体数はかならずしも一致しない。

第28表　貝類遺体出土状況（巻貝）b

種類 ＼ 出土地					Ⅷ層			Ⅸa層			Ⅸb・c層			Ⅸ層不明						Ⅹ層			ⅩⅡ層			ⅩⅢ層			ⅩⅣ層			層序不明															合計			個体数
					Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			TP③			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅲ地区			TP①			TP②			TP④						
番号	網名	科名	貝種名	生息地	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片			
1	多板網	クサズリガイ科	ヒザラガイの一種	Ⅰ-1-a					3	4	1		13			7																		2			1												8	3	41	11
2		ヨメガカサガイ科	オオベッコウガサ	Ⅰ-1-a				8	1	6	5	3	3	1																					1			1											15	8	13	23
3			ベッコウガサ																																														0	0	1	1
4		ユキノカサガイ科	ヒメコザラ(シボリガイ型)																																														0	1	0	1
5		ミミガイ科	イボアナゴウ					6	2		4	3	3	1	1	1																																	13	11	5	24
6		ニシキウズガイ科	クマノコガイ	Ⅰ-1-b	47			1243	52	28	1110	53	24	194	15	26	5	2		1			1			9			15	1		4		1		2					1							2714	141	84	2855
7			ニシキウズガイ	Ⅰ-2-a	4	1	4	188	20	83	143	19	107	52	14	58	8	10	24										1	2	3	3	22	3	1	2					1	2	1		4	3	4	16	475	120	615	595
8			ムラサキウズ	Ⅰ-3-a																																													3	0	2	3
9			ギンタカハマ	Ⅰ-4-a		1			1						1			1	1														4	6		2	1						1			1				3	26	69	29
10			コシタカギンタカハマ	Ⅰ-4-a																											1				1														2	1	1	3
11			ベニシリタカ	Ⅰ-4-a																														2															0	0	6	1
12			サラサバテイ	Ⅰ-4-a		2	10	42	44	118	8	17	72	11	13	60		2	8									2		1	3	14	106	793		2	14				1	6	7		1	6		1	24	166	729	2952	895
13			オキナワイシダタミ	Ⅱ-1-b				6			5		1	4	2	1	16	1	2													1				1			4						1				47	3	11	50
14			フルヤガイ																																														0	1	0	1
15		サザエ科	ヤコウガイ	Ⅰ-4-a		1	1	13	4	13	3		4	1	5	8																	4	39			1												17	16	117	33
16			ヤコウガイの蓋	Ⅰ-4-a	1			1	1		6	1	2	3																			1	4															20	8	15	28
17			チョウセンサザエ	Ⅰ-3-a	1			25	14	23	17	10	15	26	33	71	1	2	8							1						15	99	258	5	11	11					3	6		2	5		5	6	152	732	1258	884
18			チョウセンサザエの蓋	Ⅰ-3-a	2			52		1	112	2		97	1		1	1					1			1						160	4	6	4												3			977	31	15	1008
19			コシタカサザエ	Ⅰ-2-a																																					2								3	0	0	3
20			カンギク	Ⅱ-1-b	4	1		232	20	10	228	9	9	63	6	4	8	2	1							1					1	18	6	3	1										1	2	2	2	745	111	73	856
21			カンギクの蓋	Ⅱ-1-b				1			1			5																																			10	0	0	10
22			オオウラウズガイ	Ⅰ-2-a																																													1	0	1	1
23		アマガイモドキ科	アマガイモドキ	Ⅰ-4-a																														1															1	0	0	1
24		アマオブネガイ科	イシダタミアマオブネ	Ⅰ-0-a				3									4		1																1											1			12	1	1	13
25			アラスジアマガイ					11	2	2	8	3	9	2					1												5										1					1			43	7	14	50
26			コシダカアマガイ																																														2	0	0	2
27			マルアマオブネ	Ⅱ-1-b							1			2																		1									1						1	1	6	2	2	8
28			アマオブネガイ	Ⅰ-1-b	6		1	259	2	5	255		5	75	1		4		1										4	1		11									2			1			11	1	1	700	7	22	707
29			ニシキアマオブネ	Ⅰ-0-c	1			6		1	5			4		2	8		1													4	1	1							4	5	3			4		1	44	7	11	51
30			シマカノコ	Ⅲ-0-d							3																					1																	8	1	0	9
31			ドングリカノコ					14			23	1		2																																			41	1	0	42
32			イナヅマカノコ																																														1	1	1	2
33			ヒロクチカノコ								1																																						1	0	0	1
34			カノコガイ	Ⅲ-1-e																																													2	0	0	2
35			イシマキガイ					11	1		15	1		2			1															1																	35	2	0	37
36		フネアマガイ科	フネアマガイ														1																																2	0	0	2
37		ヤマタニシ科	アオミオカタニシ																																														1	0	0	1
38			オキナワヤマタニシ	Ⅴ-8	1			20		3	37	3	3	7	1	3	16	7	4													30	5	12	4		4				8	1	3	12		2	25	6	9	360	51	98	411
39	腹足網	タニシ科	マルタニシ														1																	2	2														8	4	0	12
40		トウガタカワニナ科	トウガタカワニナ	Ⅳ-5				4	3		8			2	1														1			4	2	1	16	7					2								103	31	6	134
41			スゲカワニナ													2																1	2																	8	9	16	17
42			ヌノメカワニナ	Ⅳ-5							1		1		1			1														2	1	2	8	1												2	103	54	23	157
43			タイワンカワニナ																																										1				5	5	3	10
44		カワニナ科	カワニナ	Ⅳ-5・6		1		50	14	11	99	30	34	37	18	35	20	13	7				1							1		4	6	8	9	10	2			5	2	3	4	1	3	10	24	4	384	228	172	612
45		オニノツノガイ科	オニノツノガイ	Ⅰ-2-c				1		2																					1	19	16		1	1									2				33	318	143	351
46			ジュズカケカニモリ																																1														0	1	0	1
47			コゲツノブエ		1			14	6		29	4		11	3		16	2																39	31	3				5	1					4	1		131	52	4	183
48			ヒメクワノミカニモリ								5		1																																				7	0	1	7
49			カヤノミカニモリ	Ⅰ-0				5						2	1		1																1		2														11	2	0	13
50			ウミニナカニモリ																														1																4	1	0	5
51			クワノミカニモリ	Ⅰ-1-a								1																																					0	6	3	6
52		ウミニナ科	ウミニナ	Ⅱ-1-c				5			63	3		56	7	1	5																2	1		14						1	1			5				186	31	14	217
53			イボウミニナ	Ⅲ-1-c				61	29	3	111	30	2	80	81	22	56	52	1							1	1		1	2	1	27	21	3	129	186	15			53	33	5	36	35	7	24	32	1	915	778	117	1693
54		フトヘナタリ科	フトヘナタリ(イトカケヘナタリ)					7	7		9	13	7	6	2		1			1																				1	1			2			1		26	30	8	56
55			ヘナタリ					1	3	1	8	2		4				3												1	1	1	1	8	2					2		4			3	2		65	23	5	88
56			カワアイ					5	1		7	4		24	38	3	1	1	2								1		1	2		1		1	216	478	48										1		292	605	76	897
57			マドモチウミニナ	Ⅲ-1-c				29	32	2	24	34	7	6	11	5							2		3	1	1		3				2			11													62	111	22	173
58			キバウミニナ	Ⅲ-0-c		1		8	11		4	10	1		4			1					1			2					3									1									13	39	7	52
59			センニンガイ	Ⅲ-0-c				28	7	3	15	11	3	3	1	5							1		2				1	1				1	2	1													50	30	14	80
60		タマキビ科	ウズラタマキビ																													1																	1	0	0	1
61			ヒメウズラタマキビ								2			2																																	1			5	0	0	5
62		ソデボラ科	トンボソデガイ																																1														0	1	0	1
63			オハグロガイ	Ⅱ-2-c													1	1																1	1						1			1				1	7	3	6	10
64			フトスジムカシタモト(ヒダトリガイ)	Ⅱ-2-c																																													0	1	0	1
65			ムカシタモト	Ⅰ-2-c																																												1	3	3	2	6
66			ネジマガキガイ																													2	4																4	5	0	9
67			マガキガイ	Ⅰ-2-c	1	1		76	15	2	76	8	1	22	8		1	4	1							1			2			70	261	35	4	9	1						2			1	3	515	1662	229	2177
68			イボソデガイ	Ⅰ-2-c																															1														1	3	5	4
69			ヨホウラ																														1	3					1										0	2	10	2
70			アツソデガイ																																										1				2	1	1	3
71			クモガイ	Ⅰ-2-c				3	3	12		3	12	2	1	16			11													8	81	701	1	1	17				3	11		1	6		2	10	49	528	3267	577
72			スイジガイ	Ⅰ-2-c																													3	3															1	14	48	15
73		トンボガイ科	トンボガイ	Ⅱ-2-c																												1																	2	0	0	2
74		スズメガイ科	カワチドリ	Ⅰ-3-a																																													1	0	0	1
75			ホシガタフウリンチドリ																																1														3	2	2	5
76			ズキンフウリンチドリ																																											1			1	0	0	1
77		ムカデガイ科	リュウキュウムカデガイ																1													2																	9	0	2	9

第28表　貝類遺体出土状況（巻貝）c

種類 ＼ 出土地					Ⅰ層						Ⅱ層			Ⅲ層						Ⅳ層						川跡2層						川跡3層									Ⅴ層									Ⅵ層						Ⅶ層		
					Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅲ地区			Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区(川跡2)			Ⅲ地区(川跡3)			Ⅰ地区(川跡1)			Ⅱ地区(川跡2)			Ⅲ地区(川跡3)			Ⅱ地区			Ⅲ地区			TP③			Ⅱ地区			TP③			TP③		
番号	綱名	科名	貝種名	生息地	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
78	腹足綱	ムカデガイ科	ソメワケヘビガイ																																							4																
79			リュウキュウヘビガイ							1																		1						1				1																					
80		ツボガイ科	ヤクシマダカラ	Ⅰ-2-a		1	6	1	1						1		1	1									4						8	3	7						1	2	7	6								2					
81			キッコウダカラ	Ⅰ-1-a																																															1					
82			ホシダカラ	Ⅰ-2-c		2	16			2						2						1		2	2	1	1	5			2	6	4	21	1	10	4		2		1	4	2								1	1	1					
83			ヒメホシダカラ	Ⅰ-2-a	1			1		1																	2	2				6				3								1														
84			クチムラサキダカラ	Ⅰ-2-a	1																																																				
85			ホシキヌタ	Ⅰ-2-a	1	4	2	2																		6	1	5				18	8	4							1		1	1							1					
86			タルダカラ	Ⅰ-2-a				1		1																																															
87			ヤナギシボリタカラ	Ⅰ-2-a																												6				1	1																					
88			ナツメモドキ	Ⅰ-2-a	2																						1					4	1	2	2						7		2							1		1					
89			ナツメダカラ																																						1																
90			ヒロクチダカラ	Ⅰ-2-b																				1																																		
91			エダカラ																																																							
92			サバダカラ																																																							
93			コモンダカラ	Ⅰ-1-a	1			2																		2		2				1		1									6									1				1		
94			ハナビラダカラ	Ⅰ-1-a	9	1	1	1															1	1		4						2				6						26	2	2				1		1	5		1	1				
95			キイロダカラ	Ⅰ-1-a	1					1				1												1						1										4	1	1				1										
96			ハナマルユキダカラ	Ⅰ-3-a	2					2																						1		1	1							4	1															
97			チドリダカラ	Ⅰ-2-a																																																					
98			タカラガイ科の(幼)																																							1																
99			タカラガイ科不明				8			1									1						1									4									10											2					
100		タマガイ科	トミガイ	Ⅰ-2-c										1	1											7	11	3				3				3	2	2				8	1	6							3						1		
101			リスガイ	Ⅰ-2-c				1						1				1	1							3	2	1				2	5			3						6	5	2							1							
102			ツガイ																																							1																
103			ツツミガイ																																						1																	
104			トラダマ	Ⅱ-2-c																																																					
105			コハクダマガイ																																						2																	
106			ホウシュノタマ	Ⅱ-1-c	4			5	1					3												1	2					4	1	1	17	2	1				153	24	5				2			19	2						2	
107			ホウジュノタマの蓋	Ⅱ-1-c																																					1																	
108			アラゴマフダマ																																													1		2							
109		オキニシ科	オキニシ	Ⅰ-3-a		5	3			1								1		1						13	1					4	1	1	6	4	1				1	1								1	1						
110			オオナルトボラ																									1																													
111			シロナルトボラ																								1					1		1																							
112		ヤツシロガイ科	イワカワトキワガイ	Ⅰ-2-c																						1																															
113			ウズラガイ	Ⅰ-2-c		1	1																										4	1		1						1	3								1	1						
114		フジツガイ科	ハイイロボラ																														1																									
115			ミツカドボラ	Ⅰ-2-a	1																				1	4	1					1			2	3							2															
116			シロシノマキ																																						1																	
117			シノマキボラ																													3	2	1	1								2															
118			シオボラ	Ⅰ-2-a	2		1		1																	3	1				1	4		1	4						1	1	2															
119			フジツガイ	Ⅰ-4-a										1																																												
120			ホラガイ	Ⅰ-4-a			4												3		1					1	2	5			4			16			4						3										1					
121			フジツガイ科不明																								1																															
122		アッキガイ科	ガンゼキボラ	Ⅰ-4-a	5		8	1	1							1	1	1	3							55	12	14				4	3	9	33	17	9				1	2	3									1					
123			ウネレイシダマシ	Ⅰ-1-b																															1																							
124			コウシレイシダマシ	Ⅰ-1-b																																					1											1						
125			シロレイシダマシ																																																							
126			クチベニレイシダマシ	Ⅰ-2-a					7																																1																	
127			ヒメシロレイシダマシ																																																							
128			レイシダマシ	Ⅰ-1-a																																														1								
129			カタハリレイシダマシ																																																							
130			ハナワレイシ	Ⅰ-3-a																																																						
131			ムラサキイガレイシ																																																							
132			アカイガレイシ	Ⅰ-3-a	1	3	1																1			3						2	1	1	4						2																		
133			ツノレイシ	Ⅰ-3-a	2	5	8	1								2	6	2	2					2	1	120	23	6				14	5	11	94	12	2						1							1		1						
134			シラクモガイ	Ⅰ-3-a															1							7						1			2																								
135			テツレイシ	Ⅰ-1-a		2	1																			2	1					1	1										1	1															
136		オニコブシガイ科	オニコブシガイ	Ⅰ-3-a	1		3							1					1													2	1	2																		1						
137			コオニコブシ	Ⅰ-3-a	4	8	10	2	1							1	1	1								2	4	2					6	17	4							1		2															
138		フトコロガイ科	マルフトコロ																																																						
139			フトコロガイ																													1			1						2	1	1							1								
140			タモトガイ	Ⅰ-2-c																																																						
141			ムシエビ						1																							1										1																
142		ムシロガイ科	イボヨフバイ	Ⅱ-1-c			1																																														1					
143			カニノテムシロ											1																											8		1							1							
144			ヒメオリイレムシロ		1		1	2	1					1																		2	1	1	1		2				24	3	3							6		2					
145			クリイロムシロ																																																							
146			ムラサキヨフバイ																																						1																	
147			キヌヨフバイ	Ⅱ-2-c																																																						
148			クロスジムシロ																																						3																		
149		エゾバイ科	スジグロホラダマシ	Ⅰ-3-a																												3																											
150			ホラダマシ	Ⅰ-2-b																												2					1						2										1					
151			シマベッコウバイ	Ⅱ-1-c																						1		1													1		1															
152		セコバイ科	ヒモカケセコバイ	Ⅰ-2-a																																							1															
153		イトマキボラ科	イトマキボラ	Ⅰ-2-a	19	17	35	2	3	13				2		3	3	4	27	1	1	8		4	10	23	75	95				11	41	274	34	57	35	1	1		5	7	79						3	2	2	8			2			
154			ナガイトマキボラ	Ⅰ-2-a					1																	1	2							1		1																							

第28表　貝類遺体出土状況（巻貝）d

種類 ＼ 出土地					Ⅷ層			Ⅸa層			Ⅸb・c層			Ⅸ層不明						Ⅹ層			ⅩⅡ層			ⅩⅢ層			ⅩⅣ層			層序不明															合計			個体数
					Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			TP③			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅲ地区			TP①			TP②			TP④						
番号	綱名	科名	貝種名	生息地	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片			
78	腹足綱	ムカデガイ科	ソメワケヘビガイ							15			19			4			2						1											1													0	0	46	1
79			リュウキュウヘビガイ																																							1						1	0	4	1
80		タカラガイ科	ヤクシマダカラ	Ⅰ-2-a				1	6	3		1	2	1	5	4	1	1														3	6	2	2										1		16	33	42	49
81			キッコウダカラ	Ⅰ-1-a																																											0	1	0	1
82			ホシダカラ	Ⅰ-2-c				1	2	1		2	6			1			1													1	10	15		2								1				12	42	83	54
83			ヒメホシダカラ	Ⅰ-2-a					1								1															1		4						1					1		14	8	4	22
84			クチムラサキダカラ	Ⅰ-2-a																													3	3													4	3	0	7
85			ホシキヌタ	Ⅰ-2-a				1								1	1	2														14	4	5					1		1					3	46	20	22	66
86			タルダカラ	Ⅰ-2-a																													1														1	1	1	2
87			ヤナギシボリタカラ	Ⅰ-2-a							1																																				7	1	1	8
88			ナツメモドキ	Ⅰ-2-a													3															24	1	1	2							2			2		49	3	6	52
89			ナツメダカラ																																												1	0	0	1
90			ヒロクチダカラ	Ⅰ-2-b																												1															1	1	0	2
91			エダカラ																															1													1	0	0	1
92			サバダカラ																															1													1	0	0	1
93			コモンダカラ	Ⅰ-1-a						1	1						1	1	2													3			11		1					1	1		1		1		1	24	3	16	27
94			ハナビラダカラ	Ⅰ-1-a																												7	1	3	3	1				2	2	2	1		6	2	2	75	10	12	85
95			キイロダカラ	Ⅰ-1-a													1															1			4					1					1			17	2	1	19
96			ハナマルユキダカラ	Ⅰ-3-a										1	1																	1	1								1							10	5	2	15
97			チドリダカラ	Ⅰ-2-a										1																				1														2	0	0	2
98			タカラガイ科の（幼）																																												0	1	0	1
99			タカラガイ科不明							1									2														1	4			4						3					1	2	0	2	43	2
100		タマガイ科	トミガイ	Ⅰ-2-c		1		8	3		6	2	1	2	1		3	2														1		2	1					1					2			51	25	12	76
101			リスガイ	Ⅰ-2-c															1													4	2	1	1	1				1	2			1	1	2		25	21	5	46
102			ツガイ																																												0	1	0	1
103			ツツミガイ																																												1	0	0	1
104			トラダマ	Ⅱ-2-c													3																							1					1			5	0	0	5
105			コハクダマガイ														1																														3	0	0	3
106			ホウシュノタマ	Ⅱ-1-c				24			52	3		60	3		123	4	1							1			2		1	17	5	1	18		1			60	3		28	2		102	9	2	695	63	13	758
107			ホウジュノタマの蓋	Ⅱ-1-c																																											1	0	0	1
108			アラゴマフダマ														3	1																						1	1							6	3	0	9
109		オキニシ科	オキニシ	Ⅰ-3-a																												2		5														28	14	11	42
110			オオナルトボラ																																												0	0	1	1
111			シロナルトボラ																															1													1	1	2	2
112		ヤツシロガイ科	イワカワトキワガイ	Ⅰ-2-c																																											1	0	0	1
113			ウズラガイ	Ⅰ-2-c								2																								1										2		0	12	7	12
114		フジツガイ科	ハイイロボラ						1							1																															0	2	1	2
115			ミツカドボラ	Ⅰ-2-a																															1												1	8	5	4	13
116			シロシノマキ																																												1	0	0	1
117			シノマキボラ								1																							1													5	2	4	7
118			シオボラ	Ⅰ-2-a				1			1																					3															2	19	3	7	22
119			フジツガイ	Ⅰ-4-a																																											1	0	0	1
120			ホラガイ	Ⅰ-4-a				1		1			2																				2	15													2	5	58	7
121			フジツガイ科不明																																												0	1	0	1
122		アッキガイ科	ガンゼキボラ	Ⅰ-4-a							1								1													1		5	2										1			105	36	54	141
123			ウネレイシダマシ	Ⅰ-1-b																															1													2	0	0	2
124			コウシレイシダマシ	Ⅰ-1-b																															1													2	1	0	3
125			シロレイシダマシ																																1													0	1	0	1
126			クチベニレイシダマシ	Ⅰ-2-a																															4		1											12	0	1	12
127			ヒメシロレイシダマシ																																2													2	0	0	2
128			レイシダマシ	Ⅰ-1-a																																								1			2	0	0	2
129			カタハリレイシダマシ																																						1						0	1	0	1
130			ハナワレイシ	Ⅰ-3-a																												1			2		1											3	0	1	3
131			ムラサキイガレイシ																													1																1	0	0	1
132			アカイガレイシ	Ⅰ-3-a																													1															13	5	2	18
133			ツノレイシ	Ⅰ-3-a				1			2																					5	4	6														246	53	40	299
134			シラクモガイ	Ⅰ-3-a				2		1																																					12	0	2	12
135			テツレイシ	Ⅰ-1-a							1	1	1	1																																	5	6	3	11
136		オニコブシガイ科	オニコブシガイ	Ⅰ-3-a																													2														4	4	6	8
137			コオニコブシ	Ⅰ-3-a				1		2		1				1			1													4	4	7														19	26	42	45
138		フトコロガイ科	マルフトコロ																																1					1								2	0	0	2
139			フトコロガイ					3			1			11			3	1														3											1		1	2			29	2	2	31
140			タモトガイ	Ⅰ-2-c																															2													2	0	0	2
141			ムシエビ															1																	3					1								6	2	0	8
142		ムシロガイ科	イボヨフバイ	Ⅱ-1-c				1																											4													5	0	2	5
143			カニノテムシロ					1						6																						1				2					3			22	1	1	23
144			ヒメオリイレムシロ					3			2			19	1		22	2	3							1						4			3					4		2	5			12			112	8	14	120
145			クリイロムシロ					2			2						1																															5	0	0	5
146			ムラサキヨフバイ								1								1																1													3	0	1	3
147			キヌヨフバイ	Ⅱ-2-c																															1													1	0	0	1
148			クロスジムシロ														2																															5	0	0	5
149		エゾバイ科	スジグロホラダマシ	Ⅰ-3-a																																											3	0	0	3
150			ホラダマシ	Ⅰ-2-b													1		2													6				1					1	3			1			10	2	9	12
151			シマベッコウバイ	Ⅱ-1-c												1	1															4		1													1	7	0	5	7
152		セコバイ科	ヒモカケセコバイ	Ⅰ-2-a																																											0	0	1	1
153		イトマキボラ科	イトマキボラ	Ⅰ-2-a						1		1		1		4		2	6													16	16	85	2	2	5					9	1		6		3	11	123	236	719	359
154			ナガイトマキボラ	Ⅰ-2-a												1																		2													1	5	3	6

第28表　貝類遺体出土状況（巻貝）e

種類 ＼ 出土地					Ⅰ層						Ⅱ層			Ⅲ層						Ⅳ層						川跡2層						川跡3層									Ⅴ層									Ⅵ層						Ⅶ層		
					Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅲ地区			Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区(川跡2)			Ⅲ地区(川跡3)			Ⅰ地区(川跡1)			Ⅱ地区(川跡2)			Ⅲ地区(川跡3)			Ⅱ地区			Ⅲ地区			TP③			Ⅱ地区			TP③			TP③		
番号	綱名	科名	貝種名	生息地	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
155	腹足綱	イトマキボラ科	マルニシ																																							1																
156			リュウキュウツノマタガイ	Ⅰ-3-a				1																										1	2	2																						
157			ツノマタモドキ					2															1			2							3																										
158			チトセボラ	Ⅰ-2-c			2									1							1			2	3	4					2	1		1	3														1	1						
159		マクラガイ科	サツマビナ	Ⅰ-2-c																											1																										
160		フデガイ科	チョウセンフデ																								1																													
161			コゲフデ																												1																										
162			シロオビヤタテ																																																						
163			ナガシマヤタテ	Ⅰ-1-a																																					1																	
164			ハルサメヤタテ																																																						
165			イモフデガイ	Ⅰ-1-c																						1					1	1	1								2	1	1															
166		ツクシガイ科	オオミノムシ		2																					2					1		1								1																	
167			ミノムシガイ	Ⅱ-2-c						1																					1	1									22	1	3								1								
168			コンツクシ																																						1																	
169			ミヨリオトメフデ																																																						
170			トリカゴオトメフデ																																																						
171		イモガイ科	クロミナシ	Ⅰ-2-c	1				1	2						1										2	1	3				2	1			2				1	2	6																
172			ミカドミナシ	Ⅰ-2-c		1															1													2	2						2	2																
173			アンボンクロザメ	Ⅰ-2-c	2	16	26	1		7					3	1		4	5	1					1	5	4	13				3	24	62	43	4	5					2	5								1	1	1						
174			クロフモドキ	Ⅰ-2-c		9	19			2					1	2		1			1	3		2		1					1		15	48	17	1	1						3																
175			クロザメモドキ	Ⅰ-2-c	2	1																																																			
176			ロウソクガイ	Ⅰ-2-c				1																									2								1		3																
177			スジイモ							1																																																
178			ダイミョウイモ																1																		1					2	1																
179			マダライモ	Ⅰ-1-a	11	1	2					1														2		1				15	3								4										1		1						
180			サヤガタイモ	Ⅰ-1-a	2	3			1														1	1								2	2		1						2	1					2												
181			ジュズカケサヤガタイモ	Ⅰ-1-a	1	1																				2							1								3	1																	
182			コモンイモ																																																						
183			ベニイモガイ																																																		1						
184			アカシマミナシ	Ⅰ-2-c	1		4	1		1					1																		6	10																									
185			ヒラマキイモ	Ⅰ-2-c	7		2			2							2									3			1			7	7	9	10	1	2				18	5	4								1	1	2						
186			サラサミナシガイモドキ	Ⅰ-2-a															1									3						1							1		2																
187			ヤキイモガイ	Ⅰ-2-c	2	1	5					1	1	1										1	2						16	8	15	6	1					1	1	5																
188			サラサミナシ	Ⅰ-2-c	1	5	2																1				1	1			1	4	11	1							1	3																	
189			カバミナシガイ	Ⅰ-2-c		6	1																				3	1			1	8	7	1	1						1	4								1	1							
190			イタチイモ	Ⅰ-2-c				1										1									1					1		1	3						1	3										1	1						
191			ヤナギシボリイモ	Ⅰ-2-a	8	19	17		1	1					2	2		1	1	1		4				3	4	4				5	33	69	3	5	4					3	2									1	2						
192			オトメイモ	Ⅰ-2-c		1												1														3											1																
193			イボカバイモ	Ⅰ-2-c		1																										4										1									1							
194			イトマキイモ																												2																												
195			イボシマイモ	Ⅰ-2-a	1													1								1	1					2	1	1						3							2												
196			アンボイナ																								1						2									3																
197			ニシキミナシガイ																														3									3																
198			アジロイモ	Ⅱ-2-c												1															2	1	1	3						2	1	5										1						
199			ツボイモガイ																														1																									
200			タガヤサンミナシ	Ⅰ-2-c						4																							2									1																
201			シロマダライモガイ	Ⅰ-2-c					1																																																
202			イモガイ科不明		1	60	90	2	11	38					2	9	2	14	30		3	1		10	27	3	20	23		1		4	38	93	2	14	26	1		2	2	26	65			1			1	2	7	4						
203		クダマキガイ科	クダボラ																																1						1	2																
204		タケノコガイ科	リュウキュウタケ															1																																							
205		トウガタガイ科	オオケチキレ	Ⅱ-2-c																																					2		1															
206			オオシイノミクチキレ																															1									1																
207			ネコノミミクチキレ																																																						
208		プドウガイ科	カイコガイ																															2							15	2	1								3		1						
209		ナツメガイ科	ナツメガイ	Ⅰ-2-c		1	1	1	1	1																1	2	1				2		2	2		2				2	1	2															
210		アメフラシ科	タツナミガイ		1																						1									2				1		3	1																
211		オカミミガイ科	マダラヒラシイノミガイ					2																		1		1				3	2	4	2						1		3									1						
212			ウラシマミミガイ																																						1																	
213			ホソハマシイノミガイ																																																						
214		モノアラガイ科	タイワンモノアラガイ		1				1																																																	
215		キセルガイ科	ツヤギセルガイ	V-8																																																	1						
216		アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ																														1																									
217		カサマイマイ科	オオカサマイマイ												1																										3																		
218		ナンバンマイマイ科	シュリマイマイ	V-8	4	1	1	2		2				2		3	8	1					1		2	22	13	23	2			20	3	14	18	2	16	1	1		21	13	60				1		2	4	3	8						1
219			オキナワヤマタカマイマイ					1																																	3																		1
220			アマノヤマタカマイマイ																							2											1				3																		
221		オナジマイマイ科	パシダナマイマイ		6	1	3	3		1																1	4	1				2			2	1					7	2	1				1			2								
222			イトマンマイマイ																																																						
223	ウニ綱	ナガウニ科	バイブウニ				1																								2		16									3																	
224		科不明・ウニの一種																																																							
225	甲殻綱	イワフジツボ科	ミナミクロフジツボ																												1																											
226	頭足綱	コウイカ科	コブシメ																																																						
227	巻貝不明									2						1		1	2						1		1	13					3						2			4						1			1						
合計					533	1073	1285	182	176	238	1	0	0	68	69	135	67	285	299	24	47	112	36	160	161	520	689	751	6	12	20	743	1284	3838	487	411	346	7	11	8	1219	744	1047	1	3	1	17	7	13	192	128	152	1	0	2	4	5	7
個体数					1606			358			1			137			352			71			196			1209			18			2027			898			18			1963			4			24			320			1			9		

第28表　貝類遺体出土状況（巻貝）f

種類 ＼ 出土地					Ⅷ層			Ⅸa層			Ⅸb・c層			Ⅸ層不明						Ⅹ層			ⅩⅡ層			ⅩⅢ層			ⅩⅣ層			層序不明															合計			個体数
					Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			TP③			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅱ地区			Ⅰ地区			Ⅱ地区			Ⅲ地区			TP①			TP②			TP④						
番号	網名	科名	貝種名	生息地	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片			
155	腹足綱	イトマキボラ科	マルニシ																																											1	0	1	1
156			リュウキュウツノマタガイ	Ⅰ-3-a																																										2	2	2	4
157			ツノマタモドキ																																4												12	0	0	12
158			チトセボラ	Ⅰ-2-c													1															2	2	4													6	10	15	16
159		マクラガイ科	サツマビナ	Ⅰ-2-c													1		1															1											1		4	0	1	4
160		フデガイ科	チョウセンフデ																																											0	0	1	1
161			コゲフデ																																											1	0	0	1
162			シロオビヤタテ																													2														2	0	0	2
163			ナガシマヤタテ	Ⅰ-1-a												1																1														2	0	1	2
164			ハルサメヤタテ																													1														1	0	0	1
165			イモフデガイ	Ⅰ-1-c																																					1					5	2	2	7
166		ツクシガイ科	オオミノムシ																																									1		7	0	1	7
167			ミノムシガイ	Ⅱ-2-c				12	1		22			5			7						1						1			3							1						2		78	3	4	81
168			コンツクシ																																											1	0	0	1
169			ミヨリオトメフデ																																1												1	0	0	1
170			トリカゴオトメフデ																																							1					0	1	0	1
171		イモガイ科	クロミナシ	Ⅰ-2-c													1	1														2		1			1										10	8	13	18
172			ミカドミナシ	Ⅰ-2-c																												1	1	1									1					2	7	5	9
173			アンボンクロザメ	Ⅰ-2-c																													11	29			1										56	69	156	125
174			クロフモドキ	Ⅰ-2-c						1																						1	10	16		1											19	42	95	61
175			クロザメモドキ	Ⅰ-2-c																																										2	1	0	3
176			ロウソクガイ	Ⅰ-2-c																													4	2													2	6	5	8
177			スジイモ																																											0	0	1	1
178			ダイミョウイモ																																											0	2	3	2
179			マダライモ	Ⅰ-1-a										1			1	1													4							1						1		42	5	4	47
180			サヤガタイモ	Ⅰ-1-a													3	2																		1			1						6		19	11	1	30
181			ジュズカケサヤガタイモ	Ⅰ-1-a													1		1														1							1							7	5	1	12
182			コモンイモ																															1													0	0	1	1
183			ベニイモガイ																																											1	0	0	1
184			アカシマミナシ	Ⅰ-2-c																													4	4													2	11	19	13
185			ヒラマキイモ	Ⅰ-2-c				1	1		4	1																				9	2	6		1				1			1			4		69	19	27	88
186			サラサミナシガイモドキ	Ⅰ-2-a																																										1	0	7	1
187			ヤキイモガイ	Ⅰ-2-c				2			2	1		2			2									1						3	1	5	1										2		1	43	14	33	57
188			サラサミナシ	Ⅰ-2-c																													2	10		1											1	3	15	28	18
189			カバミナシガイ	Ⅰ-2-c												1																	1	2		1												3	22	16	25
190			イタチイモ	Ⅰ-2-c														1																	1								1				3	10	4	13
191			ヤナギシボリイモ	Ⅰ-2-a																												3	19	31			1										1	23	88	139	111
192			オトメイモ	Ⅰ-2-c																													2	0													0	7	1	7
193			イボカバイモ	Ⅰ-2-c																													1	2													1	7	2	8
194			イトマキイモ										1																					1													2	0	2	2
195			イボシマイモ	Ⅰ-2-a																																										6	6	1	12
196			アンボイナ									2																					1														0	4	5	4
197			ニシキミナシガイ														1	1															2														1	3	6	4
198			アジロイモ	Ⅱ-2-c													2	1															1				1			1	1			1	1		1	10	5	12	15
199			ツボイモガイ																																											0	0	1	1
200			タガヤサンミナシ	Ⅰ-2-c																																										0	0	7	1
201			シロマダライモガイ	Ⅰ-2-c																															2												2	1	0	3
202			イモガイ科不明							1						6	1	4	3													1	19	68			1				3	5		1	4	3	9	8	24	242	506	266
203		クダマキガイ科	クダボラ															1	1																												0	3	3	3
204		タケノコガイ科	リュウキュウタケ																															1													0	1	1	1
205		トウガタガイ科	オオクチキレ	Ⅱ-2-c																														1													2	0	2	2
206			オオシイノミクチキレ																																											1	0	1	1
207			ネコノミクチキレ																																											0	1	0	1
208		ブドウガイ科	カイコガイ											2			5	1														1		1											2		2	30	3	5	33
209		ナツメガイ科	ナツメガイ	Ⅰ-2-c													5	4	3													2	1	2	1					1		3	2		1	3		2	22	10	20	32
210		アメフラシ科	タツナミガイ												1	1																														1	7	3	8
211		オカミミガイ科	マダラヒラシイノミガイ					11	1	1	27		8	5		3	1												2		1	4		1				1						6			66	4	22	70
212			ウラシマミミガイ					2		1	13			1																														1			18	0	1	18
213			ホソハマシイノミガイ																																											0	0	0	0
214		モノアラガイ科	タイワンモノアラガイ																																											1	1	0	2
215		キセルガイ科	ツヤギセルガイ	V-8																															1												2	0	0	2
216		アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ																																											0	0	1	1
217		カサマイマイ科	オオカサマイマイ					1			1																															2					7	1	0	8
218		ナンバンマイマイ科	シュリマイマイ	V-8	1			26	3	8	88	9	78	22	2	16	10	1	14							4		3	4		3	14	5	22	2	1	3				3	1	3	5	6	2	5	1	8	290	66	292	356
219			オキナワヤマタカマイマイ					1		1	1			1			2		1											1													1			2	1	1	12	2	4	14
220			アマノヤマタカマイマイ																																											5	0	1	5
221		オナジマイマイ科	パシダナマイマイ											1	1		2	2	2													8	6	12	2						2			3			4	3		46	20	20	66
222			イトマンマイマイ											1																																	1	0	0	1
223	ウニ綱	ナガウニ科	バイブウニ													1			1																												2	0	22	2
224		科不明・ウニの一種																																									1			1	0	0	1
225	甲殻綱	イワフジツボ科	ミナミクロフジツボ																																											1	0	0	1
226	頭足綱	コウイカ科	コブシメ										3			1																														0	0	4	1
227	巻貝不明															3											1					1	1	1			1					3					1	1	4	39	5
合計					70	10	16	2545	317	372	2682	304	460	953	287	379	393	143	125	2	0	0	4	4	1	26	6	6	34	14	16	582	799	2311	554	797	148	0	0	1	177	81	81	114	54	56	280	119	133	12524	8039	12520	20563
個体数					80			2862			2986			1240			536			2			8			32			48			1381			1351			1			258			168			399			20564			

注　完形と殻頂を合計し個体数とした。但し、破片でのみ出土した貝種については、最少個体数「1」とした。

第29表　貝類遺体出土状況（二枚貝）a

種類 / 出土地					Ⅰ層										Ⅲ層															Ⅳ層															川跡2層										川跡3層					川跡3層				
					Ⅰ地区					Ⅱ地区					Ⅰ地区					Ⅱ地区					Ⅲ地区					Ⅰ地区					Ⅱ地区					TP③					Ⅱ地区(川跡2)					Ⅲ地区(川跡3)					Ⅰ地区(川跡1)					Ⅱ地区(川跡2)				
					完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
番号	網名	科名	貝種名	生息地	L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R	
1	二枚貝網	フネガイ科	オオタカノハガイ	Ⅰ-2-a																																																			2	2	1							
2			エガイ	Ⅰ-1-a	23	21	5	9	4	3	6				2	2	3			2	1	1	2								1	1		2			1										15	15	2	2			1				415	416	109	75	30	9	17	5	3	1
3			カリガネエガイ		7	4						1				1			2																																1									114	93	4	7	2	2	4			1
4			ベニエガイ	Ⅰ-2-a		1				3																																												1	1						17	11	2	1	3	4	2	1		
5			リュウキュウサルボウ	Ⅱ-2-c	9	10	5	1	45		3	2		8	1	4	1		4	1		4	1	10						2				4	1				7						12	16	3	4	13						66	70	24	35	164	11	8	1	13	6
6			ハイガイ		1				1																																																			5	3	1	1	8					
7		タマキガイ科	ソメワケグリ	Ⅱ-2-c																																																1						1									
8		イガイ科	クジャクガイ	Ⅰ-2-a					1																																																			9	2			3		2			
9			ヒバリガイモドキ		2						2	1	1																																															4	1		1		3	1		1	
10			スキゲヒバリガイ		2																																																						1	1									
11			リュウキュウヒバリガイ	Ⅰ-1-a			1		1	1				1																						1				1								1			3						2	2		1	7	2	3	2	1	3
12			ホソスジヒバリガイ						2																																							10	7	3		20										34		1			1
13		ウグイスガイ科	ミドリアオリ	Ⅰ-1-a																																													1										2	1	7	4	2					
14			アコヤガイ		7	3	19	28	56		1	4	3	7		1	11	12	23		1	4	8	6															2	1						13	7	39	23	19						53	64	389	386	312	19	8	49	24	36
15			クロチョウガイ	Ⅰ-4-a			6	6	27			1		2	1	2	3	6	9					1																						1		1		6	1			1	1	5	6	88	84	271	1		3	1	8
16		マクガイ科	マクガイ	Ⅰ-2-a																																																						1					1				
17			シュモクアオリ	Ⅰ-2-a			1	1	3			1					1	1				1																												3							3	12	10	2	1		1		
18		ミノガイ科	ミノガイ	Ⅰ-2-a					1																																																			1									
19			ユキミノガイ																																																															
20		イタヤガイ科	リュウキュウナデシコ																																																															
21			シロスジナデシコ																																																												1			
22			リュウキュウオウギ																																																															
23			キンチャクガイ																																																															
24			イタヤガイ																																																										1					
25			イタヤガイ科不明																																																															
26		ウミギク科	メンガイ(の一種)		7	15	5	10	40	3	2	2	4	6	1		1	2	6		2	2	3	7						1	2	2		5			1		8						15	20	11	17	30	2			1	6	177	132	114	112	554	15	19	7	10	18
27		ベッコウガキ科	チャワンガキ																																																															
28			シャコガキ	Ⅰ-2-a																																																				3	4	2	1	5					
29		イタボガキ科	オハグロガキ	Ⅰ-1-a			1																																																		6	4		1	1					
30			シマガキ																																															1					4	5	5	1					
31			ニセマガキ		12	107	16	59	26		3				1	3						1												1											6	2	1	1		1				189	621	89	275	151	4	3	2		3
32			イタボガキ科不明				1				1			1																																							1		2	1	1	13	63					1
33		ツキガイ科	ツキガイ	Ⅰ-2-c						1																																															4	4		1	2					
34			ウラキツキガイ	Ⅱ-2-c	1	3	1	1	3	1	5				1		1			2		1		1															1							6	6	1	5	3						46	45	6	6	9	3	12		2	2
35			ヒメツキガイ	Ⅰ-2-c			1			5																								1										1	1									2	1		1	1	6	6	2		
36			チヂミウメノハナ																																																															
37			カブラツキガイ	Ⅱ-2-c	4	3	1	1	11	3	4	1	1	4						1																							4	4		1	5						3	4		1	3	10	16		1	15
38		チリハギガイ科	チリハギガイ科の一種																																																															
39		トマヤガイ科	クロフトマヤガイ	Ⅰ-2-a	1																																																						2		1	1			
40		キクザルガイ科	ヒレインコ	Ⅰ-4-a	2	4	4	8	59														1																								1							2	3	4	1	4				1	1
41			シロキクザル	Ⅰ-2-a	17	22	10	10	12	2	4			5	5	2	2	3		2	4		1	3						2		1		2	1	1	1		4						28	39	7		8	1						203	277	28	32	84	7	11	9	3	3
42			キクザル																																																				1									
43			キクザルガイ科の一種																																									1	1																		
44			キクザルガイ科不明																																																															
45		ザルガイ科	リュウキュウザル	Ⅱ-2-c	97	86	24	25	129	24	16	3	4	11	3	2	3	1	3	10	14	3	9	12						1				2	6	4	1		7						127	146	19	24	59	2	2				529	540	79	111	320	129	151	29	28	46
46			オオヒシガイ	Ⅰ-2-c																																																														
47			カワラガイ	Ⅱ-2-c	106	99	59	48	99	8	4	3	7	4	5	2	2	4	7	5	9	9	1	7						3	1	2		3		1			7						76	67	38	35	50	1	1	1			228	225	157	146	220	52	52	27	29	27
48			ボタンガイ																																																															
49		シャコガイ科	シャゴウガイ	Ⅰ-2-c	5	4	8	17	98					7	1	1		2	11	1		2	2	14											2	1			2	7						7	7	1	3	2		1	2	1	1	13	8	27	14	64	4	3	2	3	3
50			ヒメシャコガイ	Ⅰ-2-a	80	94	79	77	899	9	12	9	22	95	33	37	11	15	49	45	47	44	59	148						18	24	10	4	43	6	5	10	14	135						205	251	104	106	150	5	4	3	1	6	1072	1030	262	297	911	117	116	15	22	32
51			ヒレシャコガイ	Ⅰ-2-c	5	4	9	10	111	1	1	1		37	1	6	5	6	29		3		4	30						2		2	2	11			2	1	31						16	9	11	10	68	2	1	1	2	5	40	35	43	43	236	6	2	4	6	19
52			シラナミガイ	Ⅰ-2-a	37	38	32	40	226	4	2	2	4	36	19	15	5	5	24	12	14	7	9	51					1	10	8	5	5	5	4	2	4	4	27						112	124	19	19	50	6	3	2	4	3	321	324	102	83	370	45	47	9	6	29
53			シャコガイ科不明				1		20			1	1	13			1							26										2					19										7					1				1	24					1
54		バカガイ科	バカガイ科の一種			1	1	1																																						6	3	2	1	2						3	9			1	30	24	1	3	
55			タママキガイ	Ⅱ-2-c	92	86	20	17	24	47	47	12	6	3	2	2	2	3	1	1	4	5	3													1	1		1						1	71	40	21	28	9						65	64	19	15	11	120	136	20	29	11
56			リュキュウバカガイ	Ⅱ-2-c			1	3	1		1																																					9	11	3	5	1						3	1	1	1		4	6	3		
57			ユキガイ		4		1	2	8	9	4	1	1	1						2				1										1												6	8	10	8	7						15	11	6	3	5	30	21	15	17	15
58			ハブタエユキガイ																																																															
59		チドリマスオ科	イソハマグリ	Ⅰ-1-c	331	333	109	141	11	41	37	14	12		113	121	22	29		52	55	45	59	4						11	7	11	11		34	30	34	33							100	84	59	32	3	4	6		1		952	1251	117	127	12	83	96	19	17	3

注　右殻、左殻のそれぞれの完形と殻形と合計し多い方を個体数とした。合計数と個体数はかならずしも一致しない。

第29表　貝類遺体出土状況（二枚貝）b

番号	網名	科名	貝種名	生息地	川跡3層					Ⅴ層															Ⅵ層										Ⅶ層										Ⅷ層					Ⅸa層					Ⅸb・c層					Ⅸ層不明					Ⅸ層不明				
					Ⅲ地区(川跡3)					Ⅱ地区					Ⅲ地区					TP③					Ⅱ地区					TP③					Ⅱ地区					TP③					Ⅱ地区					Ⅱ地区					Ⅱ地区					Ⅱ地区					TP③				
					完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
					L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R	
1	二枚貝綱	フネガイ科	オオタカノハガイ	Ⅰ-2-a						1		1	1									1			1																																												
2			エガイ	Ⅰ-1-a						97	92	13	20	17						4		1	2		6	3	2	1													2									2		1			2			1	1	10	7	3	4	2	14	14	2	2	2
3			カリガネエガイ							39	41	5	6	2						1					5	5		2																						17	20	1	4		22	23	2	3	1	7	12	4	2	1	5	1			
4			ベニエガイ	Ⅰ-2-a						12	12		3	2												1				1																										1													
5			リュウキュウサルボウ	Ⅱ-2-c	2	2				11	8	10	11	23								1		1		1		1	1											1			1	1												1			1	2		1		4	2	3	1		1
6			ハイガイ																																																												1		1				
7		タマキガイ科	ソメワケグリ	Ⅱ-2-c																																																																	
8		イガイ科	クジャクガイ	Ⅰ-2-a						3	2			1																																				1	1			1											1				
9			ヒバリガイモドキ							19	15	1	6	10											1																														1					4	3			1	2			1	
10			スキゲヒバリガイ							5	11	4	5	9												1			1																															1	2				1	3	2		1
11			リュウキュウヒバリガイ	Ⅰ-1-a						31	28	37	21	256						1						3			3							1				2	1	1		4						2							1		1		2			2	14	13	12	6	16
12			ホソスジヒバリガイ							34	17	9	9	167											2	2			17															1																3	2	2	2	34	3	4	3	3	36
13		ウグイスガイ科	ミドリアオリ	Ⅰ-1-a																																																																	
14			アコヤガイ							17	14	47	46	82								1			1	2	2	3	10												2			3					1								1					3	1	5	2		10	3	2
15			クロチョウガイ	Ⅰ-4-a		1							2	23															2												1	1		1										2					3					6	1	1	1		3
16		マクガイ科	マクガイ	Ⅰ-2-a						1			2																																						1					1		1		1	1	1							
17			シュモクアオリ	Ⅰ-2-a								3	3	1							1																															4	4	7			3	4	1				2	2					
18		ミノガイ科	ミノガイ	Ⅰ-2-a																																																																
19			ユキミノガイ									1																																																						1		1	
20		イタヤガイ科	リュウキュウナデシコ							1																																																											
21			シロスジナデシコ							1																																																											
22			リュウキュウオウギ							1	1																																																										
23			キンチャクガイ																																															1																			
24			イタヤガイ											2																																																							
25			イタヤガイ科不明																																									1																									
26		ウミギク科	メンガイ(の一種)		1	2	1	1		18	14	31	32	172										3	1	4	3		17											1				1		1										1				2	1	2	2	3	4	4	2	1	9
27		ベッコウガキ科	チャワンガキ																																																																		
28			シャコガキ	Ⅰ-2-a										1																																								1															
29		イタボガキ科	オハグロガキ	Ⅰ-1-a																																														2				2															
30			シマガキ								2	1																																	4	2		1		15	31	5	30	39	2	23	1	10	25	8	10		2	4					
31			ニセマガキ			1	1			19	48	5	11	17						2	2		1		2	4																			11	8	2	5	6	140	293	44	43	229	150	362	62	42	141	30	70	9	9	28	8	14	3	4	4
32			イタボガキ科不明							1																																					2		8	1	1	1	2	28					16										
33		ツキガイ科	ツキガイ	Ⅰ-2-c						8	3																																																			1			1	1			
34			ウラキツキガイ	Ⅱ-2-c						69	67	14	9	11						1	3				1	3			1	1										1	3			1						1	1	1	1		3		1		1	3	4			1	11	4	1	2	3
35			ヒメツキガイ	Ⅰ-2-c						31	35	10	13	1						2	2		1		2				1												1																								4	3	3	1	
36			チヂミウメノハナ							1	4																																																										
37			カブラツキガイ	Ⅱ-2-c						116	120	20	26	129							1			2	13	15	1	1	12					2	1					1	2									1				12	5	6			2	1				6	19	25	1	3	12
38		チリハギガイ科	チリハギガイ科の一種																							1																																											
39		トマヤガイ科	クロフトマヤガイ	Ⅰ-2-a						8	16	1		2						1																																															1		
40		キクザルガイ科	ヒレインコ	Ⅰ-4-a						1	2																																																										
41			シロキクザル	Ⅰ-2-a						13	19	6	2	6							1				1	3		1	2											2	1									1																	2	2	
42			キクザル																																																																		
43			キクザルガイ科の一種																																																																		
44			キクザルガイ科不明																																															1																			
45		ザルガイ科	リュウキュウザル	Ⅱ-2-c		2	1			738	791	105	130	369						7	7	2		8	29	50	8	13	34	1	1				1	4				19	20	1	4	1		1					1				5	3	1			26	40	9	10	42	128	114	18	17	26
46			オオヒシガイ	Ⅰ-2-c																																																																		
47			カワラガイ	Ⅱ-2-c		2		1		217	245	83	88	139	1	2				2	1	4	2	4	14	11	10	13	6						1	1				10	14	2		2						2		1			1		1			18	14	8	7	5	69	73	38	30	30
48			ボタンガイ							2	2		1																																																				1		1	1	
49		シャコガイ科	シャゴウガイ	Ⅰ-2-c						1	1			1												1																												1															
50			ヒメシャコガイ	Ⅰ-2-a		3	3	1		33	22	32	31	44	1			1							3	3	2	4	7					1					1																				1			1	1						
51			ヒレシャコガイ	Ⅰ-2-c				1		2				29					1										5																	1	1	1		5	7	6	4	24					8	1			1	9					5
52			シラナミガイ	Ⅰ-2-a		1		2	1		6	5	8	24		1			1						4	3			4																																1	1		4				1	
53			シャコガイ科不明									1		36															7																									2					4					7					
54		バカガイ科	バカガイ科の一種							73	74	3	3												2	2																																		1		2			2	2			
55			タママキガイ	Ⅱ-2-c	1					2694	2713	517	534	204						42	42	5	14	4	251	178	126	45	29		1				2	1				117	116	15	12	12	2	1				17	24	5	4	11	51	32	6	2	5	298	288	85	87	22	1688	1759	196	219	58
56			リュキュウバカガイ	Ⅱ-2-c		1				7	11	9	12	4										1		2												1			2	1																		4	2				16	7	4	10	
57			ユキガイ							145	129	104	97	103						3	2	3	2	1	6	10	4	6	13						1					13	8	2	3	1		1			1	4	7	4	2	1	12	14	5	5	7	25	21	14	18	16	337	308	163	160	73
58			ハブタエユキガイ							2	1																																																										
59		チドリマスオ科	イソハマグリ	Ⅰ-1-c		1				607	621	175	141	8						14	14	5	6		34	36	10	10		2		1				2				6	3									2	2	1			9	7	1	3		3	6	1	1	2	29	19	4	2	

第29表　貝類遺体出土状況（二枚貝）c

種類 ＼ 出土地					X層					XII層					XIII層					XIV層					層序不明																									合計					個体数
					II地区					II地区					II地区					II地区					I地区					II地区					TP①					TP②					TP④									
					完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	
番号	網名	科名	貝種名	生息地	L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		
1	二枚貝綱	フネガイ科	オオタカノハガイ	I-2-a																					3							1					1	1	1								1		1	7	3	5	3	1	12
2			エガイ	I-1-a																					174	201	32	40	10	12	3	4	4		15	20	6	3		5	2		1		17	14	5	5	1	828	839	194	176	68	1022
3			カリガネエガイ								1										1				72	56	1	3	4	8	2			1	1	3	1	1						3					303	268	18	29	14	321
4			ベニエガイ	I-2-a																					3	9		2	1		1	1			1	3		1		1	1				7	6	1	2	1	49	48	5	10	8	58
5			リュウキュウサルボウ	II-2-c																					25	26	11	16	59	2		1	1	5	2	2	1	2	3			2	2	1	5	3		3	2	155	157	68	91	363	248
6			ハイガイ																						2																				1		1			10	3	2	2	9	12
7		タマキガイ科	ソメワケグリ	II-2-c																																														1	1	0	0	0	1
8		イガイ科	クジャクガイ	I-2-a																					2														1											16	7	0	0	7	16
9			ヒバリガイモドキ																						2	1			1	2	3										2								1	42	27	2	9	13	44
10			スキグヒバリガイ																						4	3	1	2	2			1		1			1			1				1	2		1	2	16	23	9	8	16	31
11			リュウキュウヒバリガイ	I-1-a																					6	4	3	2	11						2	3	1	2	9	1	2		2	2	10	6	1	1	15	75	69	59	36	335	134
12			ホソスジヒバリガイ																										7	8	3	10	9	109	1	3	1	1	2						11	13	2	2	22	72	52	30	26	452	102
13		ウグイスガイ科	ミドリアオリ	I-1-a												1										1		3	1																					2	3	8	7	3	10
14			アコヤガイ																						58	66	80	120	210	5	4	5	5	8		1	4	2	9	2	2		3	1	3		6		3	180	176	674	669	794	854
15			クロチョウガイ	I-4-a																					1	2	10	11	93			1		6					2				1			2		6	11	13	117	111	473	128
16		マクガイ科	マクガイ	I-2-a																					1		3	2	1																					4	4	4	5	1	9
17			シュモクアオリ	I-2-a																			1		1		4	4	4	1	1	1	1				1		2											3	5	33	34	22	39
18		ミノガイ科	ミノガイ	I-2-a																																											1	2	1	0	0	1	3	1
19			ユキミノガイ												1																																			1	1	1	1	0	2
20		イタヤガイ科	リュウキュウナデシコ																																															1	0	0	0	0	1
21			シロスジナデシコ																																															1	1	0	0	0	1
22			リュウキュウオウギ																												1																			1	2	0	0	0	2
23			キンチャクガイ																																															1	0	0	0	0	1
24			イタヤガイ																										2																					0	0	0	0	5	1
25			イタヤガイ科不明																																															0	0	0	0	1	1
26		ウミギク科	メンガイ(の一種)																						34	41	28	27	140	5	1	3	3	13	3	1	1	4	10	7	1	1	3	13	6	6	4	3	9	303	269	221	235	1070	524
27		ベッコウガキ科	チャワンガキ																						1																									1	0	0	0	0	1
28			シャコガキ	I-2-a																																										1				3	5	2	1	7	6
29		イタボガキ科	オハグロガキ	I-1-a																					1	2																								9	6	1	1	3	10
30			シマガキ														1								1	6		4							1	20		6	11											31	99	13	58	80	157
31			ニセマガキ							4	4					3	2		2	2	2		2	1	93	298	21	136	52	21	21	3	1	12	6	16	2	5	6					3	13	1	1	1	698	1904	264	595	680	2499
32			イタボガキ科不明																								1	2	9																					4	3	6	18	126	21
33		ツキガイ科	ツキガイ	I-2-c																					2	3	1		1	2	2																			18	13	2	1	3	20
34			ウラキツキガイ	II-2-c											2	1									23	19	3	5	8	2	2		1	1	11	11	4	2	2	9	7	1			7	16	3	5	1	205	212	38	40	48	252
35			ヒメツキガイ	I-2-c																					1					1					6	10	3	3	1	1	4				11	8	2	2		73	72	21	21	4	94
36			チヂミウメノハナ																																															1	4	0	0	0	4
37			カブラツキガイ	II-2-c			1	2							4	2	1	2	12		1		1	3	31	19	9	1	23	7			1	3	21	17	5	6	12	7	1	1	1	2	39	30	5	2	18	290	271	46	51	288	336
38		チリハギガイ科	チリハギガイ科の一種																																															0	1	0	0	0	1
39		トマヤガイ科	クロフトマヤガイ	I-2-a																					1	2	1		1			1			1	3										1				13	23	4	2	3	25
40		キクザルガイ科	ヒレインコ	I-4-a																									1	1	1																			6	10	8	11	66	21
41			シロキクザル	I-2-a																					66	75	12	7	46			1		2	1	2	1	3	2			1		1	4		1	2	353	465	81	65	181	530
42			キクザル																																															1	0	0	0	0	1
43			キクザルガイ科の一種																																															1	1	0	0	0	1
44			キクザルガイ科不明																																															1	0	0	0	0	1
45		ザルガイ科	リュウキュウザル	II-2-c												1									262	264	52	68	222	111	107	15	17	23	44	42	13	5	26	48	48		7	12	77	81	16	9	17	2424	2538	402	482	1369	3020
46			オオヒシガイ	I-2-c																																									1					0	1	0	0	0	1
47			カワラガイ	II-2-c																					173	167	94	103	158	18	39	6	15	10	44	39	19	27	14	18	21	12	10	2	60	55	21	31	14	1132	1145	597	597	808	1742
48			ボタンガイ																																	2										1				3	5	1	2	0	7
49		シャコガイ科	シャゴウガイ	I-2-c																					8	4	15	8	65																					41	30	57	52	276	98
50			ヒメシャコガイ	I-2-a															1						307	307	138	130	886		2	2	1	4	1			1			1	1					1		1935	1958	726	788	3413	2746
51			ヒレシャコガイ	I-2-c															1						14	14	38	48	229	1		2	2	10					2		1		1			1		3	96	84	126	141	904	225
52			シラナミガイ	I-2-a																					133	108	46	32	213		2			5			2					1	1	1				1		707	699	242	224	1075	949
53			シャコガイ科不明																										21										6					2				1	1	0	0	4	3	199	4
54		バカガイ科	バカガイ科の一種																						15	15		4	1																	1					133	130	9	12	4	142
55			タママキガイ	II-2-c																			1		376	315	106	92	60	283	291	38	53	12	387	386	101	98	22	351	323	45	42	14	1051	1105	148	149	31	8010	7955	1492	1455	543	9502
56			リュキュウバカガイ	II-2-c																						6	1	2	6				1		2		1	4		1	1	3	2		8	2	6	4	4	54	53	33	45	17	98
57			ユキガイ																				1		42	42	16	34	45	9	9	7	6	8	30	22	26	22	27	14	21	7	11	11	89	79	58	62	27	796	717	446	460	372	1242
58			ハブタエユキガイ																																															2	1	0	0	0	2
59		チドリマスオ科	イソハマグリ	I-1-c																					660	661	152	160	19	10	6	3	3		138	148	85	45	1	51	46	8	14	1	104	73	25	18		3390	3665	901	865	64	4530

第29表　貝類遺体出土状況（二枚貝）d

番号	綱名	科名	貝種名	生息地	Ⅰ層									
					Ⅰ地区					Ⅱ地区				
					完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
					L	R	L	R		L	R	L	R	
60	二枚貝網	チドリマスオ科	ナミノコマスオ											
61		チトセノハナガイ科	チトセノハナガイ											
62		フジノハナガイ科	ナミノコガイ		1	1			4					
63			リュウキュウナミノコ	Ⅰ-1-c	2	3				3	3			
64		ニッコウガイ科	ニッコウガイ	Ⅱ-2-c	1									
65			ヒメニッコウガイ	Ⅱ-2-c										
66			イロアセベニガイ											
67			ダイミョウガイ											
68			ヘラサギガイ					1						
69			イチョウシラトリ		1				1	1	1			1
70			サメザラ	Ⅰ-2-c										
71			リュウキュウシラトリ	Ⅱ-1-c	5	2	1	3	2	1			1	2
72			ネコジタザラ											
73			モチヅキザラ	Ⅰ-2-c					1					
74			ハスメザクラ？											
75			ユウシオガイ											
76			トガリユウシオガイ											
77			アマサギガイ		6	9	2		2					
78			ニッコウガイ科の一種											
79		アサジガイ科	サメザラモドキ？		10	11	5	2	4	2			2	2
80			コチョウシャクシガイ？											
81		シオサザナミ科	ハザクラ				1							
82			マスオガイ	Ⅱ-1-c	4	2	1	1	1	2	2	1	2	
83			リュウキュウマスオ	Ⅱ-1-c	6	8	4	6	20					3
84		キヌタアゲマキ科	ズングリアゲマキ											
85		マテガイ科	リュウキュウマテガイ											
86		フナガタガイ科	タカソデモドキ			3	1	1						
87		シジミ科	シレナシジミ	Ⅲ-0-c	9	5	33	30	22		2	7	17	17
88		マルスダレガイ科	マルスダレガイ	Ⅰ-2-c										
89			アラヌノメガイ	Ⅰ-2-c	1									
90			ヌノメガイ	Ⅱ-1-c	6	4	10	5	29	2	2	0	2	8
91			カノコアサリ	Ⅰ-1-c										
92			シラオガイ			1								
93			アラスジケマンガイ	Ⅲ-1-c	908	927	744	763	494	59	39	66	63	31
94			ホソスジイナミガイ	Ⅱ-1-c	18	18	1	1			2	1		1
95			イナミガイ											
96			ユウカゲハマグリ	Ⅱ-1-c	40	46	11	8	11	9	5		2	2
97			オトコエシハマグリ		1	1				4	5	1	1	2
98			オミナエシハマグリ											
99			イオウハマグリ	Ⅱ-1-c	11	19		2		3	2		3	
100			マルオミナエシ	Ⅰ-2-a										
101			オイノカガミ	Ⅱ-1-c	12	24	2	2	2	1	9	2		1
102			リュウキュウアサリ		1			3	1					
103			ヒメRアサリ		2	4	2	2	2	3	2	1		1
104			ヒメアサリ		1	5	2	3	5					
105			スダレハマグリ	Ⅱ-1-c	300	290	99	95	183	33	20	5	4	4
106			タイワンスダレ											
107			ハネマツカゼ							1	1			
108			マツカゼガイ											
109			タイワンハマグリ											
110			ハマグリの一種	Ⅱ-1-c	4	3	2	3	1				1	
111			チョウセンハマグリ					1						
112			オキシジミ		5	1	1	2						
113			カミブスマガイ											
114			フスマガイ											
115		ニオガイ科	ニオガイ								1			
116		二枚貝不明						1	5					10
合計					2207	2325	1343	1450	2708	291	251	142	163	326
個体数					3775					433				

番号	貝種名	Ⅲ層														
		Ⅰ地区					Ⅱ地区					Ⅲ地区				
		完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R	
60	ナミノコマスオ								1							
61	チトセノハナガイ															
62	ナミノコガイ															
63	リュウキュウナミノコ						2	1								
64	ニッコウガイ							1			1					
65	ヒメニッコウガイ															
66	イロアセベニガイ															
67	ダイミョウガイ															
68	ヘラサギガイ		1								1					
69	イチョウシラトリ							1								
70	サメザラ						1									
71	リュウキュウシラトリ	1	1	1	1	1				1						
72	ネコジタザラ															
73	モチヅキザラ															
74	ハスメザクラ？															
75	ユウシオガイ															
76	トガリユウシオガイ															
77	アマサギガイ		1													
78	ニッコウガイ科の一種															
79	サメザラモドキ？		2		1			2								
80	コチョウシャクシガイ？															
81	ハザクラ															
82	マスオガイ		3			1				1						
83	リュウキュウマスオ	1	1						1		2					
84	ズングリアゲマキ															
85	リュウキュウマテガイ															
86	タカソデモドキ															
87	シレナシジミ	5	3	4	1	1	1	3	27	24	51					
88	マルスダレガイ															
89	アラヌノメガイ															
90	ヌノメガイ	1		1		4			2		8					
91	カノコアサリ															
92	シラオガイ															
93	アラスジケマンガイ	230	238	84	87	54	164	173	175	161	65					
94	ホソスジイナミガイ	2				1		4	2	2	1					
95	イナミガイ															
96	ユウカゲハマグリ	2			1			1		1						
97	オトコエシハマグリ							1								
98	オミナエシハマグリ															
99	イオウハマグリ	2	6				6		1							
100	マルオミナエシ															
101	オイノカガミ	1	1	1	1		9	4	5	8	2					
102	リュウキュウアサリ															
103	ヒメRアサリ	2					1				1					
104	ヒメアサリ								1							
105	スダレハマグリ	14	13	10	9	23	7	9	11	15	18					
106	タイワンスダレ															
107	ハネマツカゼ															
108	マツカゼガイ															
109	タイワンハマグリ															
110	ハマグリの一種															
111	チョウセンハマグリ															
112	オキシジミ		1													
113	カミブスマガイ															
114	フスマガイ															
115	ニオガイ															
116	二枚貝不明										2					
合計		450	472	175	190	253	326	356	354	374	474	0	0	0	0	1
個体数		662					730					1				

番号	貝種名	Ⅳ層														
		Ⅰ地区					Ⅱ地区					TP③				
		完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R	
60	ナミノコマスオ															
61	チトセノハナガイ															
62	ナミノコガイ							1								
63	リュウキュウナミノコ						1									
64	ニッコウガイ															
65	ヒメニッコウガイ															
66	イロアセベニガイ															
67	ダイミョウガイ															
68	ヘラサギガイ															
69	イチョウシラトリ															
70	サメザラ															
71	リュウキュウシラトリ							1								
72	ネコジタザラ															
73	モチヅキザラ					1										
74	ハスメザクラ？															
75	ユウシオガイ															
76	トガリユウシオガイ															
77	アマサギガイ															
78	ニッコウガイ科の一種															
79	サメザラモドキ？							1								
80	コチョウシャクシガイ？															
81	ハザクラ															
82	マスオガイ															
83	リュウキュウマスオ			1		5										
84	ズングリアゲマキ															
85	リュウキュウマテガイ															
86	タカソデモドキ															
87	シレナシジミ	3	3	1		4		2	5	13	26					
88	マルスダレガイ															
89	アラヌノメガイ															
90	ヌノメガイ		1			2			2		3					
91	カノコアサリ															
92	シラオガイ															
93	アラスジケマンガイ	28	51	24	28	15	45	45	70	83	37					
94	ホソスジイナミガイ						3	2	1							
95	イナミガイ															
96	ユウカゲハマグリ			1	1		1		3							
97	オトコエシハマグリ															
98	オミナエシハマグリ															
99	イオウハマグリ						1	1	1							
100	マルオミナエシ															
101	オイノカガミ				1		5	4		2	2					
102	リュウキュウアサリ										1					
103	ヒメRアサリ	1														
104	ヒメアサリ															
105	スダレハマグリ	2	8	5		19	1	3	9	9	8					
106	タイワンスダレ															
107	ハネマツカゼ															
108	マツカゼガイ															
109	タイワンハマグリ															
110	ハマグリの一種		1	1												
111	チョウセンハマグリ															
112	オキシジミ															
113	カミブスマガイ															
114	フスマガイ															
115	ニオガイ															
116	二枚貝不明									1	1				2	
合計		85	107	66	54	126	113	106	144	166	332	0	0	0	3	0
個体数		161					272					3				

番号	貝種名	川跡2層										川跡3層					川跡3層				
		Ⅱ地区(川跡2)					Ⅲ地区(川跡3)					Ⅰ地区(川跡1)					Ⅱ地区(川跡2)				
		完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片
		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R	
60	ナミノコマスオ											1	1	1			1				
61	チトセノハナガイ					1															
62	ナミノコガイ											4	3		1	2	1	2			
63	リュウキュウナミノコ	1	1									13	10				1	4			
64	ニッコウガイ			1								11	7	1	4	3	3	2	2	1	
65	ヒメニッコウガイ		1									1	1		1	3		4		1	
66	イロアセベニガイ																				
67	ダイミョウガイ																				2
68	ヘラサギガイ	6	8	2	3	8	1					25	26	9	2	2	2	3			
69	イチョウシラトリ			2	1		1					75	86	4	7	4	5	5	2	1	2
70	サメザラ											1	1			1					
71	リュウキュウシラトリ	1	3		2	3						200	185	27	29	80	1	6	1	2	2
72	ネコジタザラ																	1			
73	モチヅキザラ											4	3		1	8					
74	ハスメザクラ？																	4			
75	ユウシオガイ																				
76	トガリユウシオガイ											1									
77	アマサギガイ	1				1						150	137	17	21	32	1				1
78	ニッコウガイ科の一種																				
79	サメザラモドキ？	13	8	2	8	5						157	112	25	18	19	14	21	8	8	6
80	コチョウシャクシガイ？																				
81	ハザクラ	1		1													1	4	1		
82	マスオガイ	2		1	2	2						152	145	38	37	26	3	2		2	2
83	リュウキュウマスオ	4	2	4	5	9			2			75	81	14	17	39	5	1	1	3	1
84	ズングリアゲマキ																				
85	リュウキュウマテガイ																				
86	タカソデモドキ											41	30	2	4	9	1	2			
87	シレナシジミ	19	11	30	30	37	2		1	1	1	67	76	90	75	52	12	12	13	10	9
88	マルスダレガイ																				
89	アラヌノメガイ																				
90	ヌノメガイ	4	8	2	1	4	1	1				28	26	12	8	54	3	2	1		5
91	カノコアサリ		1										1								
92	シラオガイ		2									7	4		1	3					
93	アラスジケマンガイ	1264	1179	254	197	52	13	7		1	2	7026	7539	1088	1076	594	388	410	66	56	7
94	ホソスジイナミガイ	14	17	7	4							167	167	9	7	10	15	17	4	5	31
95	イナミガイ																				
96	ユウカゲハマグリ	23	28	6	6	4						96	109	18	15	12	35	27	4	8	3
97	オトコエシハマグリ	8	4	1	1							1	2				6	8	1	4	
98	オミナエシハマグリ																				
99	イオウハマグリ	11	15	4	2	2						162	212	13	11	8	18	13		4	
100	マルオミナエシ																		1		
101	オイノカガミ	45	39	10	8	5	2			1		94	103	3	7	6	30	32	6	6	2
102	リュウキュウアサリ	1		1	1							9	12	2	4	5	3	4		2	
103	ヒメRアサリ	9	9	2	6	1						30	24	4	3	6	20	19	7	10	15
104	ヒメアサリ				2	1						24	39	2		4			1		
105	スダレハマグリ	101	100	31	47	34	3	3			1	1536	1567	443	500	654	122	151	31	31	40
106	タイワンスダレ																				
107	ハネマツカゼ											1					1				
108	マツカゼガイ											12	8	1		1					
109	タイワンハマグリ													1							
110	ハマグリの一種	1	2			1						11	10	13	12	10			1	1	1
111	チョウセンハマグリ	2										6	3	2	1						
112	オキシジミ	3	1		1	1		1				57	61	40	27	26	3	2	1	1	2
113	カミブスマガイ																				
114	フスマガイ																				
115	ニオガイ				1	1															
116	二枚貝不明				3	40						1	2			32			2	2	14
合計		2375	2312	718	661	729	48	33	12	15	27	14821	16068	3578	3786	5596	1414	1527	380	378	430
個体数		3093					60					19854					1905				

第29表　貝類遺体出土状況（二枚貝）e

種類				出土地	川跡3層					V層																			
					Ⅲ地区(川跡3)					Ⅱ地区					Ⅲ地区					TP③									
番号	網名	科名	貝種名	生息地	完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片					
60	二枚貝網	チドリマスオ科	ナミノコマスオ							14	17	6	1																
61		チトセノハナガイ科	チトセノハナガイ							1	3	2	1	5															
62		フジノハナガイ科	ナミノコガイ							2	6		1																
63			リュウキュウナミノコ	Ⅰ-1-c						25	22	1	1	30						1									
64		ニッコウガイ科	ニッコウガイ	Ⅱ-2-c						5	8	4	4	9										1					
65			ヒメニッコウガイ	Ⅱ-2-c							1		4	1															
66			イロアセベニガイ									1		2															
67			ダイミョウガイ							2	1			3															
68			ヘラサギガイ							269	274	94	104	159						3	4	1	1	2					
69			イチョウシラトリ							27	26	5	3	4															
70			サメザラ	Ⅰ-2-c																									
71			リュウキュウシラトリ	Ⅱ-1-c					1	18	28	4	6	14							1								
72			ネコジタザラ							1																			
73			モチヅキザラ	Ⅰ-2-c						1	1			5															
74			ハスメザクラ？																										
75			ユウシオガイ																										
76			トガリユウシオガイ																										
77			アマサギガイ							9	5	2	3	2															
78			ニッコウガイ科の一種																										
79		アサジガイ科	サメザラモドキ？							86	92	24	33	36						2		1	1	1					
80			コチョウシャクシガイ？							13	2		1	5															
81		シオサザナミ科	ハザクラ							6	10	5	1	2						1	2								
82			マスオガイ	Ⅱ-1-c						3	5		4	3															
83			リュウキュウマスオ	Ⅱ-1-c						5	10	11	9	70										1					
84		キヌタアゲマキ科	ズングリアゲマキ							1		1	2																
85		マテガイ科	リュウキュウマテガイ																										
86		フナガタガイ科	タカソデモドキ							9	7	3	5	20															
87		シジミ科	シレナシジミ	Ⅲ-0-c						2	1	6	9	16															
88		マルスダレガイ科	マルスダレガイ	Ⅰ-2-c									1	4															
89			アラヌノメガイ	Ⅰ-2-c						1																			
90			ヌノメガイ	Ⅱ-1-c		1				6	1	1	2	10										1					
91			カノコアサリ	Ⅰ-1-c						4	4	2	2	1															
92			シラオガイ							2	5	1	1	1															
93			アラスジケマンガイ	Ⅲ-1-c	2					158	161	79	77	40	1	2				1	3		1						
94			ホソスジイナミガイ	Ⅱ-1-c						68	56	5	3	2						4	3								
95			イナミガイ																										
96			ユウカゲハマグリ	Ⅱ-1-c						198	198	34	45	39						4	5	2	3						
97			オトコエシハマグリ							70	57	16	19	10						1			1						
98			オミナエシハマグリ								1																		
99			イオウハマグリ	Ⅱ-1-c		1			1	86	102	24	19	16						1	1								
100			マルオミナエシ	Ⅰ-2-a										1															
101			オイノカガミ	Ⅱ-1-c						187	222	17	25	29						2	4								
102			リュウキュウアサリ							3	5	1	3	2															
103			ヒメリュウキュウアサリ				1			120	105	41	36	65								1	3						
104			ヒメアサリ							1	1	1																	
105			スダレハマグリ	Ⅱ-1-c	4	2				775	933	279	346	561						14	8	1	3	6					
106			タイワンスダレ							2	3																		
107			ハネマツカゼ							3	4	1	2																
108			マツカゼガイ							3	1		1																
109			タイワンハマグリ																										
110			ハマグリの一種	Ⅱ-1-c							1		2	1															
111			チョウセンハマグリ								1	1																	
112			オキシジミ						1	17	23	13	10	13						1	1								
113			カミブスマガイ									2		4															
114			フスマガイ								1		1	10															
115		ニオガイ科	ニオガイ									1		3															
116	二枚貝不明											4	4	94									1	1					
合計					10	20	7	6	4	7282	7591	1945	2064	3187	3	5	0	1	2	115	108	29	42	37					
個体数					26					9655					6					150									

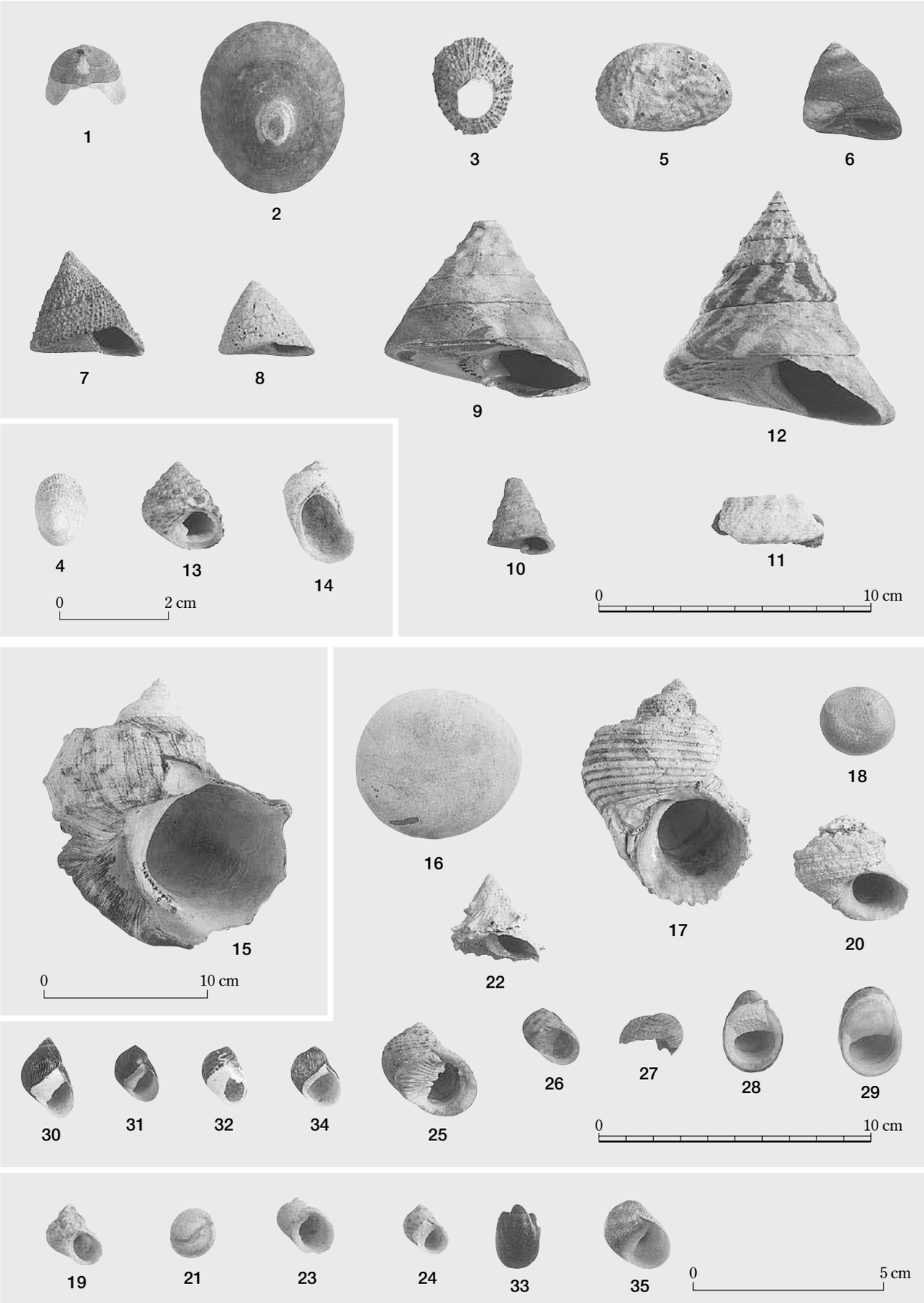
番号	貝種名	Ⅵ層 Ⅱ地区 完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	Ⅵ層 TP③ 完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	Ⅶ層 Ⅱ地区 完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	Ⅶ層 TP③ 完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	Ⅷ層 Ⅱ地区 完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片
60	ナミノコマスオ																									
61	チトセノハナガイ																						1			
62	ナミノコガイ	2	4	1																						
63	リュウキュウナミノコ	2	1																							
64	ニッコウガイ		1	2													2	1			1					
65	ヒメニッコウガイ		1																							
66	イロアセベニガイ																									
67	ダイミョウガイ																	1								
68	ヘラサギガイ				2	2											27	23	7	4	5	62	65	13	21	10
69	イチョウシラトリ		1														1					1		1		
70	サメザラ																									
71	リュウキュウシラトリ	1	2			4																				
72	ネコジタザラ																									
73	モチヅキザラ																									
74	ハスメザクラ？																									
75	ユウシオガイ																									
76	トガリユウシオガイ																									
77	アマサギガイ																									
78	ニッコウガイ科の一種																									
79	サメザラモドキ？	6	3	3	1	2						1					1	4	1							
80	コチョウシャクシガイ？		1	1																						
81	ハザクラ		1																							
82	マスオガイ	3																								
83	リュウキュウマスオ			1	1	1											1	1	1							
84	ズングリアゲマキ	1																								
85	リュウキュウマテガイ																									
86	タカソデモドキ	1			1																		1			
87	シレナシジミ	4	2	6	4	14																8	6	7	4	17
88	マルスダレガイ																									
89	アラヌノメガイ																									
90	ヌノメガイ																									
91	カノコアサリ																									
92	シラオガイ																									
93	アラスジケマンガイ	25	20	18	19	4											3	3			1					
94	ホソスジイナミガイ	2	4	1			1										1									
95	イナミガイ																									
96	ユウカゲハマグリ	17	12	7	6				1	2			2	1			8	6	1		3					
97	オトコエシハマグリ	7	8	5	4	1											6	5								
98	オミナエシハマグリ																									
99	イオウハマグリ	9	6			2											3	3				1	1		1	
100	マルオミナエシ																									
101	オイノカガミ	11	6	2	3	3	1		1	1							6	5		1	1					
102	リュウキュウアサリ																									
103	ヒメリュウキュウアサリ	4	8	6	7	4						1					5	2			2					
104	ヒメアサリ																									
105	スダレハマグリ	57	44	21	22	29											69	61	11	16	10	3	3		1	2
106	タイワンスダレ																									
107	ハネマツカゼ																									
108	マツカゼガイ		1																							
109	タイワンハマグリ																									
110	ハマグリの一種																									
111	チョウセンハマグリ																									
112	オキシジミ			1	2	1											1	1			2	1	2		1	
113	カミブスマガイ																									
114	フスマガイ																									
115	ニオガイ			1																						
116	二枚貝不明			1	1	6																				
合計		531	470	245	173	245	7	2	3	3	3	8	11	1	1	1	307	292	44	41	54	93	94	26	35	45
個体数		776					10					12					351					129				

番号	貝種名	Ⅸa層 Ⅱ地区 完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	Ⅸb・c層 Ⅱ地区 完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	Ⅸ層不明 Ⅱ地区 完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片	Ⅸ層不明 TP③ 完形L	完形R	殻頂L	殻頂R	破片
60	ナミノコマスオ																2				
61	チトセノハナガイ	1		1		1	4			4				1	1			1	2	5	1
62	ナミノコガイ						1	1									3	1			
63	リュウキュウナミノコ	2	2				5	4	1			1	4				3	3			
64	ニッコウガイ	5	1	1			5	9	4	4	2						4	2	1		3
65	ヒメニッコウガイ																3	3	1	1	
66	イロアセベニガイ																				
67	ダイミョウガイ																1				
68	ヘラサギガイ	1587	1680	300	301	245	1139	1168	252	259	302	310	315	123	126	165	282	286	50	44	52
69	イチョウシラトリ	5	3		1	1	15	13	2	1	1	8	9	1			4	6		1	
70	サメザラ																2	3		1	1
71	リュウキュウシラトリ	1										2					1	4		1	
72	ネコジタザラ																				
73	モチヅキザラ																				
74	ハスメザクラ？																				
75	ユウシオガイ	1																			
76	トガリユウシオガイ																				
77	アマサギガイ	3						2	3			1	1	1			1	4		1	
78	ニッコウガイ科の一種	1	1																		
79	サメザラモドキ？		1											1			15	14	2	3	3
80	コチョウシャクシガイ？																1				
81	ハザクラ																3	1	1	3	1
82	マスオガイ						4	2		1	1		3		1		6	7	2	3	
83	リュウキュウマスオ							1			1	1		1	2	1	4	4	3	2	3
84	ズングリアゲマキ											1	2			1	1	2			
85	リュウキュウマテガイ																		1		
86	タカソデモドキ	7	7				9	11	1	1		1			1	1		2			
87	シレナシジミ	246	263	95	84	281	305	306	111	105	421	51	46	20	23	60					1
88	マルスダレガイ																				
89	アラヌノメガイ																				
90	ヌノメガイ														1		1	2		1	
91	カノコアサリ																1	2			
92	シラオガイ																	2			
93	アラスジケマンガイ	5	6	2	1		9	6		1	1	11	12			2	25	14		3	4
94	ホソスジイナミガイ						1					2	5				19	14	3	7	28
95	イナミガイ																	1		1	
96	ユウカゲハマグリ	8	8	1		1	10	10	2		1	11	7	2	5	5	60	69	15	13	7
97	オトコエシハマグリ											3	4		1	1	26	18	3	6	3
98	オミナエシハマグリ																				
99	イオウハマグリ	24	22	1	2		32	34	1	2		11	11	1	1	1	29	32	2	6	1
100	マルオミナエシ																				
101	オイノカガミ		1				2	1	1			6	5	1	2	5	51	50	5	4	1
102	リュウキュウアサリ		1				2			2							3	5	2	1	3
103	ヒメリュウキュウアサリ		2			1	2	4	1	1		8	12	4	6	7	40	30	19	8	11
104	ヒメアサリ	2				1	1	2				1	1	1		1	4	4			
105	スダレハマグリ	41	42	7	8	12	27	43	8	5	12	102	75	41	32	106	618	625	95	119	166
106	タイワンスダレ																2	1	1		
107	ハネマツカゼ											2	1					1		1	2
108	マツカゼガイ						2	1					1								
109	タイワンハマグリ																				
110	ハマグリの一種	2		2	1			6			1										
111	チョウセンハマグリ																				
112	オキシジミ	28	36	14	8	12	29	27	18	17	11	9	15	3	4	12	12	10	5	3	7
113	カミブスマガイ														1	2					2
114	フスマガイ	1	2	3	1	4					1										
115	ニオガイ	9	1	5	3	1	3	3	2	3	8	1		3	1	3		1			1
116	二枚貝不明															2					
合計		2194	2468	506	504	920	1870	2128	492	477	981	991	1015	351	358	581	3590	3597	681	707	582
個体数		2972					2605					1373					4304				

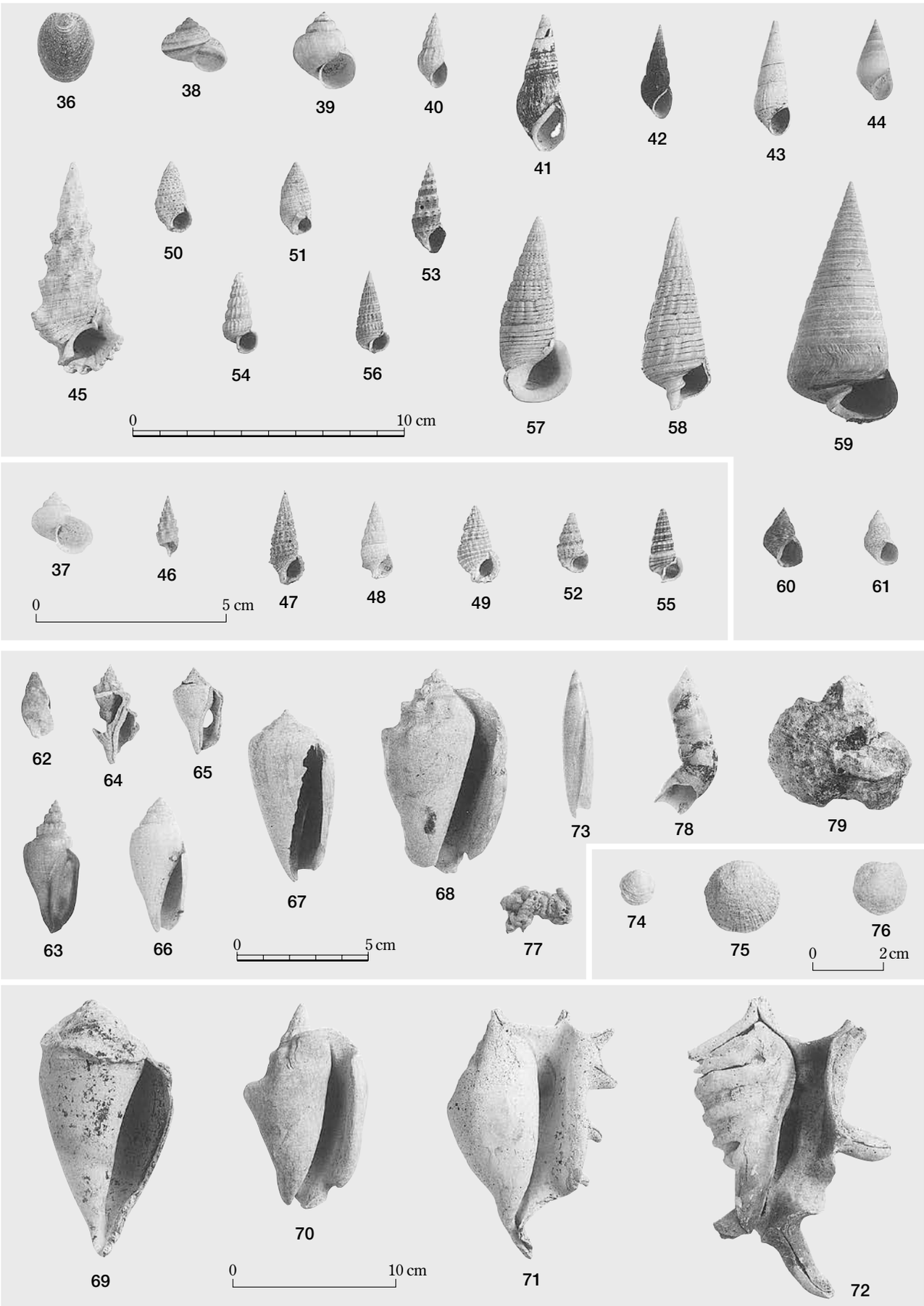
第29表　貝類遺体出土状況（二枚貝）f

種類 ＼ 出土地					X層					XⅡ層					XⅢ層					XⅣ層					層序不明																											合計					個体数
					Ⅱ地区					Ⅱ地区					Ⅱ地区					Ⅱ地区					Ⅰ地区					Ⅱ地区					TP①					TP②					TP④										
番号	綱名	科名	貝種名	生息地	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	完形		殻頂		破片	
					L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		L	R	L	R		
60	二枚貝綱	チドリマスオ科	ナミノコマスオ																						1	4								3	3	1	1	1		1				4	6				26	32	9	2	1	35
61		チトセノハナガイ科	チトセノハナガイ																								1		1					1		3										1		2	1	8	6	9	14	9	20
62		フジノハナガイ科	ナミノコガイ												1										1																				1	2				17	21	1	2	6	23
63			リュウキュウナミノコ	Ⅰ-1-c																					12	14	3		1					12	14	2			1	4				11	9	1			98	99	8	1	31	106
64		ニッコウガイ科	ニッコウガイ	Ⅱ-2-c						1	2			2	3	2		2		4	4	1		1	3	2			1	1			3		2	1			2	1	3				5	5		2		56	51	17	20	26	73
65			ヒメニッコウガイ	Ⅱ-2-c						1	1														1	1	1	1		1	1				1	1	1													8	15	3	8	4	23
66			イロアセベニガイ																																															0	0	1	0	2	1
67			ダイミョウガイ																																															3	2	0	0	5	3
68			ヘラサギガイ							2	1				13	14	2			18	13	2	4	2	7	5	4	3	7	76	71	12	15	11	8	9	3	1	4	37	24	7	7	9	216	226	52	36	37	4090	4216	933	934	1023	5150
69			イチョウシラトリ							3	3		1		3	3					1				7	6	3		2	4	3		2	2	4					1				3	1				168	169	20	18	18	188
70			サメザラ	Ⅰ-2-c																									2																					4	4	0	1	4	5
71			リュウキュウシラトリ	Ⅱ-1-c																					25	29	4	9	18	1	1			1	7	7	2	3	2	2	1		1	2	3	1		1	269	274	41	59	131	333
72			ネコジタザラ																																															1	1	0	0	0	1
73			モチヅキザラ	Ⅰ-2-c																						1	1		3				2	1																5	5	1	3	19	8
74			ハスメザクラ？																																															0	4	0	0	0	4
75			ユウシオガイ																																															1	0	0	0	0	1
76			トガリユウシオガイ																																															1	0	0	0	0	1
77			アマサギガイ							1															26	18	3	7	14									1	1			1									199	177	29	33	53	228
78			ニッコウガイ科の一種																																															1	1	0	0	0	1
79		アサジガイ科	サメザラモドキ？																						34	45	13	9	27	3	4	2	1	3	14	12	3	2	2	3	2			2	17	22	3	3		378	356	93	92	112	471
80			コチョウシャクシガイ？																																											1	1		1		15	4	1	2	5	16
81		シオサザナミ科	ハザクラ																						3	4	5	8		1					7	2	4	1	1	2	2				15	18	5	8	2	40	44	23	21	6	65
82			マスオガイ	Ⅱ-1-c																					6	10	6	3	8	1	2				20	21	6	10	3	2	2	1	1		43	48	15	11	2	251	254	71	79	49	333
83			リュウキュウマスオ	Ⅱ-1-c																					18	17	5	8	28		1				1	1			2	1	1	1		1	3	4	1	1	2	125	133	51	54	189	187
84		キヌタアゲマキ科	ズングリアゲマキ																																					1	1		1		1	1				6	6	1	3	1	9
85		マテガイ科	リュウキュウマテガイ																																															0	0	1	0	0	1
86		フナガタガイ科	タカソデモドキ																						7	7			1		1				1	1		1								1		1		77	73	7	15	31	88
87		シジミ科	シレナシジミ	Ⅲ-0-c											3	2	4	2	5	15	15	3	3	7	28	27	33	36	55				1	1					1										780	785	496	472	1099	1276
88		マルスダレガイ科	マルスダレガイ	Ⅰ-2-c																											1	1														1				0	2	1	1	4	3
89			アラヌノメガイ	Ⅰ-2-c																																														2	0	0	0	0	2
90			ヌノメガイ	Ⅱ-1-c																					9	7	4	2	44	2				2		2	2	1	1									1	63	57	37	23	176	100
91			カノコアサリ	Ⅰ-1-c																																										1				5	9	2	2	1	11
92			シラオガイ																						1						1					1										1				10	17	1	2	4	19
93			アラスジケマンガイ	Ⅲ-1-c																					2212	2199	571	612	396	17	25	8	5	6	14	15	6	2	6	3	4	3	2	2	13	20	3	4	5	12624	13098	3261	3242	1818	16340
94			ホソスジイナミガイ	Ⅱ-1-c																					65	76	10	13	15	1	1				12	22	3	2	1	6	10	2	2	13	14	8		1	5	415	426	49	47	108	473
95			イナミガイ																											1						1														1	2	0	1	0	3
96			ユウカゲハマグリ	Ⅱ-1-c																					85	88	14	22	17	27	15	2	5	4	20	23	11	10	3	22	24	1	6	3	39	53	7	9	4	715	736	144	168	119	904
97			オトコエシハマグリ																						8	3		1		5	10	2	3	3	10	10	5	3		2	2	1			12	7	4	4		170	145	39	48	20	209
98			オミナエシハマグリ																																															0	1	0	0	0	1
99			イオウハマグリ	Ⅱ-1-c											1					1					83	75	5	7	10	10	6		2		21	27	2	3	3	15	21	2	2	1	21	35	3	7		562	645	60	74	45	719
100			マルオミナエシ	Ⅰ-2-a																																														0	0	1	0	1	1
101			オイノカガミ	Ⅱ-1-c											1										85	81	5	10	13	6	3	1	1	2	26	41	5	6	4	11	8	1	3		35	39	6	4	1	629	682	74	96	79	778
102			リュウキュウアサリ																	1					13	10	5	1	3								1								3	3	1	1	2	39	40	13	18	17	58
103			ヒメRアサリ																						13	10	7	6	5	11	10	1	3	3	8	12	1	2	1	3	9		1	1	25	14	7	10	5	308	276	105	104	131	413
104			ヒメアサリ																						9	5	1	1							3	1			1		1				3	2				49	61	9	6	13	67
105			スダレハマグリ	Ⅱ-1-c											2	1						1			487	467	171	177	295	113	152	42	48	69	194	205	64	55	103	151	166	22	28	46	358	358	67	67	102	5134	5349	1474	1637	2503	6986
106			タイワンスダレ																																4	1		1							1					9	5	1	1	0	10
107			ハネマツカゼ																											1	1																			9	8	1	3	2	11
108			マツカゼガイ																						4	4									1	1											1			22	17	2	1	1	24
109			タイワンハマグリ																																															0	0	1	0	0	1
110			ハマグリの一種	Ⅱ-1-c																					5	4	7	8	4																					23	27	26	28	19	55
111			チョウセンハマグリ																							3																								8	7	3	2	0	11
112			オキシジミ												1	2							1	2	20	18	8	7	16	10	6	5	3	2	4	2	1	3	4	4	2	2		2	9	9		1	2	214	221	112	91	116	326
113			カミブスマガイ																																															0	0	2	1	8	2
114			フスマガイ																																															1	3	3	2	15	5
115		ニオガイ科	ニオガイ																								1		1	1					2	1	3	2	5	3	4	3	2		2	3	3	1	3	21	14	22	13	26	43
116	二枚貝不明																											1	11			1						1	7				1			3	2	4	1	2	11	19	230	21
合計					0	0	1	2	0	12	12	0	1	2	35	32	10	6	21	41	37	7	14	16	5876	5977	1769	2021	3609	803	816	183	218	343	1118	1191	409	355	329	787	777	130	155	145	2372	2423	491	482	362	50175	52623	14242	14906	22471	68109
個体数					2					13					45					51					7998					1034					1546					932					2905					67844					

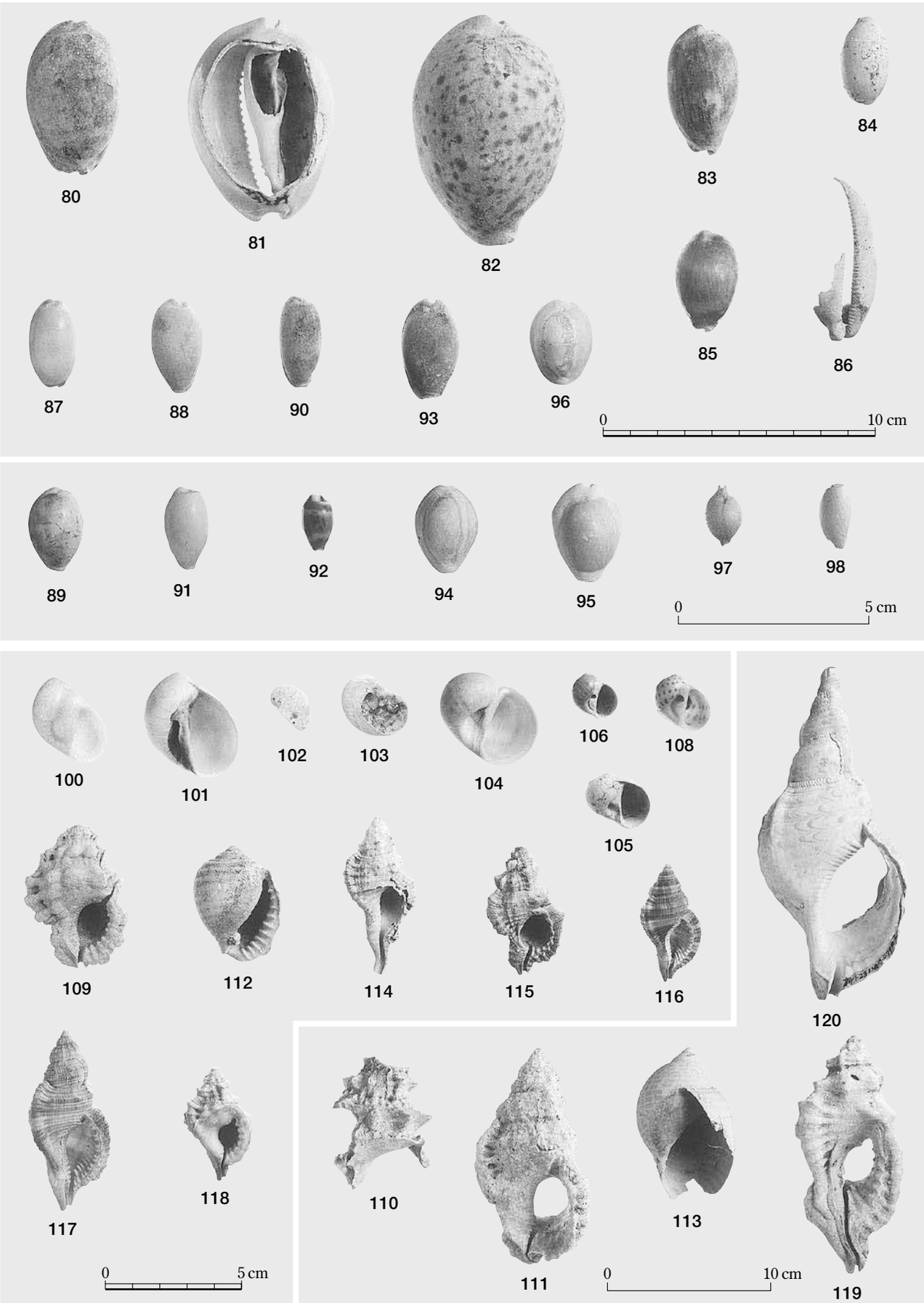
注　右殻、左殻のそれぞれの完形と殻頂を合計し多い方を個体数とした。 合計数と個体数はかならずしも一致しない。



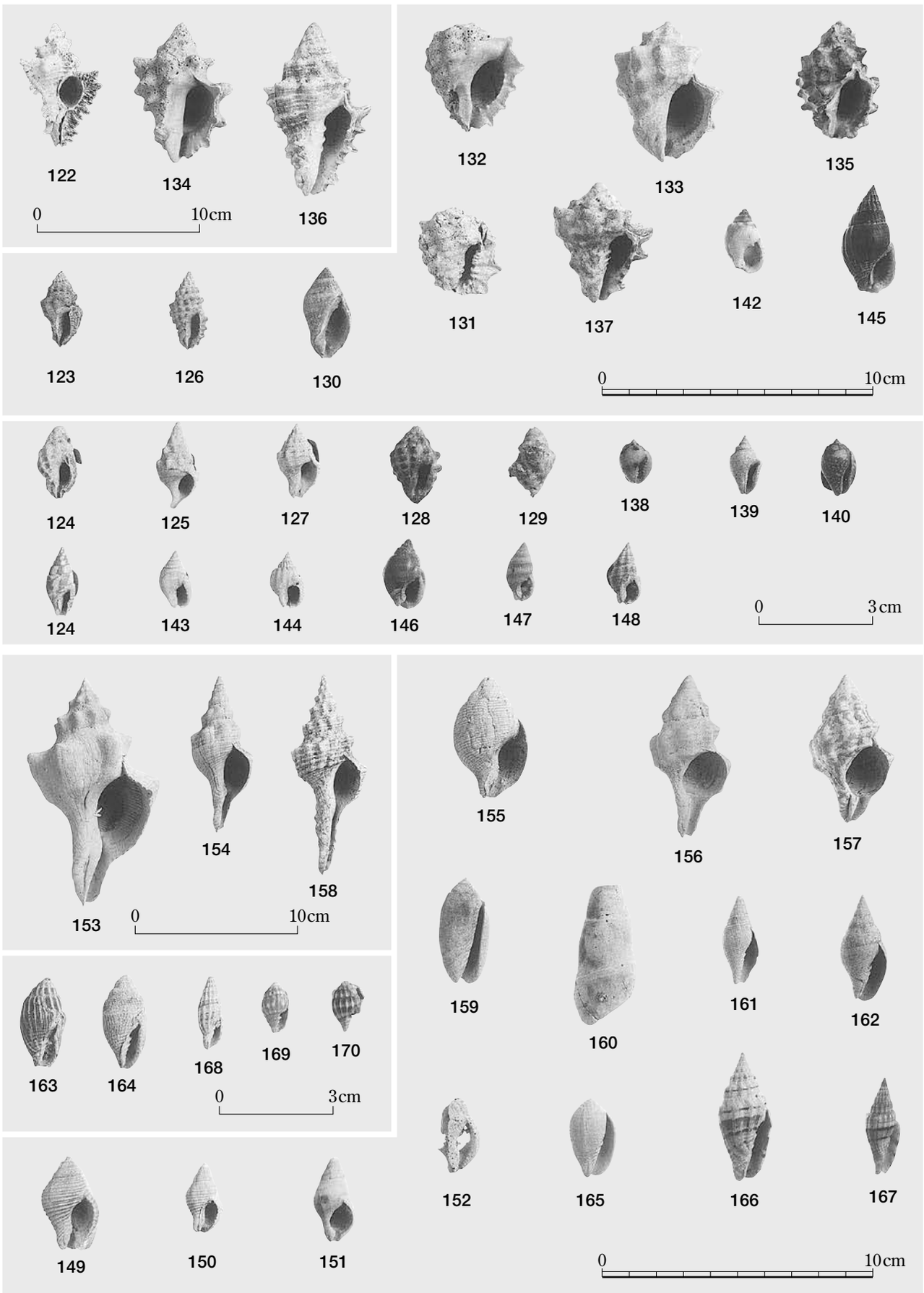
図版108　貝類遺体１　巻貝（番号は表と一致）



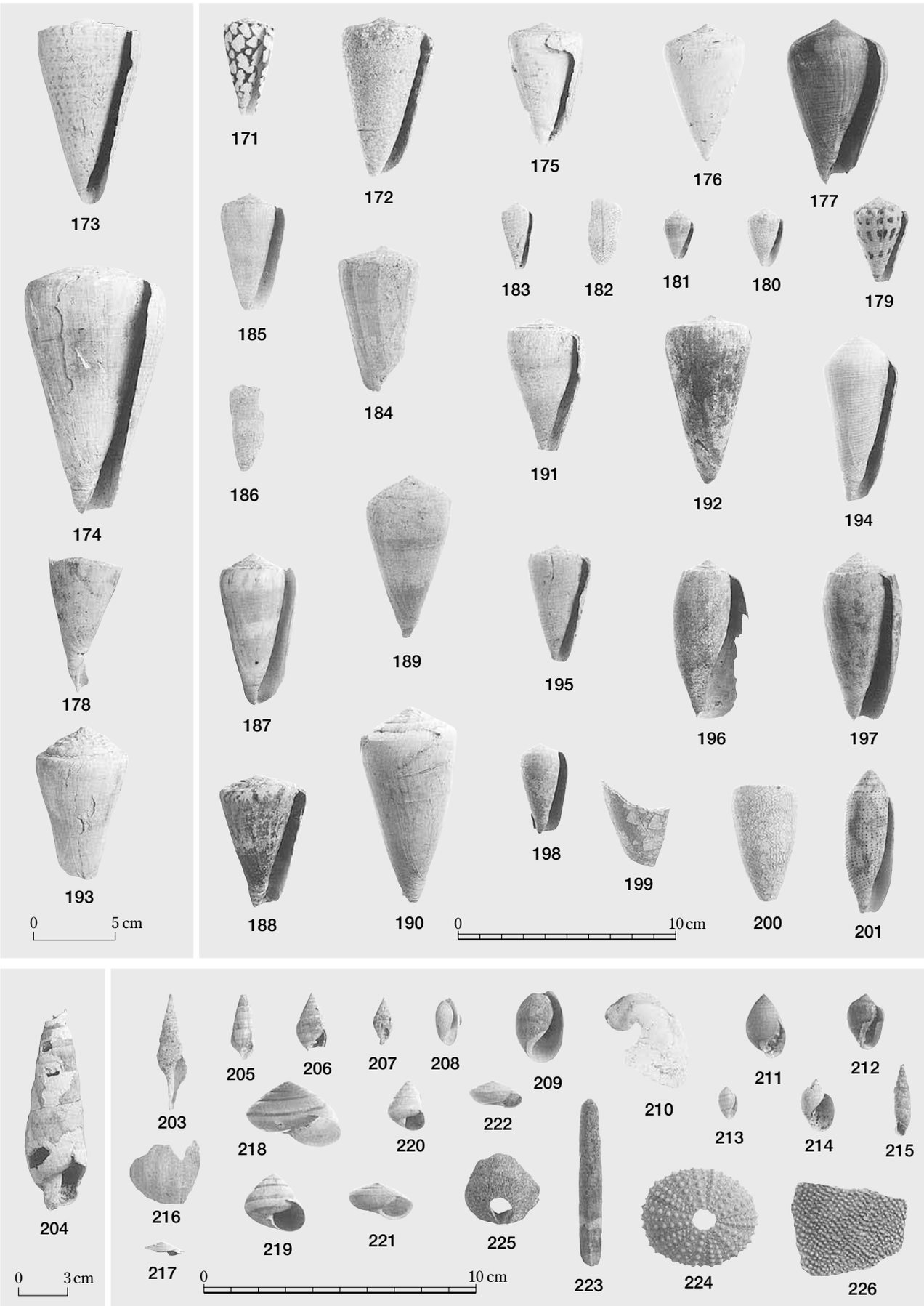
図版109　貝類遺体２　巻貝（番号は表と一致）



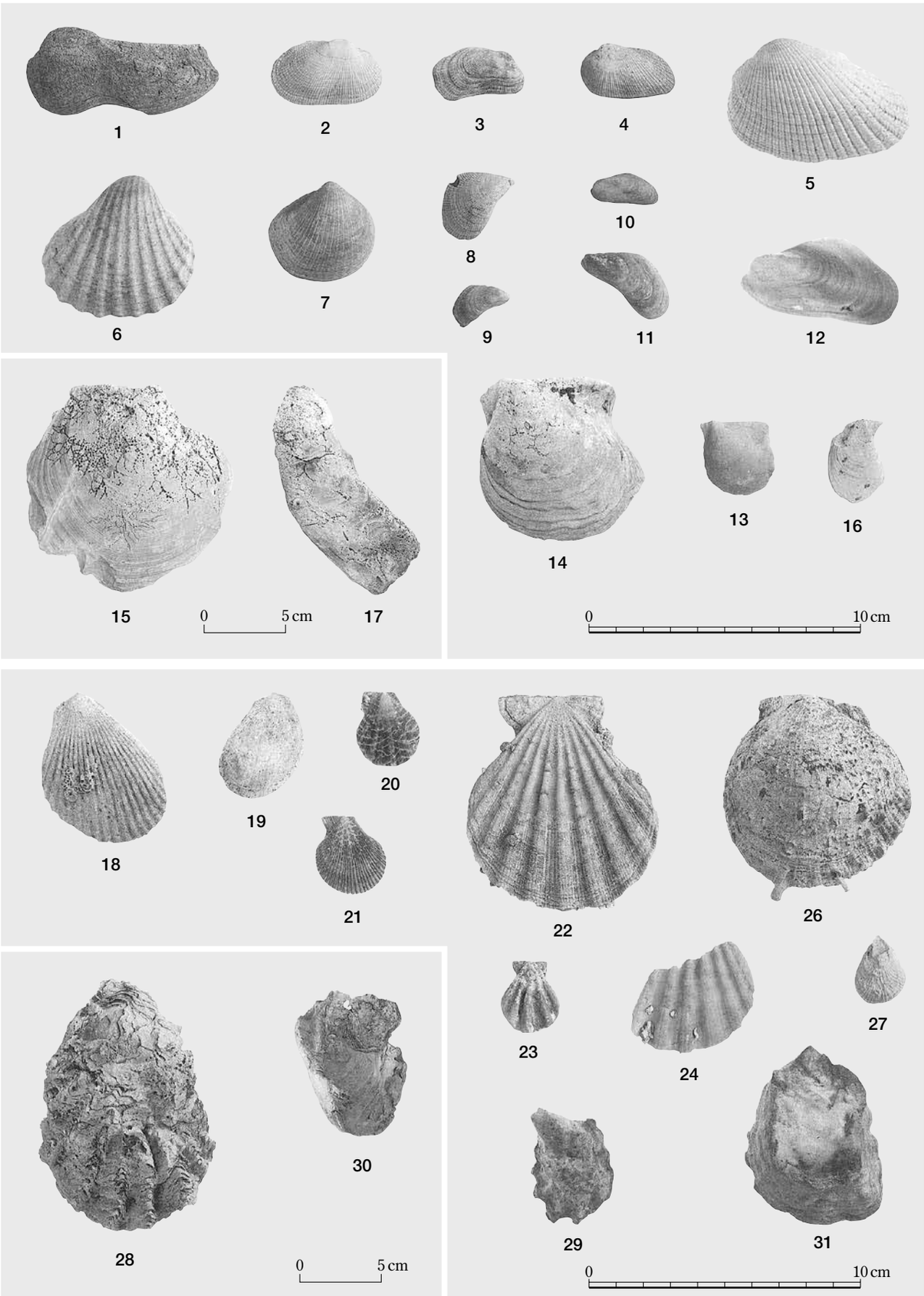
図版110　貝類遺体 3　巻貝（番号は表と一致）



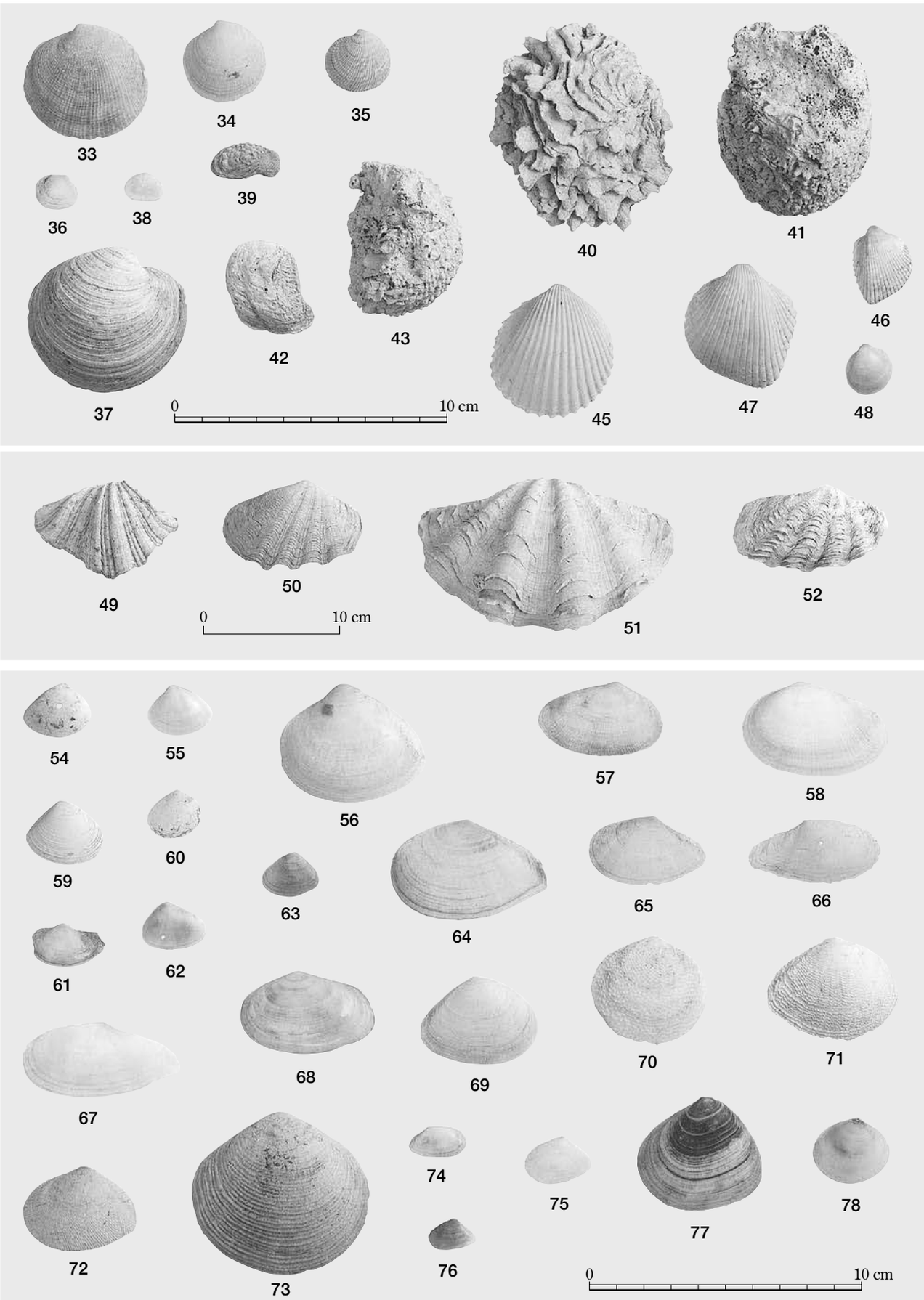
図版111　貝類遺体４　巻貝（番号は表と一致）



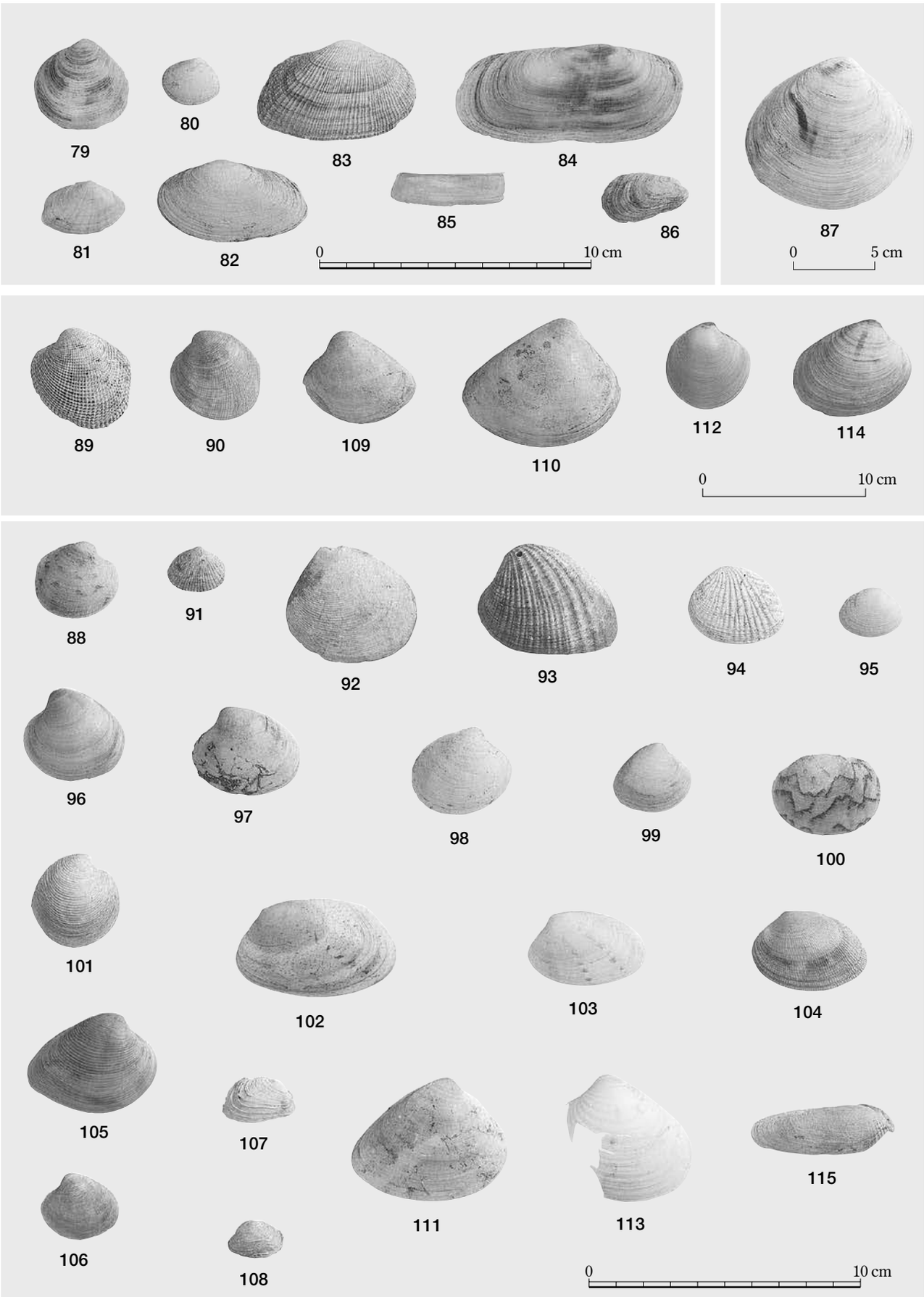
図版112　貝類遺体５　巻貝（番号は表と一致）



図版113　貝類遺体６　二枚貝（番号は表と一致）



図版114　貝類遺体７　二枚貝（番号は表と一致）



図版115　貝類遺体８　二枚貝（番号は表と一致）

第19節　動物遺体

金子浩昌・久貝弥嗣

１．概要

今回報告を行う動物遺体は、新城下原第二遺跡Ⅱ地区下層出土の資料である。下層はⅡ地区のⅧ・Ⅸ～ⅩⅤ層から構成される。動物遺体は、Ⅷ・Ⅸ・ⅩⅡ・ⅩⅢ・ⅩⅣ・ⅩⅤ層から出土しており、圧倒的にⅨ層が主体をなしている。

Ⅸ層は、爪形文土器を主体とする貝塚時代早期の層であり、放射線炭素年代測定では6080±50BPの測定結果が得られている。花粉分析などの結果から陸水域もしくは汽水域の海岸近くの森林縁辺部の環境であったことが推測されている。Ⅸ層は、調査区前面において倒木や樹根が広がっており、それらの間に動物遺体や人工遺物が出土する状況であった。Ⅸ層においては、リュウキュウイノシシが主体をなし、アカウミガメ、アオウミガメ、鳥類とわずかであるが魚類、ネズミ類遺骸があった。なかでもリュウキュウイノシシの遺骸は大量に出土し、かつて調査された野国貝塚Ｂ地点に類似する様相を示していた。

ⅩⅡ層は、無文土器が１点出土しているが、人工遺物の少ない層である。Ⅹ・ⅩⅠ層という間層を挟んでいる点からもⅨ層との時期差が捉えられる。動物遺体の出土自体も少なくリュウキュウイノシシが主体をなすが、鹿角が１点出土している点は特筆すべきである。

ⅩⅢ層・ⅩⅣ層からの人工遺物の出土はなく、動物遺体のみが、少量出土する。ⅩⅢ層においても鹿角が１点出土する他、リュウキュウイノシシが多い。時代観やⅩⅡ層との時期差などについては不明確な点が多い。ⅩⅢ層において6410±50．BPという放射線炭素年代測定の結果が得られている。

ⅩⅣ・ⅩⅤ層はⅡ地区下層の地山であるクチャの直上もしくはクチャのくぼみなどにたまった層であり、明確な文化層としては捉えられることは困難である。人工遺物は出土せず、貝類・獣骨が僅かに出土するのみである。

本遺跡の動物遺体の出土状況などは、同時期の嘉手納町野国貝塚Ｂ地点と類似した状況を示している。野国貝塚Ｂ地点においてもリュウキュウイノシシが大量出土する点やウミガメがこれに次ぐ点は類似している。野国貝塚Ｂ地点におけるリュウキュウイノシシの最小個体数は611体であり、本遺跡はその数字に及ばないものの、本時期の動物遺体の状況を考える上で重要な遺跡といえる。野国貝塚Ｂ地点においては、頭骨資料による脳髄食や四肢骨の破損状況による骨髄食が指摘されている。本遺跡のリュウキュウイノシシの骨の中には、傷痕が認められる資料があった。これらの資料には、線状の傷痕が同一方向状にいくつか平行に並び、特に上腕骨、大腿骨などに多く認められた(今回は、四肢骨についてのみ観察を行った。他の部位に関しては今後の課題としたい)。これらの傷に関しては今後より深い考察を必要とされるが、解体痕などの可能性も考えられる。鳥類については、ツル科やシギ科、カモ類などが確認された点は特筆すべき点であり、貝塚時代早期の狩猟や環境を考えていく上でも重要である。また、魚類の出土点数は極めて少ない。発掘調査時に約250ℓの土をサンプリングしフローテーションを行った結果得られた資料であるため、当調査区内での魚骨の出土は極めて稀であるといえる。以下、各動物遺体の概要を記すとともに、各時期の状況に関して考察を行っていきたい。

脊椎動物遺体種名一覧

Ａ．脊椎動物門	Ａ．Phylum VERTEBRATE
Ⅰ．硬骨魚綱	Ⅰ．Class Chondrichthyes
１．ウナギ目	1．Order Anguilliformes
a．ウツボ科	a.．Family Muraenidae
属種不明	Muraenidae　g en. et sp. indet.
Ⅱ．爬虫綱	Ⅱ．Class Reptilia
１．カメ目	1.Order Chelania
a．ウミガメ科	a.Family Chelonidac
アオウミガメ	*Chelonia mydas*
アカウミガメ	*Caretta caretta gigas*

Ⅲ．鳥綱	Ⅲ．Class Aves
１．ミズナギドリ目	1. Order Procellariiformes
ミズナギドリ科	Family　Procellariidae
オオミズナギドリ	*Calonectris leucomelas*
２．ガンカモ目	2. Oredr Anseriformes
ガンカモ科	Family Anatidae
カモ類	Anatidae gen. et sp.Indet
３．ツル目	3. Order Gruiformes
ツル科	Family Gruidae
	Gruidae gen. et sp.indet.
４．チドリ目	4. Chradriiformes
シギ科	Family Scolopacidae
チュウシャクシギ	*Numenius phaeopus*
５．スズメ目	5.Order Passeriformes
カラス科	Family Corvidae
カラス類	Corvus sp.
Ⅳ．哺乳綱	Ⅳ．Class Mammalia
１．齧歯目	1.Order Rodentia
ネズミ科	Family Muridae
ケナガネズミ	*Diplothrix legata*
２．ウシ目	2. Order Artiodactyla
イノシシ科	Family Suidae
リュウキュウイノシシ	*Sus leucrmystax riukiuanus*
シカ科	Family Cervidae
ニホンジカ	*Cervus nippon*

２．動物遺体の概要

硬骨魚綱

ウツボ類

ウツボ科の歯骨がⅨ層より１点出土している。比較的大形の個体と思われる。

＜その他の硬骨魚綱＞

その他、椎骨１点、背鰭棘２点が出土しているが、種などに関しては同定できなかった。

尚、野国貝塚Ｂ地点においては、ブダイ類、ベラ類、タイ類などの珊瑚礁域に生息する魚の骨やサメ類の椎骨など出土しているが、既述したように、新城下原第二遺跡Ⅱ地区下層で得られた魚骨の出土点数は、フローテーションを行ったにもかかわらず検出できなかった。埋存は非常に少ないのであろう。本遺跡における貝塚時代早期の漁労活動については今後検討すべき事項が多い。

爬虫綱

アカウミガメ

上腕骨

右側　Ⅸｂ層-A　Ｄ2193　近・遠位骨端を欠損　骨体括れ部最小径34.81　同部厚9.57　推定全長170.0

アオウミガメ

多くの骨格が得られている。主要標本について記載しておく。

頭骨

後側頭骨　Ⅸｂ層-Ｄ　Ｄ1715　周辺骨は破損

後側頭骨　ＸⅡａ層-Ｅ　周辺骨はかなり破損

肋骨板
右側　第１　ⅩⅡａ層-Ｅ　Ｄ2508　骨体片
右側　第２　ⅩⅡａ層-Ｅ　D2510　現存部最大幅137.12（遠位骨端に近い位置）
右側　第４　Ⅸｂ層-Ａ　Ｄ3260　現存部最大幅105.72
臀骨板　Ⅸａ層-Ｅ　Ｄ655　幅114.39　長さ69.60
剣状腹板片　層位不明　現標本の幅39.52
剣状腹板片　Ⅸａ層-Ｄ　Ｄ270　現標本の幅32.90
縁骨　Ⅸａ層-Ｄ　Ｄ2931　現存長126.51　内側が縦に割れる
四肢骨
前烏口骨＋肩甲骨
1．右側　「Ⅱ地区下層」　関節窩と前烏口骨を欠損関、節窩基部最小径46.71
2．右側　Ⅸｂ層-Ｅ　Ｄ1923　前烏口骨の遠位骨端を欠損、　窩基部最小径40.63
3．左側　「Ⅱ地区下層」　前烏口骨の一部のみを残す
4．左側　前烏口骨遠位骨端を欠く。窩基部径46.16
上腕骨
1．右側　Ⅸｂ層-Ａ　Ｄ3269　完存する大形の標本　近・遠位骨端間最大長222.25、骨体最小径43.63
2．左側　Ⅸｃ層-Ｄ　Ｄ2425　骨体、括れ部最小幅25.09、同部厚13.80、全長推定140.0
同部位の骨体厚20.73　上腕骨骨頭内外径60.39
尺骨
1．左側　Ⅸａ層-Ｅ　Ｄ1040　完存　全長85.36、近位骨端径27.52×15.89
2．右側　Ⅸｃ層-Ａ　近位骨端かじられる　全長推定102 ±
3．左側　Ⅸｃ層-Ｅ　Ｄ2368　完存　全長92.62　近位骨端径36.95×20.13
寛骨
腸骨
左側　Ⅸｃ層-Ｂ　腸骨欠損　頸部幅35.0
恥骨
右側　Ⅸａ層-Ｅ　Ｄ880　近・遠位骨端欠損　骨体括れ部最小径22.25
座骨
右側　Ⅸｃ層-Ｅ　Ｄ2367　完存　全長112.15　骨体括れ部径27.36×15.98　遠位骨端幅16.88
大腿骨
右側　Ⅸａ層-Ｅ　Ｄ804　略完存　骨体最小径25.44　遠位骨端幅51.96　骨頭～遠位骨端142.75
脛骨
右側　Ⅸａ層-Ｅ　Ｄ927　遠位骨端欠損　近位骨端幅26.95×19.74
腓骨
1．右側　層位不明　幼体　骨体最小径6.90
2．左側　Ⅸａ層-Ｅ　Ｄ1069　近位骨端欠損　骨体最小径10.47

鳥綱
オオミズナギドリ
近位骨端の一部と遠位骨端を欠く
復元推定全長113　前後骨体幅5.68×4.41
海上をなぐように帆翔するところからこの名がある。遺跡からの出土例は比較的多い。魚群に群れるので目印になる。しかし、本遺跡では魚骨の検出が少ない。この遺跡での出土は漁獲とは別の理由であろうか。
カモ類
尺骨１点が検出されたのみである。標本は近位骨端と遠位骨端を欠損するので、全長は不明であるが70.0前後が推定される。近位骨端の損傷もあり、形態を充分観察できないが、内側関節窩の下にある前腕筋粗面の陥入のやや深いこと、骨体が左右方向に扁平であることが観察される。潜水をする生態と関連すると思われ、

この尺骨がウミガモ類ではないかと推測させる。
　カモ類の渡来は沖縄でも知られている。新城下原第二遺跡の形成期の渡来状況は現在と変わらないと思われるが、南島遺跡でのカモ類遺骸の検出は一般に少ない。本種主上顎骨がウミガモ類とすると、昼間沖合にいるカモ類を捕獲するのは難しいのではないかと思われる。
ツル類
検出された標本は脛骨と足根中足骨があり、基節骨１点である。脛骨は骨体～遠位骨端を比較的長く残す標本がある。ツル科に特有のやや角張った骨体で、前面内側の稜がつよく角張る。足根中足骨もいっそう強く角張ったかたちをもつ。なお骨片中にこの足根中足骨と同じ形態の破片数点があり、当初は今少しかたちを残したものであったことが推測される。いずれにしても肉質のもっとも少ない部分が棄てられたのであろう。
頸椎体 １　Ⅸｂ層-Ｅ　Ｄ1974　全長 35,15
脛骨
脛骨遠位骨端　右側　Ⅸａ層-Ｅ　Ｄ671　骨端幅（骨体の長く残る標本）14.76、
脛骨遠位骨端　左側　Ⅸｂ層-Ｅ　Ｄ2023　骨端幅（骨体の短い標本）14.52
ほぼ同じサイズである。
足根中足骨
左側足根中足骨（近位骨端～遠位部）１、左側足根中足骨遠位骨端（骨端一部破損）１
　上記の脛骨は左右一対であるが、足根中足骨は左側２点があり、多少サイズにも違いがある。複数個体があったはずである。
基節骨　全長 38.51
　標本のツル科の骨格は、タンチョウに比してはるかに小さい。足根中足骨はもっとも保存が良好であるが遠位骨端を欠く。しかし全長を推定すると205.0前後と推定される。このサイズはナベツルGrus monachaの200～230に一致する。ナベツルは鹿児島県荒埼、山口県八代村に冬季渡来することが知られるが、かつては各地に渡来していた。沖縄県でも渡来していたことを推測できる貴重な資料といえよう。
チュウシャクシギ
Ⅱ地区下層
右脛骨
近位骨端を欠損するが、骨体～遠位骨端をよく保存する。
復元全長130前後、大形のシギ類である。
遠位骨端の幅が広く、その部分やや扁平なかたち、靱帯溝上橋が小さくくぼむ。
シギ類は沖縄に多い。本標本もこうした鳥たちが早くから渡っていたことを教える。
カラス類
左烏口骨；近位骨端を小欠、全長43.0（推定復元長）、ハシボソカラス♀に比べて骨体が細くきゃしゃである。右烏口骨があるが同じ形質である。
右足根中足骨；全長57.95、近位骨端幅10.11、遠位骨端幅7.15、同様に小さくきゃしゃな骨体である。
　カラスの遺骸の出土は沖縄ではめずらしくないし、日本各地の石器時代遺跡でもみることが多い。特に北方圏の遺跡では多いようである。実際多棲する条件はあったのであろう。しかし、沖縄での状況は特に多棲したとも思えず、飛翔するこの鳥を捕獲することも容易ではなかったかと思われる。この鳥に対する呪術的な扱いはなかったであろうか。

哺乳鋼
ニホンジカ
　シカの遺骸はⅩⅡ・ⅩⅢ層より各１点ずつ鹿角が出土している。種の同定にまでは至らなかったが、Ⅸ層より下層の段階で鹿角がでた点は重要である。ⅩⅡ層より出土した鹿角は、角座部分の資料であり、角座部分はＶ字型をなしているが、明確な加工痕などは認められない。ⅩⅢ層より出土する鹿角は、分岐の先端部のみである。
リュウキュウイノシシ
　本地区の主体をなす動物遺体である。骨の残存状況は非常に良く、完存資料も多かった。各層位の最小個

体数はⅨ層70個体（上腕骨Ｒ遠位端より）、ⅩⅡ層１個体（環椎１点などより）、ⅩⅢ層３個体（肩甲骨Ｒ遠位端より）、ⅩⅣ層４個体（上腕骨Ｌ遠位端より）、ⅩⅤ層２個体（上腕骨Ｒ近位端より）で第Ⅸ層からの出土点数が顕著である。以下、リュウキュウイノシシの各部位の特徴に関して記す。

尚、各部位の計測に関してはDriesch(1976年)に従った。

1. 頭骨

頭骨は、大部分が破片資料であるが、出土の段階で残存状況の良い資料が2点得られている。頭骨においては、野国貝塚において、脳髄食が指摘されている。本遺跡においても、頭骨の破片資料が多く得られたが、これらの考察にまではいたらなかった。今後の検討課題としたい。

2. 下顎骨

下顎骨において判別されるリュウキュウイノシシの数は、第49表の通りである。最も出土量の多いⅨ層に着目すると、各最小個体数は、オス21（32%）、メス22（33%）、不明23（35%）で、オスとメスの割合は半々である。この雌雄比は、野国貝塚の雌雄比とも類似する結果である。また、ⅩⅢ層においてメス１個体、ⅩⅣ層においてメス１個体が確認されている。

＊野国貝塚の雌雄比は、総個体数661中、オス171(28.0%)、メス213(34.9%)、雌雄不明227(37.2%)である。

次に下顎骨における下顎骨咬耗状況についてみていきたい。下顎骨における咬耗状況は、金子浩昌氏による指導を受け、歯の崩出段階と後臼歯の咬耗状況をもとに行い、第30～32表にその結果を示した。下記に各段階の崩出状況と咬耗状況を記す。尚、[　] 内の番号は、図版117、118の番号と対応する

Ⅰ-1：　ｄｍ4、＜Ｍ１＞［１］　　Ⅰ-2：ｄｍ４、$\overset{-,-}{\text{M}}$1［２］

Ⅱ-1：　ｄｍ４、$\overset{++,++}{\text{M}}$1、＜Ｍ２＞［３］　　Ⅱ-2：ｄｍ４、$\overset{++,++}{\text{M}}$1，$\overset{-,-}{\text{M}}$2，＜Ｍ３＞［７］

Ⅱ-3：$\overset{++,++}{\text{M}}$1，$\overset{++,++}{\text{M}}$2，＜Ｍ３＞［５］

Ⅲ-1：$\overset{++,++}{\text{M}}$1，$\overset{++,+}{\text{M}}$2，$\overset{-,-,-}{\text{M}}$3　［４］　　Ⅲ-2：Ｍ１，Ｍ２、Ｍ３（＋、－、－）

Ⅲ-3：Ｍ３（＋、＋、－）［６］　　Ⅲ-4：Ｍ３（＋、＋、＋）

Ⅲ-5：Ｍ３（＋、＋、＋）［８］

Ⅳ：Ｍ３（＋＋、＋、＋、－）［９］

Ⅴ-1：Ｍ３（＋＋、＋、＋、－）［11］　　Ⅴ-2：Ｍ３（＋＋＋、＋＋、＋＋、－）［10］

Ⅴ-3：Ｍ３（＋＋＋、＋＋、＋＋、＋）［12］　　Ⅴ-4：Ｍ３（＋＋＋、＋＋＋、＋＋＋、＋）［13］

Ⅴ-5：Ｍ３（＋＋＋＋、＋＋＋、＋＋＋、＋）［14］　Ⅴ-6：Ｍ３（＋＋＋＋、＋＋＋＋、＋＋＋、＋＋）［15］

Ⅴ-7：Ｍ３（＋＋＋＋、＋＋＋＋、＋＋＋＋、＋＋＋）［16］

＊注

記号は臼歯咬頭の咬耗状況。

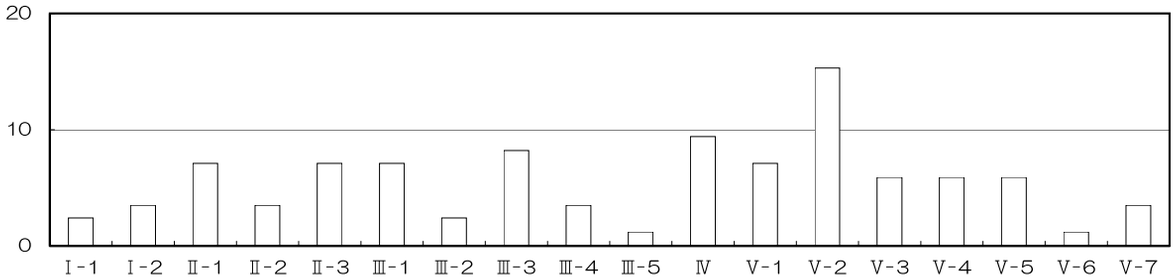
＜　＞：未萌出、－；未咬耗、＋；エナメル質咬耗、＋＋；象牙質露出（穿孔）、＋＋＋；穿孔連結、＋＋＋＋；全面窩

咬耗は個体差もあり、一様でないが模式的に示したもの。Ⅲ－3段階以降はM3の咬耗表記のみにとどめた。Ⅱ－1；0．5歳、Ⅲ－1；1．4歳、Ⅲ－2；1．5歳、Ⅲ－4；2．5歳、Ⅳ；3．5歳、Ⅴ－2；4．5歳

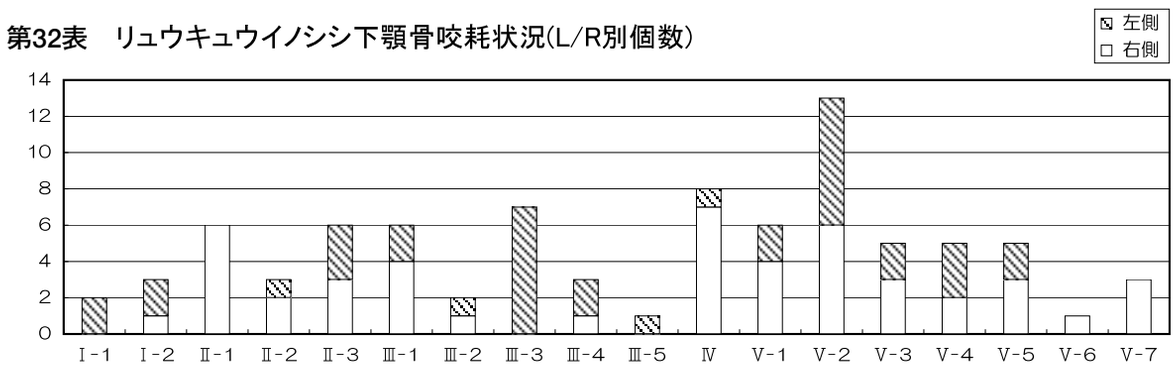
第30表　リュウキュウイノシシ下顎骨咬耗状況

咬耗度	Ⅰ-1	Ⅰ-2	Ⅱ-1	Ⅱ-2	Ⅱ-3	Ⅲ-1	Ⅲ-2	Ⅲ-3	Ⅲ-4	Ⅲ-5	Ⅳ	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅴ-3	Ⅴ-4	Ⅴ-5	Ⅴ-6	Ⅴ-7	計
右側		1	6	2	3	4	1		1		7	4	6	3	2	3	1	3	47
左側	2	2		1	3	2	1	7	2	1	1	2	7	2	3	2			38
計	2	3	6	3	6	6	2	7	3	1	8	6	13	5	5	5	1	3	85
%	2.4	3.5	7.1	3.5	7.1	7.1	2.4	8.2	3.5	1.2	9.4	7.1	15.3	5.9	5.9	5.9	1.2	3.5	100.0

第31表　リュウキュウイノシシ下顎骨咬耗状況グラフ(%)



第32表　リュウキュウイノシシ下顎骨咬耗状況(L/R別個数)



このグラフに示されるように新城下原第二遺跡の貝塚人によるイノシシ狩猟は、幼体は少なく捕獲対象から外されており、２歳前後の個体の多いのはイノシシの自然生存個体数と一致し、さらに４．５歳以上という壮、高年齢個体をも対象としていることは、積極的な狩猟活動のあったことを示すといえよう。

次に下顎骨における臼歯サイズに関して述べる。臼歯サイズは、イノシシの大きさなどを考える上で重要な部位とされている。野国貝塚Ｂ地点においては、野国貝塚出土のリュウキュウイノシシと現生リュウキュウイノシシの臼歯サイズの検討が行われている。本遺跡においてもこれを参考資料として検討を行っていきたい。本遺跡において計測を行った部分は、Ｍ１Ｍ（第１後臼歯第１咬頭対頬舌径)、Ｍ１Ｌ（第１後臼歯長)、Ｍ２Ｍ（第２後臼歯第１咬頭対頬舌径)、Ｍ２Ｌ（第２後臼歯長)、Ｍ３Ｆ（第３後臼歯第１咬頭対頬舌径)、Ｍ３Ｍ（第３後臼歯第２咬頭対頬舌径)、Ｍ３Ｌ（第３後臼歯長）の７部位である。第41表に計測結果を示した。本遺跡出土のリュウキュウイノシシは、各咬耗段階ごとの個体数が少ないものの、全体を通しての数値は、現生リュウキュウイイノシシよりも小さく、野国貝塚資料との数値と近い状況にある。野国貝塚において、貝塚早期のリュウキュウイノシシが現生リュウキュウイノシシよりも小型であると指摘されているが、本遺跡においてもこれに近似する状況が認められたといえる。なお四肢骨からの頭胴長復元例を本文末に記した。

3. 椎体　椎体の完存資料（棘状突起などを除く資料）は、Ⅸ層より環椎53点、軸椎21点、頸椎21点、胸椎75点、腰椎84点、仙骨23点が出土している。ⅩⅡ層より環椎１点、仙骨１点が出土。ⅩⅣ層より腰椎２点出土。ⅩⅤ層より頸椎１点、仙骨１点が出土している

4. 肋骨　肋骨の関係資料は認められず、全ては破片資料であった。近位端～骨体の破片資料は比較的多くみられた。

5. 肩甲骨　肩甲骨は、近位端付近以外の薄い部分が破損している資料が多く、完存資料は認められなかったが、遠位端付近の残りが良かった。肩甲骨の各部位の出土状況は下記の通りである。

骨体～遠位端：Ⅷ層１(右１)、Ⅸ層72(右26、左46)、ⅩⅢ層４(右３、左１)、ⅩⅣ層１(左１)

骨体のみ：Ⅸ層33(右16、左17)、ⅩⅡ層２(左２)、ⅩⅤ層１(左１)、層位不明１(左１)

6. 上腕骨　上腕骨における完存資料の出土状況は下記のとおりである。

・近位端～遠位端：Ⅸ層22(右13、左９)、ⅩⅣ層２(左２)

・近位端はずれ～遠位端：Ⅸ層30(右18、左12)

・両端はずれ：Ⅸ層10(右５、左５)、ⅩⅣ層１(右１)

各段階の最小個体数については、「近位端～遠位端」13（36%)、「近位端はずれ～遠位端」18（50%)、「両端はずれ」５（14%）である。「近位端はずれ～遠位端」が半分を占め、「両端はずれ」の割合が比較的低い結果を示している。上腕骨においては、近位端・遠位端がよく残った状態で、骨体部分で破損する資料が多かった。骨体部分における破損の状態は、比較的垂直方向に割れている資料が多く、斜位に割れる資料は稀であった。また、上腕骨における、傷跡の資料は最も多く32点であった。第36表に上腕骨における各部分の計測値を示した。

7. 橈骨　橈骨における完形資料の出土状況は下記の通りである。

・近位端～遠位端：Ⅸ層22(右14、左８)、ⅩⅤ層１(右１)

・近位端～遠位端はずれ：Ⅷ層１(左１)、Ⅸ層38(右24、左14)、ⅩⅡ層１(左１)ⅩⅢ層１(右１)、ⅩⅣ層３(左３)

・両骨端はずれ：Ⅸ層18(右９、左９)

橈骨の完存資料におけるⅨ層内での各成長段階の最小個体数は、「近位端～遠位端」14（36%)、「近位端～遠位端はずれ」24（51%)、「両端はずれ」９（19%）である。「近位端～遠位端はずれ」段階が約半数を占め、「両端はずれ」段階が19%とやや少ない割合を示している。橈骨においては、11点の傷跡資料が認められた。傷跡はいずれも線状の傷が密にまとまったものであり、特定の部分に多いという傾向などは認められなかった。

8. 尺骨　尺骨における完形資料の出土状況は下記の通りである。

・近位端～遠位端：Ⅸ層２(右１、左１)　左記の２点はいずれも橈骨と癒合している。

・近位端～遠位端はずれ：Ⅸ層１(左１)

・両端はずれ：Ⅸ層６(右４、左２)

尺骨における完存資料は少なかった。Ⅸ層についてみてみると、「近位端～遠位端」１、「近位端～遠位端はずれ」１、「両端はずれ」４で、「両端はずれ」の資料が僅かに多いが、資料数が少ないため確定的ではない。尺骨認められた傷跡は６点である。最後に、尺骨の各部位の計測値を示す。尺骨においては、SDO、DPA、BPCの各部位において残りがよく計測点数も多かった。

9. 中手骨　中手骨ⅡはⅨ層より２点(右１、左１)が出土している。中手骨ⅢはⅧ層より１点(右１)、Ⅸ層より31点(右14、左17)、ⅩⅢ層より２点(右１、左１)が出土している。中手骨ⅣはⅧ層より１点(右１)、Ⅸ層より27点(右17、左10)が出土している。中手骨ⅤはⅨ層より３点(右３)が出土している。

10. 寛骨　寛骨の残存状況は比較的良かった。出土状況に関しては出土一覧表を参考にされたい。

11. 大腿骨　大腿骨における関係資料の出土状況は下記の通りである。

・近位端～遠位端：Ⅸ層５(右２、左３)

・近位端～遠位端はずれ：Ⅸ層１(右１)

・近位端はずれ～遠位端：Ⅸ層３(右３)、ⅩⅢ層１(右１)

・両端はずれ：Ⅸ層32(右16、左16)

大腿骨の完存資料におけるⅨ層内での各成長段階での最小個体数は、「近位端～遠位端」３、「近位端～遠位端はずれ」１、「近位端はずれ～遠位端」３、「両端はずれ」16である（全体数を23とした場合)。大腿骨においては「両端はずれ」の段階の資料が多い。第39表に大腿骨の計測値を示した。

12. 膝蓋骨　膝蓋骨は、Ⅸ層から５点(右１、左４)出土している。

13. 脛骨　脛骨の完形資料の出土状況は下記の通りである。

・近位端～遠位端：Ⅸ層26(右10、左16)

・近位端はずれ～遠位端：Ⅸ層21(右13、左8)、ⅩⅢ層１(左１)

・両骨端はずれ：Ⅷ層１(左１)、Ⅸ層31(右12、左19)、ⅩⅢ層２(左２)、ⅩⅣ層１(左１)

脛骨の完存資料における、Ⅸ層の各成長段階の最小個体数は、「近位端～遠位端」が16(33%)、「近位端はずれ～遠位端」が13(27%)、「両端はずれ」が19(40%)である(全体数を48とした場合)。

14. 腓骨　腓骨は、Ⅸ層から骨体部１点(左右不明１)出土している。

15. 距骨　距骨は、Ⅸ層から13点(右７、左６)出土している。残りが非常に良く、GLl(８点)、GLM(10点)について計測を行った。GLlは、最大値=34.4㎜、最小値=29.8㎜、平均値=32.1である。GLMは、最大値=31.1、最小値=25.8、平均値=28.4である。

16. 踵骨　踵骨は、Ⅸ層から40点(右19、左21)出土している。出土資料は全体的に残りが良かった。遊離端(踵骨隆起)の癒合状況が確認できる資料は34点(右17、左17)あり、癒合している資料は21点(右12、左９)、癒合していない資料は13点(右５、左８)であり、その割合は癒合資料62%、癒合していない資料38%であった。
17. 足根骨　足根骨は、Ⅸ層より中心足根骨が１点(左１)出土するのみである。
18. 中足骨　中足骨ⅡはⅨ層より３点(右３)出土している。中足骨Ⅲは、Ⅸ層より28点(右16、左12)出土している。中足骨Ⅳは、Ⅸ層より30点(右13、左17)、ⅩⅣ層より１点(左１)が出土している。中足骨Ⅴは、Ⅸ層より３点(右２、左１)が出土している。
19. 指趾骨　基節骨は、Ⅸ層より14点(右６、左８)、出土層位不明２点(右１、左１)の総計16点が、中節骨はⅨ層より３点(右１、左２)が、末節骨はⅨ層より１点(右１)が出土している。

新城下原第２遺跡出土のイノシシのサイズ

本遺跡から出土したイノシシについては、既述したように臼歯計測から現生リュウキュウイノシシよりも小さいことが指摘されているが、四肢骨のうち完存標本の多かった踵骨の全長から推定されるイノシシの頭胴長（成獣体）は57.7～91.2cmであった。現生リュウキュウイノシシは♂80～120ｃｍ(小宮輝之「日本の哺乳類」2002)という。現生種に比してかなり小さいことがわかる。

ケナガネズミ

ケナガネズミは、Ⅸ層より大腿骨（左）が２点出土している。リュウキュウイノシシの各部に認められた線状の傷跡の正体を考えていく上でも重要な点であると考える。

４．まとめ

新城下原第二遺跡Ⅱ地区下層の動物遺体に関してまとめていきたい。

・Ⅸ層のリュウキュウイノシシの出土状況の記録を行ったが、明確な個体のまとまりや部位のまとまりは認められなかった。
・Ⅸ層における最小個体数による種構成比は下記の通りである。
　リュウキュウイノシシ70個体（88%)、トリ５個体〔オオミズナギドリ１、ナベヅル１、カモ類１、サギ類１、カラス類１〕(6%) ウミガメ類３個体〔アカウミガメ１、アオウミガメ２〕(４%)、魚類１個体〔ウツボ〕(１%)、ケナガネズミ１個体（１%）
・Ⅸ層のリュウキュウイノシシの雌雄比は、オス・メス共に約半々の状況を示している。
・下顎骨の臼歯サイズに関しては、現生リュウキュウイイノシシよりも小さく、野国貝塚に近似する結果となった。

参考文献

小宮　孟、小林理恵、安部きみ子、千葉県武士遺跡出土イノシシの齢構成にもとづく屠殺季節と家畜イノシシの検討、人類学雑誌、Vol.111，No.２，2003

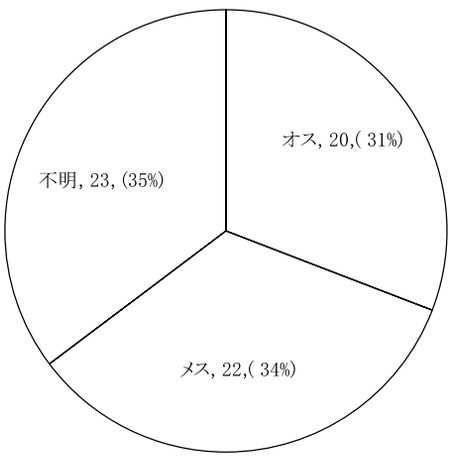
文献

Angela von den Driesch『A GUIDE TO THE MEASUREMENT OF ANIMAL BONES FROM ARCHAELOGICAL SITE』1976

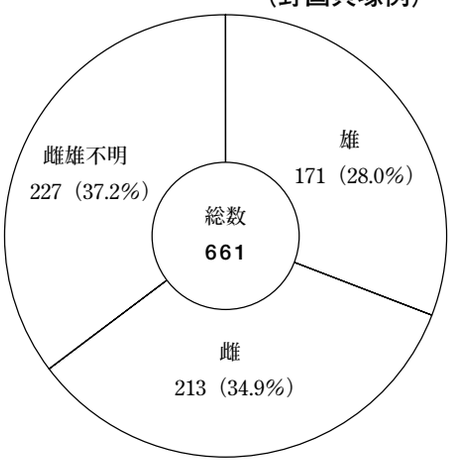
第33表　Ⅸ層内の雌雄比

	オス	メス	不明
L	11	5	13
R	13	15	23
L・R	7	7	0
MNI	20	22	23

第34表　リュウキュウイノシシ雌雄比(Ⅸ層)



第35表　リュウキュウイノシシ雌雄比
(野国貝塚例)



第36表　上腕骨計測値(Ⅸ層)

単位㎜

	GLC	SD	GL	Bd	BT
計測個体数	19	168	6	106	114
平均値	123.7	10.4	142.3	29.3	24.2
最小値	112.3	5.7	135.7	25.3	20.6
最大値	138.7	13.1	147.6	33.9	27.9

第37表　橈骨計測値(Ⅸ層)

単位㎜

	GL	Bp	Bd	SD
計測個体数	19	60	18	64
平均値	102.9	19.6	22.8	11.2
最小値	90.8	15.4	19.7	8.7
最大値	113.6	23.6	25.5	13.9

第38表　尺骨計測値(Ⅸ層)

単位㎜

	SDO	DPA	BPC
計測個体数	58	58	62
平均値	19.9	25.3	14.9
最小値	15.7	19.0	10.1
最大値	22.8	31.3	17.3

第39表　大腿骨計測値(Ⅸ層)

単位㎜

	GLC	GL	BP	Bd
計測個体数	6	4	13	28
平均値	148.5	156.8	39.4	32.9
最小値	132.7	145.9	31.7	27.7
最大値	161.6	163.3	47.9	35.7

第40表　脛骨計測値(Ⅸ層)

単位㎜

	LI	GL	Bp	SD	Bd
計測個体数	23	22	33	32	54
平均値	122.8	131.0	32.2	11.6	20.0
最小値	105.8	115.7	22.6	9.3	17.8
最大値	139.7	148.1	38.3	14.2	22.5

第41表　各成長段階における後臼歯平均サイズ

	M1M				M1L				M2M				M2L			
	計測個体	♂	♀	全体	計測個体	♂	♀	全体	計測個数	♂	♀	全体	計測個数	♂	♀	全体
Ⅰ-1																
Ⅰ-2	2〔2〕			7.9	2〔2〕			12.8								
Ⅱ-1	4〔4〕			7.8	4〔4〕			12.4	1〔1〕			7.5	1〔1〕			12.5
Ⅱ-2	2〔1〕	8.2		8.0	2〔1〕	12.0		12.1	2〔1〕	10.2		9.8	2〔1〕	14.1		14.4
Ⅱ-3	2〔1〕		8.4	8.6	2〔1〕		12.1	12.9	4〔1〕	9.8	10.1	10.1	4〔1〕	16.2	14.8	15.6
Ⅲ-1	2	7.9		7.9	2	12.5		12.5	3	10.0	9.7	9.9	3	15.4	16.0	15.6
Ⅲ-2									1		9.7	9.7	1		14.7	14.7
Ⅲ-3	3	8.1	8.0	8.1	3	11.9	12.2	12.0	5	10.0	10.3	10.0	5	15.1	15.4	15.1
Ⅲ-4	2〔1〕	8.5		8.3	2〔1〕	11.6		11.6	3〔1〕	10.3		10.3	3〔1〕	15.6		15.5
Ⅲ-5	〔1〕			8.1	〔1〕			11.5	〔1〕			9.9	〔1〕			14.5
Ⅳ	4〔1〕	8.0		7.8	4〔1〕		11.3	11.1	4〔1〕		10.1	9.9	4〔1〕		14.3	14.2
Ⅴ-1	4	8.1	7.8	7.9	4	11.6	10.6	10.9	4〔1〕	10.2	9.6	9.7	4〔1〕	15.4	14.1	14.5
Ⅴ-2	5	8.4	8.1	8.2	6	10.4	10.9	10.8	9〔1〕	10.5	10.2	10.3	9〔1〕	15.4	15.1	15.1
Ⅴ-3	2	7.9	7.3	7.6	2	10.4	9.9	10.2	4〔1〕	10.2	9.5	9.8	4〔1〕	14.8	14.5	14.1
Ⅴ-4	2	7.7	8.0	7.9	2	10.5	10.3	10.4	4	10.0	9.7	9.9	4	14.5	15.1	14.8
Ⅴ-5	1		8.2	8.2	1		10.9	10.9	2〔1〕		9.8	10.0	2〔1〕		15.0	14.3
Ⅴ-6																
Ⅴ-7									1	10.0		10.0	1	14.6		14.6

	M3F				M3M				M3L			
	計測個数	♂	♀	全体	計測個数	♂	♀	全体	計測個数	♂	♀	全体
Ⅰ-1												
Ⅰ-2												
Ⅱ-1												
Ⅱ-2												
Ⅱ-3												
Ⅲ-1	3	11.4	11.5	11.4	3	10.1	9.9	10.0	3	13.4	13.8	13.5
Ⅲ-2	1		11.0	11.0	1		9.8	9.8	1		17.6	17.6
Ⅲ-3	5	11.7	11.9	11.8	5	11.0	11.0	11.0	5	20.8	22.0	21.0
Ⅲ-4	3〔1〕	12.4		12.2	3〔1〕	11.9		11.5	3〔1〕	22.1		21.0
Ⅲ-5	〔1〕			11.2	〔1〕			10.8	〔1〕			20.7
Ⅳ	4〔1〕		12.5	11.9	4〔1〕		11.6	11.2	3〔1〕		22.6	22.0
Ⅴ-1	4	12.2	10.9	11.2	4	10.9	10.4	10.5	4	22.9	20.5	21.1
Ⅴ-2	11〔1〕	12.3	11.4	11.7	11〔1〕	11.4	10.8	11.0	10〔1〕	24.5	22.5	23.2
Ⅴ-3	5〔2〕	11.8	10.9	11.2	5〔2〕	11.1	10.3	10.7	5〔2〕	24.1	22.4	22.6
Ⅴ-4	4	11.6	11.1	11.3	4	11.0	10.8	10.9	4	23.9	24.3	24.1
Ⅴ-5	4〔2〕		11.6	11.4	4〔2〕		11.1	10.6	3〔1〕		24.4	23.9
Ⅴ-6	1		11.3	11.3	1		11.2	11.2	1		26.0	26.0
Ⅴ-7	2	12.1	11.7	11.9	2	11.4	10.8	11.1	2	22.6	23.2	22.9

〔　〕内は雌雄判別不可の点数を表している。

第42表　下顎骨計測値（野国貝塚例）

	計測部位	♂		♀	
No.		貝塚出土	現生	貝塚出土	現生
1	臼歯列長	73.7 ± 3.7（23）*	85.1 ± 9.7（64）	73.5 ± 2.7（20）*	81.2 ± 3.3（29）
2	後臼歯列長	48.6 ± 2.4（43）*	56.0 ± 6.7（55）	47.1 ± 1.9（79）*	53.7 ± 2.5（27）
3	前臼歯列長	26.6 ± 1.5（21）*	29.2 ± 3.0（55）	26.5 ± 1.2（19）*	29.0 ± 1.4（28）
4	M^3 後端下顎高	31.7 ± 1.6（27）*	38.0 ± 3.7（69）	30.0 ± 2.0（42）*	35.0 ± 2.1（30）
5	M^1 前端下顎高	30.7 ± 2.7（28）*	34.3 ± 3.5（52）	26.1 ± 2.0（63）*	29.0 ± 2.0（30）
6	P_2 前端下顎高	33.3 ± 2.0（10）	33.8 ± 2.7（65）	27.4 ± 1.9（30）**	28.5 ± 1.6（30）
7	M_3 長	23.7 ± 1.8（47）*	27.2 ± 2.0（40）	22.4 ± 1.7（81）*	26.2 ± 1.6（42）
8	M_3 幅	11.3 ± 0.6（47）*	12.7 ± 0.7（40）	10.9 ± 0.5（81）*	12.2 ± 0.7（42）
9	M_2 長	15.0 ± 0.8（44）	15.9 ± 0.9（40）	14.6 ± 0.7（82）*	16.0 ± 0.9（42）
10	M_2 幅	10.1 ± 0.6（44）*	10.9 ± 0.6（40）	9.8 ± 0.5（82）*	10.7 ± 0.5（42）
11	M_1 長	11.5 ± 0.7（33）**	12.0 ± 0.9（24）	11.2 ± 0.6（69）*	12.0 ± 0.7（29）
12	M_1 幅	8.1 ± 0.3（33）*	8.4 ± 0.4（24）	8.0 ± 0.3（69）*	8.4 ± 0.3（29）
13	P_1 出現率	11.4％（4／35）	48.9％（44／90）	11.6％（5／43）	36.7％（18／49）

注）M1 ～3 ：第1～3後臼歯，P1 ～2 ：第1・2前臼歯，＊P＜0.05，各数値はM ± S.D.，カッコ内は例数現生種は沖縄島国頭村産リュウキュウイノシシ

『野国ー野国貝塚B地点発掘調査報告』（1984），P183より

第43表　魚骨出土一覧

科種	部位	右/左	出土地		個数
ウツボ科	歯骨	左	Ⅸ層	A	1
種不明	背鰭骨	―	Ⅸ層	D	1
				ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1
	脊椎骨	―	Ⅸ層	B	1

第45表　トリ類出土一覧

種類	部位	右/左	残存部位	出土地		個数
オオミズナギドリ	上腕骨	左	近位端～遠位部	Ⅸ層	B	1
カモ類	尺骨	右	近位部～遠位部	Ⅸ層	E	1
ツル科	頚推			Ⅸ層	E	1
	指頚	不明	完存	Ⅸ層	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1
ナベヅル	脛骨	右	骨体～遠位端	Ⅸ層	E	1
		左	遠位端	Ⅸ層	E	1
	中足骨	左	近位端～骨体	Ⅸ層	E	1
			遠位端	Ⅸ層	E	1
シギ科	脛骨	右	近位部～遠位部	XIII層	A	1
サギ類	尺骨	左	近位部	Ⅸ層	D	1
カラス類	烏口骨	左	完存	Ⅸ層	D	1
		右	近位部～骨体	Ⅸ層	D	1
	足根中足骨	右	完存	Ⅸ層	A	1

第46表　ケナガネズミ出土一覧

部位	右/左	残存部位	出土地		個数
大腿骨	左	骨体	Ⅸ層	E	1
		近位骨端～ 位骨端はずれ	Ⅸ層	D	1

第47表　シカ類出土一覧

部位	出土地		個数
角	ⅩⅢ層	E	1
	ⅩⅡa層	E	1

第48表　種不明出土一覧

部位		出土地		個数
尾骨		Ⅸ層	D	1
不明	破片	Ⅸ層	B	1

第44表　ウミガメ類出土一覧

種類	部位	右/左	出土地		個数
アカウミガメ	上腕骨	右	Ⅸ層	A	1
アオウミガメ	側後頭骨	右	Ⅸ層	D	1
			ⅩⅡ層	E	1
	烏口肩甲骨	右	Ⅸ層	E	2
		左	Ⅸ層	E	1
	上腕骨	右	Ⅸ層	A	1
		左	Ⅸ層	D	1
	尺骨	右	Ⅸ層	E	1
				A	1
		左	Ⅸ層	E	1
	寛骨(腸骨)	不明	Ⅸ層	D	1
	寛骨(坐骨)	右	Ⅸ層	E	1
	寛骨	左	Ⅸ層	B	1
		不明	Ⅸ層	E	1
	大腿骨	右	Ⅸ層	E	1
	脛骨	右	Ⅸ層	E	1
	肋骨板		Ⅸ層	E	1
	肋骨板(第1)		ⅩⅡ層	E	1
ウミガメ類	寛骨(恥骨)	右	Ⅸ層	E	1
	指骨		Ⅸ層	E	2
				D	2
	腓骨		Ⅸ層	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1
				E	{1}
	椎骨		Ⅸ層	D	1
	椎骨板		Ⅸ層	D	1
				E	1
			ⅩⅡ層	A	1
	肋骨板		Ⅸ層	A	2
				B	4
				D	4
				E	7
			Ⅸ層不明	A	1
				ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1
			ⅩⅣ層	A	1
	肋骨板(第4)		Ⅸ層	A	1
			ⅩⅡ層	E	1
	縁骨板		Ⅸ層	E	2
				D	1
				ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1
	臀骨板		Ⅸ層	E	1
	剣状突起		Ⅸ層	D	1
			不明	E	1
	不明		Ⅸ層	A	(4)
				B	(6)
				D	(1)
				E	(4)
			Ⅸ層	A	(1)
				D	(3)
				E	(3)
			Ⅸ層	A	(1)
				B	(1)
				D	(1)
				E	(3)
			不明	E	(1)
			不明		(1)

注 ( ):破片、{ }:幼

第49表　リュウキュウイノシシ歯出土一覧

部位・右/左・残存部位			出土地		個数
上顎骨	右左	$CP^{2,3,4}M^{1,2,3}$ $I^1CP^{2,3,4}M^{1,2,3}$	Ⅸ層	E	1
		$P^{2,3,4}M^{1,2,3}$ $P^{2,3,4}M^{1,2,3}$	Ⅸ層	E	3
		$P^{2,3,4}M^{1,2}$ $P^{2,3,4}M^{1,2,3}$	Ⅸ層不明	C	1
		$P^{3,4}M^{1,2,3}$ $P^{2,3,4}M^{1,2,3}$	Ⅸ層	E	1
		$Cdm^{2,3,4}M^{1,2,f3_J}$ $dm^{3,4}M^{1,2,f3_J}$	Ⅸ層	D	1
	右	I^1	Ⅷ層	D	1
			Ⅸ層	A	1
				B	1
				D	2
				E	2
		C	Ⅸ層	E	♂1
			層序・ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		1
		dm^4	Ⅸ層	D	1
		$dm^{2,3,4}M^1$	Ⅸ層	E	1
		$P^{2,3}$	Ⅸ層	D	1
		$P^3M^{1,2,3}$	Ⅸ層	E	1
		$P^{3,4}M^1$	Ⅸ層	E	1
		$P^{3,4}M^{1,2,3}$	Ⅸ層	E	1
		P^4	ⅩⅣ層	A	1
		$P^4M^{1,2}$	Ⅸ層	D	1
				E	2
		$M^{1,2}$	Ⅸ層	E	1
				B	2
		$M^{1,2,3}$	Ⅸ層	D	1
		M^2	Ⅸ層	E	1
		$M^{2,3}$	Ⅸ層	C	1
				D	2
				E	2
		M^3	Ⅸ層	E	2
				D	1
			Ⅸ層不明	C	1
	左	I^1	Ⅸ層	B	1
				D	3
				E	2
				F	1
		C	Ⅸ層	D	♂1
		dm^4	Ⅸ層	D	1
		$P^{1,2}$	Ⅸ層	D	1
		$P^{1,2,3,4}M^{1,2,3}$	Ⅸ層	E	1
		P^2	Ⅸ層	E	1
		$P^{2,3,4}M^{1,2,3}$	Ⅸ層	E	2
		P^{f3_J}	Ⅸ層	E	1
		$P^{3,4}$	Ⅸ層	E	1
		$P^{3,4}M^{1,2,3}$	Ⅸ層	D	1
			Ⅸ層不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1
		P^{f4_J}	Ⅸ層	C	1
		P^4	Ⅸ層	C	1
		P^4M^1	Ⅸ層	D	1
				E	1
		$P^4M^{1,2}$	Ⅸ層	D	1
				E	2
		M^1	Ⅸ層	D	1
		$M^{1,2}$	Ⅸ層	D	1
		M^2	Ⅸ層	B	1
			ⅩⅢb-2層	A	1
		$M^{2,3}$	Ⅸ層	D	3
		M^3	Ⅸ層	D	2
				E	1
			Ⅸ層	E	1
			ⅩⅢa層	E	1
下顎骨	右左	$I_{1,2}$ I_1	Ⅸ層	C	1
		$I_{1,2}$ I_1C	Ⅸ層	E	♂1
		$I_{1,2}dm_{3,4}M_{1,2}$ I_1	Ⅸ層	D	♂1
		$I_{1,2}CP_{2,3}M_{1,2,3}$ I_1	Ⅸ層	D	♀1
		$I_{1,2}CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$ $I_{1,2}CP_{\langle 2\rangle,4}M_{1,2,3}$	ⅩⅢb-2層	A	♀1

部位・右/左・残存部位			出土地		個数
下顎骨	右左	$I_{1,2}CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$ $I_{1,2}CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	D	♂1
		$I_{1,2}CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$ $CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	D	♂1
		$I_{1,2}CM_{gf3_J}$ I_1	Ⅸ層	E	♂1
		$I_{1,2}P_{2,3}M_{1,2,3}$ $CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	E	♂1
		C C	Ⅸ層	E	♀1
		$CP_{2,3}$ $CP_4M_{1,2,3}$	Ⅸ層	E	♀1
		$CP_{2,3,4}M_{1,2}$ $CP_{2,3,4}M_{2,3}$	Ⅸ層	E	♀1
		$CP_{\langle 2,3\rangle 4}M_{1,2,3}$ $CP_{3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	E	♀1
		$CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$ $CP_{3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	D	♂1
		$CP_4M_{2,3}$ $M_{2,3}$	Ⅸ層	B	♀1
		$P_{2,3,4}M_{1,2,3}$ $P_{3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	E	1
		$P_{3,4}M_{1,2,3}$ $P_{2,3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	E	1
	右	i_2	Ⅸ層	B	1
		$i_2dm_{2,3,4}M_{1,f2_J}$	Ⅸ層	E	1
		I_1	Ⅸ層	B	4
				C	2
				D	1
				E	1
		I_2	Ⅸ層	A	3
				C	2
				D	2
		C	Ⅸ層	A	♂4♀1
				B	♂3♀1
				C	♂1
				D	♂2
				E	♂3♀2、1
			Ⅸ層不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	♂1♀1
		$CP_{2,3,4}$	Ⅸ層	B	♂1
		$CP_{2,3,4}M_1$	Ⅸ層	D	♂2
				E	♀1
		$CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	E	♂1
		CP_3M_3	Ⅸ層	D	♂1
		$CP_4M_{1,2,3}$	Ⅸ層	C	♀1
		$CP_4M_{gf3_J}$	Ⅸ層	D	♀1
		$CM_{1,2}$	Ⅸ層	E	♀1
		$dm_{2,3}M_{1,2}$	Ⅸ層	B	1
		$dm_{2,3,4}M_1$	Ⅸ層	B	1
		$dm_{2,3,4}M_{1,\langle 2\rangle}$	Ⅸ層	A	1
				D	1
		$dm_{2,4}M_{1,\langle 2\rangle}$	Ⅸ層	D	1
		$dm_{3,4}$	Ⅸ層不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1
		$dm_{3,4}M_1$	Ⅸ層	B	1
		$dm_{3,4}M_{1,\langle 2\rangle}$	Ⅸ層	D	1
		$dm_4M_{1,\langle 2\rangle}$	Ⅸ層	B	1
		$P_{2,3}$	Ⅸ層	E	2
		$P_{2,3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	A	♀1
			ⅩⅣ層	A	♀1
		P_3	Ⅸ層	E	2
		$P_{3,4}$	Ⅸ層	E	1
		$P_{3,4}M_{1,2}$	Ⅸ層不明	D	1
		$P_{3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	B	♂1
				D	♀2
			Ⅸ層不明	D	♀1
		$P_{3,4}M_{2,3}$	Ⅸ層	B	♀1
		P_4	Ⅸ層不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1
			層序・ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		1
		$P_4M_{1,2}$	Ⅸ層不明	E	1
		$P_4M_{1,2,3}$	Ⅸ層	C	♀1
				D	♀1
		$P_4M_{gf3_J}$	Ⅸ層	B	♂1
		M_1	Ⅸ層	B	1
				E	3
		M_{1f2_J}	Ⅸ層	C	1
		$M_{1,2}$	Ⅸ層	B	1
				D	2

部位・右/左・残存部位			出土地		個数
下顎骨	右	$M_{1,2f3_J}$	Ⅸ層	C	1
		$M_{1,2,3}$	Ⅸ層	B	♂1
				E	♂1
		M_2	Ⅸ層	B	2
				E	1
		$M_{2,3}$	Ⅸ層	B	♂1♀1
				D	♂2
				E	♀1、1
		M_3	Ⅸ層	C	1
				B	♀1
				E	♂1
			Ⅸ層不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	♀1
	左	i_2	Ⅸ層	B	1
		I_1	Ⅸ層	A	4
				B	2
				D	1
				E	2
			Ⅸ層不明	B	1
		I_2	Ⅸ層	A	3
				B	1
				D	2
				E	4
			Ⅸ層不明	D	1
			ⅩⅢb-2層	A	1
			層序・ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		1
		$I_{1,2}$	Ⅸ層	D	1
		$dm_{2,3,4}M_1$	Ⅸ層	D	1
		$dm_{2,3,4}M_{1,2}$	Ⅸ層	D	1
		$dm_4M_{\langle 1\rangle}$	Ⅸ層	E	1
		C	Ⅷ層	A	1
			Ⅸ層	A	2
				B	♀1、2
				C	2
				D	♀1、5
				E	♀1、6
			Ⅸ層不明	B	♀1
			層序・ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		2
		$CP_{2,3,4}M_{1,2}$	Ⅸ層不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	♂1
		$CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	A	♀1
				D	♀1
		$CP_{3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	C	♂1
				D	♀1
		$CP_4M_{1,2,3}$	Ⅸ層	D	♀1
				A	♀1
		$P_{2,3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	D	♂1
		P_3	Ⅸ層	B	1
		P_3M_3	Ⅸ層	D	1
		$P_{3,4}$	Ⅸ層	E	1
		$P_{3,4}M_1$	Ⅸ層	A	1
		$P_{3,4}M_{1,2}$	Ⅸ層	B	♀1
		$P_{3,4}M_{1,2,3}$	Ⅸ層	B	1
				D	♂1♀1
				E	♂1♀1、1
		P_4	Ⅸ層	C	1
				E	1
		$P_4M_{1,2}$	Ⅸ層	C	1
		$P_4M_{1,2,3}$	Ⅸ層	D	1
				E	♂1♀1
			Ⅸ層不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	♀1
		$P_4M_{2,3}$	Ⅸ層	E	♂1
			ⅩⅢc層	A	♂1
		M_1	Ⅸ層	D	1
		$M_{1,2,3}$	Ⅸ層	A	♂2
				D	♀1
		Mr_{2_J}	層序・ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		1
		M_2	Ⅸ層	B	1
				E	1
		$M_{2,3}$	Ⅸ層	A	♂1
				B	♂1
				E	♂3、1
			Ⅸ層不明	ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明	1
		M_3	Ⅸ層	E	2
			Ⅸ層不明	A	♀1
下顎骨？	破片		Ⅸ層	E	(1)
			層序・ｸﾞﾘｯﾄﾞ不明		(1)

注　「　」：未萌出、〈　〉：半欠、(　)：破片、♀：メス、♂：オス

第50表　リュウキュウイノシシ出土量 a

部位		Ⅸ層 A 右	Ⅸ層 A 左	Ⅸ層 A 不明	Ⅸ層 B 左右	Ⅸ層 B 右	Ⅸ層 B 左	Ⅸ層 B 不明	Ⅸ層 C 右	Ⅸ層 C 左	Ⅸ層 C 不明	Ⅸ層 D 左右	Ⅸ層 D 右	Ⅸ層 D 左	Ⅸ層 D 不明	Ⅸ層 E 左右	Ⅸ層 E 右	Ⅸ層 E 左	Ⅸ層 E 不明	Ⅸ層 F 右	Ⅸ層 F 左	Ⅸ層 F 不明	Ⅸ層 グリッド不明 右	Ⅸ層 グリッド不明 左	Ⅸ層 グリッド不明 不明	Ⅸb－2層 A 右	Ⅸb－2層 A 左	Ⅸb－2層 A 不明
頭骨	頭頂骨					2							1	3		1	2	3										
	頭頂骨～前頭骨											4	1	1		4												
	頭頂骨～側頭骨																											
	前頭骨～側頭骨												1				1											
	前頭骨	1	1		1	2	3			1		1	3	7		4	5	14										
	側頭骨					1											2											
	側頭窩												1				1											
	鼓室部					1											1											
	側頭骨頬骨突起						2		1				6	5			8	14										
	側頭骨頬骨												2	1			5	2										
	後頭骨頸静脈突起									1							2											
	後頭骨底部																		1									
	後頭顆	1					1		1			1	2	1			3	2										
	鼻骨														1				2									
上顎骨	上顎骨					1	2（1）		1	（2）				（1）		（1）		（4）										
	破片			1				7			2				6				22			1						
下顎骨	下顎骨		1			4	1					1	5	4			4	5										
	関節突起		1										1	2			2											
	筋突起																	1										
椎体	環椎			2				10			5				18				15			1						
	軸椎							3			3				4				10									1
	頸椎			1				5			2				4				7									
	胸椎			8				13			7				25				16			1						
	腰椎			5				24			12				24				18									
	腰椎棘突起														2				1									
	椎体			1				6			4				16				25						1			
	椎窩			1																								
	仙骨			2				2			5				4				10									
	棘突起			2				3			5				20				22						1			
尾骨				1				1											2									
肋骨	肋骨	2	1			2	5		1	3			9	6			19	21			1							
	破片			3				7			5				12				27									
肩甲骨	近位端～遠位端																	1										
	近位部～遠位部		1																									
	近位部～遠位端													1				1										
	骨体～遠位端					2							4				1											
	骨体																											
	遠位部						2			1			1	1			3	2										
	遠位端	2	1			3	8			2			1	12			14	16										
	破片						4						2	5			7	1										
上腕骨	完存	4				1	1		1	2			1	2			3	4										
	大結節																	1										
	骨頭のみ												1				1											
	両端はずれ									1			1				1	1										
	近位骨端のみ	1											1	1			2	3										
	近位端	1	3						1	3				3			1	4										
	近位骨端はずれ						2							1			1	1										
	近位骨端はずれ～遠位部													1			1	3										
	近位骨端はずれ～遠位端	4	1			3	5			3			7	3			7	2										
	近位部													1			1	2										
	近位部～遠位部	3				4	5						4	6			6	3										
	近位部～遠位骨端はずれ												1				2											
	近位部～遠位端	2	1			4	3		1	1			6	6			10	8		1								
	骨体	1											2		1													
	遠位部	1					1		2				3	2			3	5										
	遠位骨端はずれ												1				1											
	遠位端	2				1	1		2				2	1			1											
	遠位骨端のみ		1			1	1			1			2	1				2										
橈骨	完存	2	3			1				1			7	3			6	1										
	両端はずれ					1	3						1	3			1	3										
	近位端																1	1										
	近位端～遠位部	2	3			1				3			1	2			2	5										
	近位端～遠位骨端はずれ	2	2			5	5		3	2			8	2			6	4										
	近位骨端はずれ												2				1											
	近位骨端はずれ～遠位部												1					1										
	近位骨端はずれ～遠位骨端はずれ												1															
	近位部					1																						
	近位部～遠位部	2				1	1						1	1			2	2										
	近位部～遠位骨端はずれ	1				1											1											
	近位部～遠位端								1					1														
	骨体							2										1										
	遠位骨端はずれ																1											
	遠位端													1														
	遠位骨端のみ													1				1										
橈骨・近位端～尺骨・骨体														1														
橈骨・近位端～遠位部～尺骨・近位端～遠位骨端はずれ						1																						
橈骨・遠位部～尺骨・骨体													1															

部位		Ⅸ層不明 A 右	Ⅸ層不明 A 左	Ⅸ層不明 A 不明	Ⅸ層不明 B 右	Ⅸ層不明 B 左	Ⅸ層不明 B 不明	Ⅸ層不明 C 左右	Ⅸ層不明 C 右	Ⅸ層不明 C 左	Ⅸ層不明 C 不明	Ⅸ層不明 D 左右	Ⅸ層不明 D 右	Ⅸ層不明 D 左	Ⅸ層不明 D 不明	Ⅸ層不明 E 右	Ⅸ層不明 E 左	Ⅸ層不明 E 不明	Ⅸ層不明 F 右	Ⅸ層不明 F 左	Ⅸ層不明 F 不明	Ⅸ層不明 グリッド不明 右	Ⅸ層不明 グリッド不明 左	Ⅸ層不明 グリッド不明 不明	ⅩⅡ層 A 右	ⅩⅡ層 A 左	ⅩⅡ層 A 不明	ⅩⅡ層 E 右	ⅩⅡ層 E 左	ⅩⅡ層 E 不明
頭骨	頭頂骨																1					1								
	頭頂骨～前頭骨							1						1																
	頭頂骨～側頭骨																													
	前頭骨～側頭骨																													
	前頭骨									1		1				1						1	1							
	側頭骨								1																					
	側頭窩																					1								
	鼓室部																													
	側頭骨頬骨突起									1												1	1							
	側頭骨頬骨									1																				
	後頭骨頸静脈突起																						1							
	後頭骨底部																													
	後頭顆																													
	鼻骨																													
上顎骨	上顎骨																（1）					（1）								
	破片										1				2			1						1						
下顎骨	下顎骨																1					1								
	関節突起																													
	筋突起																													
椎体	環椎			2											1									1			1			
	軸椎																													
	頸椎																							2						
	胸椎			1			1								1									2						
	腰椎																							1						
	腰椎棘突起																													
	椎体			1														1						1						
	椎窩																													
	仙骨																										1			
	棘突起			1																				3						
尾骨																														
肋骨	肋骨																					2								
	破片														3									4						
肩甲骨	近位端～遠位端																													
	近位部～遠位部																													
	近位部～遠位端																													
	骨体～遠位端												1																	
	骨体																												1	
	遠位部																													
	遠位端		1							2																				
	破片													1		1													1	
上腕骨	完存																													
	大結節																													
	骨頭のみ																													
	両端はずれ																					1								
	近位骨端のみ																													
	近位端				1																		1							
	近位骨端はずれ													1																
	近位骨端はずれ～遠位部																													
	近位骨端はずれ～遠位端																													
	近位部																													
	近位部～遠位部															3														
	近位部～遠位骨端はずれ																													
	近位部～遠位端																					1	1							
	骨体													1																
	遠位部		1																			1								
	遠位骨端はずれ																					1								
	遠位端																					1								
	遠位骨端のみ																													
橈骨	完存																													
	両端はずれ	1																				1								
	近位端																					2								
	近位端～遠位部																						1							
	近位端～遠位骨端はずれ	1																								1				
	近位骨端はずれ																													
	近位骨端はずれ～遠位部																													
	近位骨端はずれ～遠位骨端はずれ																													
	近位部																													
	近位部～遠位部																					1								
	近位部～遠位骨端はずれ												1																	
	近位部～遠位端																													
	骨体														1															
	遠位骨端はずれ																													
	遠位端																													
	遠位骨端のみ																													
橈骨・近位端～尺骨・骨体																							1							
橈骨・近位端～遠位部～尺骨・近位端～遠位骨端はずれ																														
橈骨・遠位部～尺骨・骨体																														

部位		ⅩⅢ層 A 右	ⅩⅢ層 A 左	ⅩⅢ層 A 不明	ⅩⅢ層 A 右	ⅩⅢ層 A 左	ⅩⅢ層 A 不明	ⅩⅢ層 E 右	ⅩⅢ層 E 左	ⅩⅢ層 E 不明	ⅩⅢ層 E 右	ⅩⅢ層 E 左	ⅩⅢ層 E 不明	ⅩⅢ層 A 右	ⅩⅢ層 A 左	ⅩⅢ層 A 不明	ⅩⅢ層 D 右	ⅩⅢ層 D 左	ⅩⅢ層 D 不明	ⅩⅣ層 A 右	ⅩⅣ層 A 左	ⅩⅣ層 A 不明	ⅩⅣ層 B 左右	ⅩⅣ層 B 右	ⅩⅣ層 B 左	ⅩⅣ層 B 不明	ⅩⅣ層 C 右	ⅩⅣ層 C 左	ⅩⅣ層 C 不明	ⅩⅣ層 E 右	ⅩⅣ層 E 左	ⅩⅣ層 E 不明	ⅩⅣ層 グリッド不明 右	ⅩⅣ層 グリッド不明 左	ⅩⅣ層 グリッド不明 不明
頭骨	頭頂骨																																		
	頭頂骨～前頭骨																																		
	頭頂骨～側頭骨																																		
	前頭骨～側頭骨																																		
	前頭骨																						1												
	側頭骨																																		
	側頭窩																																		
	鼓室部																																		
	側頭骨頬骨突起																																		
	側頭骨頬骨																																		
	後頭骨頸静脈突起														1																				
	後頭骨底部																																		
	後頭顆																1																		
	鼻骨																																		
上顎骨	上顎骨																																		
	破片																																		
下顎骨	下顎骨											1																							
	関節突起																																		
	筋突起																																		
椎体	環椎																																		
	軸椎																																		
	頸椎																																		
	胸椎																																		
	腰椎																					2													
	腰椎棘突起																																		
	椎体															1										1									
	椎窩																																		
	仙骨																																		
	棘突起															2																			
尾骨																1																			
肋骨	肋骨					1								1						1															
	破片									1						1										1									
肩甲骨	近位端～遠位端													1																					
	近位部～遠位部																																		
	近位部～遠位端																				1														
	骨体～遠位端							1						1	1																				
	骨体																																		
	遠位部																																		
	遠位端																																		
	破片																																		
上腕骨	完存																								1			1							
	大結節																																		
	骨頭のみ																																		
	両端はずれ																			1															
	近位骨端のみ																																		
	近位端																																		
	近位骨端はずれ	1																																	
	近位骨端はずれ～遠位部																																		
	近位骨端はずれ～遠位端																																		
	近位部																																		
	近位部～遠位部																								1										
	近位部～遠位骨端はずれ																																		
	近位部～遠位端										1				1						1						1	1							
	骨体																																		
	遠位部																																		
	遠位骨端はずれ																																		
	遠位端																																		
	遠位骨端のみ																																		
橈骨	完存																																		
	両端はずれ																																		
	近位端																																		
	近位端～遠位部																																		
	近位端～遠位骨端はずれ													1							2							1							
	近位骨端はずれ																																		
	近位骨端はずれ～遠位部																																		
	近位骨端はずれ～遠位骨端はずれ																																		
	近位部																																		
	近位部～遠位部																																		
	近位部～遠位骨端はずれ																																		
	近位部～遠位端																																		
	骨体																																		
	遠位骨端はずれ																				1														
	遠位端																																		
	遠位骨端のみ																																		
橈骨・近位端～尺骨・骨体																																			
橈骨・近位端～遠位部～尺骨・近位端～遠位骨端はずれ																																			
橈骨・遠位部～尺骨・骨体																																			

部位		ⅩⅤ層 B 右	ⅩⅤ層 B 左	ⅩⅤ層 B 不明	ⅩⅤ層 C 右	ⅩⅤ層 C 左	ⅩⅤ層 C 不明	ⅩⅤ層 D 右	ⅩⅤ層 D 左	ⅩⅤ層 D 不明	層序不明 A 右	層序不明 A 左	層序不明 A 不明	層序不明 B 右	層序不明 B 左	層序不明 B 不明	層序不明 E 右	層序不明 E 左	層序不明 E 不明	Ⅸa層－E＋Ⅸa層－D 右	Ⅸa層－E＋Ⅸa層－D 左	Ⅸa層－E＋Ⅸa層－D 不明	Ⅸb層－B＋Ⅸ層不明－グリッド不明 右	Ⅸb層－B＋Ⅸ層不明－グリッド不明 左	Ⅸb層－B＋Ⅸ層不明－グリッド不明 不明	Ⅸa層－D＋Ⅸc層－A 右	Ⅸa層－D＋Ⅸc層－A 左	Ⅸa層－D＋Ⅸc層－A 不明	Ⅸ層不明－E＋Ⅸ層不明－グリッド不明 右	Ⅸ層不明－E＋Ⅸ層不明－グリッド不明 左	Ⅸ層不明－E＋Ⅸ層不明－グリッド不明 不明	不明 右	不明 左	不明 不明	合計
頭骨	頭頂骨																																		14
	頭頂骨～前頭骨																																		12
	頭頂骨～側頭骨																																		0
	前頭骨～側頭骨																																		2
	前頭骨																1																		50
	側頭骨																																		4
	側頭窩																																		3
	鼓室部																																		2
	側頭骨頬骨突起																																		39
	側頭骨頬骨																																		11
	後頭骨頸静脈突起																																		5
	後頭骨底部																																		1
	後頭顆																																		13
	鼻骨																																		3
上顎骨	上顎骨																																		15
	破片																																		44
下顎骨	下顎骨																																		28
	関節突起																																		6
	筋突起																															1			2
椎体	環椎																																		56
	軸椎																																	1	22
	頸椎			1																															22
	胸椎																																	1	76
	腰椎																																	1	87
	腰椎棘突起																																	1	4
	椎体			1												1																		2	62
	椎窩																																		1
	仙骨									1																									25
	棘突起			1																														1	61
尾骨																																			5
肋骨	肋骨																																		75
	破片																																	1	65
肩甲骨	近位端～遠位端																																		2
	近位部～遠位部																																		1
	近位部～遠位端																																		3
	骨体～遠位端																																		11
	骨体					1																													2
	遠位部																																		10
	遠位端																																		62
	破片																																2		24
上腕骨	完存																																		21
	大結節																																		1
	骨頭のみ																																		2
	両端はずれ																																		6
	近位骨端のみ																																		8
	近位端																																		18
	近位骨端はずれ																1															1			9
	近位骨端はずれ～遠位部																																		5
	近位骨端はずれ～遠位端																																		35
	近位部																																		4
	近位部～遠位部																																		35
	近位部～遠位骨端はずれ																																		3
	近位部～遠位端																												1						51
	骨体																																		5
	遠位部																																		19
	遠位骨端はずれ																																		3
	遠位端																																		11
	遠位骨端のみ	1																																	10
橈骨	完存	1																																	25
	両端はずれ																																		14
	近位端																																		4
	近位端～遠位部	1																																	21
	近位端～遠位骨端はずれ																				1														46
	近位骨端はずれ																																		3
	近位骨端はずれ～遠位部																																		2
	近位骨端はずれ～遠位骨端はずれ																																		1
	近位部																																		1
	近位部～遠位部																																		11
	近位部～遠位骨端はずれ																																		4
	近位部～遠位端																																		2
	骨体																																		4
	遠位骨端はずれ																																		2
	遠位端																																		1
	遠位骨端のみ																																		2
橈骨・近位端～尺骨・骨体																																			2
橈骨・近位端～遠位部～尺骨・近位端～遠位骨端はずれ																																			1
橈骨・遠位部～尺骨・骨体																																			1

注　（　）：破片、○：キズあり、｛　｝：幼

第50表　リュウキュウイノシシ出土量ｂ

部位	出土地	Ⅸ層																								Ⅸb−2層			Ⅸ層不明																							ⅩⅡ層						ⅩⅢ層																		ⅩⅣ層																ⅩⅤ層									層序不明									Ⅸa層−E＋Ⅸa層−D			Ⅸb層−B＋Ⅸ層不明−グリッド不明			Ⅸa層−D＋Ⅸc層−A			Ⅸ層不明−E＋Ⅸ層不明−グリッド不明			不明			合計
		A			B				C			D				E				F			グリッド不明			A			A			B			C				D				E			F			グリッド不明			A			E			A			A			E			E			A			D			A			B				C			E			グリッド不明			B			C			D			A			B			E																	
		右	左	不明	左右	右	左	不明	右	左	不明	左右	右	左	不明	左右	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	左右	右	左	不明	左右	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	左右	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	
尺骨	完存					1	1																																																																																																																							2
	両端はずれ					1			1								5																																																																																																						7
	近位端								1	1			1	1				1																																1																																										1																																7
	近位端～遠位部	1					1						1					4																														1																				1																																																								9
	近位端～遠位骨端はずれ						1										1																																																																																																								2
	近位骨端はずれ													1			4																																																																																																									5
	近位骨端はずれ～遠位部					2	1		1				2	3			1	5																		1												1																											1																																													1			19
	近位骨端はずれ～遠位骨端はずれ													1																																																																																																														1
	近位部					1	2			1			3	2																																			1																																																																											10
	近位部～遠位部	2					1			2				6	1			6	1																														1																																																																											20
	近位部～遠位骨端はずれ													1			1																																																																																																											2
	骨体						3							1				1																															3																																																																										8
	骨体～遠位部																	2												1																																															1																											1																					5
	遠位部						1			1								1																																																																																																								3
	遠位骨端はずれ												1				2	1																																																				1																																																								5
中手骨	Ⅱ		1			1												1																																																																																																												3
	Ⅲ	2	2			3				2			4	7			7	6												1			1										1																							1					1																																																								38
	Ⅳ	1	1			3			3	1			5	2			5	7						1																				1							1																																																																										31
	Ⅴ	1											1				2																																1																																																																												5
寛骨	完存		1			1			1	1			1	2			1	2																																																										1																																																11
	腸骨部	2	3			4	2		7	1			6	7			15	14																										1					2	1																																																																										1		66
	腸骨部～臼部		1			3	4		2	1			6	2			1	3												1																			1																										1						1																																								27
	臼部	2				4	3		4	1			3	7			5	12																														2																											1															1																															45
	臼部～坐骨						2							3				6																															1																																																																										12
	坐骨	1				3	2		4	3			2	3			7	4			1																																																																																																								30
	恥骨																3	2																																																																								1																																		6
大腿骨	完存	1									2				1				1																																																																																																										5
	骨頭のみ		2														1																																																																																																										
	両端はずれ		2			3	3		3	3			4	1			4	5																																																				1																																												1										30
	近位骨端のみ								1	1				3						1																																																																																																										6
	近位端	2								1				1			2																							1																1																									1																																										9
	近位端～遠位部												1				1																																																																																		1																								3
	近位端～遠位骨端はずれ								1																																																																																																																									1
	近位骨端はずれ		1			1	2		1	3			1	2			7	6																														1																																										1																																26
	近位骨端はずれ～遠位部		1			1			2				7	2			3	1																						1			1					1																			1										1										1																																23
	近位骨端はずれ～遠位骨端はずれ																	1																																																																																																														1
	近位骨端はずれ～遠位端	1				1			1				1	2				1																																																																																																												7
	近位部		1						1				2				6												1																																																																																																11
	近位部～遠位部	1	2			3	2		1	3				6			3	11												1						1										1	1			2						1																			1																																																40
	近位部～遠位骨端はずれ						1						1					2																																																																																																										4
	近位部～遠位端												1				2																															1																																																																											4
	骨体	2					1		1				2	1	1		3	1																																																										1																																													1			14
	遠位部	3	2			2	1		1	3			7	4			5																															2																																																																										30
	遠位骨端はずれ						2		2	4			2	1			2	3													1								1																																																																																			18
	遠位端	1	2			1	1			1			1	5			3	4																						1																												1																																																		1							22
	遠位骨端のみ		2			1	4		2	1			2	5			5	8												1																																																																												1																	32
	破片	1						1						1																																																																																																																					3
膝蓋骨									1	1				2				2																																																																																																												6
脛骨	完存	4						3			1			6	6			2	4			1																					1																																																																																				28
	両端はずれ	1				1	2		4	1			1	2			1	4																														2																					2												1							1																																23
	近位骨端のみ					1	1			1			2	3				2																		1																																																1																																											12
	近位端						1			2			1	2			2	4																															1																																																																											13
	近位骨端はずれ	1				1				3			2	2			2	4						1																										1																																																																										17
	近位骨端はずれ～近位部													1																																																																																																																				1
	近位骨端はずれ～遠位部		2			1								2			2																																																												1																																																8
	近位骨端はずれ～遠位端	1				4			1	4			2				1	3																														1																					1																																																					18
	近位部		1			1	2		3	1			2				1	4（1）																														1	1																										1																																															19
	近位部～遠位部	1	2			5	6		2	2			4	3			4	4						1																		1					2	1																																																																										38
	近位部～遠位骨端はずれ					1			1				2	1			1	1																										1				2																																																																											10
	近位部～遠位端	1				2			1	2			1	2			3	5														1																	1																																										1																																20
	骨体								1	1			1				1	1																																																																																																												5
	遠位部						1			1																		1																																																																																															3
	遠位骨端はずれ						1										1																															1																																																																											3
	遠位端						1			1			4	1			2	5																																																																																																										14
	遠位骨端のみ									1			1																																																																																																																								2
腓骨	骨体							1						1																																																																																																																					2
	破片														1																																																																																																																					1
距骨						1	2		2	1			1				3	2																																1																																																																										13
踵骨		2	2			1	3		4	4			7	5			4	6															1															1																																																																										40
足根骨	中心													1			1																																																																																																															2
	第４																	1																																																																																																														1
中手・中足骨								2			1				1				3																							1																																																																																			1	9
中足骨	Ⅱ								1				2				2																																																																																																														5
	Ⅲ	2				2				3			4	4			8	5	1																				1																																																																																				30
	Ⅳ	2	1			1	4		1	2				5			8	5											1																1		1																																					1																																					33
	Ⅴ					2				1			1				1																																																																																																															5
	不明							1			1				1				2																																																																																																												5
基節骨		1				1	1						3	3			2	5																																1																																																						1																					1		19
中節骨										1						1			1																													1																																																																											4
末節骨																		1																																																																																																														1
合計		74	50	27	1	110	125	88	79	97	52	7	214	219	142	10	300	339	183	3	4	3	0	3	2	0	0	1	4	8	5	4	1	1	1	3	6	1	1	3	9	9	7	7	2	1	2	0	42	24	15	0	1	2	0	3	0	2	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	9	7	5	1	0	0	6	10	2	1	0	3	2	2	6	0	0	1	0	0	1	0	8	1	3	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	1	1	3	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	4	4	9	2401

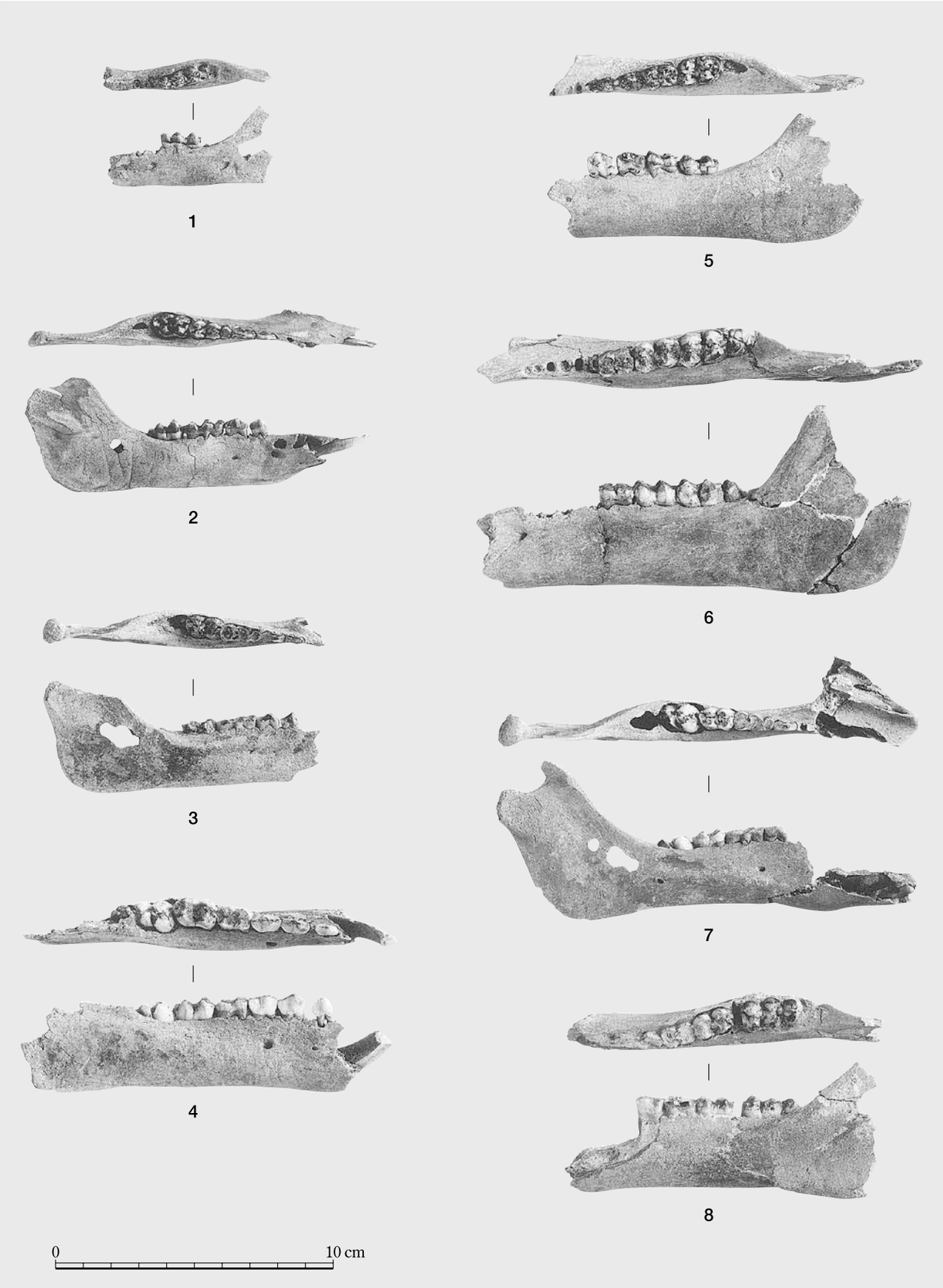
注　（　）：破片、○：キズあり、｛　｝：幼

図版116　動物遺体 1

リュウキュウイノシシ　上顎骨

1. 右　$P^{2,3,4}M^{1,2,3}$
　左　$P^{2,3,4}M^{1,2,3}$

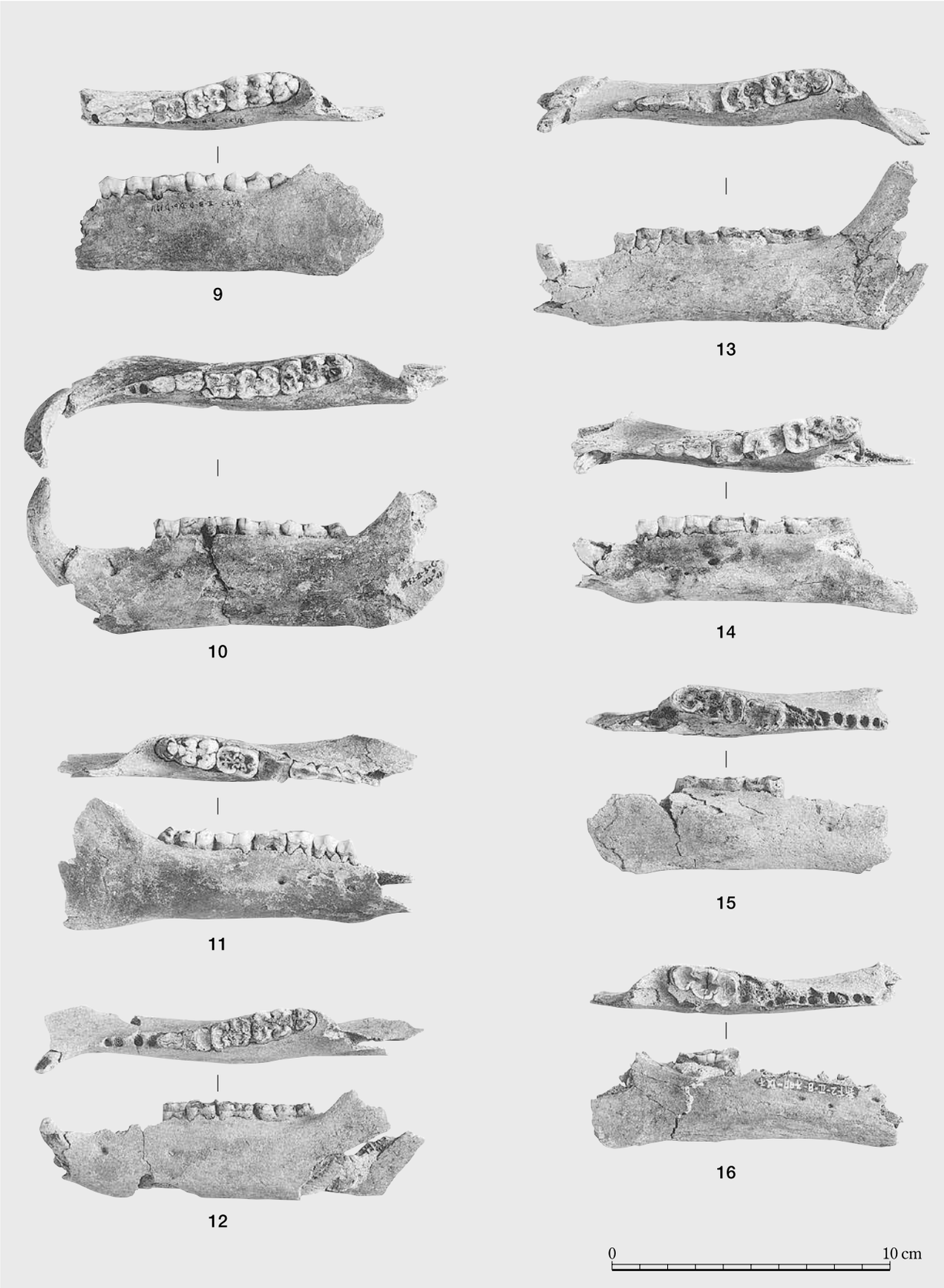
2. 右　$CP^{2,3,4}M^{1,2,3}$
　左　$I^{1}CP^{2,3,4}M^{1,2,3}$



図版117　動物遺体 2

リュウキュウイノシシ　下顎骨

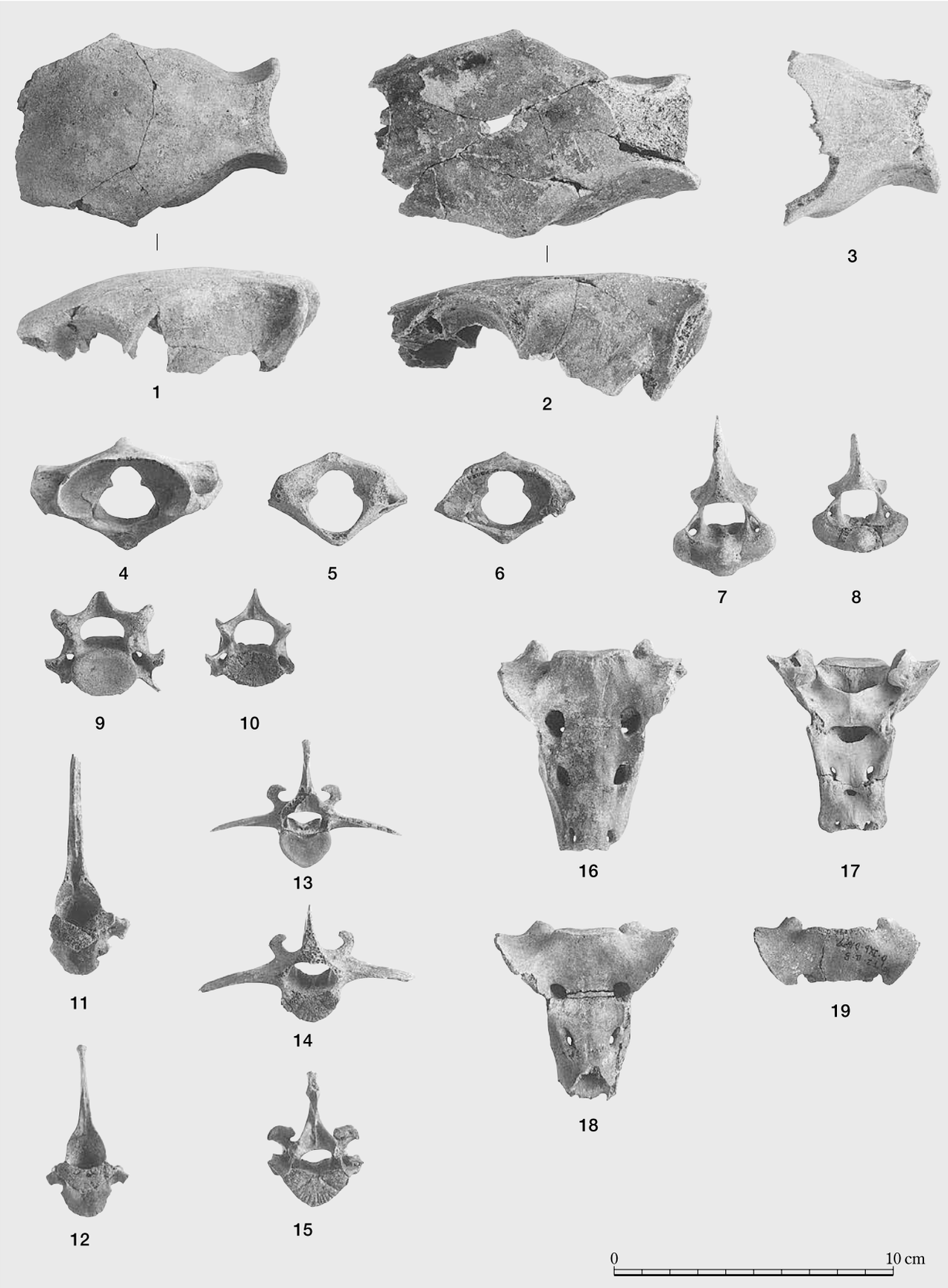
1. 左　$dm_4M_{\langle 1\rangle}$　2. 右　$i_2dm_{2,3,4}M_{1,\langle 2\rangle}$　3. 右　$i_2dm_{2,3,4}M_{1,\langle 2\rangle}$　4. 右　$CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$ ♂　5. 左　$P_{3,4}M_{1,2}$ ♀
6. 左　$M_{1,2,3}$ ♂　7. 右　$I_{1,2}dm_{3,4}M_{1,2}$　左　I_1　4. 左　$P_4M_{1,2,3}$



図版118　動物遺体 3

リュウキュウイノシシ　下顎骨

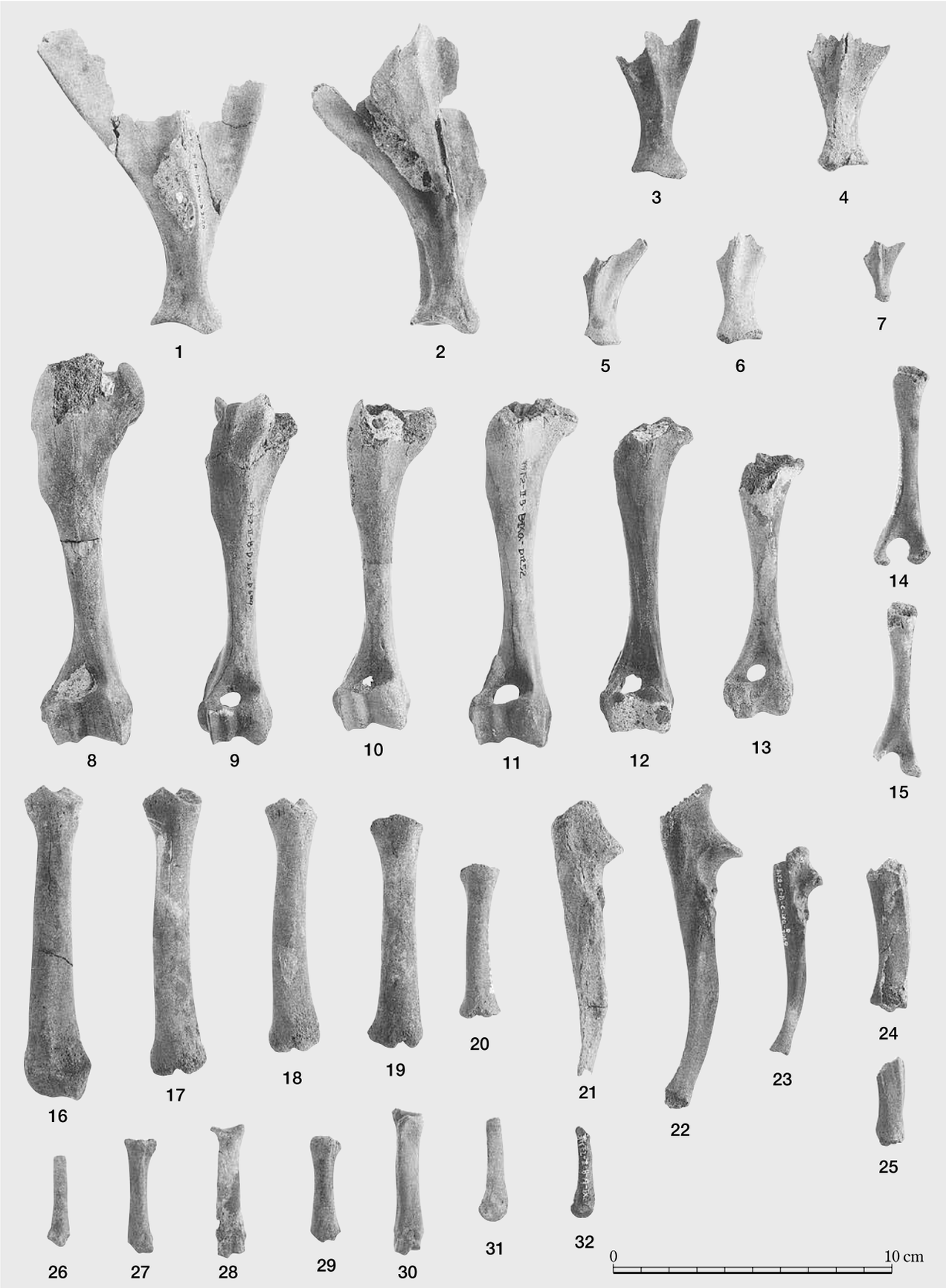
9. 左 $P_{3,4}M_{1,2,3}$ ♀　10. 左 $CP_{3,4}M_{1,2,3}$ ♂　11. 右 $P_{2,3,4}M_{1,2,3}$ ♀　12. 左 $CP_4M_{1,2,3}$ ♀
13. 左 $CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$ ♀　14. 左 $CP_{2,3,4}M_{1,2,3}$ ♀　15. 右 $M_{2,3}$ ♀　16. 右 M_3



図版119　動物遺体 4

リュウキュウイノシシ

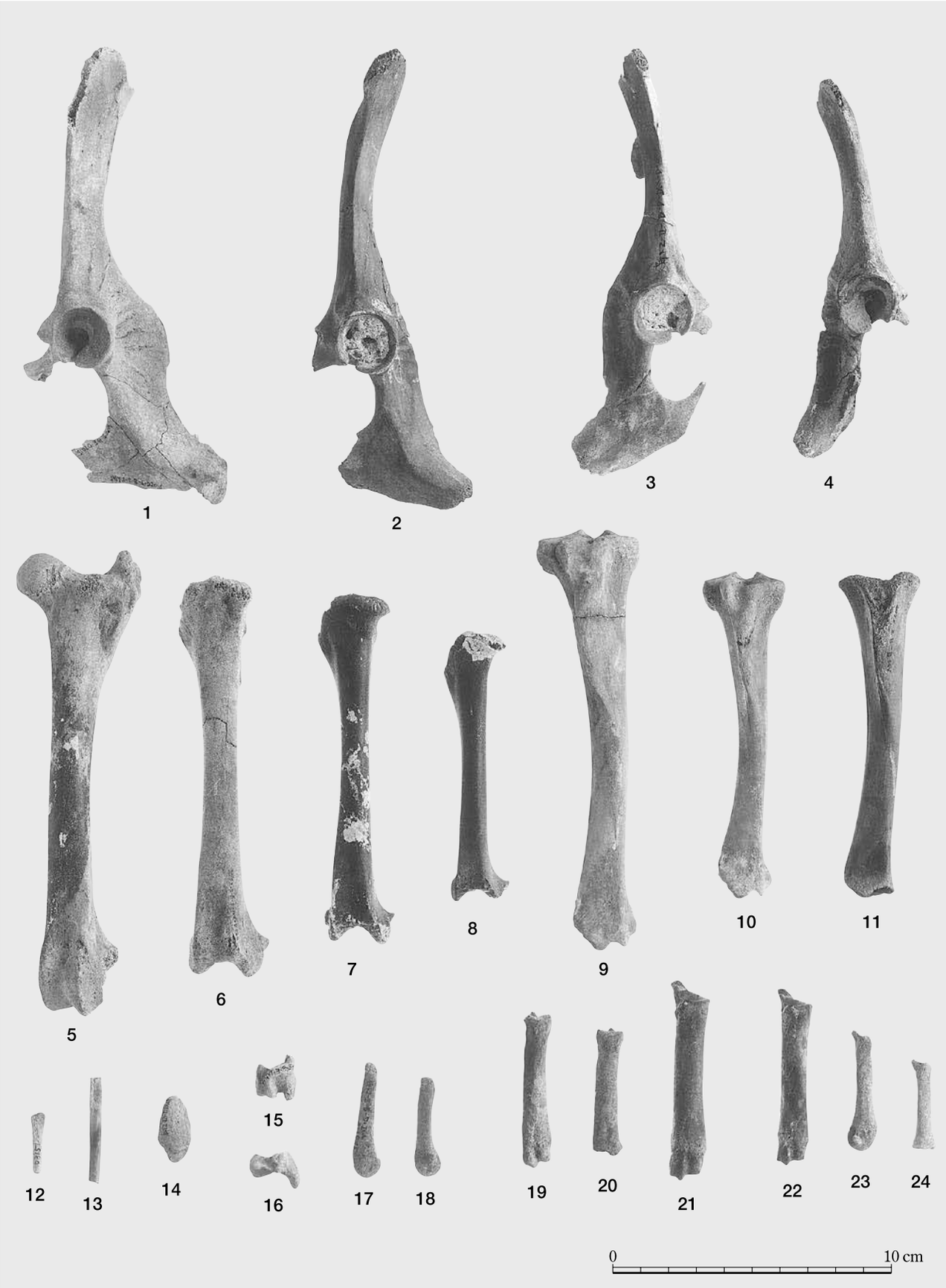
1·2. 右左　頭頂骨～前頭骨　3. 右左　前頭骨　4～6. 環椎　7·8. 軸椎　9・10. 頚椎　11・12. 胸椎
13～15. 腰椎　16～19. 仙骨



図版120　動物遺体 5

リュウキュウイノシシ

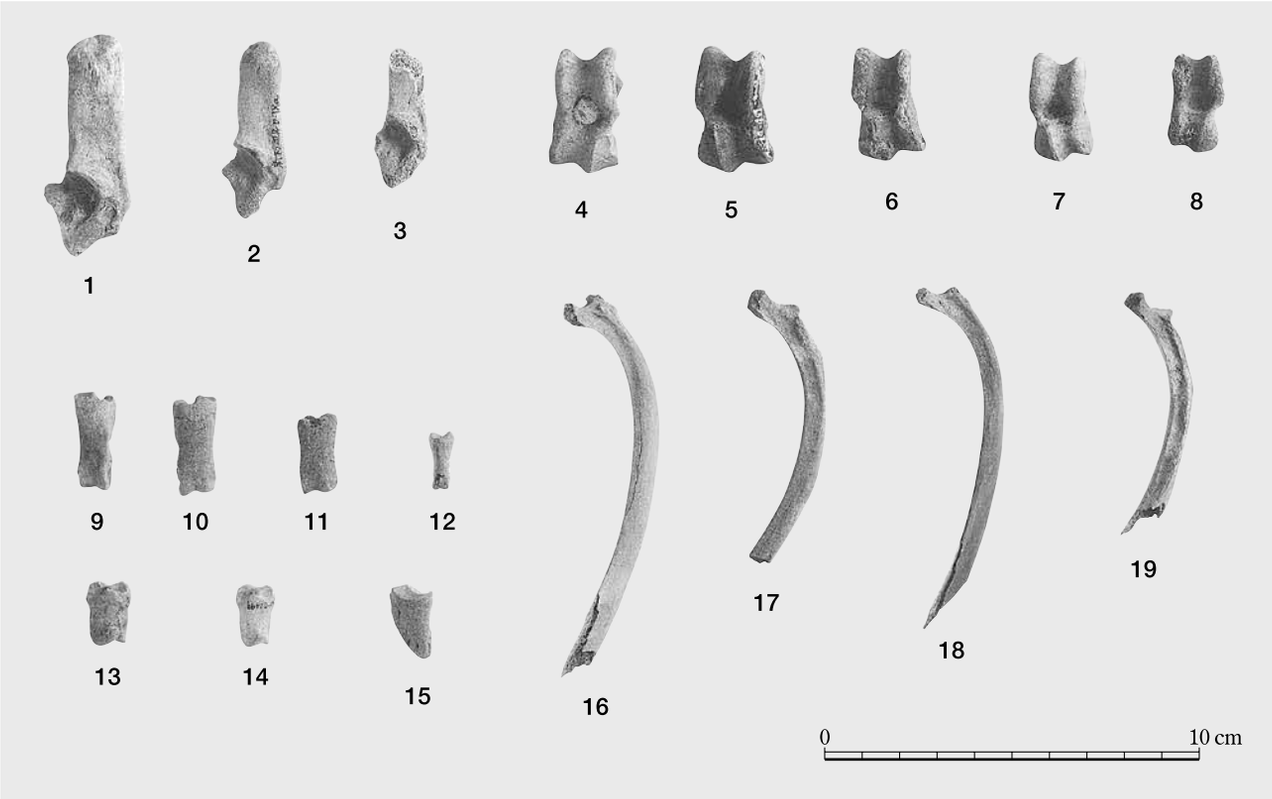
1～3. 右　肩甲骨　4～7. 左　肩甲骨　8～15. 右　上腕骨　16～20. 右　橈骨　21～25. 右　尺骨
26. 左　中手骨II　27～29. 右　中手骨III　30. 左　中手骨IV　31･32. 右　中手骨V

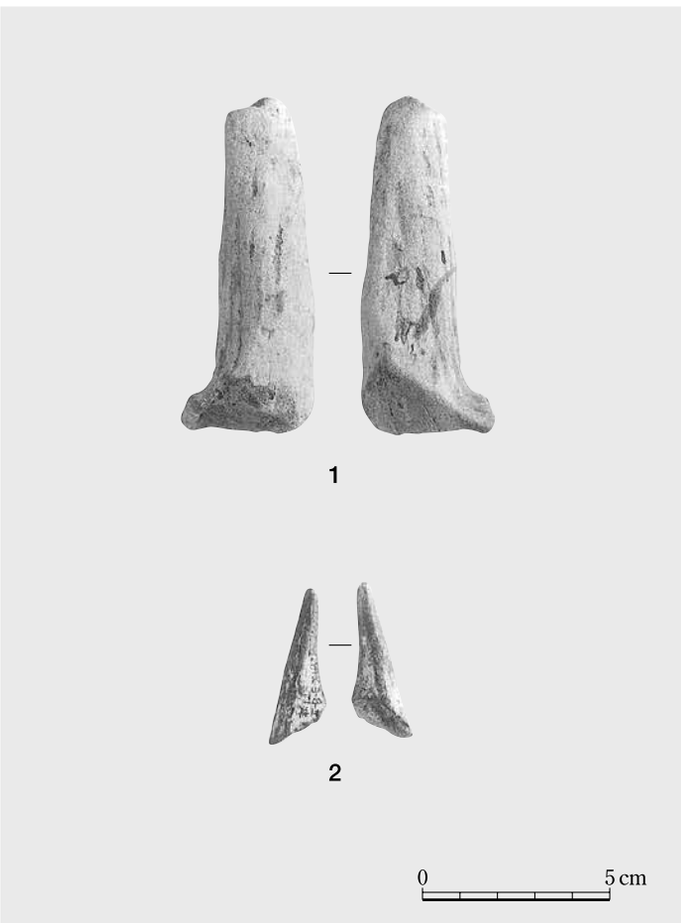


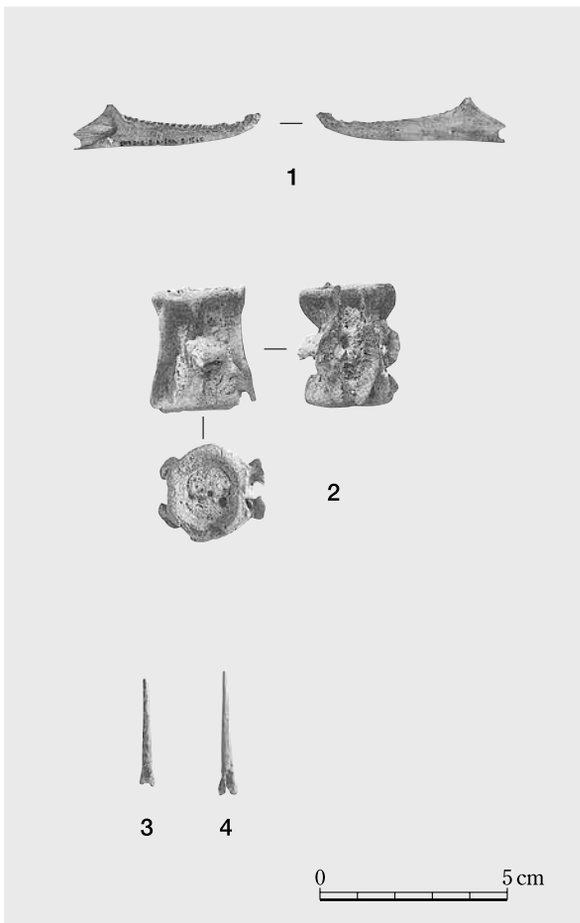
図版121　動物遺体 6

リュウキュウイノシシ

1･2. 左　寛骨　3･4. 右　寛骨　5. 左　大腿骨　6～8. 右　大腿骨　9～11. 右　脛骨　12・13. 左右不明　腓骨
14. 左　膝蓋骨　15. 左　第 4 足根骨　16. 右　中心足根骨　17･18. 右　中足骨II　19・20. 右　中足骨III
21･22. 左　中足骨IV　23・24. 右　中足骨V







図版122　動物遺体 7

上：**リュウキュウイノシシ**　1～3. 右 踵骨　4･8. 左 距骨　5～7. 右 距骨　9･12. 右 基節骨　10･11. 左 基節骨
13･14. 右 中節骨　15. 左 末節骨　16～19. 左 肋骨

下左：**シカ**　1･2. 角

下右：**サカナ ウツボ**　1. 左 歯骨　種不明　2. 脊椎骨　3･4. 背鰭棘

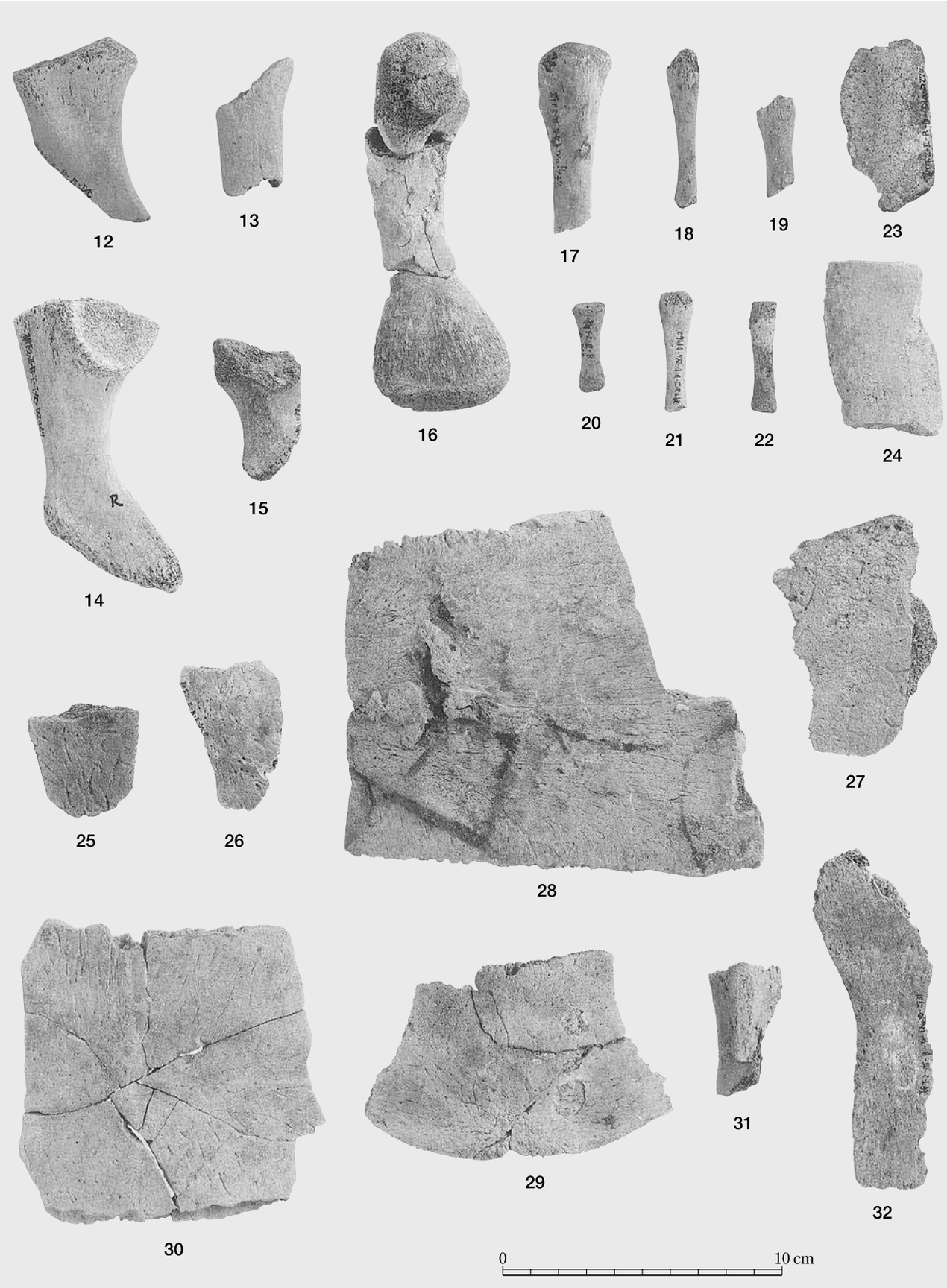
図版123　動物遺体 8

トリ類 ツル科　1. 頚椎　**ナベツル**　2. 右 脛骨　3. 左 脛骨　4. 右 中足骨　5. 左中足骨
オオミズナギドリ　7. 左 上腕骨　**カモ類**　8. 右 尺骨　**カラス類**　9. 左 烏口骨
11. 右 足根中足骨　**シギ科**　12. 右 脛骨　**サギ類**　13. 左 尺骨　**ケナガネズミ**　14. 左 大腿骨

図版124　動物遺体 9

ウミガメ類　（アオウミガメ　1～7・9～11、アカウミガメ 8）

1･2. 右 側後頭骨　3. 左 鳥口肩甲骨　4･5. 右 鳥口肩甲骨　6･8. 右 上腕骨　7. 左 上腕骨
9. 左 尺骨　10･11. 右 尺骨



図版125　動物遺体10

ウミガメ類　（アオウミガメ　12～14～17・28・29、ウミガメ類 15・18～27・30～32 ）

12. 左 寛骨　13. 左右不明 寛骨　14･15. 右 寛骨　16. 右 大腿骨　17. 右 脛骨　18. 右 腓骨
19. 左 腓骨（幼）　20･22. 指骨　23･24. 剣状突起　25･26. 椎骨板　27. 肋骨板　28･30. 肋骨板（第4）
29. 臀骨板　31･32. 縁骨板

第20節　植物遺体

札幌大学　高宮広土

1）遺跡の概要

a:遺跡の所在　沖縄県宜野湾市・北谷町
b:遺跡の名称　新城下原第二遺跡（あらぐすくしちゃばるだいにいせき）
c:調査の機関　沖縄県立埋蔵文化センター
d:調査担当者　片桐千亜紀
e:発掘期間　平成15年10月１日～平成16年１月31日
f:文化　貝塚時代早期（爪形文土器／無文土器）
g:遺跡の年代　5500～6500BP

2）バックグラウンド

新城下原第二遺跡は、キャンプ瑞慶覧（宜野湾市・北谷町）に所在する遺跡である。調査の結果、近世・近代～貝塚時代早期までの複合遺跡であることがわかった。沖縄県埋蔵文化財センターにより発掘調査がなされ、爪形文土器や無文土器などが検出されている。土器に伴って多種多様の貝類やイノシシ等の動物遺体が確認されている。

今回、沖縄県埋蔵文化財センターにより、土壌がサンプリングされ、植物遺体回収のためにフローテーション処理がなされた。土壌サンプルは、II地区下層のＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，およびEグリッドの貝塚時代早期と考えられる層よりサンプリングされた。サンプリングがなされた層は、それぞれ以下の通りである。

Aグリッド　VIII, IXa, IXb, IXc, XIIIa, XIIIb, XIV（クチャの上）
Bグリッド　IXa, IXb, IXc,XIIb
Cグリッド　IXa, IXb, IXc,XIV
Dグリッド　VIII, IXa, IXb,
Eグリッド　IXa, IXb, IXc, IXc，XIIa, XIIb, XIIIa, XIIIb, XIIIc, XIIId, XIIIe, XIV

土壌のサンプル量は、それぞれ10リットルである。筆者には、種実のみ送付されてきた。

3）回収された種実

合計1841（片／粒）の種実が回収された。その内、1495（片／粒）が、同定可能な種実であり、少なくとも34種類含まれていた（51表）。回収された種実はすべて未炭化であった。同定が可能であった種実は、以下の通りである（52表）。また、同定不可能と分類された種実は全て破片で、多くのものは、51表および2にリストされた植物の種実に属すると思われる。

第51表：新城下原第二遺跡（下層）出土の植物遺体

和名	学名	図版126～128
ヤマモモ科	MYRICACEAE	
ヤマモモ属	*Myrica* L.	
ヤマモモ	*Myrica rubra* S.et Z.	1
ニレ科	ULMACEAE	
ウラジロエノキ属	*Trema* Lour.	2
クワ科	MORACEAE	
コウゾ属	*Broussonetia* L'Herit. ex Vent.	3
アカザ科	CHENOPODIACEAE	
アカザ属	*Chenopodium* L.	4
バラ科	ROSACEAE	
キイチゴ属	*Rubus* L.	5
ミカン科	RUTACEAE	
サンショウ属	*Zanthoxylum* L.	

サンショウ　Zanthoxylum piperitum (L.) DC.――――――6
カラスザンショウ　Zanthoxylum ailanthoides Sieb. et Zucc.――――――7
センダン科　MELIACEAE
センダン属　Melia L.
センダン　Melia Azedarach L.――――――8
トウダイグサ科　EUPHOBIACEAE
オオバギ属　*Macaranga* Thouars
オオバギ　*Macaranga tanarius* (L.) Muell.――――――9
アカメガシワ属　*Mallotus* Lour.
アカメガシワ　*Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell.――――――10
ヤンバルアカメガシワ属　Melanolepis Reichb. f. et Zoll.
ヤンバルアカメガシワ　Melanolepis multiglandulosa Reichb. f. et Zoll.――――――11
ミツバウツギ科　STAPHYLEACEA
ショウベンノキ属　*Turpinia* Vent.
ショウベンノキ　*Turpinia ternate* Nakai――――――12
モチノキ科　AQUIFOLIACEAE
モチノキ属　*Ilex* L.――――――13
アワブキ科　SABIACEAE
アワブキ属　*Meliosma* Bl.――――――14
ブドウ科　VITACEAE
ブドウ属　*Vitis* L.
エビズル　*Vitis ficifolia* Bunge――――――15
ノブドウ属　*Ampelopsis* Michx..
テリハノブドウ　Ampelopsis brevipedunculata Trautv. var. Hancei――――――16
ホルトノキ科　ELAEOCARPACEAE
ホルトノキ属　*Elaeocarpus* L.
ホルトノキ　Elaeocarpus sylvestris (Lour.) Poir.――――――17・18
マタタビ科　ACTIMIDIACEAE
マタタビ属　*Actinidia* Lindl.
シマサルナシ　*Actinidia rufa* (S. et Z.) Planch. ex Miqu.――――――19
ウリノキ科　ALANGIACEAE
ウリノキ属　*Alanguim* Lamk.
シマウリノキ　Alanguim chinense (Lour.) Rehd.――――――20
エゴノキ科　STYRACACEAE
エゴノキ属　*Styrax* L.
エゴノキ　*Styrax japonicus* S. et Z.――――――21
ムラサキ科　BORAGINACEAE
チャシノキ属　*Ehretia* P. Browne
チャシノキ　*Ehretia acuminata* R. BR. var. obovata (Lindl.) Johnst.――――――22
ナス科　SOLANACEAE――――――23
スイカズラ科　CAPRIFOLIACEAE
ニワトコ属　*Sambucus* L.――――――24

ウリ科	CUCURBITACEAE	
カラスウリ属	Trichosanthes L.	
カラスウリ	Trichosmanthes cucumeroides (Ser.) Maxim.	25
スズメウリ属	Melothria L.	26
イラクサ科？	URTICACEAE	27
不明　1		28
不明　2		29
不明　3		30
不明　4		31
不明　5		32

52表の種実のうち、サンショウ属としたものは主にサンショウやカラスザンショウの破片で、ブドウ類としたものは、エビズルやノブドウの破片であると思われる。ホルトノキとしたものには、長楕円体で、複雑な縦溝の線が観察されるものと、同様な核であるが、先端部にかけて扁平になるものがある。後者が一回り小さい。後者は、大松・辻（1999）のホルトノキ属（図版C?２８）に類似するような核／核片である。3種のウリ科を確認したが、破片であったので、ウリ科のカテゴリーに含めた。また、５種類の不明種子が検出されたが、特徴は以下のような種実である。

不明１：BグリッドIXa層より１粒検出されている。種実は、楕円体で、先端に乳頭状の突起がある。

不明２：計６粒検出された。種実は、広楕円状円形。背面は円みがあり、側面は、非対称的広楕円形。基部の部分は平たく、先端はくちばし状に尖る。種皮は、細かい編目模様がある。

不明３：計２粒検出された。種実は、広倒卵形。側面は狭卵形。基部から先端にかけて陵条がのびる。

不明４：計174（粒／片）検出された。種実は、非対称的広倒卵形や倒卵形。側面は、狭倒卵形。周辺には薄い縁がみられるものもある。

不明５：計８（片／粒）検出された。種実は、広卵形。側面は、卵形。側面には、基部から先端にかけて、先細りする浅い溝がある。

4）まとめ

縄文時代には、堅果類が重要な食料現であったと想定されており、いくつかの同時代相当期の遺跡からは、オキナワウラジロガシやイタジイが報告されている（大松・辻　1999；高宮　1999）。しかしながら、今回回収された種実には、ヤマモモやシマサルナシ等の食料となり得る植物遺体が確認できたが、堅果類は、堅果皮を含め1片も検出されなかった。新城下原第二遺跡は、生活と直接かかわりあいのなかった地点であったかも知れない。

今回回収された種実は、全て未炭化であり、アカザ属のように、おそらく現生の種実も含まれていると思われる。今回検出された種実を炭素14年代法により年代を確定する必要があるであろう。A~Eグリッドのグリッド間で回収された種の差はほとんどないようである（52表）。また、各グリッドからは、いくつかの層からサンプリングがなされたが、層間での差も顕著にはみられないようである（52表）。

謝辞

沖縄貝塚時代早期とういう時期の植物遺体をみる機会を与えて下さった沖縄県埋蔵文化財センター片桐千亜紀さんに心より感謝申し上げます。

参考文献

大松しのぶ・辻誠一郎

1999　「前原遺跡から産出した大型植物遺体群」『前原遺跡』宜野座村教育委員会（編）pp.223-241. 宜野座村教育委員会：宜野座村

高宮広土

1999　「栽培植物の探索」『前原遺跡』宜野座村教育委員会（編）pp.259275. 宜野座村教育委員会：宜野座村

第52表　新城下原第二遺跡（下層）出土の植物遺体

		ヤマモモ（片／粒）		ウラジロエノキ属（片／粒）		アカザ属（片／粒）		キイチゴ属（片／粒）		サンショウ（片／粒）		カラスザンショウ（片／粒）		サンショウ属（片／粒）		センダン（片）		オオバキ（片／粒）		アカメガシワ（片／粒）		ヤンバルアカメガシワ（片／粒）		ショウベンノキ（片／粒）		モチノキ属（粒）		アワブキ属（片／粒）	
		小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数
II地区 Aグリッド	VIII											1	1	3				2		10	2	6		1					
	IXa									1		1	1	1				1		5	1	6	2	1	1			1	1
	IXb											2	1					1		2									
	IXc	1												3		1		4	1	4		9	3						
	XIIIa									2	2	2	1	3		1		4		7	3	5	1						
	XIIIb									2	2	3	3	13				3		7	2	2	2	1	1				
	XIV（クチャの上）									1		1		1						3									
	小計	1								6	4	10	7	24		2		15	1	38	8	28	8	3	2			1	1
II地区 Bグリッド	IXa			2	2							2	2					1		14	3	2							
	IXb			1								2	1	1				1		5	3	5	1	4	1				
	IXc									1	1	1	1	1				3	1	3	2	2						1	1
	XIIb	1	1	2	1					4		7	3	4	2			3	1	12	2	4	1						
	小計	1	1	5	3					5	1	12	7	6	2			8	2	34	10	13	2	4	1			1	1
II地区 Cグリッド	IXa			2	2									3				3		4		6	1						
	IXb			3	3	3	2	1	1					3						5	1	1							
	IXc			1	1					4	2			1				2		8	2	8							
	XIV																	1				2							
	小計			6	6	3	2	1	1	4	2			7				6		17	3	17	1						
II地区 Dグリッド	VIII									1		2	1	4				10	1	13	2	10	1						
	IXa											4	1	4				3		13		12	1						
	IXb									1	1	4	3	7				6	1	11	1	6	3						
	小計									2	1	10	5	15				19	2	37	3	28	5						
II地区 Eグリッド	IXa					1	1			2	1	1	1	3				9		14	2	18	2					1	1
	IXb									1				5						4	1	3							
	IXc	2	1									7	2	8				16	4	37		14	2						
	Ixc	2	2	2	2					1		8	4	4		1		1	1	13	1	8	3						
	XIIa	1		2	1					1	1	8	2	4				3		9	2	7	1					3	2
	XIIb	1										2	2	6						3		2	1						
	XIIIa	5	4	4	3					5	3	7	4	2		1		9		18	3	9	1	1	1			2	2
	XIIIc	2	1	1	1					1	1	3	1							5								1	1
	XIIId	2	1							1		2	2	7				5		7	1	8						1	1
	XIIIe			3	3					2	1			2				3		8		1		2	1	1	1		
	XIV											1	1									2							
	小計	15	9	12	10	1	1			14	7	39	19	41		2		46	5	118	10	72	10	3	2	1	1	8	7
合計		17	10	23	19	4	3	1	1	31	15	71	38	93	2	4		94	10	244	34	158	26	10	5	1	1	10	9

エビズル(片／粒)		テリハノブドウ(片／粒)		ブドウ類(片)	ホルトノキ(片／粒)		シマサルナシ(片／粒)		シマウリノキ(片／粒)		エゴノキ(片／粒)		チシャノキ(片／粒)		ナス科(片／粒)		ニワトコ属(片／粒)		カラスウリ属(片)	スズメウリ属(片／粒)		ウリ科(片／粒)	コウゾ属(片／粒)		イラクサ科？(片／粒)		不明1(片／粒)	不明2(片／粒)	不明3(片／粒)	不明4(片／粒)		不明5(片／粒)		同定不可能(片)	合計(片／粒)
小計	完形数	小計	完形数	小計	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	完形数	小計	小計	完形数	小計	小計	完形数	小計	完形数	小計	小計	小計	小計	完形数	小計	完形数		
											3						2	1										1						11	40
					4	1					5	1	1	1	2	2	2	2		1	1		2	2										4	38
											2		1				2	1				2	2	2											14
1					1						4						1			2														10	41
					2	2					2		4	3			3	3		1	1													8	44
1	1				12	8					13	1	2	2			1	1																8	68
													1	1																				4	11
2	1				19	11					29	2	9	7	2	2	11	8		4	2	2	4	4				1						45	256
							1	1			4						2	1		1	1				6	6	1			3				6	45
					1						9		1				2			3	1													4	39
				1	1						3												1	1										2	19
							2	2			11	1	8	7			2	2		3	2		4	1				2	1			1		12	82
				1	2		3	3			27	1	9	7			6	3		7	4		5	2	6	6	1	2	1	3		1		24	185
											6		3	3	1		2	2					7	5	11	11				8				7	63
							1	1					3		2	2	1	1		2			4	4	42	41				163	155			4	238
											2		3	3									1	1				1						6	37
																																			3
							1	1			8		9	6	3	2	3	3		2			12	10	53	52		1		171	155			17	341
											6									1	1	1						1						11	60
				1	1				1	1	13	1	6	4	1	1	1			3	1		6	1										25	93
1	1						1	1	1	1	12		7	6			2	1					6	6										14	79
1	1			1	1		1	1	2	2	31	1	13	10	1	1	3	1		4	2	1	12	7				1						50	232
					2	2	1	1			11		4	3			4	3		4	1	2	1	1	1	1								24	103
											1												1	1										3	18
3					3	1			1		33		10	8			4	3	1	2	1		7	6					1					54	203
4	4						1	1			16		8	7			6	3		2	2	1	3	3								6	4	33	120
1	1										9		4	3						2	2		4	4				1				1		26	86
1	1																					1												5	21
					9	5					7	1	2	2			1	1	1	2	1		2	2										18	105
							1	1			1						1	1					1	1										7	24
1	1						1	1			5		5	5			2	2		1	1		2	2										12	62
					2	2					18		4	3			1	1	1	1	1		2	2										25	76
		1	1								1												1	1										3	9
10	7	1	1		16	10	4	4	1	0	102	1	37	31			19	14	3	14	9	4	24	23	1	1		1	1			7	4	210	827
13	9	1	1	2	38	21	9	9	3	2	197	5	77	61	6	5	42	29	3	31	17	7	57	46	60	59	1	6	2	174	155	8	4	346	1841

1）ヤマモモ
6.4x5.0x4.8

2）ウラジロエノキ属
2.2x1.9x1.6

3）コウゾ属
1.6x1.6x1.2

4）アカザ属
0.8x0.9x0.4

5）キイチゴ属
0.5x1.2x0.4

6）サンショウ
2.8x1.8x1.8

7）カラスザンショウ
2.7x2.8x2.4

8）センダン
6.8x4.0x4.0

9）オオバギ
4.1x5.8x4.0

10）アカメガシワ
3.8x3.2x3.0

11）ヤンバルアカメガシワ
4.6x4.0x3.4

12）ショウベンノキ
4.0x3.8x1.9

［サイズは、長さ×幅×厚さ（mm）］

図版126　植物遺体１　（1～12）

13）モチノキ属
4.1x3.0x1.7

14）アワブキ属
3.5x3.0x2.9

15）エビズル
3.3x2.8x2.3

17）ホルトノキ
13.8x6.1x5.3

16）テリハノブドウ
3.3x3.3x2.4

19）シマサルナシ
2.1x1.3x0.8

18）ホルトノキ
7.5x3.7x3.4

20）シマウリノキ
7.4x4.9x2.9

11）エゴノキ
12.0x6.1x5.9

22）チシャノキ
2.2x2.1x0.9

［サイズは、長さ×幅×厚さ（mm）］

図版127　植物遺体２　（13～22）

23）ナス科
1.3x1.5x0.3

24）ニワトコ属
2.3x1.5x1.1

25）カラスウリ
7.4x6.9（厚さ：計測不可）

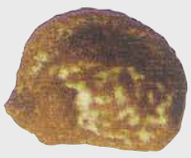
26）スズメウリ属
4.5x3.0x0.4

27）イラクサ科？
0.7x0.8x0.4

28）不明 1
2.4x1.8x1.3

29）不明 2
4.5x4.1x4.2

30）不明 3
3.4x2.3x1.7



31）不明 4
0.8x1.0x0.4

32）不明 5
3.4x2.4x2.0

［サイズは、長さ×幅×厚さ（mm）］

図版128　植物遺体 3　（23～32）

第６章　自然科学分析

新城下原第二遺跡の古環境復元のため、自然科学分析を実施した。第１節ではグスク時代と考えられる水田遺構が検出されたⅢ地区の第Ⅲ層を中心として、第Ⅰ層～第Ⅵ層までの放射性炭素年代測定や植物珪酸体、花粉分析等を実施した。本報告ではⅡ地区上層と呼んでいる層序である。第２節ではⅡ層で実施した爪形文土器を包含する第Ⅸ層を中心として、放射性炭素年代測定、花粉分析、珪藻分析等を実施した。本報告では、Ⅱ地区下層と呼んでいる層序である。

第１節　新城下原第二遺跡（Ⅲ地区）における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．放射性炭素年代測定

１．試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	ク-24グリッド，Ⅲｂ層	炭化材	酸-ｱﾙｶﾘ-酸洗浄，石墨調整	AMS
No.2	ラ-26グリッド，砂層中	木杭	酸-ｱﾙｶﾘ-酸洗浄，石墨調整	AMS
No.3	ラ-34グリッド，Ⅱ層	土壌	酸-ｱﾙｶﾘ-酸洗浄，ベンゼン合成	Radiometric

※Radiometricは液体シンチレーションカウンタによるβ（ベータ）線計数法
※AMSは加速器質量分析法：Accelerator Mass Spectrometry

２．測定結果

試料名	^{14}C年代（年BP）	δ^{13}C（‰）	補正^{14}C年代（年BP）	暦年代（西暦）	測定No.（Beta-）
No.1	1100±40	-25.5	1090±40	交点：cal AD 980 １σ：cal AD 900～1000 ２σ：cal AD 880～1020	180125
No.2	970±40	-26.6	940±40	交点：cal AD 1040 １σ：cal AD 1030～1160 ２σ：cal AD 1010～1190	180126
No.3	920±40	-27.1	880±40	交点：cal AD 1180 １σ：cal AD 1060～1080, 1150～1210 ２σ：cal AD 1030～1250	180127

１）^{14}Ｃ年代測定値

試料の^{14}Ｃ/^{12}Ｃ比から、単純に現在（1950年AD）から何年前かを計算した値。^{14}Ｃの半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

２）δ^{13}C測定値
試料の測定^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

３）補正^{14}C年代値
δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C/^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

４）暦年代
過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を較正することにより算出した年代（西暦）。較正には、年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。
暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ（68%確率）と2σ（95%確率）は、補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

３．所見
放射性炭素年代測定の結果、ク-24グリッドのⅢｂ層の炭化材では1090±40年BP（1σの暦年代でAD900～1000年）、ラ-26グリッドの砂層中の木杭では940±40年BP（同AD1030～1160年）、ラ-34グリッドのⅡ層（植物遺体層）では880±40年BP（同AD1060～1080、AD1150～1210年）の年代値が得られた。Ⅱ層では放射性炭素年代測定値よりも暦年代の年代幅がかなり大きくなっているが、これは該当時期の暦年代較正曲線が不安定なためである。

文献
Stuiver, M., et. al., (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.
中村俊夫（1999）放射性炭素法．考古学のための年代測定学入門．古今書院，p.1-36.

Ⅱ．植物珪酸体（プラント・オパール）分析

１．はじめに
植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO２）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

２．試料
分析試料は、ノ-24グリッド（基本土層）、ラ-34グリッド、およびⅢｂ層検出面から採取された計32点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

３．分析法
植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。
１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
２）試料約１gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
５）沈底法による20μm以下の微粒子除去
６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
７）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10－５g）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

４．分析結果

（１）分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１および図１に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、ヒエ属型、キビ族型、ヨシ属、ダンチク属、シバ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属）、マンサク科（イスノキ属）、アワブキ科、その他

５．考察

（１）稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料１gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

１）ノー24グリッド（基本土層）

１a層（試料１）からⅥ層（試料12）までの層準について分析を行った。その結果、１b層（試料３）とⅡ層上部（試料４）からイネが検出された。密度は700～800個/gと低い値であるが、上位の１a層では検出されないことから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、各層準の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、水田層とされるⅢｂ層（試料９、10）では、イネは検出されなかった。

２）ラー34グリッド

１a層（試料１）から溝内堆積層（試料10）までの層準について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出されなかった。

３）Ⅲｂ層検出面

水田跡とされるⅢｂ層検出面では、試料１～試料９について分析を行った。その結果、試料６からイネが検出された。密度は500個/gと低い値であるが、上位のⅢａ層では検出されないことから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

以上のように、水田跡とされるⅢｂ層検出面では部分的に少量のイネが検出され、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。イネがあまり検出されない原因としては、１）稲作が行われていた期間が短かったこと、２）洪水などによって耕作土が流出したこと、３）稲の生産性が低かったこと、４）稲藁の大半が水田以外に持ち出されていたこと、５）植物珪酸体が風化作用などにより消失したこと、６）他所からの混入などが考えられる。ここでは、植物珪酸体があまり風化を受けていないこと、花粉分析（第Ⅲ章）でイネ属型花粉が比較的多く検出されていること、および土層の堆積状況などから、４）もしくは６）の要因が想定される。

（２）イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはヒエ属型が検出された。

ヒエ属型は、ラ-34グリッドの１d層（試料３）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか，1988）。また、密度も800個/gと低い値であることから、ここでヒエが栽培されていた可能性は低いと考えられる。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。また、キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものも含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。

（３）植物珪酸体分析から推定される植生と環境

１）植物珪酸体の検出状況

下位層準のⅥ層、Ⅴ層、および溝内堆積層（ラ-34グリッド）では、植物珪酸体は検出されなかった。Ⅲｃ層（ラ-34グリッド）では、ススキ属型やウシクサ族Ａなどが検出されたが、いずれも少量である。Ⅲｂ層（ノ-24グリッド）では、ヨシ属、ダンチク属、ススキ属型、ウシクサ族Ａ、樹木（その他）などが検出されたが、いずれも少量である。Ⅲｂ層検出面でも同様の結果であるが、部分的にイネ、キビ族型、シバ属、ブナ科（シイ属）、マンサク科（イスノキ属）なども少量検出された。Ⅲａ層では、部分的にススキ属型やウシクサ族Ａなどが検出されたが、いずれも少量である。Ⅱ層では、ススキ属型やウシクサ族Ａがやや増加しており、イネ、ヨシ属、ブナ科（アカガシ亜属）、マンサク科（イスノキ属）なども部分的に少量検出された。１a層にかけては、各分類群とも減少傾向を示している。

２）植生と環境の推定

海成層と考えられるⅥ層とその上位のⅤ層および溝内堆積層の堆積当時は、海水や河川の影響など何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと推定される。Ⅲｃ層および放射性炭素年代測定で1090±40年BPの年代値が得られたⅢｂ層の堆積当時は、周辺にススキ属やチガヤ属、ダンチク属が分布しており、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと考えられる。また、遺跡周辺には部分的にシイ属やイスノキ属などの照葉樹林が分布していたと推定される。

その後、Ⅲａ層の時期には何らかの原因でこれらの分類群は減少したと考えられる。花粉分析（第Ⅲ章）では、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、オモダカ属などが生育する湿地～浅水域の環境が推定されていることから、当時は植物珪酸体が形成されないこれらの草本類が優勢であったと推定される。

放射性炭素年代測定で880±40年BPの年代値が得られたⅡ層およびその上位の堆積当時は、部分的に稲作が行われており、周辺にはススキ属やチガヤ属などが分布していたと考えられる。また、遺跡周辺には部分的にアカガシ亜属やイスノキ属などの照葉樹林が分布していたと推定される。

６．まとめ

植物珪酸体（プラント・オパール）分析の結果、水田跡とされるⅢｂ層検出面では部分的に少量のイネが検出され、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。当時は周辺にススキ属やチガヤ属、ダンチク属が分布しており、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと考えられる。また、遺跡周辺には、部分的にシイ属やイスノキ属などの照葉樹林が分布していたと推定される。

文献

杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究．38(2)，p.109-123.
杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

第53表　沖縄県、新城下原第二遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

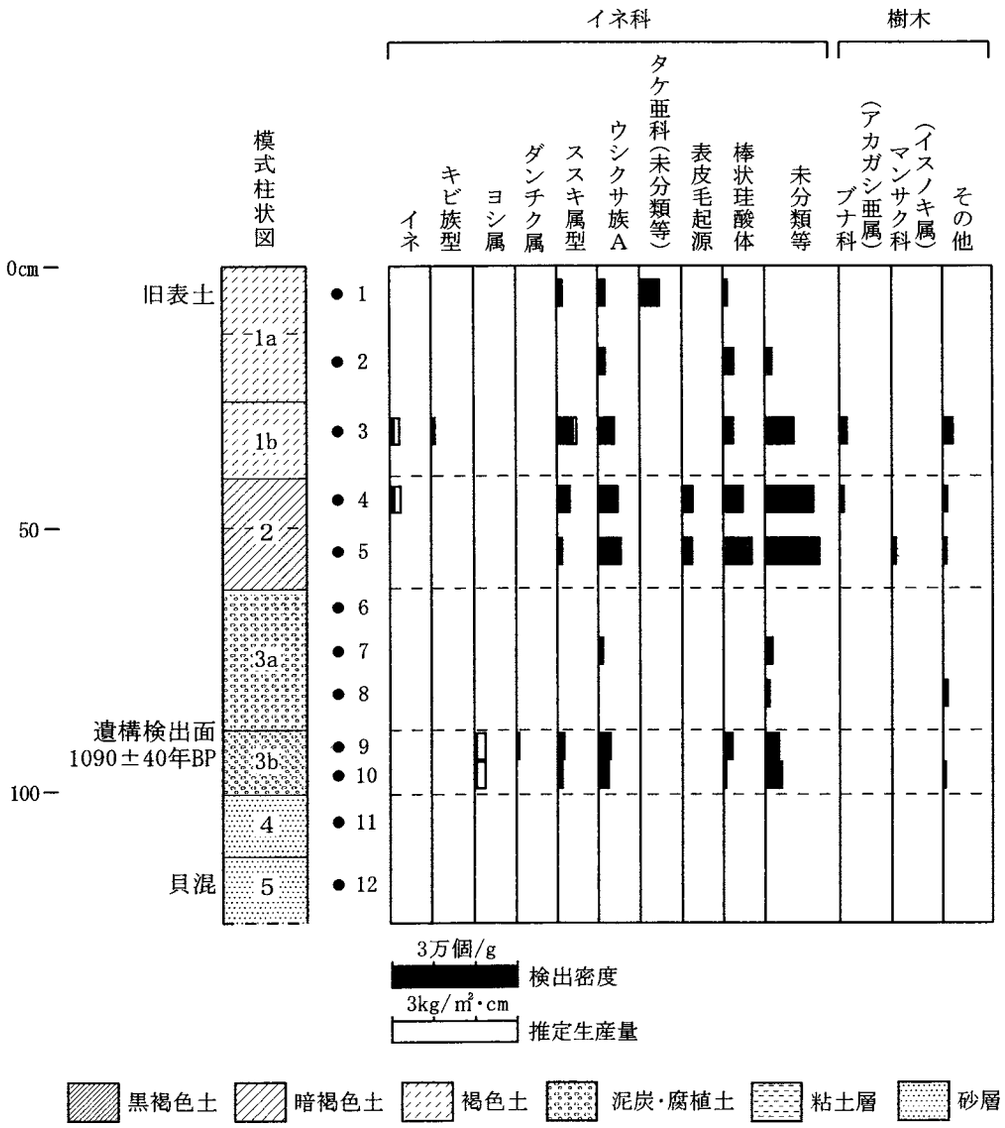
分類群	学名	ノ-24グリッド基本土層 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ科	Gramineae (Grasses)												
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)			7	8								
ヒエ属型	*Echinochloa* type												
キビ族型	Paniceae type			7									
ヨシ属	*Phragmites* (reed)									4	4		
ダンチク属	*Arundo*									4			
シバ属	*Zoisia*												
ススキ属型	*Miscanthus* type	8		37	23	7				11	7		
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	15	15	37	45	52		8		26	22		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)												
未分類等	Others	45											
その他のイネ科	Others												
表皮毛起源	Husk hair origin				23	22							
棒状珪酸体	Rod-shaped	8	23	22	45	67				19	4		
未分類等	Others		15	67	113	127		15	8	30	37		
樹木起源	Arboreal												
ブナ科(シイ属)	*Castanopsis*												
ブナ科(アカガシ亜属)	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*			15	8								
マンサク科(イスノキ属)	*Distylium*					7							
その他	Others			22	8	7			8		4		
(海綿骨針)	Sponge												
植物珪酸体総数	Total	75	53	217	272	291	0	23	15	93	78	0	0

分類群	学名	ラ-34グリッド 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イネ科	Gramineae (Grasses)											
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)											
ヒエ属型	*Echinochloa* type			8								
キビ族型	Paniceae type											
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		7		7							
ダンチク属	*Arundo*											
シバ属	*Zoisia*											
ススキ属型	*Miscanthus* type	23	22	23	52			8		15		8
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	15	7	38	7			8		15		15
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)											
未分類等	Others											
その他のイネ科	Others											
表皮毛起源	Husk hair origin											
棒状珪酸体	Rod-shaped	8	22	23	30	23	23	8		15		
未分類等	Others	45	37	53	15	30	38	23	8	22		23
樹木起源	Arboreal											
ブナ科(シイ属)	*Castanopsis*											
ブナ科(アカガシ亜属)	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*											
マンサク科(イスノキ属)	*Distylium*											
その他	Others											
(海綿骨針)	Sponge											
植物珪酸体総数	Total	91	97	144	112	53	60	45	8	67	0	45

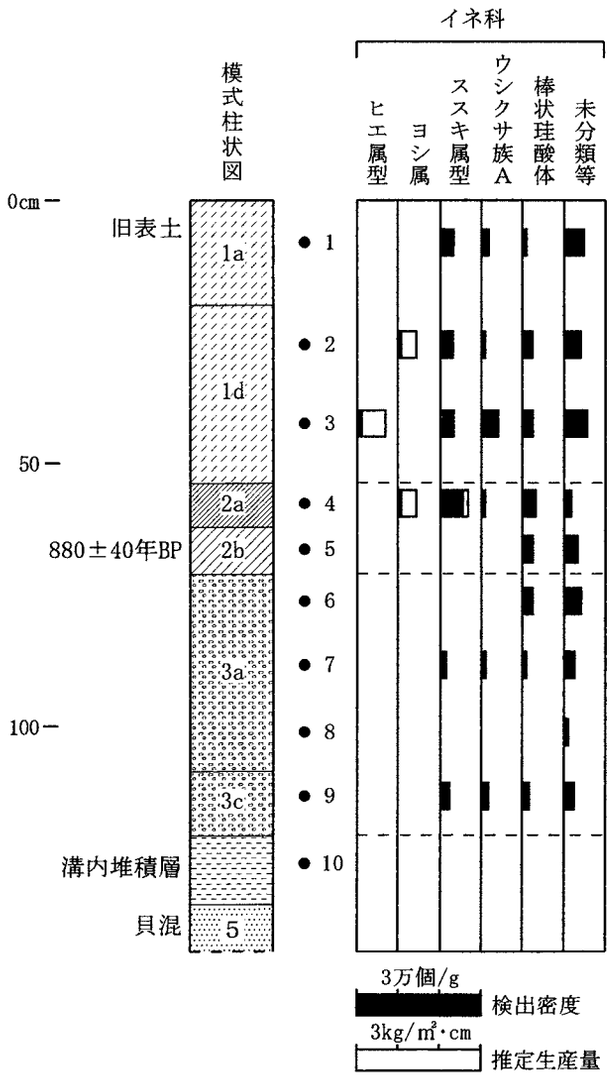
分類群	学名	3b層検出面 1	2	3	4	5	6	7	8	9
イネ科	Gramineae (Grasses)									
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)						5			
ヒエ属型	*Echinochloa* type									
キビ族型	Paniceae type									7
ヨシ属	*Phragmites* (reed)									
ダンチク属	*Arundo*	8		8						
シバ属	*Zoisia*									7
ススキ属型	*Miscanthus* type		8	15	15			10	7	7
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	8	8	23	38	23	10	20	15	7
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)									
未分類等	Others									
その他のイネ科	Others									
表皮毛起源	Husk hair origin	8				8		5		
棒状珪酸体	Rod-shaped	23		8	15	15	10	5	7	7
未分類等	Others	45	23	15	23	60	55	5	37	37
樹木起源	Arboreal									
ブナ科(シイ属)	*Castanopsis*	8								
ブナ科(アカガシ亜属)	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*									
マンサク科(イスノキ属)	*Distylium*						5			
その他	Others					8	5			
(海綿骨針)	Sponge				8					
植物珪酸体総数	Total	98	38	68	91	113	90	45	67	75

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）

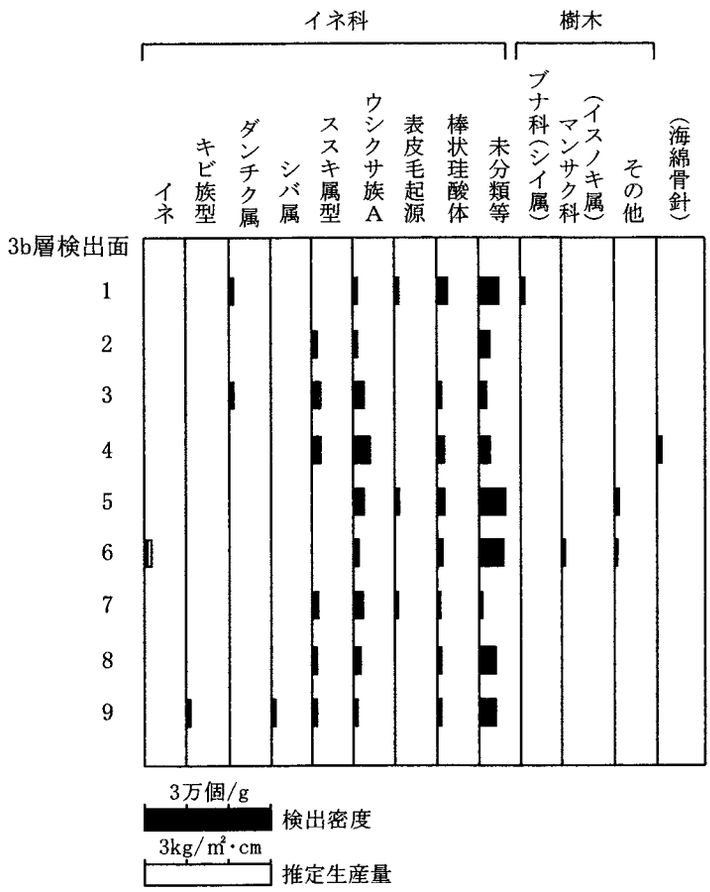
分類群	学名	ノ-24 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	ラ-34 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	3b層 1	2	3	4	5	6	7	8	9
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)			0.22	0.22																								0.15				
ヒエ属型	*Echinochloa* type															0.64																	
ヨシ属	*Phragmites* (reed)									0.24	0.24				0.47		0.47																
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.09		0.46	0.28	0.09				0.14	0.09			0.28	0.28	0.28	0.65			0.09		0.19		0.09		0.09	0.19	0.19			0.12	0.09	0.09



第84図　新城下原第二遺跡、ノー24グリッドにおける植物珪酸体分析結果

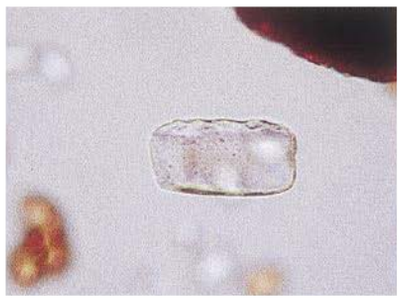


第85図　新城下原第二遺跡、ラー34グリッドにおける植物珪酸体分析結果

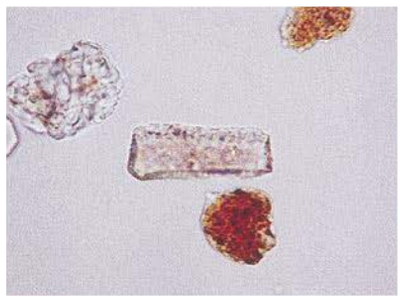


第86図　新城下原第二遺跡、3b層検出面における植物珪酸体分析結果

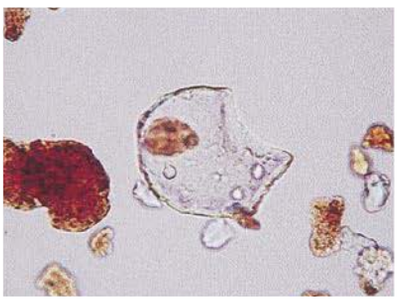
イネ
3a層検出面 6



ヒエ属型
ラー34グリッド 3



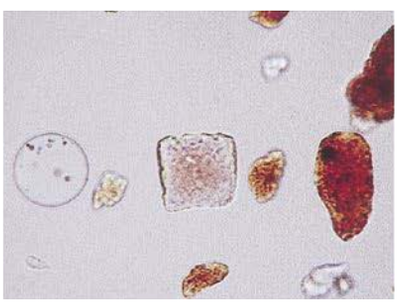
キビ属型
3a層検出面 9



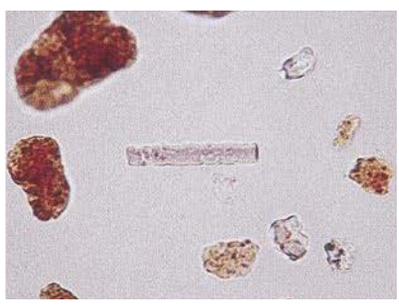
ヨシ属
ノー24グリッド 10

ダンチク属
3a層検出面 1

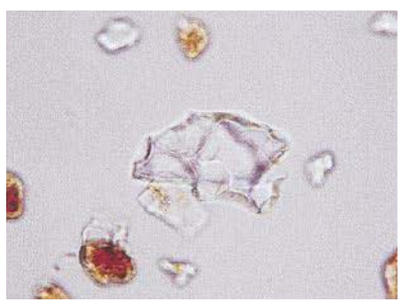
ススキ属型
ノー24グリッド 4



ウシクサ属 A
ノー24グリッド 9



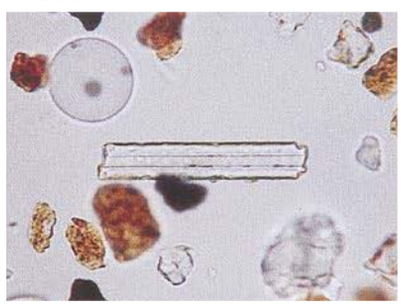
棒状珪酸体
ノー24グリッド 5



ブナ科（シイ属）
3a層検出面 1

アワブキ科
ノー24グリッド 4

マンサク科（イスノキ属）
ノー24グリッド 5



海綿骨針
3a層検出面 4

植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真　　50 μm

図版129　植物珪酸体

Ⅲ．花粉分析

１．はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

２．試料

分析試料は、ノ-24グリッド（基本土層）およびラ-34グリッドから採取された計10点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

３．方法

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）５％水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
２）水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
３）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
４）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
５）再び氷酢酸を加えて水洗処理
６）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
７）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。イネ属については、中村（1974，1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

４．結果

（１）分類群

出現した分類群は、樹木花粉11、樹木花粉と草本花粉を含むもの２、草本花粉20、シダ植物胞子３形態の計36である。分析結果を表１に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。なお、寄生虫卵および明らかな食物残渣についても注目して分析したところ、寄生虫卵２分類群が検出された。

〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属、スギ、カバノキ属、シイ属-マテバシイ属、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属-ムクノキ、アカメガシワ、ブドウ属、グミ属、ニワトコ属-ガマズミ属、イスノキ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科-ヒユ科、キンポウゲ属、アブラナ科、ササゲ属、アカバナ科、アリノトウグサ属-フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、キツネノマゴ、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、ミズワラビ、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

回虫卵、肝吸虫卵

（２）花粉群集の特徴

１）ノ-24グリッド

Ⅲｂ層（試料９、10）およびⅢａ層（試料７）では、カヤツリグサ科が優占し、イネ属型を含むイネ科、ミズアオイ属、オモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではマツ属複維管束亜属などが低率に出現する。Ⅱ層（試料４）と１b層（試料３）では、イネ属型を含むイネ科、カヤツリグサ科が高率で出現し、オモダカ属、ヨモギ属、ミズアオイ属、アブラナ科などが伴われる。樹木花粉では、マツ属複維管束亜属やシイ属-マテバシイ属などが低率に出現する。１a層（試料１）では、マツ属複維管束亜属が大幅に増加している。なお、１層（試料１）では回虫卵、Ⅱ層（試料４）とⅢｂ層（試料９）では肝吸虫卵が少量検出された。

２）ラ-34グリッド

溝内堆積層（試料10）では、イネ科、カヤツリグサ科、ミズアオイ属などが検出されたが、いずれも少量である。Ⅲｃ層（試料９）からⅡ層（試料５）にかけては、カヤツリグサ科が優占し、イネ属型を含むイネ科、オモダカ属、ミズアオイ属などが伴われる。また、Ⅲａ層（試料７）では栽培植物のササゲ属が少量検出された。

５．花粉分析から推定される植生と環境

ラ-34グリッドの川跡堆積層では、花粉がほとんど検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられるが、水流による淘汰を受けた可能性も想定される。

放射性炭素年代測定で1090±40年BPの年代値が得られたⅢｂ層より上位のⅢａ層の堆積当時は、カヤツリグサ科やイネ科を主体としてミズアオイ属やオモダカ属なども生育する湿地～浅水域の環境であったと考えられ、遺跡周辺には森林植生はあまり分布していなかったと推定される。また、イネ属型花粉が比較的多く検出されることや、水田雑草でもあるミズアオイ属やオモダカ属が伴われることから、当時は継続的に水田稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、植物珪酸体分析（第Ⅱ章）ではイネがあまり検出されないことから、当時は調査区周辺で稲作が行われており、そこからイネ属型花粉が混入した可能性も考えられる。Ⅲａ層では、少量ながらササゲ属が検出され、マメ類が栽培されていた可能性が認められた。放射性炭素年代測定で880±40年BPの年代値が得られたⅡ層（Ⅱ層）にかけても、おおむね同様の状況であったと考えられるが、１層にかけては周辺地域でリュウキュウマツなどの松林が拡大したと推定される。

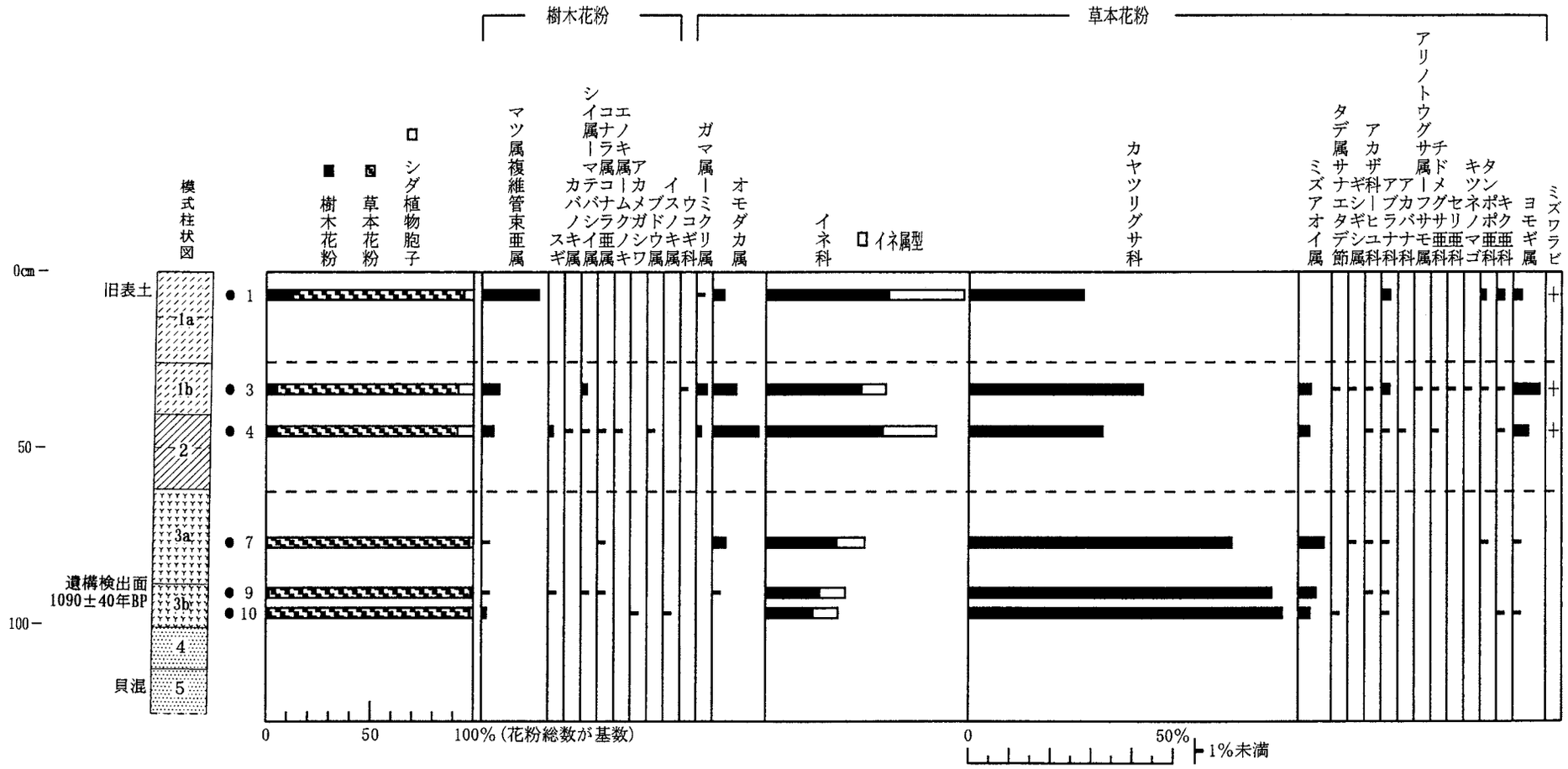
なお、ノ-24地点の１層では回虫卵、Ⅱ層とⅢｂ層では肝吸虫卵が検出され、周囲に何らかの人為環境が存在したことが示唆された。回虫は中間宿主を必要としない種類であり、虫卵の付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。肝吸虫はコイ科を主に淡水魚を中間宿主として感染する。

文献

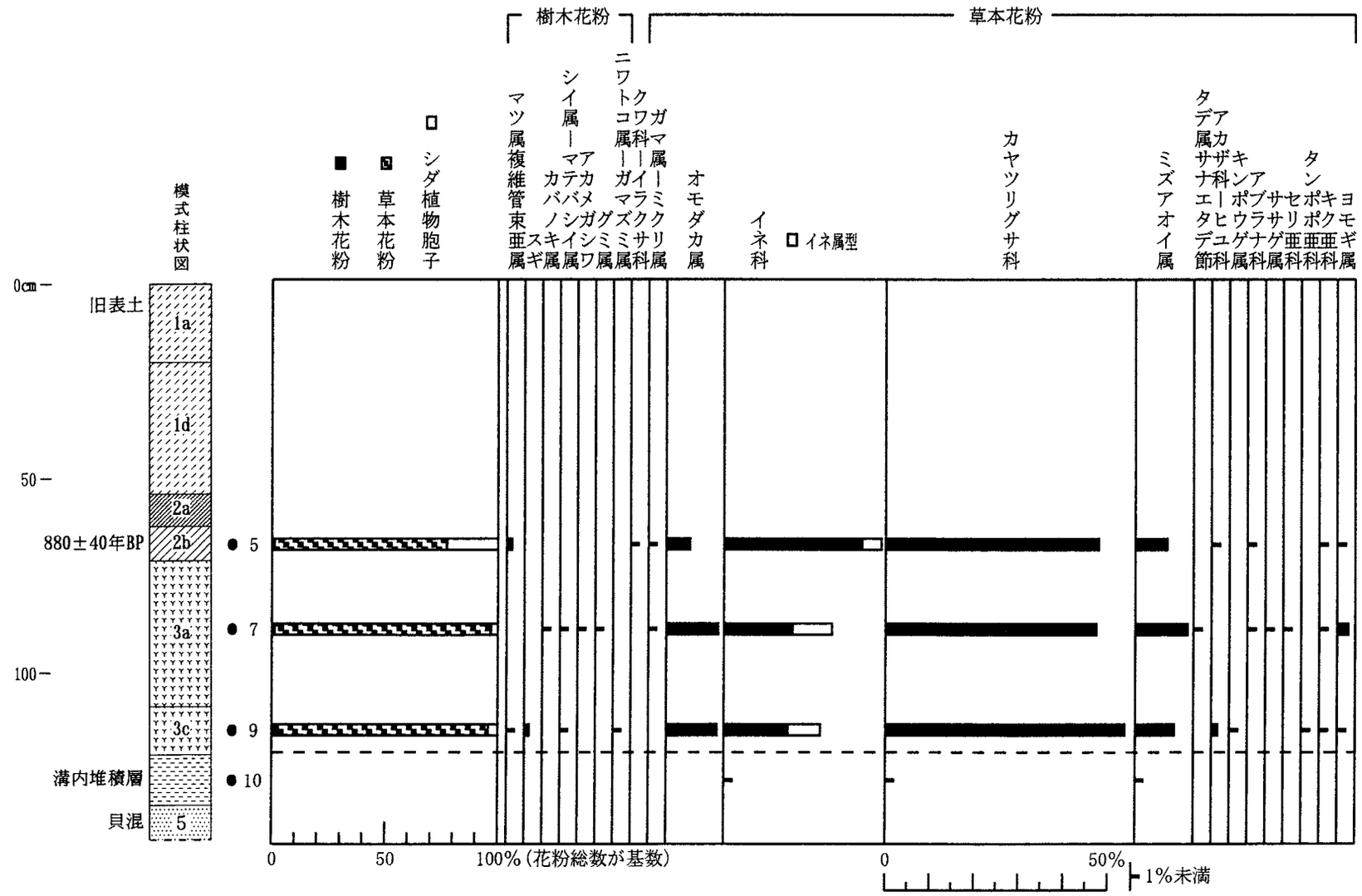
中村純（1973）花粉分析．古今書院，p.82-110.
金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248-262.
金原正明（1999）寄生虫．考古学と動物学．考古学と自然科学，2，同成社，p.151-158.
島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.
中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.
中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，p.187-193.
中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21-30.

第54表　新城下原第二遺跡における花粉分析結果

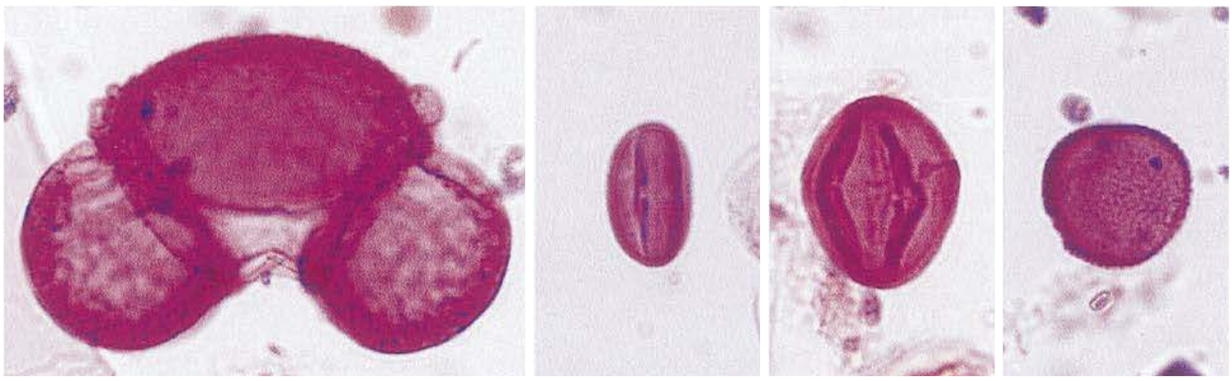
分類群		ノ-24グリッド						ラ-34グリッド			
学名	和名	1	3	4	7	9	10	5	7	9	10
Arboreal pollen	樹木花粉										
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	31	15	11	1	1	4	4		1	
Cryptomeria japonica	スギ			5		3				4	
Betula	カバノキ属			1					1		
Castanopsis-Pasania	シイ属-マテバシイ属		5	2		1			1	2	
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属			1	2	1					
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ			1							
Mallotus japonicus	アカメガシワ						1		1		
Vitis	ブドウ属			2							
Elaeagnus	グミ属								1		
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属									1	
Distylium	イスノキ属						1				
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉										
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科							1			
Araliaceae	ウコギ科		1								
Nonarboreal pollen	草本花粉										
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属	1	9	5				3	1		
Sagittaria	オモダカ属	6	19	46	15	4		17	49	42	
Gramineae	イネ科	67	84	116	80	58	43	99	64	52	2
Oryza type	イネ属型	41	21	53	31	27	23	14	37	27	
Cyperaceae	カヤツリグサ科	63	154	134	297	326	286	154	199	198	3
Monochoria	ミズアオイ属		11	11	29	19	11	23	49	32	2
Polygonum sect. *Persicaria*	タデ属サナエタデ節		1				1		1		
Rumex	ギシギシ属		1		1						
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科		3	1	3	2		2		5	
Ranunculus	キンポウゲ属									1	
Cruciferae	アブラナ科	5	7	1	1	1	1	1	1		
Vigna	ササゲ属								1		
Onagraceae	アカバナ科			1							
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属-フサモ属		1								
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科		1	1							
Apioideae	セリ亜科		3						2		
Justicia procumbens	キツネノマゴ		1								
Lactucoideae	タンポポ亜科	3	1		1					1	
Asteroideae	キク亜科	4	1	3			2	1	2	2	
Artemisia	ヨモギ属	5	24	16	3		3	3	10	1	
Fern spore	シダ植物胞子										
Monolate type spore	単条溝胞子	3	25	32	7	5	6	89	9	14	10
Celatopteris	ミズワラビ	1	2	3							
Trilate type spore	三条溝胞子	7	2	1	2	1		5	4	2	5
Arboreal pollen	樹木花粉	31	20	23	3	6	6	4	4	8	0
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	195	342	388	461	437	370	317	416	361	7
Total pollen	花粉総数	226	363	411	464	443	376	322	420	369	7
Unknown pollen	未同定花粉	5	5	3	4	2	1	0	0	0	1
Fern spore	シダ植物胞子	11	29	36	9	6	6	94	13	16	15
Helminth eggs	寄生虫卵										
Ascaris(lumbricoides)	回虫卵	1									
Clonorchis sinensis	肝吸虫卵			1		1					
Total	計	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)



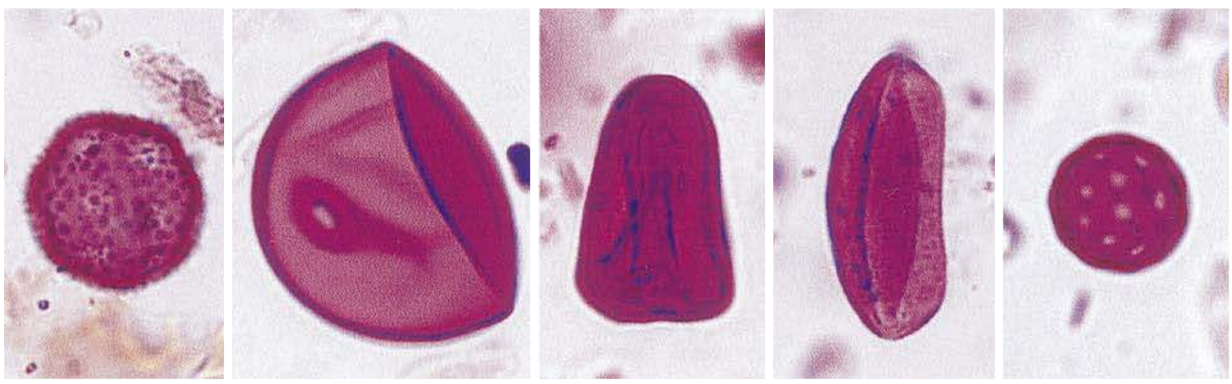
第87図　新城下原第二遺跡、ノー24グリッドにおける花粉ダイアグラム



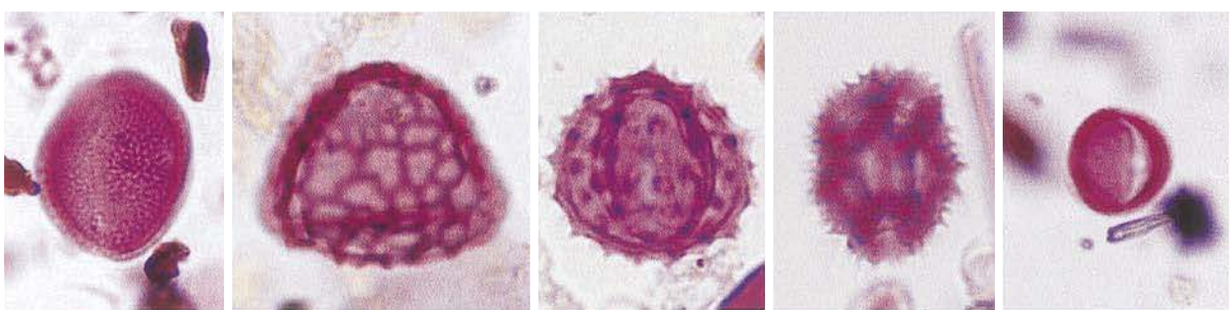
第88図　新城下原第二遺跡、ラー34グリッドにおける花粉ダイアグラム



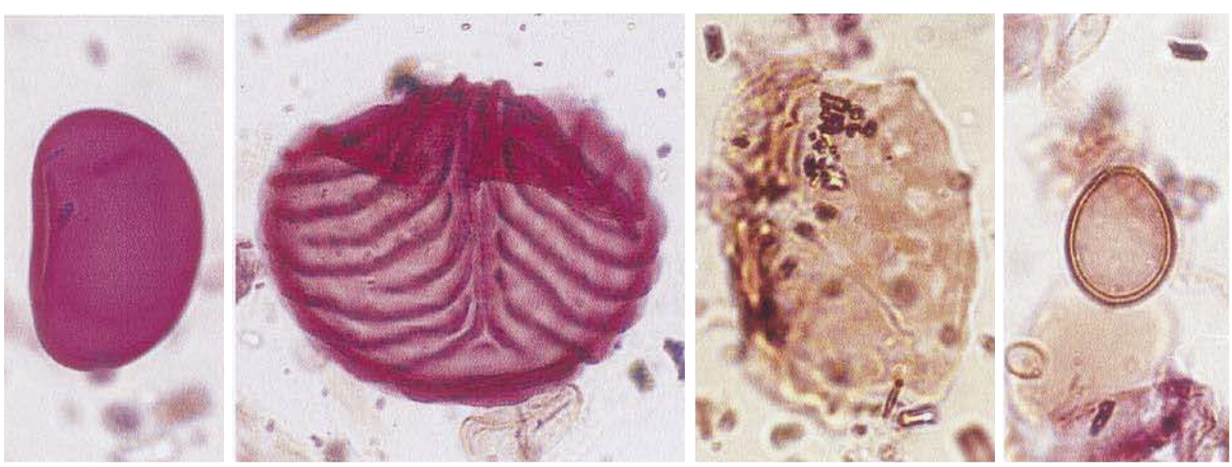
1 マツ属複雑菅束亜属　2 シイ属ーマテバシイ属　3 コナラ属アカガシ亜属　4 ガマ属ーミクリ属



5 オモダカ属　6 イネ属型　7 カヤツリグサ科　8 ミズアオイ属　9 アカザ科ーヒユ科



10 アブラナ科　11 ササゲ属　12 キク亜科　13 タンポポ亜科　14 ヨモギ属



15 シダ植物単条溝胞子　16 ミズワラビ　16 回虫卵　18 肝吸虫卵

1ー15. 17. 18 ―― 10 μm
16 ― 10 μm

図版130　新城下原第二遺跡の花粉・胞子

第２節　新城下原第二遺跡（Ⅱ地区下層）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

新城下原第二遺跡は、沖縄県中頭郡北谷町および宜野湾市にまたがるキャンプ瑞慶覧内に位置する。宜野湾市域の大部分を占める地形は、更新世に形成された琉球層群を構成層とする海岸段丘である。木庭(1990)は、琉球列島における更新世段丘を約50万年前の高位段丘、約20万年前の中位段丘そして約12万年前の低位段丘に区分した。

これらの段丘の内、宜野湾市域には中位段丘と低位段丘が分布する。上原(2000)は、宜野湾市域に分布する中位段丘と低位段丘について、標高90m以上の中位段丘上位面、同50～90mの中位段丘下位面、同30～40mの低位段丘上位面、同30～10mの低位段丘下位面に細分した。この区分に従えば、キャンプ瑞慶覧の南東側が載る台地は、普天間飛行場から続く中位段丘低位面であり、その北西側に一段低い狭小な低位段丘上位面が分布する。

新城下原第二遺跡は、低位段丘上位面の段丘崖を下り、海岸低地へ至る間の緩斜面上から砂丘後背の低地部に位置する。今回の調査区は、遺跡内でも砂丘後背の低地部にあたる。これまでの発掘調査によると、本遺跡からは、無文土器、爪形文土器、人骨、獣骨、貝殻、材、種子などの遺物が多数出土し、当時の環境を復元する上で重要な指標となりうる可能性がある。本報告では、堆積層の年代に関する情報を得るために放射性炭素年代測定を実施する。また、低地の環境変遷、周辺の古植生、さらに植物利用を検討する珪藻分析、花粉分析、種実分析、樹種同定をそれぞれ実施する。

1.層序と試料

(1)調査区内の層序

調査区内の層序は、大きくI層～XVII層に分層される。最下部に認められるいわゆるクチャは、XVII層、XVI層とされ、暗オリーブ色シルトよりなる島尻層群である。南北方向に設定されたEグリッドでみると、ほぼ中央部に高まり部が認められる。今回の調査では、Eグリッド東壁北側とEグリッド北壁を中心に堆積物の観察を行った。これらの地点では、XI層、XV層、XVI層を除く層準が観察される。Eグリッドの北側では、基盤をなすXVI層とXVII層が北側に向かって傾斜し、XIV層～VIII層もそれに応じて傾斜しており、北側で厚く堆積する傾向がある(89図)。VII層は、遺跡全面を覆う層準である。以下、各層について述べる。

いわゆるクチャの上位に認められるXIV層は、灰色シルトからなる。本層準では、獣骨が出土する。

また、XIII層は、XIIIa-e層に細分され、灰オリーブ、暗緑灰、オリーブ黒色を呈するシルトよりなるが、上位ほど砂分を多く含む。またXIIIc層で淡水性貝類のカワニナ、XIIIc層およびXIIIa層で獣骨が出土するとされる。

XII層は、暗灰色砂からなり、a層、b層に細分され、上部のXIIa層で無文土器が出土するとされる。

X層は、比較的淘汰良好な灰色砂からなる。

IX層は、IXa-b層に分層され、灰色砂を基質とし、灰色粘土や褐色粘土の粘土塊、軽石が混在する。また、材、貝、獣骨等が混じり、生痕跡もみられる。本層は、爪形文土器が産出する層準である。

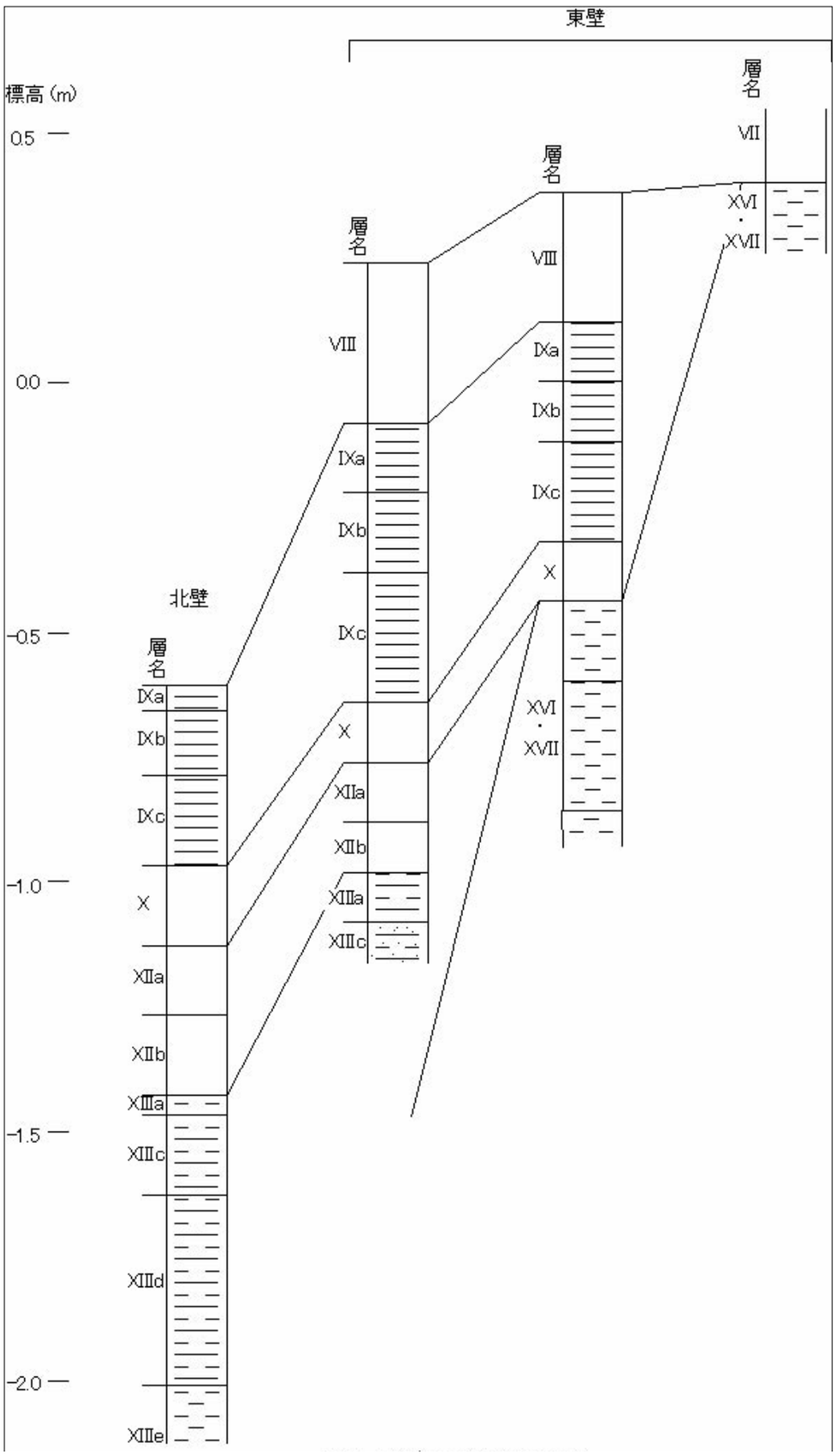
VIII層は、灰色砂からなり、貝が産出し、生痕跡もみられる。

VII層は、明灰色砂よりなり、貝、珊瑚微細片から構成される明灰色粗砂よりなる。

(2)試料

90図に調査区内の層序と分析層位を、55表に分析試料の一覧を示す。以下、採取された試料と分析試料について述べていく。土壌試料は、EグリッドよりVII層、VIII層、XIa層、XIb層、XIc層、X層、XIIa層、XIIb層、XIIIa層、XIIIc層、XIIId層、XIIIe層、XIV層、XVII層から層位試料として採取した。また、IXa-c層、XIIIc層、XIIIe層で出土した木材5点、発掘調査段階でIXb層で検出された加工材3点(Bグリッド採取No.1、Eグリッド採取No.2、排土中採取No.3)、Cグリッド北壁XVII層クチャ基盤内砂質部分で検出された種実遺体1点が採取された。

採取した土壌試料の内、VIII層、IXb層、IXc層、X層、XIIa層、XIIIa層、XIIIc層、XIIIe層、XIV層、XVII層で採取した土壌計10点について珪藻分析と花粉分析を行う。また、各層から採取された土壌試料の内、XIV層を除く13点について種実分析を実施する。なお、発掘調査段階で検出された種実遺体1点、木材8点も併せ



第89図　Eグリッド北側の層序

て同定する。

この他、発掘調査段階でIXb層で検出された骨3点(No.3093,3104,3306)、XIIIc層で検出された骨2点(No.3600,3609)、XIV層で検出された骨(No.3166,クチャ基盤直上粘土7点)、合計13点も併せて採取された。

この内、IXb層で検出された骨No.3104、XIIIc層で検出された骨No.3600、XIV層から採取されたクチャ基盤直上粘土より産出した骨7点の内の1点、さらに種実分析においてVIII層の種実分析で検出された貝1点、合計4点について放射性炭素年代測定を実施する。

2.分析方法

(1)放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、AMS法により行う。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。測定年代の補正に用いたδ13Cの値は、加速器を用いて試料炭素の13C濃度(13C/14C)を測定し、標準試料PDB(白亜紀のベレムナイト類の化石)の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差(‰:パーミル)で表したものである。

また、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。なお、年代測定用に採取された骨貝類は、事前に種類を明らかにする。

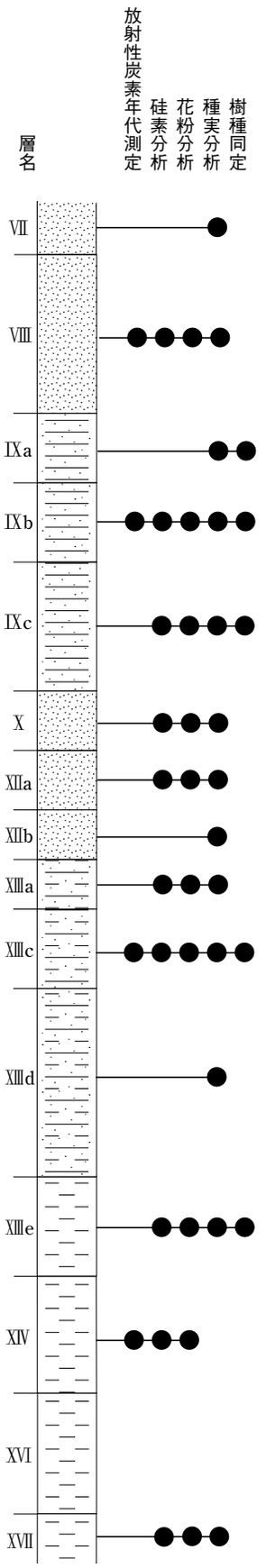
(2)珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。

検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。

(3)花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛：比重2.3)よる有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9：濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。



第90図　模式柱状および自然科学分析層位

結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉、草

本花粉・シダ類胞

子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(4)種実分析

土壌試料200ccを水に一晩液浸し、試料の泥化を促す。0.5mmの篩を通して水洗し残渣をシャーレに集め、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出する。種実の形態的特徴を所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川,1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか,2000)などと比較し、種類を同定し、個数を数えた。なお、微細片を含み個数推定が困難である種類は、「破片」と表示する。数字以上の個数が推定される種類は、「数字+」と表示する。分析後の植物遺体は、種類毎にビンに入れ、70%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施す。

(5)樹種同定

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

第55表　分析試料一覧

質	地点		層序	試料名/試料番号	14C	D	P	S	W	備 考
堆積物	Eグリッド	東壁	VII	VII層				○		
			VIII	VIII層	○	○	○	○		試料中から検出された貝5点の内1点測定
			IXa	IXa層				○	○	
			IXb	IXb層		○	○	○	○	
			IXc	IXc層		○	○	○	○	
			X	X層		○	○	○		
			XVII	XVII層		○	○	○		
		北壁	XIIa	XIIa層		○	○	○		
			XIIb	XIIb層				○		
			XIIIa	XIIIa層		○	○	○		
			XIIIc	XIIIc層		○	○	○	○	
			XIIId	XIIId層				○		
			XIIIe	XIIIe層		○	○	○	○	
			XIV	XIV層		○	○			
種子	Cグリッド	北壁	XVII	クチャ基盤内砂質部分				○		年代測定用試料として採取
木材	Bグリッド		IXb	No.1					○	加工材
	Eグリッド		IXb	No.2					○	加工材
	排土中		IXb	No.3					○	加工材の可能性有
骨			IXb	No.3093						年代測定用試料として採取
			IXb	No.3104	○					年代測定用試料として採取
			IXb	No.3306						年代測定用試料として採取
			XIIIc	No.3600	○					年代測定用試料として採取
			XIIIc	No.3609						年代測定用試料として採取
			XIV	No.3166						年代測定用試料として採取
	Aグリッド		XIV	クチャ基盤直上粘土	○					年代測定用試料として採取された 7点の内1点測定

3.結果

(1)放射性炭素年代測定

測定結果を56表に、暦年較正結果を57表に示す。なお、年代測定用試料とした骨貝類は、VIII層に認められた貝類が腹足綱盤足目オニノツノガイ科のコゲツノブエ(Ceritium coralium)と二枚貝綱マルスダレガイ目チドリマスオ科のチドリマスオ(Donacilla picta)、また獣骨がいずれも哺乳綱ウシ目イノシシ科のリュウキュウイノシシ(Sus scrofa riukiuanus)の各部位に同定されている。これら骨貝類の同定結果も、表2に併せて示す。

年代測定の結果、各試料の年代値は、補正年代でみると、VIII層出土貝が5530±50BP、IXb層出土骨が6080±50BP、XIIIb層出土骨が6350±50BP、XIV層のクチャ基盤直上粘土から出土した骨が6020±50BPである。

(2)珪藻分析

10試料(XVII層、XIV層、XIIIe層、XIIIc層、XIIIa層、XIIa層、X層、IXc層、IXb層、VIII層)からは、いずれも珪藻化石が産出せず、無化石である。

第56表　放射性炭素年代測定結果

出土層位	地点		試料名	分類群		部位	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.
VIII層	Eグリッド	東壁	VIII層	二枚貝類	チドリマスオ	殻(1)	5530±50	3.97±1.13	5060±50	IAAA-32216
						殻(2)	―			
				腹足綱	コゲツノブエ	殻(2)	―			
IXb層			No.3104	哺乳類	リュウキュウイノシシ	左脛骨(1)	6080±50	-22.16±0.74	6030±50	IAAA-32213
			No.3093	哺乳類	リュウキュウイノシシ	腰椎(1)	―			
			No.3306	哺乳類	リュウキュウイノシシ	左下顎骨(1)	―			
XIIIc層			No.3600	哺乳類	リュウキュウイノシシ	左大腿骨(1)	6410±50	-20.90±0.70	6350±50	IAAA-32214
			No.3609	哺乳類	リュウキュウイノシシ	右下顎骨(1)	―			
XIV層	Aグリッド		クチャ基盤直上粘土	哺乳類	リュウキュウイノシシ	左脛骨(1)	6020±50	-22.46±0.86	5980±50	IAAA-32215
						腰椎(1)	―			
						左肋骨(1)	―			
						肋骨片(3)	―			
						左尺骨(1)	―			
						右尺骨(1)	―			
						右大腿骨(1)	―			
			No.3166	哺乳類	リュウキュウイノシシ	右上腕骨(1)	―			
XVII層	Cグリッド	北壁	クチャ基盤内砂質部分	単子葉類	アダン	果実(1)	―			

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
4)部位に示した()内の数字は数量を示す。

第57表　暦年較正結果

出土層位	試料名	種類		補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)		相対比	Code No.
VIII層	VIII層	二枚貝綱	チドリマスオ殻	5525±50	cal BC 4,008 - 3,906	cal BP 5,958 - 5,856	1.000	IAAA-32216
IXb層	No.3104	哺乳綱	リュウキュウイノシシ 左脛骨	6077±52	cal BC 5,047 - 4,911	cal BP 6,997 - 6,861	0.912	IAAA-32213
					cal BC 4,871 - 4,856	cal BP 6,821 - 6,806	0.088	
XIIIc層	No.3600	哺乳綱	リュウキュウイノシシ 左大腿骨	6413±51	cal BC 5,468 - 5,439	cal BP 7,418 - 7,389	0.277	IAAA-32214
					cal BC 5,421 - 5,399	cal BP 7,371 - 7,349	0.226	
					cal BC 5,387 - 5,356	cal BP 7,337 - 7,306	0.299	
					cal BC 5,353 - 5,339	cal BP 7,303 - 7,289	0.125	
					cal BC 5,331 - 5,323	cal BP 7,281 - 7,273	0.072	
XIV層	クチャ基盤直上粘土	哺乳綱	リュウキュウイノシシ 左脛骨	6022±51	cal BC 4,959 - 4,837	cal BP 6,909 - 6,787	0.906	IAAA-32215
					cal BC 4,821 - 4,807	cal BP 6,771 - 6,757	0.094	

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を使用
計算には表に示した丸める前の値を使用している。
付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

(3)花粉分析

結果を58表、91図に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を十で表示するにとどめておく。以下、下位より述べる。

最下層のXVII層からは、花粉化石およびシダ類胞子とも1個体も検出されず、無化石である。

XIV層からは花粉化石の産出量が少なく、定量解析を行えるだけの個体数を得られない。その中でみると、木本花粉ではシイノキ属が最も多く産出し、ヤマモモ属、ジャケツイバラ属、アカメガシワ属、モチノキ属などが検出される。草本花粉はトウダイグサ科が1個体検出されただけであった。また、第三紀の絶滅種であるフウ属が認められる。

XIIIe層、XIIIc層、XIIIa層からは花粉化石が産出し、特にXIIIe層、XIIIc層で豊富に産出する。群集組成はいずれの試料も類似しており、木本花粉により占められる。産出種についてみると、木本花粉ではシイノキ属が多産し、ヤマモモ属、コナラ属アカガシ亜属、ミカン科、アカメガシワ属、シラキ属なども比較的多く認められる。草本花粉ではイネ科、バラ科、トウダイグサ科などが検出される。本層準でもフウ属が検出される。

XIIa層、X層からは花粉化石が検出されるものの、定量解析を行えるほどでない。木本花粉ではマツ属、アカガシ亜属、シイノキ属など、草本花粉ではイネ科などが認められており、下位層準と同様の種類が検出されている。また、X層ではフウ属の他、同じく第三紀の絶滅種であるペカン属も産出する。

IXc層、IXb層からは花粉化石がほとんど検出されず、わずかにアカガシ亜属、イネ科などが認められるだけである。

VIII層からは産出量が少ないものの、定量解析を行える程度の個体数を得ることができる。木本花粉ではシイノキ属が最も多く産出し、マツ属、アカガシ亜属、アカメガシワ属などを伴う。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科などが認められる。

第58表　花粉分析結果

種　類 ／ 層名	Ⅷ層	Ⅸb層	Ⅸc層	Ⅹ層	ⅩⅡa層	ⅩⅢa層	ⅩⅢc層	ⅩⅢe層	ⅩⅣ層	ⅩⅦ層
木本花粉										
マキ属	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
モミ属	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ツガ属	−	−	−	1	1	−	1	1	1	−
マツ属	7	1	−	6	4	1	4	1	−	−
ヤマモモ属	−	−	−	1	2	9	48	24	3	−
ペカン属	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−
ハンノキ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
コナラ属アカガシ亜属	6	−	1	4	3	9	26	28	2	−
シイノキ属	29	3	4	4	7	42	85	140	20	−
ニレ属ーケヤキ属	−	−	−	1	−	1	1	2	−	−
エノキ属ームクノキ属	4	−	−	−	−	−	3	2	−	−
ウラジロエノキ属	1	−	1	−	1	−	3	4	1	−
フウ属	−	−	−	3	−	1	2	−	1	−
ジャケツイバラ属	−	−	−	1	3	2	5	2	4	−
カラスザンショウ属	−	−	−	−	−	−	3	−	−	−
ミカン科	2	−	−	−	1	5	40	3	−	−
アカメガシワ属	7	1	−	2	1	6	11	16	3	−
カンコノキ属	1	−	−	−	1	−	−	−	−	−
アブラギリ属	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
シラキ属	−	−	−	−	−	−	6	16	2	−
ウルシ属	1	−	−	1	−	−	6	2	−	−
モチノキ属	1	−	−	−	1	2	6	2	4	−
ブドウ属	−	−	−	−	−	−	2	1	−	−
ツバキ科	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
グミ属	−	−	−	−	1	1	−	1	−	−
ウコギ科	3	−	1	−	1	1	2	−	−	−
ツツジ科	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
アカテツ科	−	−	−	1	−	−	1	−	−	−
エゴノキ属	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
イボタノキ属	−	−	−	−	−	−	2	1	−	−
トネリコ属	−	1	−	−	−	−	4	2	−	−
クサギ属	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
ガマズミ属	3	−	−	−	5	2	7	2	1	−
草本花粉										
イネ科	13	1	1	2	4	6	10	9	−	−
カヤツリグサ科	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−
クワ科	1	−	−	−	−	−	−	2	−	−
バラ科	−	−	−	−	−	3	17	8	−	−
マメ科	1	−	−	−	−	−	1	1	−	−
カタバミ属	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
トウダイグサ科	−	−	−	−	−	−	−	4	1	−
セリ科	1	−	−	−	−	−	−	2	−	−
サツマイモ属ールコウソウ属	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
ヨモギ属	1	−	−	1	−	1	2	−	−	−
キク亜科	−	−	−	1	−	1	1	−	−	−
不明花粉	24	2	1	4	13	19	56	42	13	−
シダ類胞子										
イノモトソウ属	4	−	−	5	2	2	−	2	4	−
ミズワラビ属	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−
他のシダ類胞子	75	78	5	36	23	30	54	57	23	−
合　計										
木本花粉	66	6	7	30	34	82	269	253	42	0
草本花粉	19	1	1	4	5	11	31	27	1	0
不明花粉	24	2	1	3	12	19	56	42	13	0
シダ類胞子	79	78	5	41	25	32	54	60	27	0
総計（不明を除く）	164	85	13	75	64	125	354	339	70	0

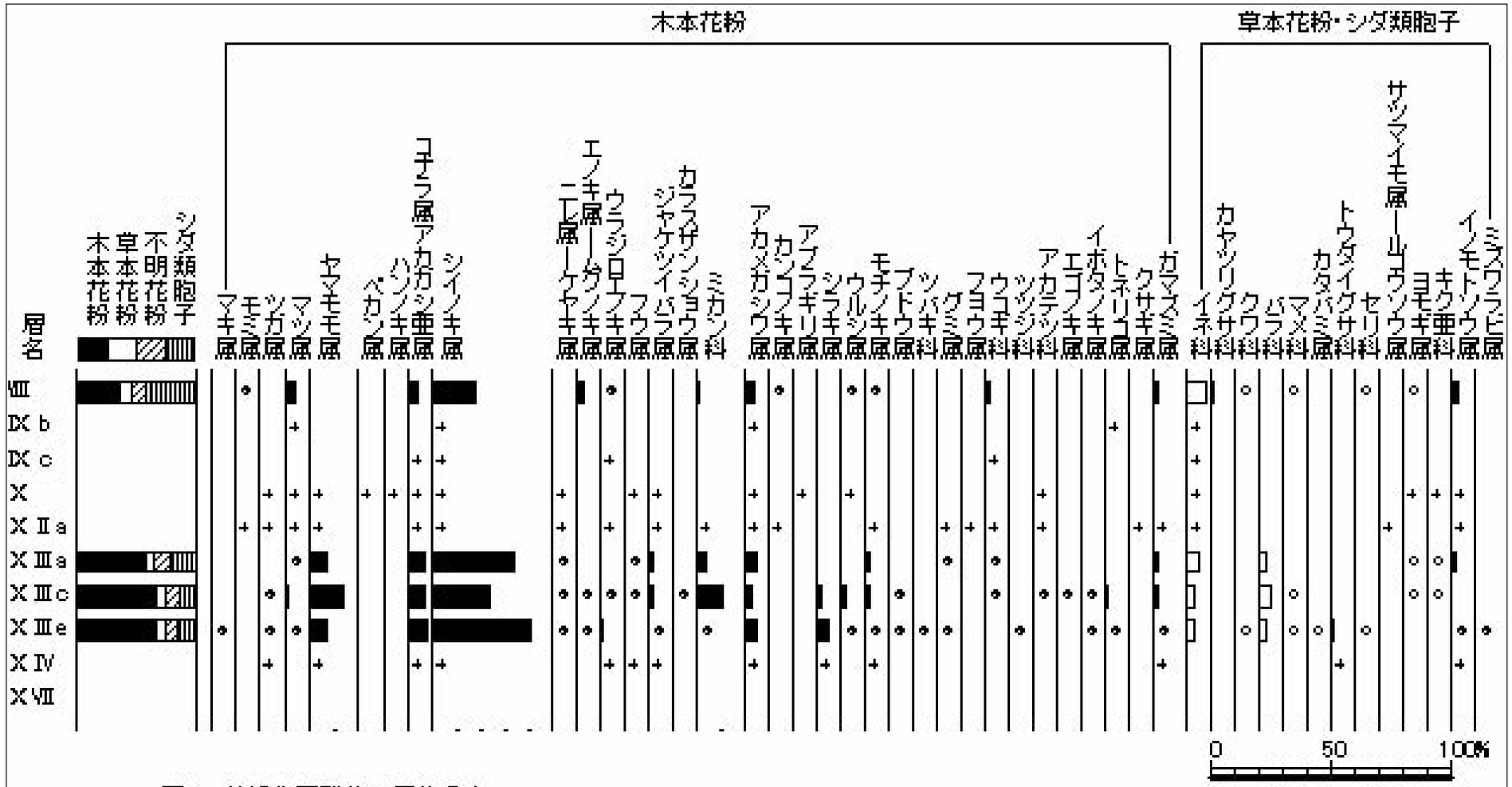


図 3. 花粉化石群集の層位分布

出現率は、木本花粉、草本花粉・シダ類胞子とも総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。

なお、●○は1%未満、＋は花粉総数 100 個体未満の試料について検出した種類を示す。

第91図　花粉化石群集の層位分布

(4)種実分析

種実分析および結果を59表に示す。被子植物18分類群(単子葉類2分類群、双子葉類16分類群)の種実が検出された他、種類不明の種実、木材、炭化材、植物のトゲ、部位·種類不明の植物片や炭化物、蘚苔類、動物遺存体(貝類、有孔虫など)が検出される。種実の遺存状態は比較的良好で、木本12分類群、草本6分類群が同定された。また、種類不明で特徴のある種実3種を不明種実A,B,Cとした。以下に、本分析によって得られた種実の形態的特徴などを、木本、草本、不明種実の順に記述する。

＜木本＞

・アダン(Pandanus odoratissimus L.fil.)　タコノキ科タコノキ属

集合果を形成する1果実が検出される。灰褐色、台形状倒卵体。径28mm程度。頂部は切形、頂部は6-8裂した低い隆起部があり、隆起部中央に短い突起状の花柱基部が残る。表面はやや平滑、繊維質。

・オキナワウラジロガシ(Quercus miyagii Koidz)　ブナ科コナラ属アカガシ亜属

果実の破片が検出される。黒褐色、完形ならば卵形か。破片の大きさ3mm程度。頂部には、殻斗の圧痕である輪状紋がみられる。果皮外面は平滑で、微細な縦筋が目立つ。沖縄島に分布するアカガシ亜属には、オキナワウラジロガシとアマミアラカシがあるが、果実破片の輪状紋の大きさから、果実が小型のアマミアラカシと区別した。

・ヤマグワ(Morus australis Poiret)　クワ科クワ属

種子が検出される。黄褐色で三角状広倒卵形。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。長さ2mm、幅1.5mm程度。一辺が鋭利で、基部に爪状の突起を持つ。表面には微細な網目模様がありざらつく。

・カジノキ属(Broussonetia)　クワ科

種子が検出される。黄～茶褐色、長方形状広倒卵形。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になって薄い。径2mm程度。基部に突起を持つ。表面には疣状の微細な隆起が散在する。

・シマサルナシ(Actinidia rufa (Sieb. et Zucc.) Planchon ex Miq.)　マタタビ科マタタビ属

種子が検出される。茶褐色、楕円形で両凸レンズ形。長さ2mm、幅1.2mm程度。基部はやや突出し、切形。種皮は硬く、表面には横に長い楕円形など不定形の凹点が密布し網目模様をなす。

・ヒサカキ属(Eurya)　ツバキ科

種子が検出される。茶褐色、不規則な多角形でやや偏平、径1.5mm程度。一端に臍があり、臍の方に薄い。臍を中心に楕円形や円形凹点による網目模様が指紋状に広がる。

・イスノキ(Distylium racemosum Sieb. et Zucc.)　マンサク科イスノキ属

種子の破片が検出される。黒色、狭倒卵体、側面観は線状長楕円形。長さ4.7mm、幅3mm程度。表面は平滑で光沢が強い。種子の一端にある臍は淡褐色、斜切形で大きさ2mm程度。表面は粗面。

・イヌザンショウ属(Fagara)　ミカン科

核(内果皮)が検出される。黒褐色、非対称広倒卵体でやや偏平。長さ3.5-4mm、幅3mm程度。片方の側面に核の長さの半分以上に達する深く広い臍がある。内果皮は厚く硬く、表面にやや深く大きな網目模様がある。

・アカメガシワ属(Mallotus)　トウダイグサ科

種子の破片が検出される。黒色、完形ならば歪な球形で径4mm程度。基部にはY字形の稜がある。種皮は硬く、表面に瘤状突起を密布しゴツゴツしている。断面は柵状で、種皮内側では湾曲する。

・センダン(Melia Azedarach L. var. subtripinnata Miquel)　センダン科センダン属

核の破片が検出される。灰褐色、完形ならば楕円体、上面観は星形で浅く広い5～6個の縦溝と縦隆条が交互に配列する。破片の大きさ6.5mm程度。表面はやや平滑。

・ブドウ属(Vitis)　ブドウ科

種子が検出される。灰褐色、広倒卵体、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。長さ3.7mm、径3mm程度。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は柵状で薄く硬い。

・チシャノキ属(Ehretia)　ムラサキ科

核が検出される。淡褐色、円形や広楕円状円形でやや偏平。径2.8-3.2mm、厚さ1mm程度。背面は丸みがあり、腹面はほぼ平ら。側面観は半広楕円形。背面は縦方向の浅い凹みによる大型網目模様がある。腹面は

正中線上に1本の溝と、基部から半ばまでの縁に沿った逆八の字状の太い隆条がある。
＜草本＞
・カワツルモ(Ruppia maritima L.)　　ヒルムシロ科カワツルモ属
　果実が検出される。黒褐色、倒卵体。径1.5mm程度。先端は嘴状に尖る。背面の先端近くには広線形の隆起があり、腹面の先端近くの左右には半円状の浅い凹みがある。果皮は硬く、表面は微細な網目模様が配列しざらつく。
・アカザ科(Chenopodiaceae)
　種子が検出される。黒色、円盤状でやや偏平。径1mm程度。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が同心円状に配列し、光沢が強い。
・ナス科(Solanaceae)
　種子の破片が検出される。淡褐色、歪な腎臓形で偏平。完形ならば径2mm程度。側面のくびれた部分に臍がある。種皮は薄く柔らかく、表面には臍を中心として同心円状に星型状網目模様が発達する。
・オキナワスズメウリ(Diplocyclos palmatus (l.) C. Jeffrey)　　ウリ科オキナワスズメウリ属
　種子が検出される。淡灰褐色。楕円体でやや偏平。長さ6mm、幅2.9mm、厚さ1-3.8mm程度。基部はやや伸びて臍がある。種子表面はやや平滑で、縁が肥厚する。縁内部の正中線は稜をなし、著しく突出する。
・スズメウリ属(Melothri)　　ウリ科
　種子が検出される。倒卵形で偏平。長さ5mm、幅3.5mm程度。基部はやや突出する。縁は肥厚せず、両面中央には倒卵形の浅い凹みがある。種皮表面は微細な網目模様が縦列する。
・ニワトコ属(Sambucus)　　スイカズラ科
　核(内果皮)が検出される。黄褐色、倒卵形でやや偏平、長さ2.8mm、幅1.7mm程度。基部はやや尖る。背面にやや丸みがある。腹面の正中線上は鈍稜をなし、基部に小さな孔がある。内果皮はやや硬く、表面には横皺状模様が発達する。現在沖縄島に分布するタイワンソクズ(Sambucus formosana Nakai)の可能性がある。
・不明種実A(Unknown A)
　黒色、歪な球形で基部はやや尖る。径5mm程度。基部にはY字形の稜がある。皮は硬く、表面には円形の深い窪みが散在する。皮断面は柵状で内側では湾曲する、トウダイグサ科の種皮の構造に類似する。前原遺跡、伊礼原C遺跡の不明A(大松・辻,1999;2001)、前原遺跡のヤンバルアカメガシワ(高宮1999)に類似する。
・不明種実B(Unknown B)
　淡黄褐色、非対称な広倒卵形で凸レンズ状。径1mm程度。頂部や基部に短い突起がある。皮は薄く表面には微細な網目模様がありざらつく。伊礼原C遺跡のカラムシの果実(大松・辻,2001)、イラクサ科?(高宮,1999)に類似する。イラクサ科カラムシ属(Boehmeria)の果実に類似するが、頂部や基部の突起が特徴的であるため確認を要する。
・不明種実C(Unknown C)
　黒褐色、歪な球体でやや偏平。径2.5mm、厚さ1.8mm程度。基部には着点の孔があり、基部から太く明瞭な稜が縦に一周する。表面には大型の浅い凹凸がある。アワブキ科アワブキ属(Meliosma)の核に類似する。
(5)樹種同定
　樹種同定結果を表6に示す。8点中2点は、道管を有することから広葉樹材であるが、変形および収縮により組織配列などが観察できなかったため、種類の同定には至らない。他の試料は全て広葉樹で5種類(コナラ属アカガシ亜属、スダジイ、イヌビワ属、フヨウ属フヨウ節、フヨウ属オオハマボウ節)に同定される。各種類の解剖学的特徴などを記す。
・コナラ属アカガシ亜属(Quercus subgen. Cyclobalanopsis)　　ブナ科
　放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。
現生の幹材の標本に比較して、道管径がやや大きいこと、道管が散在することなどから、根株の可能性がある。アカガシ亜属は、日本に8種が生育するが、沖縄島内にはオキナワウラジロガシ1種のみが分布している。そのため、今回のアカガシ亜属についてもオキナワウラジロガシの可能性が高い。
・スダジイ(Castanopsis cuspidata var. sieboldii (Makino) Nakai)　　ブナ科シイノキ属
　環孔性放射孔材で、孔圏部は接線方向に疎な3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火

炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高。

現在の沖縄島に生育するシイノキ属は、スダジイの地理的亜種であるオキナワジイ1種のみである。したがって、今回のスダジイもオキナワジイと考えられるが、木材組織の特徴から分類することは困難である。

・イヌビワ属(Ficus)　　クワ科

散孔材で、管壁は厚く、横断面では楕円形、単独および2-4個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-10細胞幅、1-50細胞高。柔組織は独立帯状で目立ち、本種の木材組織の最大の特徴となっている。

日本に分布するイヌビワ属は約16種が知られている。沖縄島には、そのうちアコウ、ガジュマル、イタビカズラ、ヒメイタビ、オオイタビ、ハマイヌビワ、ホソバムクイヌビワ、イヌビワ、アカメイヌビワ、オオバイヌビワの10種が生育する。常緑高木から藤本類まで含まれるが、木材組織から種を分類するには至っていない。

・フヨウ属フヨウ節(Hibiscus sect. Trionum)　　アオイ科

散孔材で、道管単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

日本に生育するフヨウ属フヨウ節にはフヨウとサキシマフヨウの2種がある。このうち、フヨウは中国原産の栽培種とされており、サキシマフヨウ1種のみが九州西部から琉球に自生する。したがって、今回のフヨウ節もサキシマフヨウと考えられる。

・フヨウ属オオハマボウ節(Hibiscus sect. Azanza)　　アオイ科

散孔材で、フヨウ節に比較して道管径は大きい。道管は単独または2-3個が放射方向・塊状に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高で、階層状に配列する傾向がある。

日本に生育するオオハマボウ節には、モンテンボク・ハマボウ・オオハマボウの3種がある。このうち、モンテンボクは中国原産の栽培種とされる。ハマボウは、本州・四国・九州から奄美大島に分布する落葉低木～小高木であり、沖縄島には自生していない。したがって、今回のハマボウ節は沖縄島の海岸の砂泥地に普通にみられるオオハマボウと考えられる。

4.考察

(1)堆積層の年代観

各層より得られた補正年代は、VIII層が5530BP、IXb層が6080BP、XIIIb層が6410BP、XIV層が6020BPの値を示す。ここで、XIV層出土骨の年代値に限り、地層の累重関係と逆転している。この原因については、上位からの試料の落ち込み、あるいは回収される炭素量に関連する可能性があるなど、様々な要因を考慮する必要がある。この点については、現時点で言及するに至らず、今後の検討課題として残される。

その他の試料で得られる補正年代値は、IX層で約6000年前とされる爪型文土器が出土するとされることから、各層の堆積年代を反映していると推測される。すなわち、XIIIb層からVIII層までの層準は、おおよそ5500-6400年前に堆積した可能性がある。

(2)低地の環境変遷

基本土層の8試料(Ⅷ層、Ⅸb層、Ⅸc層、Ⅹ層、ⅩⅡa層、ⅩⅢa層、ⅩⅢc層、ⅩⅦ層)は無化石であった。同様の結果は、宜野湾市の真志喜富盛原第二遺跡などにおいても認められる(パリノ・サーヴェイ株式会社,1998)。これら堆積物中から珪藻化石が産出されない要因として、堆積物中に珪藻化石が取り込まれなかったあるいは堆積後に流失した、あるいは堆積時に取り込まれた化石が経年変化により分解消失した、などのことが考えられる。今回の場合、シルトを主体とする堆積物であること、また挙動をほぼ同じにする花粉化石が検出されていることを考慮すると、堆積物中から珪藻化石が流失したとは考えにくい。沖縄のような雨量と蒸発量の多い湿潤亜熱帯雨林気候下では、強い風化作用のため土壌中に含まれる造岩鉱物の大半は分解し、塩基や珪酸のかなりの部分が溶脱し、鉄とアルミニウムが残留富化することが知られている(松井,1988)。この点を考えると、この珪酸の溶脱の影響が、殻が珪酸で構成される珪藻化石にも及び、堆積物中に取り込まれた珪藻化石が分解消失したと推測される。いずれにしても、堆積物中から珪藻化石が検出されないため、珪藻化石の産状から堆積環境などについて検討することは困難である。そこで、ここでは、他

第59表　種実分析結果

種類名		学名	部位	VII層	VIII層	IXa層	IXb層	IXc層	X層	XIIa層
			土壌分析量	200cc	100cc	100g	250cc	350cc	150cc	50cc
				372.19g	184.63g	149.33g	425.99g	626.91g	276.36g	90.39g
木本	アダン	*Pandanus odoratissimus*・L.fil.	果実	−	−	−	−	−	−	−
	オキナワウラジロガシ	*Quercus miyagii* Koidz	果実 破片	−	−	−	−	−	−	−
	ヤマグワ	*Morus australis* Poiret	種子	−	2	−	−	−	−	−
	カジノキ属	*Broussonetia*	種子	−	−	1	2	4	1	−
	シマサルナシ	*Actinidia rufa* (Sieb. et Zucc.) Planchon ex Miq.	種子	−	2	1	1	2	−	−
	ヒサカキ属	*Eurya*	種子	−	−	−	−	−	−	−
	イスノキ	*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.	種子	−	−	−	−	−	−	−
	イヌザンショウ属	*Fagara*	核	−	−	−	−	5	−	−
	アカメガシワ属	*Mallotus*	種子	−	2	−	7	14	−	1
	センダン	*Melia Azedarach* L. var. *subtripinnata* Miquel	核	−	−	−	−	1	−	−
	ブドウ属	*Vitis*	種子	−	−	−	−	1	−	−
	チシャノキ属	*Ehretia*	核	−	−	−	2	1	−	−
草本	カワツルモ	*Ruppia maritima* L.	果実	−	−	−	−	−	1	−
	アカザ科	Chenopodiaceae	種子	−	−	−	−	1	−	−
	ナス科	Solanaceae	種子	1	−	−	2	1	−	1
	オキナワスズメウリ	*Diplocyclos palmatus* (l.) C. Jeffrey	種子	−	−	−	−	−	−	−
	スズメウリ属	*Melothria*	種子	−	−	−	−	1	−	−
	ニワトコ属	*Sambucus*	核	1	1	−	1	2	−	−
不明種実 A		Unknown A		−	1	1	2	2	1	2
不明種実 B		Unknown B		2	1	−	8	8	−	1
不明種実 C		Unknown C		−	−	−	−	1	−	−
不明種実		Unknown		5	8+	14+	28+	33+	15+	4
木材				−	−	−	−	7	−	−
炭化材				−	−	−	9	3	−	−
植物のトゲ				−	−	−	10	9	−	−
不明植物				−	−	−	−	1	−	−
不明炭化物				−	−	−	20	29+	−	−
蘚苔類				−	−	−	−	3	−	−
動物遺存体				−	−	−	破片	破片	−	−

種類名		学名	部位	XIIb層	XIIIa層	XIIIc層	XIIId層	XIIIe層	XVII層	XVII層
			土壌分析量	100cc	100cc	300cc	100cc	50cc	150cc	クチャ基盤内砂質部分
				180.43g	172.83g	523.08g	179.14g	83.62g	286.04g	
木本	アダン	*Pandanus odoratissimus*・L.fil.	果実	−	−	−	−	−	−	1
	オキナワウラジロガシ	*Quercus miyagii* Koidz	果実 破片	−	1	−	−	−	−	−
	ヤマグワ	*Morus australis* Poiret	種子	−	−	−	−	−	−	−
	カジノキ属	*Broussonetia*	種子	−	−	1	−	−	−	−
	シマサルナシ	*Actinidia rufa* (Sieb. et Zucc.) Planchon ex Miq.	種子	−	−	−	1	−	−	−
	ヒサカキ属	*Eurya*	種子	−	−	2	1	−	−	−
	イスノキ	*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.	種子	−	−	1	−	−	−	−
	イヌザンショウ属	*Fagara*	核	−	−	1	−	−	−	−
	アカメガシワ属	*Mallotus*	種子	1	−	1	−	−	−	−
	センダン	*Melia Azedarach* L. var. *subtripinnata* Miquel	核	−	−	−	−	−	−	−
	ブドウ属	*Vitis*	種子	−	−	−	−	−	−	−
	チシャノキ属	*Ehretia*	核	−	−	−	−	−	−	−
草本	カワツルモ	*Ruppia maritima* L.	果実	−	−	−	−	−	−	−
	アカザ科	Chenopodiaceae	種子	−	−	−	−	−	−	−
	ナス科	Solanaceae	種子	−	1	−	−	−	−	−
	オキナワスズメウリ	*Diplocyclos palmatus* (l.) C. Jeffrey	種子	−	−	−	−	1	−	−
	スズメウリ属	*Melothria*	種子	−	−	−	1	−	−	−
	ニワトコ属	*Sambucus*	核	−	−	−	−	−	−	−
不明種実 A		Unknown A		−	3	10	2	−	−	−
不明種実 B		Unknown B		−	1	5	−	−	−	−
不明種実 C		Unknown C		−	−	−	−	−	−	−
不明種実		Unknown		4	12	30+	12	6	−	−
木材				−	−	10+	−	−	−	−
炭化材				−	−	−	−	−	−	−
植物のトゲ				−	−	−	−	−	−	−
不明植物				−	−	−	−	−	−	−
不明炭化物				−	−	26+	−	−	−	−
蘚苔類				−	−	1	−	−	−	−
動物遺存体				−	−	破片	−	−	−	−

微細片を含み個数推定が困難である種類は、「破片」と表示する。数字以上の個数が推定される種類は、「数字+」と表示する。

第60表　樹種同定結果

地点		層名	試料名	試料内容	樹種
Eグリッド	東壁	IXa層		自然木	フヨウ属オオハマボウ節
		IXb層		自然木	広葉樹
		IXc層		自然木	フヨウ属フヨウ節
	北壁	XIIIc層		自然木	スダジイ
		XIIIe層		自然木	コナラ属アカガシ亜属
Bグリッド		IXb層	No.1	加工材の可能性有	イヌビワ属
Eグリッド		IXb層	No.2	加工材の可能性有	フヨウ属オオハマボウ節
排土中		IXb層	No.3	加工材の可能性有	広葉樹

の化石類の産状から、低地の環境について検討を加える。

XVII層、いわゆるクチャでは、アダンの種実遺体が検出されている程度であり、花粉化石も検出されないため、詳細不明である。

XIV層は、保存状態が良好なリュウキュウイノシシの腰椎・肋骨・右上腕骨・左右尺骨・右大腿骨・左脛骨が検出されており、獣骨が比較的豊富に出土する。このことから、本層準は、陸域であった可能性がある。とことで、一般的に花粉化石は、還元状態にある堆積物中で長期間保存されるが、好気的な環境下で化学的な酸化や土壌微生物の影響により分解・消失することが知られている（例えば、中村,1967)。本層準で花粉化石が検出されなかったのも、好気的な環境であったことを反映しているのかもしれない。

XIII層になると、花粉化石が大量に検出され、しかも保存状態が良好である。このことからみて、XIII層は、還元的な環境下にあったことが想定される。特に、XIIIe層では、水湿地などに生育する水生植物のミズワラビ属の胞子、さらに淡水域に棲息するカワニナの貝殻が検出されている。すなわち、XIIIe層堆積時、周辺は、淡水性の水湿地的な環境が広がっていたと考えられる。また、XIIIc層では、リュウキュウイノシシの右下顎骨と左大腿骨が検出され、木材片や炭化物が検出されている。これは、乾いた状態も存在していたことを示す可能性もある。この時期、すなわち6400年前頃、低地では、蔓性木本類のジャケツイバラ属、草本類のイネ科、バラ科、マメ科、トウダイグサ科、スズメウリ属、ヨモギ属、キク亜科などが分布していたと考えられる。

無文土器が検出されたXII層では、花粉化石、種実遺体とも検出個数がすくないため、当時の環境を詳細に検討する情報が少ない。本層準中に巻き貝や二枚貝が含まれていることから、当時の環境については、それらの貝種を明らかにした上で検討することにしたい。

X層はXII層と同様に、花粉化石、種実遺体ともに検出個数が少ない。しかし、僅か1個であるが、汽水性沈水植物のカワツルモの果実が認められた。これより、X層堆積時、周辺は、海岸沿いの湖沼や、塩沢地、干拓地のような、汽水域的な環境となっていた可能性がある。

爪形文土器が検出されるIX層になると、花粉化石が検出されないが、種実遺体、木材片、炭化材・炭化物などが検出される。また、IXb層でリュウキュウイノシシの左下顎骨、腰椎、左脛骨が検出される。このように、堆積物中に人為的な痕跡が認められることから、本層が海水の影響を受ける状態で堆積したとは考えにくい。むしろ、周辺は、約6000年前頃になると、陸水域あるいは陸域のような環境となっていたと考えられる。このような場所には、アカザ科、ナス科、スズメウリ属、ニワトコ属(現在の分布からタイワンソクズの可能性がある)など、明るく開けた草地を形成する種類が分布していたと思われる。

VIII層では、検出個数が少ないながら再び花粉化石が検出されるようになることから、還元状態にあったことが推測される。また、本層は、堆積物中から、コゲツノブエとチドリマスオが検出された。これらの貝種は、前者が内湾汽水域マングローブ林の砂泥上に、また後者が潮間帯の砂底に棲息する種類である。これらのことから、約5500年前、周辺は、汽水域、塩沢地、干拓地のように、海水の影響を受ける環境となっていたと思われる。イネ科、カヤツリグサ科、クワ科、マメ科、セリ科、ヨモギ属などの草本花粉は、その背後の沿岸部などの植生を反映しているものと思われる。

VII層では、種実遺体の検出個数が少ないため、その環境について検討する資料が少ない。本層では、貝、珊瑚微細片から構成される堆積物であることから、当時の環境を検討するためにそれらの種類を明らかにしていきたい。

以上のように、本遺跡周辺は、常に淡水域であったわけでなく、時に乾いた陸域、また海水の影響を受ける状態など、様々な環境に変化した可能性がある。その中で、陸域となった時に人間が活動の場として利用していたと思われる。このような環境の変化は、遺跡付近を流れる小河川の流路変更や遺跡東側に存在する砂丘砂の発達など、地形変化が関与している可能性がある。周辺において調査を進めることで、より詳細な検討を行うことができると期待され、今後とも注目していきたい。

(3)森林植生

最下層のⅩⅦ層(いわゆるクチャ)からは、花粉化石・シダ類胞子が1個体も検出されない。そのため、花粉化石の結果から、周辺植生を検討することが難しい。一方、ⅩⅦ層の砂質部分から検出された種実の同定結果はアダンであった。アダンは海岸低木林の最前線に生育する種類である。本種実遺体がどのような過程を経て、堆積物中に取り込まれたか検討する必要がある。

XIV層から検出される花粉化石は少ないものの木本類が主体であり、シイノキ属、ヤマモモ属、コナラ属アカガシ亜属、ジャケツイバラ属、アカメガシワ属、モチノキ属、などが認められる。おそらく、当時、周辺に生育するものに由来すると思われ、後背地にこれらの種類が分布していたと可能性がある。

約6400年前とされるⅩⅢ層をみると、XIIIe層、XIIIc層、XIIIa層から花粉化石が多く検出され、特にXIIIe層、XIIIc層では豊富に産出する。群集組成は木本花粉の割合が高く、いずれの試料においてもシイノキ属が最も多く産出する。その他ではヤマモモ属、アカガシ亜属、ジャケツイバラ属、ミカン科、アカメガシワ属、シラキ属、モチノキ属、ガマズミ属などを伴う。種実同定の結果では、オキナワウラジロガシ、カジノキ属、シマサルナシ、ヒサカキ属、イスノキ、イヌザンショウ属、アカメガシワ属などが検出されている。また、樹種同定の結果では、XIIIe層から出土した自然木がアカガシ亜属、XIIIc層から出土した自然木がスダジイに同定された。これらの多くは常緑広葉樹林(いわゆる照葉樹林)の主構成種であり、当時の遺跡後背の段丘上に、シイノキ属、アカガシ亜属を主体とした照葉樹林が存在したと推測される。現在の沖縄島においても、これらの種類は自生しており、スダジイは地理的亜種のオキナワジイがヤンバルを中心に広く分布している。

XII層、X層では、検出される花粉化石、種実遺体は少ないものの、下位層と同様の種類が検出されている。このことから、XIII層堆積時と同様の植生が続いていた可能性がある。

約6000年前とされるⅨ層をみると、種実分析からはカジノキ属、シマサルナシ、イヌザンショウ属、アカメガシワ属、センダン属、ブドウ属、チシャノキ属などが、樹種同定ではⅨc層からフヨウ属フヨウ節、Ⅸb層から種類不明の広葉樹、Ⅸa層からフヨウ属オオハマボウ節が確認された。現在の植生では、フヨウ節ではサキシマフヨウが伐採跡や林縁部などの明るい場所に生育、オオハマボウ節ではオオハマボウが海岸の砂泥地に生育している。また、カジノキ属、イヌザンショウ属、アカメガシワ属、チシャノキ属などの中･低木類や、籐本類のシマサルナシ、ブドウ属などは、伐採地や崩壊地など明るく開けた場所に先駆的に侵入する陽樹である。よって、Ⅸ層から検出される植物化石は、海岸近くの森林縁辺部の植生を強く反映しており、当時の遺跡周辺が林縁に近かったことが示唆される。

約5500年前とされるVIII層からは、シイノキ属が多く産出し、マツ属、アカガシ亜属、エノキ属ームクノキ属、アカメガシワ属、ウコギ科、ガマズミ属などの花粉化石が検出される。種実同定からはヤマグワ、シマサルナシ、アカメガシワ属などが認められる。いずれも下位層と同様の群集であることから、後背の植生に大きな変化はなく、シイノキ属を主体とした照葉樹林が存在したと考えられる。しかし、マツ属、エノキ属ームクノキ属などの割合がやや高くなることから、ⅩⅢ層堆積時と比較して林縁部や海岸植生を反映しやすくなった可能性がある。

以上の結果より、本遺跡後背の段丘上はシイノキ属(オキナワジイ)、アカガシ亜属(オキナワウラジロガシ)などの常緑広葉樹が主体であり、段丘から低地部の林縁にかけてヤマモモ属、イスノキ、ヤマグワ、カジノキ属、ジャケツイバラ属、イヌザンショウ属、ミカン科、アカメガシワ属、シラキ属、ブドウ属、シマサルナシ、フヨウ節、オオハマボウ節、ヒサカキ属、チシャノキ属などの豊富な樹種構成からなる森林が存在していたと推測される。約6400～5500年前頃にかけての本遺跡周辺では、大きな植生の変化が認められない。北谷町伊礼原C遺跡の大型植物遺体の分析結果では、約5300～5000年前頃の堆積層から、今回認められた植物化石と同様の種類が検出されている(大松・辻,2001)。このことから、本遺跡周辺においても、約5000年前頃までは同様の植生が続いていた可能性がある。

(4)植物利用状況

1個体のみの破片の検出であったが、種実分析で認められたオキナワウラジロガシの果実は食用可能である。沖縄島では、北谷町伊礼原C遺跡(大松・辻,2001)の縄文前期相当期とされる貯蔵穴や、宜野座村前原遺跡(宜野座村教育委員会,1999;大松・辻,1999など)の縄文時代後・晩期相当期とされる貯蔵穴や敷石遺構などの低湿地堆積物から、多量のオキナワウラジロガシの果実が検出されており、植物質食糧としての利用を示唆している。

その他では、ヤマグワ、カジノキ属、シマサルナシ、ブドウ属は果実が多汁で生食が可能である。種実以外の部位の利用としては、カジノキ属の樹皮は紙や布に利用可能である。アカザ科、ナス科などの一部には、野生品の採取、在来種の栽培、渡来種の栽培など、種実や種実以外の部位の利用形態が考えられるが(青葉,1991)、今後種類の細分化が可能になれば、詳細な検討が可能となる。

樹種同定を実施した加工材は、BグリッドⅨb層から採取したNo.1がイヌビワ属、EグリッドⅨb層から採

取したNo.2がオオハマボウ節であった。オオハマボウ節は、自然木でも認められており、周辺に生育していた樹木を利用したことが推定される。また、イヌビワ属は、自然木には認められていないが、現在の沖縄島には10種類が生育している。今回行った花粉分析の結果において少ないながらもクワ科の花粉化石が検出されており、周辺においてイヌビワ属も生育していた可能性がある。よって、周辺において入手可能な木材を利用したことが推定される。

引用文献

青葉　高, 1991, 野菜の日本史. 八坂書房, 317.

木庭　元晴, 1990, 琉球列島第四紀のサンゴ礁形成と島弧変動. サンゴ礁地域研究グループ編　日本のサンゴ礁地域１　熱い自然ーサンゴ礁の環境誌. 古今書院, 155-175.

石川　茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.

松井　健, 1988, 土壌地理学序説. 306.

中村　純, 1967, 花粉分析. 古今書院, 232p.

中山　至大・井之口　希秀・南谷　忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.

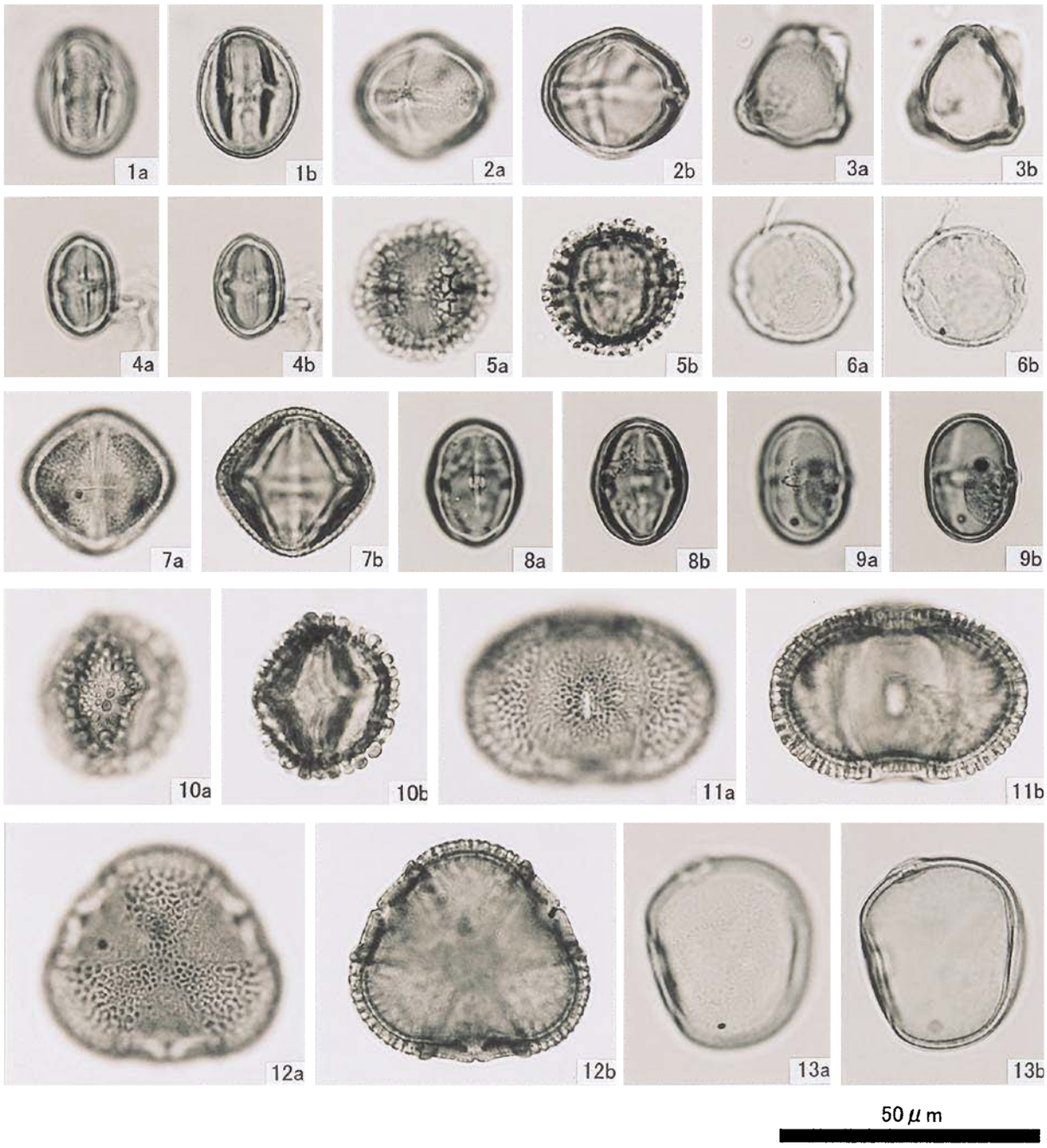
大松　しのぶ・辻　誠一郎, 1999, 前原遺跡から産出した大型植物遺体群. 宜野座村乃文化財14集　前原遺跡ー県道漢那松田線道路整備工事に伴う発掘調査報告書ー, 宜野座村教育委員会, 223-241.

大松　志伸・辻　誠一郎, 2001, 沖縄県北谷町伊礼原C遺跡の縄文時代前期相当期の大型植物遺体群. 植生史研究, 第10巻, 第１号, 17-32.

パリノ・サーヴェイ株式会社, 1998, 5. 真志喜富盛原第二遺跡の自然科学分析調査. 都市計画街路大謝名・真志喜線建設工事関係埋蔵文化財緊急発掘調査概要, 宜野湾市文化財調査報告書第27集, 沖縄県宜野湾市教育委員会, 153-164.

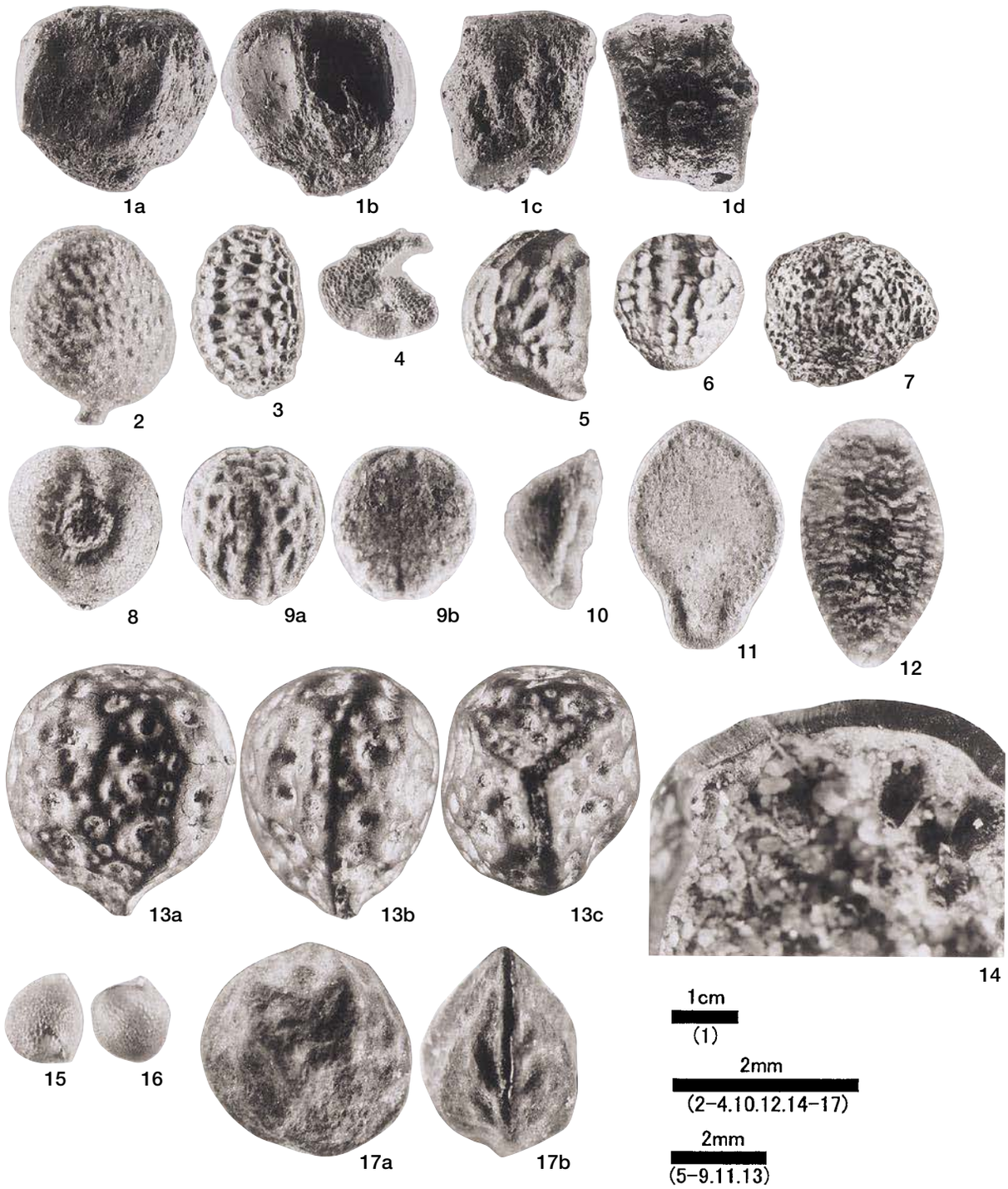
高宮　広土, 1999, 栽培植物の探索. 宜野座村乃文化財14集　前原遺跡ー県道漢那松田線道路整備工事に伴う発掘調査報告書ー, 宜野座村教育委員会, 259-275.

上原　冨二男, 2000, 宜野湾市の地形・地質・水. 宜野湾市史　第9巻　資料編8　自然, 55-124.



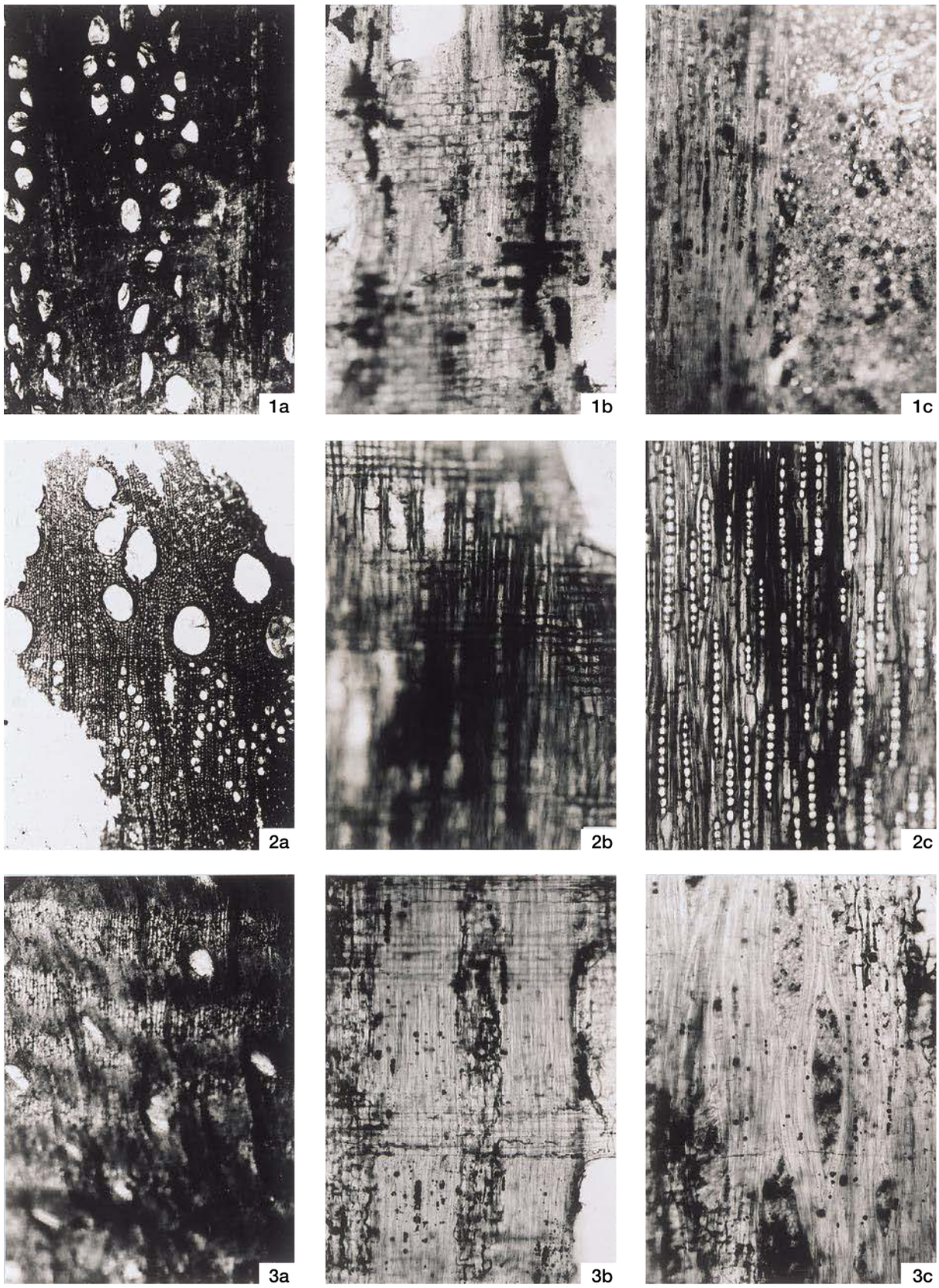
1．コナラ属アカガシ亜属(ⅩⅢc層)　2．アカメガシワ属(ⅩⅢc層)
3．ヤマモモ属(ⅩⅢc層)　4．シイノキ属(ⅩⅢc層)
5．ミカン科(ⅩⅢc層)　6．ウラジロエノキ属(ⅩⅢe層)
7．シラキ属(ⅩⅢc層)　8．アカテツ科(ⅩⅡa層)
9．アカテツ科(Ⅹ層)　10．モチノキ属(ⅩⅢc層)
11．ジャケツイバラ属(ⅩⅡa層)　12．ジャケツイバラ属(ⅩⅢc層)
13．イネ科(ⅩⅢc層)

図版131　花粉化石



1．アダン 果実(XⅦ層)
2．カジノキ属 種子(Ⅸc層)
3．シマサルナシ 種子(Ⅸc層)
4．ヒサカキ属 種子(XⅢc層)
5．イヌザンショウ属 核(Ⅸc層)
6．カラスザンショウ属 核(Ⅸc層)
7．アカメガシワ属 種子(Ⅸb層)
8．ブドウ属 種子(Ⅸc層)
9．チシャノキ属 核(Ⅸb層)
10．ナス科 種子(Ⅸb層)
11．スズメウリ属 種子(Ⅸc層)
12．ニワトコ属 核(Ⅸc層)
13．不明種実A(Ⅸb層)
14．不明種実A(Ⅸb層)
15．不明種実B(XⅢc層)
16．不明種実B(XⅢc層)
17．不明種実C(Ⅸc層)

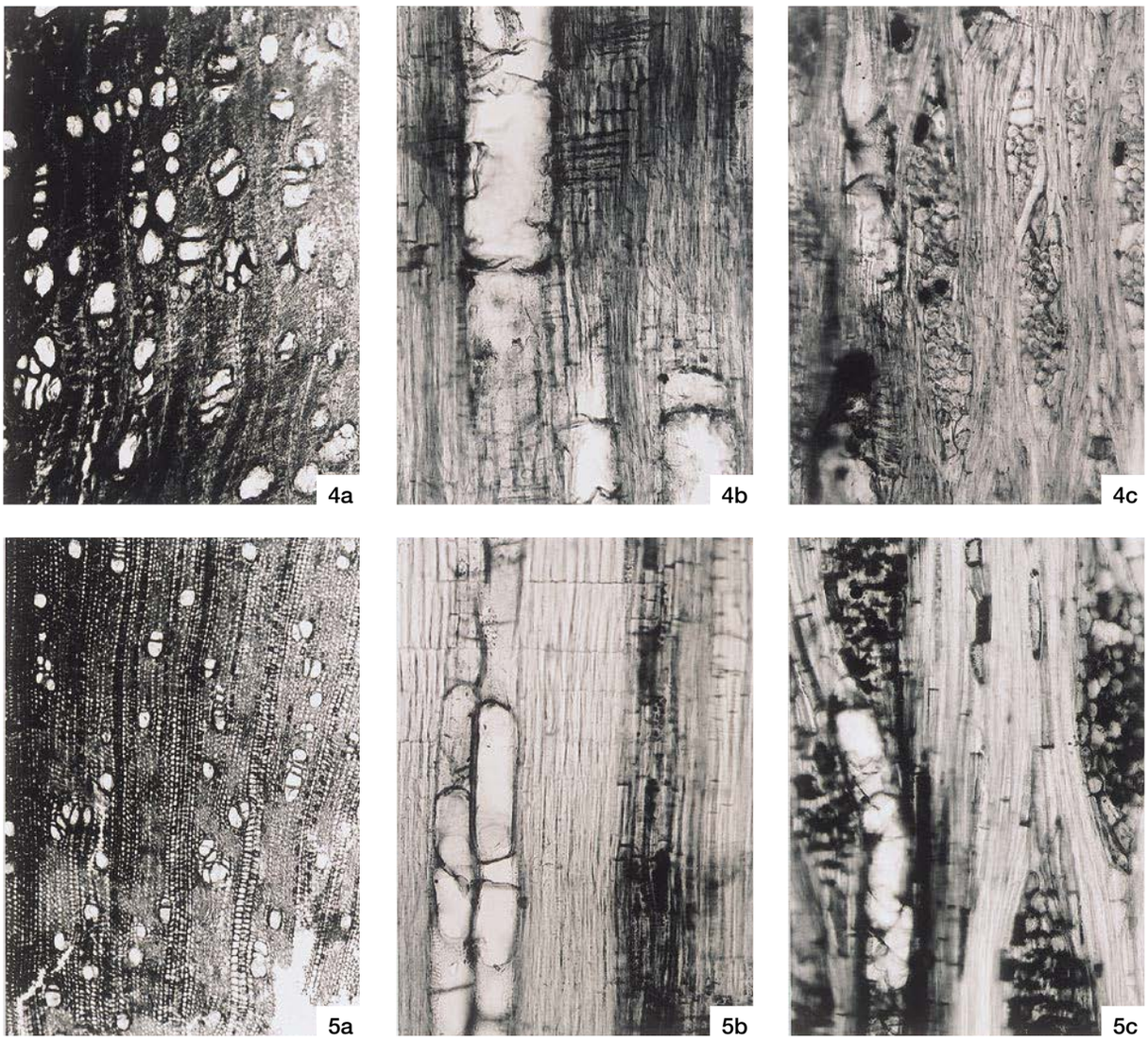
図版132　種実遺体



1. コナラ属アカガシ亜属（XⅢe層;自然木）
2. スダジイ（XⅢc層;自然木）
3. イヌビワ属（No.1;加工材）
　a:木口, b:柾目, c:板目

200 μm:a
200 μm:b,c

図版133　木材（1）



4. フヨウ属フヨウ節（Ⅸc層;自然木）
5. フヨウ属オオハマボウ節（Ⅸa層;自然木）
a:木口, b:柾目, c:板目

200 μm:a
200 μm:b,c

図版134　木材（2）

第７章　結語

平成11年度から平成16年度（６ヶ年）にかけて実施した新城下原第二遺跡の発掘調査の成果を報告した。本事業はキャンプ瑞慶覧内におけるガソリンスタンド及び車両整備工場の建設に伴って那覇防衛施設局からの受託事業として、沖縄県教育委員会が主体となり、平成11年度は沖縄県教育庁文化課が、平成12年度以降は沖縄県立埋蔵文化財センターの開所に伴って、当センターが実施した。当該遺跡は在沖米軍海兵隊基地キャンプ瑞慶覧内にあり、遺跡の範囲は宜野湾市から北谷町にまたがる。キャンプ瑞慶覧内におけるガソリンスタンド及び車両整備工場の建設に伴い、那覇防衛施設局から遺跡の有無について事前に宜野湾市教育委員会に照会があり、市が試掘調査を実施した結果、遺跡の範囲が北谷町に及ぶことが判明し、沖縄県教育委員会が実施することとなった。長期間の発掘調査となり調査担当者も３代にわたったため、報告書のまとめには多くの時間を費やした困難な事業となった。

最後に、今回の発掘調査の成果を時期ごとに区別することによって重要な要素をまとめ結語とする。

１．遺跡と調査の概要

遺跡はキャンプ瑞慶覧内の宜野湾市と北谷町の境界に位置し、後背に多数の豊富な泉が湧き出す丘陵を擁し、前面には東シナ海が広がる広大な沖積地に立地する。現地表面は約4.5ｍである。近世・近代から貝塚時代早期まで遡る複合遺跡である。

調査区はⅠ地区～Ⅲ地区及びT.P①～④に分かれており、面積はそれぞれ、Ⅰ地区（403.5㎡）、Ⅱ地区上層（614㎡）、Ⅱ地区下層（282.5㎡）、Ⅲ地区（1313㎡）、T.P①・③・④（それぞれ144㎡）、T.P②（48㎡）で、総面積は2762.5㎡を測る。Ⅱ地区下層については、設計変更等の関係で面積が縮小しており、調査範囲はⅡ地区上層に含まれている。また、調査にあたっての便宜上、下層とは爪形文土器包含層とそれ以前を指す。

今回の発掘調査によって得られた成果では、遺跡の中心となる時期と性格は近世・近代（第Ⅰ層、標高約４ｍ～2.5ｍ）の水田遺構、グスク時代（第Ⅱ・Ⅲ層、標高約3.5ｍ～2.3ｍ）の水田遺構（第Ⅴ層直上）、貝塚時代後期（第Ⅲ～Ⅴ層、標高約3.5ｍ～2.2ｍ）の川跡・イモガイ集積遺構（川３層、標高約２ｍ）、貝塚時代早期の貝塚（第Ⅸ層、標高約０ｍ～－0.8ｍ）である。その他、貝塚時代中期・前期の遺物が少量確認された。爪形文土器包含層（第Ⅸ層）である貝塚時代早期以降にはいわゆる縄文海進が起こっており、約2.5ｍ以上の厚い海砂（第Ⅵ・Ⅶ層）が堆積している。

２．近世・近代

近世・近代の発掘調査はⅠ地区及びⅡ地区で実施した。Ⅱ地区第Ⅰ層の直上からはキャンプ瑞慶覧基地造成直前と考えられるキャタピラ痕や道路跡が検出された。また、戦時中のものと思われる銃身も出土した。Ⅰ地区ではこのような遺構は確認されなかったが、厚い砂層が堆積していた。

その他、第Ⅰ層からは近世・近代の水田跡と考えられる畦が検出された。さらに、Ⅰ地区では畦脇に11本の木杭と１本の鉄杭が刺さった状態で確認された。

Ⅲ地区で実施した第Ⅰ層の植物珪酸体（プラント・オパール）分析の結果、密度が700～800個／ｇのイネが検出された。

３．グスク時代

グスク時代ではⅢ地区の第Ⅴ層直上において方形の区画を持った擬似畦畔が検出された。第Ⅳ層はⅢ地区では確認されておらず、第Ⅴ層の上には耕作土と考えられる第Ⅲ層が堆積している。擬似畦畔に沿うように、49本もの多量の木杭が刺さった状態で確認された。木杭には太いもの（20本）と細いもの（29本）があり、本報告では直径４cmを境に分類した。また、木杭が検出される場所は南西から北東方向に延びる数本の擬似畦畔の内、さらに２本のラインに集中している傾向が認められた。また、木杭は上部が第Ⅱ層の最下部で確認されたものや、第Ⅲ層内で確認されたもの等があり、少なくとも２度以上の造成が行われたと考えられる。擬似畦畔の交点付近には石が確認され、計画的な水田造成のために区画の目印として置いたものである可能性が高い。

耕作遺構においては当該時期の遺物がほとんど出土しないという傾向が強いが、今回の調査においても耕

作土である第Ⅲ層や擬似畦畔が残る第Ⅴ層直上からはグスク時代に関係する遺物はほとんど出土せず、第Ⅱ層で細連弁文碗が２点出土し、第Ⅲ層の上面で鉄製刀子が１点出土したのみであった。その他、Ⅲ地区に近いT.P①からは滑石製のバレン状製品が完形で出土している。第Ⅲ層は貝塚時代後期の遺物が主体的に出土するが、グスク時代における水田造成の結果、耕作土に混入した結果と考えられる。

第Ⅲｂ層で実施した植物珪酸体分析の結果、密度が500個／ｇと低い値であるがイネが検出された。また、第Ⅲａ層からは少量ながらササゲ属が検出されておりマメ類も栽培されていた可能性がある。

第Ⅱ層は細連弁文碗等の少量の中国産陶磁器が出土した黒色の植物遺体層であり、当時水草等が生い茂る湿地的な環境であったことが想定され、水田はこの時期には廃棄されたと考えられる。

今回のように、グスク時代と考えられる水田遺構が広い沖積地で確認されたことは県内では始めての事例であり、大きな成果のひとつと言える。水田遺構の年代については、考古学的には貝塚時代後期末期～近世以前という大きな年代幅を想定する他ないが、理化学的な年代測定の結果ではグスク時代の初期の年代が得られている。貝塚時代後期末期～グスク時代初期にこのような規格的な水田を営む社会が成立していたかについては問題が多くあり、今後の興味深く大きな課題となる。今後の類例の増加に期待したい。

４．貝塚時代後期

貝塚時代後期では各地区で川跡が確認された。これらの川がもともと１本の川であるのか何本かに分かれていたものかは判断できなかったが、川内の堆積状況は同一であり、同時期に流れていたものであることが考えられる。この川は海砂層（第Ⅵ層）を深く抉っていることから、縄文海進後、再び海が後退したことによって流れ始めた川である。川跡内からは保存状態良好な土器や石器、貝類等の食料残滓が多量に出土しているが、上流の方から流れてきたものというよりは、周辺で活動していた人々が投棄した結果、貝塚的な要素を持ったものと考えられる。Ⅱ地区の川底（川３層）ではイモガイ集積が２基検出された。これらは、川が流れている頃に周辺に住んでいた人々が川底に集積したものと考えられ、特異な事例と言える。さらに、イモガイ集積２は間層を挟む２段構造となっており、見方によっては３基のイモガイ集積が確認されたこととなる。１段目が集積された後、川３層が堆積し、同じ場所に２段目が集積されている。どのような意図で川底に集積し、さらに２段構造となったのか推し量ることは困難である。

貝塚時代後期の遺物は第Ⅲ～Ⅴ層が主体として出土する。阿波連下層式土器～大当原式土器、それに続くと思われる第Ⅳ類としたアカジャンガー式土器と大当原式土器の中間的な様相を持つ土器群までが出土した。アカジャンガー式土器のようなくびれ平底土器は出土していない。前期・中期と考えられる弥生土器がわずかに５点出土している。その内、浜屋原式土器が圧倒的に多く出土しており、Ⅳ類がそれに続く。集計の結果、調査区の中で出土状況に一定の傾向が見出された。浜屋原式土器を中心として阿波連下層式土器・大当原式土器と考えられる尖底・丸底の土器群は、Ⅰ地区からⅢ地区の内、調査面積が最も少ないにもかかわらず、海側であるⅠ地区に最も多く集中して出土しており、丘陵側であるⅢ地区に向かうに連れて減少する。その反対に、平底であるⅣ類は調査面積わずか144㎡のT.P③に最も集中して出土し、Ⅰ地区に向かうに連れて減少する傾向がる。この結果によって、尖底・丸底土器群と平底土器群とは遺跡の中心が異なっていたと考えられる。

土器以外の遺物では僅かながら貝輪等の貝製品が出土しているが、その内のひとつはイモガイを縦に切り取って作った貝輪であり、県内で確認されたことは注目される資料である。

今回の調査成果で見るかぎり、本遺跡における貝塚時代後期の終焉はⅣ類の土器群の時期と考えられる。これはそのまま川跡の埋没とも関係していると思われる。川の堆積はⅢ地区でのみ確認された粘土層（川１層）を除いて、第Ⅴ層と良く似た質の砂層である川２層で完全に埋没している。川２層の埋没レベルはそのまま第Ⅴ層の上面と同じである。このことから、第Ⅴ層の堆積と共に川が埋没していったことが想定できる。Ⅰ地区の川跡１の堆積層である川２層の上面からはⅣ類の土器半個体分が潰れた状態で検出されており、川跡の埋没と本遺跡における貝塚時代後期の終焉が何らかの関係を持っていることを裏付ける根拠のひとつと考えられる。

以上のように、貝塚時代後期ではイモガイ集積遺構が特異な場所で検出された他、イモガイを縦に切り取った貝輪の出土や、尖底・丸底土器群と平底土器群の出土地に違いがあり、時期によって遺跡の中心が推移していった可能性が高いこと等、多くの成果が得られた。

５．貝塚時代中期・前期

貝塚時代中期・前期が主体と考えられる層や遺構は検出されず、当該時期の遺物が僅かに出土したのみである。貝塚時代中期では高宮暫定編年前Ⅴ期に位置づけられる仲原式土器と形式不明の平底が出土した。また、明確な時期は不明だが、Ⅰ地区からは石鏃が３点出土しており、この内の１点は黒曜石の石鏃のため、当該時期と考えて良いと思われる。貝塚時代前期では高宮暫定編年前Ⅳ期に位置づけられる伊波式土器、前Ⅱ期に位置づけられる条痕文土器や室川下層式土器が出土した。この他、装飾的・呪術的な粘板岩製の石製品がT.P①より１点出土しており、県内では類例を見出せない。県外では鹿児島県草野貝塚出土の資料に類例を見出すことができ、松山式土器やそれよりも新しい時期と考えられている。

当該時期の主体的な層や遺構が検出されない理由には、本遺跡で確認された縄文海進に伴う地域一帯の環境変化が大きいと思われる。貝塚時代後期の遺物を主体的に包含する第Ⅴ層の下からは、約2.5ｍもの海砂（第Ⅵ・Ⅶ層）が厚く堆積することから、地域一帯は一時期海や海岸となり生活が営める状況ではなかったと考えられる。

６．貝塚時代早期

Ⅱ地区（上層）の調査終了間際に第Ⅵ層である海砂層を大胆に掘削して最下層を確認する試掘を実施した。その結果、厚い海砂層のさらに下から木片や多数の貝類遺体･動物遺体に伴って爪形文土器が発見された。計画には含まれていなかった包含層のため、那覇防衛施設局との調整を行い、試掘調査を実施して範囲を確認するとともに、発掘調査の実施と調査期間の延長をすることとなった。爪形文土器包含層は現地表面から－４ｍ以上の海抜０ｍで確認されるため、範囲確認のための試掘調査においても、12ｍを基本とした試掘坑（T.P①～④）が必要であった。その結果、Ⅰ地区及びⅢ地区では明確に確認されなかったため、Ⅱ地区でのみ発掘調査を実施することとした。発掘調査の実施にあたっては従来のグリッドを使用せず、調査区の形態にそうように新しくＡ～Ｆのグリッドを設定した。発掘調査は移植小手を中心として慎重に掘削を行い、遺物は可能な限りその位置とレベルを記録した。また、グリッドと層序ごとに10ℓの土壌をフローテーションし、微小な遺物の回収に努めた。その結果、多くの植物遺体も回収された。

第Ⅸ層において、爪形文土器125点、無文土器43点とともに、石器・貝製品・骨製品、多種多様の貝類遺体・イノシシを中心とした動物遺体・植物遺体等が出土した。また、生き生きとした樹木が根を張った状態で多数確認されており、遺跡の保存状態の良さが目立った。遺構が確認されなかったため、住居等の生活地ではない。土器はほとんど磨耗を受けておらず、ヤコウガイやサザエ、イノシシ等の食糧残滓の多さ等の出土状況から考えると、貝塚としての性格を持つ場所である。

爪形文土器はすべてヤブチ式土器の範疇に含まれるもので、さらにその中でも古い段階の土器と考えられている野国タイプが主体を占めている。東原式土器を含まないことは興味深い。近年、名護市の大堂原貝塚や北谷町の伊礼原Ｃ遺跡、現在那覇市で発掘が進められている箕隅原Ｃ遺跡等、爪形文土器を出土する発掘調査が増加している。これらの報告を待ってすでに報告されている爪形文土器と合わせて検討することで、より詳細な土器文化が把握されると思われ、期待感が高まる。

貝製品は２点出土し、その内１点は先端部を欠損するが、柄を有する精巧に作られた貝鏃であり、類例のない資料である。もう１点は鏃状・ナイフ状を呈するものである。骨製品はヤス状刺突具、骨針と考えられる資料がそれぞれ１点出土している。石器は局部磨製石斧や手持砥石・置砥石、敲打器等が出土した。

貝類遺体は多種多様にわたっているが、注目されるのは食糧残滓であるヤコウガイやサザエである。ヤコウガイはほとんどすべてが背面に火を受けた痕跡があり、壺焼きをして食していた可能性が高い。また、小さいものが多いことも特徴的である。サザエは破片で出土するものが多く、その割れ方は頭部・腹部・底部に分類することが可能で一定の特徴を見出すことができる。

動物遺体はリュウキュウイノシシを主体としており、雄雌が半々となる。サイズは本土のイノシシと比較して小型である。このような状況から野国貝塚Ｂ地点と類似していると言える。個体や部位のまとまりは出土状況からは認められない。注目できる資料として、鳥骨ではツル科・シギ科・カモ類等が確認され、この内、最も多く確認されたのはツル科である。貝塚時代早期の狩猟や環境を考える上では重要で、特に鶴については沖縄にも飛来していたことを推測できる貴重な資料と考えられる。この他、魚類の少なさも目立つ。発掘調査では約250ℓの土をフローテーションしたが魚骨は極めて少なく、当該時期の人々が食料として依

存していたものについて考えることがでる。

爪形文土器を包含するのは第Ⅸ層のみであるが、第Ⅹ層以下でもイノシシ骨や貝類等が少量ながら出土する。第ⅩⅡ層からはイノシシ等の動物遺体と伴に無文土器が１点出土しており、第Ⅹ・ⅩⅠ層が無遺物層であることを考えると第Ⅸ層からの混入とは考えにくく爪形文土器より古い土器と思われる。第ⅩⅢａ層からはイノシシ等の動物遺体と伴に鹿の角が１点出土していることも特筆できる。

Ⅱ地区下層における調査では４点の年代測定を実施したが、第ⅩⅣ層Ａグリット出土のイノシシの骨を分析した結果、6020±50BPの数値が得られてしまった。第ⅩⅢｃ層では6410±50の数値が得られていることから、地層の塁重関係と逆転する。この結果については、第ⅩⅣ層分析資料の検出時における層序判断や記入に誤りがあった可能性があり、反省したい。

以上のように、貝塚時代早期はわずか282.5㎡の調査であったが、ヤブチ式土器に限定された爪形文土器や、精巧な貝鏃、食糧残滓として火を受けたヤコウガイや規則的に割られているサザエ等の貝類遺体、野国貝塚と共通した要素をもつ動物遺体の出土等、当該時期の様相をより深く理解するための多くの成果を得られた。

７．遺跡の形成過程と古環境

最後に、新城下原第二遺跡の形成過程と当時の環境について、大胆に推測し簡単にまとめる。この成果は第６章の自然化学分析の結果によるところが大きい。年代についても、科学分析によって得られた数値を利用する。

層序は第Ⅰ層～第XⅦ層まで確認され、第XⅦ層はクチャ層、第XⅥ層は琉球石灰岩となっている。琉球石灰岩は海側であるⅠ地区で確認され、Ⅱ・Ⅲ地区はクチャとなっている。遺物が確認されはじめるのは第ⅩⅣ層でイノシシの骨が出土した。このことからこの時期は陸域的な環境であったと考えられる。

その後、6,400年前頃（6410±50BP）は地域一帯が水湿地的な環境（第ⅩⅢ層）となり、周辺には蔓性木本類のジャケツイバラ属、草本類のイネ科、マメ科、トウダイグサ科、スズメウリ属、ヨモギ属、キク亜科等が生息していたと考えられる。イノシシの骨等が僅かに出土し、上部では鹿の角が出土した。土器が始めて確認されるのは第ⅩⅠ層である。無文土器で第Ⅸ層から確認される無文土器とは異質である。第Ⅹ層は再び無遺物層となっており、カワツルモの果実が確認されたことから、周辺は人が住めない汽水域的な環境となっていた可能性がある。

その後、約6,000年前頃（6080±50BP）は陸域もしくは陸水域となり爪形文土器・無文土器を使用した人々によって貝塚が形成される（第Ⅸ層）。また、この場所にはフヨウ属フヨウ節やフヨウ属オオハマボウ節が生息しており、海岸近くの森林縁辺部に近かったと考えられる。

この地で爪形文土器を使用していた人々の生活も長くは続かず、約5,500年前頃（5530±50BP）になると地域一帯が再び汽水域・塩沢地・干拓地等の海水の影響を受ける場所となり、人の住めない環境となったと思われる。第Ⅷ層からは、内湾汽水域マングローブ林の砂泥中に棲息するコゲツノブエや潮間帯の砂底に棲息するチドリマスオ等が検出された。この頃から海進が始まってきたのか、その後、地域一帯は完全に海となったと思われる（第Ⅶ層）。第Ⅶ層は海砂で約２ｍ以上堆積しており、最終的には約0.5ｍの砂丘が形成される（第Ⅵ層）。いわゆる縄文海進と考えられる。

海が再び沖に移動した後、地域一帯に川が流れ始め（川跡）、貝塚時代後期の人々が住み始めたと思われる。川底からはイモガイ集積が確認されている。第Ⅴ層からは陸性の砂が堆積しており、第Ⅲ層まで貝塚時代後期の遺物を多量に出土する。川は陸性の砂である第Ⅴ層の堆積とともに埋没し、Ⅳ類の土器群を使用していた人々の後は再び人が住まなくなったと思われる（アカジャンガー式土器等の貝塚時代後半～末期の土器群が確認されない）。

その後、グスク時代になると広大な沖積地を利用して水田が開始されるようになる。この時に耕作土である第Ⅲ層（1090±40BP）が形成されたことから、第Ⅲ層に貝塚時代後期の遺物を含むものと思われる。畦畔造成によって、第Ⅴ層直上には擬似畦畔が残った。畦畔には木杭（940±40BP）が残る。この水田が廃棄されるのは第Ⅱ層の頃（880±40BP）である。第Ⅱ層は、黒色で水分を多量に含んだ植物遺体層であり、地域一帯は再び湿地的な環境となったと考えられる。遺物は中国産陶磁器等を少量包含する。

再びこの地域で水田が営まれるようになるのは近世・近代である（第Ⅰ層）。Ⅰ地区では基地造成土直下

から厚い砂層が第Ⅰ層の上に確認されており、第Ⅰ層と砂層の間には第Ⅱ層と類似する植物遺体層が確認される。このことから地域一帯は基地造成直前に洪水もしくはそれに近い水害があった可能性も考えられるが、詳しい聞取等はできていない。現在は米軍基地キャンプ瑞慶覧内となっている。

今回の調査によって新城下原第二遺跡が近世・近代から貝塚時代早期に至るまでの長期間に渡って人類に利用された場所であることがわかった。膨大な量の記録が得られ、その成果を可能な限り報告したが、資料によってはまだまだ詳細な検討をすることで明らかとなる事実もあると思われる。新城下原第二遺跡は広範囲に及んでいるため、今回記録保存をした場所の他、保存状態が良好な場所が多く残されていると思われる。残された場所には今回確認することができなかったグスク時代の水田遺構をより明確にする遺構や、貝塚時代後期の時期別の中心地、川の様相、イモガイ集積が行われる場所、貝塚時代早期の生活跡等が含まれている可能性が高い。記録保存を行った者の責任として、今後もこの遺跡の様相解明について検討していきたい。

＜参考文献＞

沖縄県立埋蔵文化財センター2001　『伊佐前原第一遺跡ー宜野湾市北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書（Ⅲ）ー』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第４集

伊藤信二2000　『琉球縄文文化の基礎的研究』小林達雄監修未完成考古学叢書②　ミュゼ

伊平屋村教育委員会1981　『久里原貝塚』伊平屋村文化財調査報告書第１集　伊平屋村教育委員会

沖縄県教育委員会1984　『野国』沖縄県文化財調査報告書第57集　沖縄県教育委員会

沖縄県立埋蔵文化財センター2004　『後兼久原遺跡 - 米軍送油管移設に係る緊急発掘調査報告書 - 』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第22集

沖縄考古学会（編）1978　『石器時代の沖縄』新星図書

沖縄市教育委員会1982　『沖縄市の埋蔵文化財ー遺跡分布調査報告書ー』沖縄市文化財調査報告書第4集

鹿児島市教育委員会1988　『草野貝塚』鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(9)　鹿児島市教育委員会

岸本義彦1991　「南島の土器起源をめぐってー爪形文土器についての一考察ー」『奄美考古』第2号　奄美考古学研究会

岸本義彦1997　「南島の爪形文土器文化」『南東の人と文化の起源―どこまでわかったか、課題は何か―』沖縄県公文書館

宜野座村教育委員会1993　『漢那福地川水田遺跡ーグゥーヌ地区発掘調査報告書・ユマビチャー地区発掘調査報告書』宜野座村乃文化財第10・11

高宮廣衛1991　「南島考古雑録(1)」『南島考古』No.11　沖縄考古学会

高宮廣衛1980　「伊波式土器と荻堂式土器」國分直一博士古稀記念論集『日本民族文化とその周辺』新日本教育図書

玉城村教育委員会1991　『糸数城跡ー発掘調査報告書Ⅰー』玉城村文化財調査報告書第１集

玉城朝健・島袋洋・岸本義彦1981　「C　土器」『久里原貝塚』伊平屋村教育委員会

北谷町教育委員会2003　『後兼久原遺跡ー庁舎建設に係る文化財発掘調査報告ー』北谷町文化財調査報告書第21集

當銘清乃・安座間充2000　「伊佐前原第一遺跡発掘調査概報」『南島考古だより』第65号　沖縄考古学会

豊見城村教育委員会1987　『伊良波東遺跡ー伊良波小・中学校建設工事に伴う緊急発掘調査報告ー』豊見城村文化財調査報告書第２集

今帰仁村教育委員会1991　『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅱ』今帰仁村文化財調査報告書第14集

名護市教育委員会1980　『久志貝塚ー緊急発掘調査概報』名護市文化財調査報告書第１集　名護市教育委員会

那覇市教育委員会1997　『銘苅原遺跡ー那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅳー』那覇市文化財調査報告書第53集

那覇市教育委員会2003　『銘苅直禄原遺跡 - 天久公園整備事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅲ - 』那覇市文化財調査報告書第57集　那覇市教育委員会

那覇市教育委員会2005　「箕隅原C遺跡発掘調査の概要」現場説明会資料　那覇市教育委員会文化財課

― 報告書の流れ ―

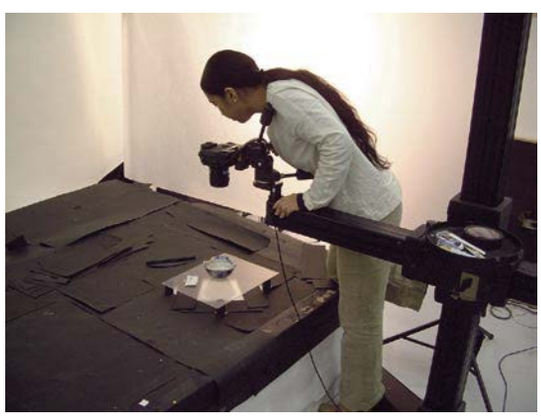
1.水洗い

2.注記

3.復元

4.実測

5.トレース


6.写真撮影

7.図版作成

8.原稿執筆

報 告 書 抄 録

ふ り が な	あらぐすくしちゃばるだいにいせき
書 名	新城下原第二遺跡
副 書 名	ーキャンプ瑞慶覧内整備工場建設に係る緊急発掘調査報告ー
巻 次	ー
シ リ ー ズ 名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第35集
編 著 者 名	片桐千亜紀、久貝弥嗣、崎原恒寿、金子浩昌、高宮広土 、島袋晴美、 株式会社古環境研究所、パリノ・サーヴェイ株式会社
発 行 機 関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所 在 地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7
発 行 年 月 日	2006年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
あらぐすくしちゃばるだいにいせき 新城下原第二遺跡	おきなわけん 沖縄県	472051 宜野湾市 及び 473260 北谷町				1999．8．9 ～ 2005．9．30	2762.5㎡	キャンプ瑞慶覧内におけるガソリンスタンド及び車両整備工場の建設

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新城下原第二遺跡	生産遺跡	近世～近代	水田遺構	陶質土器、沖縄産陶器、本土産陶磁器	
	生産遺跡	グスク時代	水田遺構	中国産陶磁器、滑石製バレン状製品、木杭	擬似畦畔と区画検出
	貝塚	貝塚時代後期	川跡・イモガイ集積	後期土器、弥生土器、石器、貝製品、貝類遺体	川底でイモガイ集積遺構検出
	散布地	貝塚時代中期		中期（前Ⅴ期）土器、石製品	黒曜石の石鏃出土
	散布地	貝塚時代前期		前期（前Ⅱ・Ⅳ期）土器、石製品	装飾的な石製品出土
	貝塚	貝塚時代早期		爪形文土器、石器、貝製品、骨製品、貝類遺体、動物遺体、植物遺体	当時の様相が伺える豊富な遺物

要約

本報告書は、那覇防衛施設局から委託を受けて平成11年度から平成16年度（6ヶ年）まで実施した、新城下原第二遺跡の発掘調査成果をまとめたものである。発掘調査及び資料整理は沖縄県教育委員会が主体となり、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。遺跡は宜野湾市から北谷町にまたがり、後背に丘陵を擁し、前面に東シナ海が広がる広大な沖積地に立地する近世・近代から貝塚時代早期に至る複合遺跡である。調査の結果、近世・近代の水田遺構、グスク時代の水田遺構、貝塚時代後期の川跡やイモガイ集積、貝塚時代早期（爪形文土器）の貝塚等が確認され、それに伴って多量の遺物が出土した。

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第35集

新城下原第二遺跡

－キャンプ瑞慶覧内整備工場建設に係る緊急発掘調査報告－

発　行　年　　平成18（2006）年３月31日
発行・編集　　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の７
TEL　098-835-8751・8752
印　　刷　　株式会社 尚 生 堂
沖縄県浦添市安波茶1-6-3
TEL　098-876-2232

©沖縄県立埋蔵文化財センター　2004　Printed in Japan
許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。